鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(22)

隼人道路建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

姶良郡加治木町

干迫

ほし　ざこ
The Hoshizako Site

「Ⅲ」

縄文時代石器ほか・付篇

1997年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

目　　次

付篇（同定・分析篇）

挿　図　目　次

表　目　次

第4章　調 査 の 概 要

第２節　縄文時代

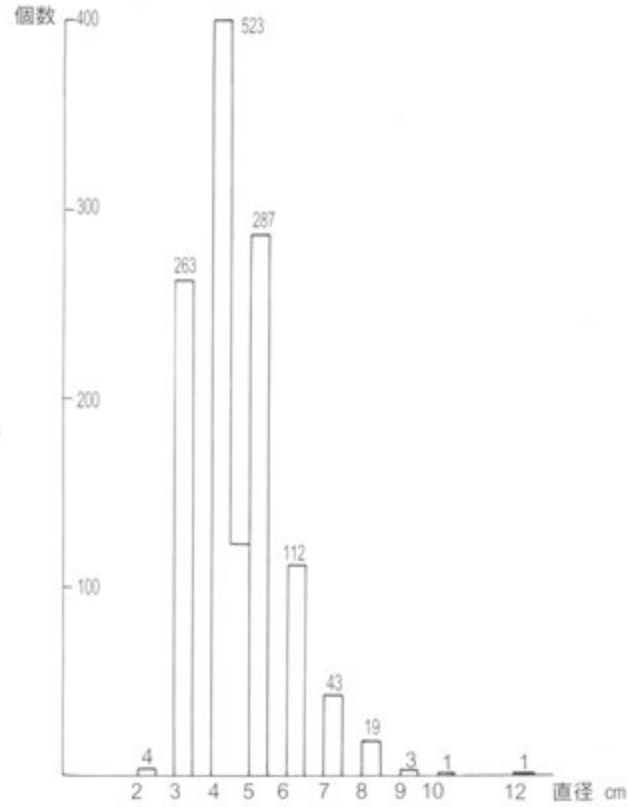
２．遺物

２）土製（加工）品

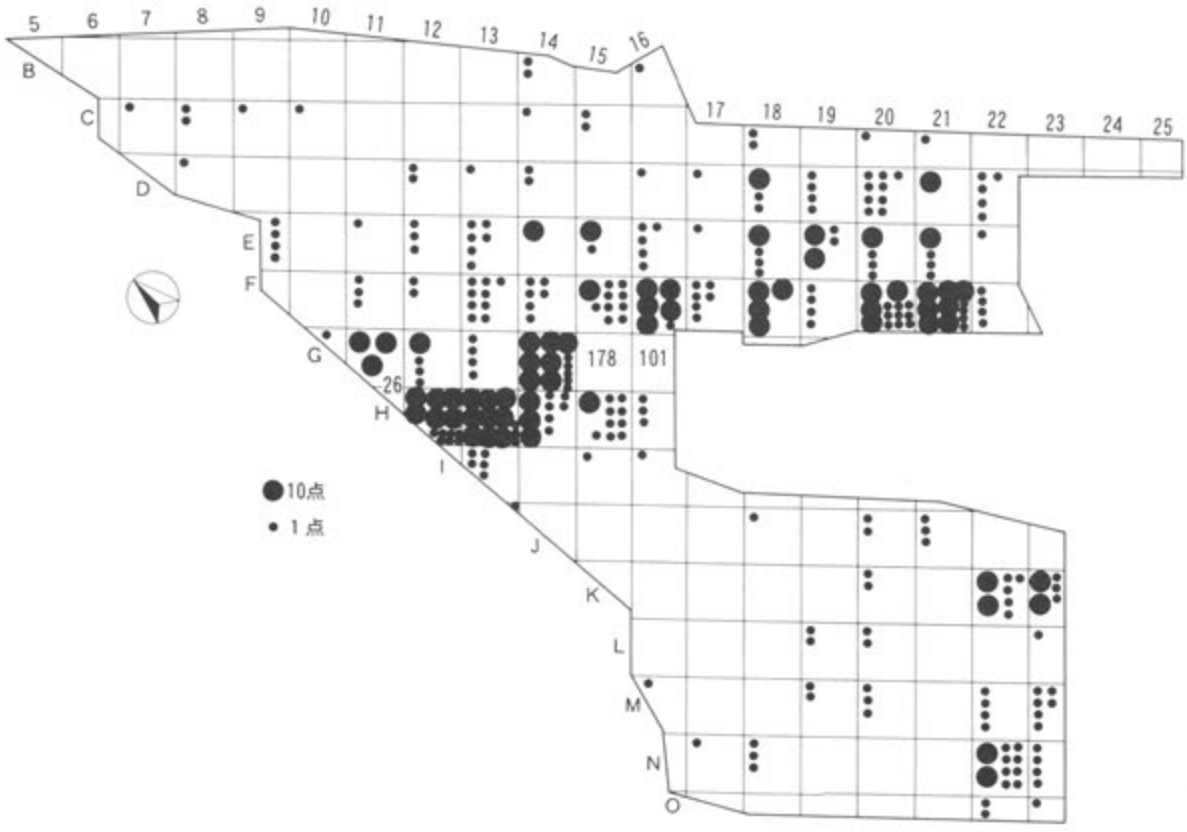
(1) 円盤形土製加工品（第３～12図　Ｄ１～D476）

総数1256点の円盤形土製加工品が出土した。その分布状況は第２図のとおりで，自然流路沿いにほとんどが集中している。また22・23－Ｋ～Ｎ区付近でも多く出土している（遺構内を含めると1270点出土）。

これらは使用部位，大きさ，色調などによって多くの種類に分けられるが，周縁部を打ち欠いただけのものと，丁寧に磨いたものとがある。後者は476点中151点（32％）と少ないが，打ち欠いただけのものでも細かい打ち欠きによってきれいな円を描いているものが多い。磨消縄文土器の破片は特に加工が丁寧である。D1～D14とD54～D162は口縁部，



第１図　円盤形土製加工品の直径度数



第２図　円盤形土製加工品の出土分布図

あるいはその周辺を利用したものであるが，そのほとんどは市来式土器で，この時期に多く作られたことがわかる。その他には西平式土器などの磨消縄文土器・丸尾式土器などがわずかであるが含まれている。口縁部の場合，口縁端を打ち欠かず，そこ以外を打ち欠いて円形に近く加工している。胴部の破片を打ち欠いたものが多いが，深鉢あるいは台付深鉢の底部を加工したものも多い。平坦な部分を用いたものが多いが，部位によっては断面が弧状となるものもある。大きさは第１図のように直径が2.5cm前後の小さなものから，11cmある大きなものまであるが，３cm～６cm のものが85％と大多数を占め，なかでも４cm～５cm位のものが過半数を占めている。色調は茶褐色・黒褐色のものが多いが，灰褐色のものなどもある。

（２）十字形土製加工品（第13図　D477）

一突起部が欠けているが，横６cm，縦4.5cm（＋α）の十字形をした土製品である。外面に貝殻押圧文と貝殻条痕文のある土器の周辺を打ち欠いて十字形に作り，側縁部はていねいに磨いている。内面はヘラナデで仕上げ，器形・調整から丸尾式土器の破片と考えられる。21Ｆ区の自然流路跡で出土した。

（３）土錘形土製加工品（第13図　D478～D482）

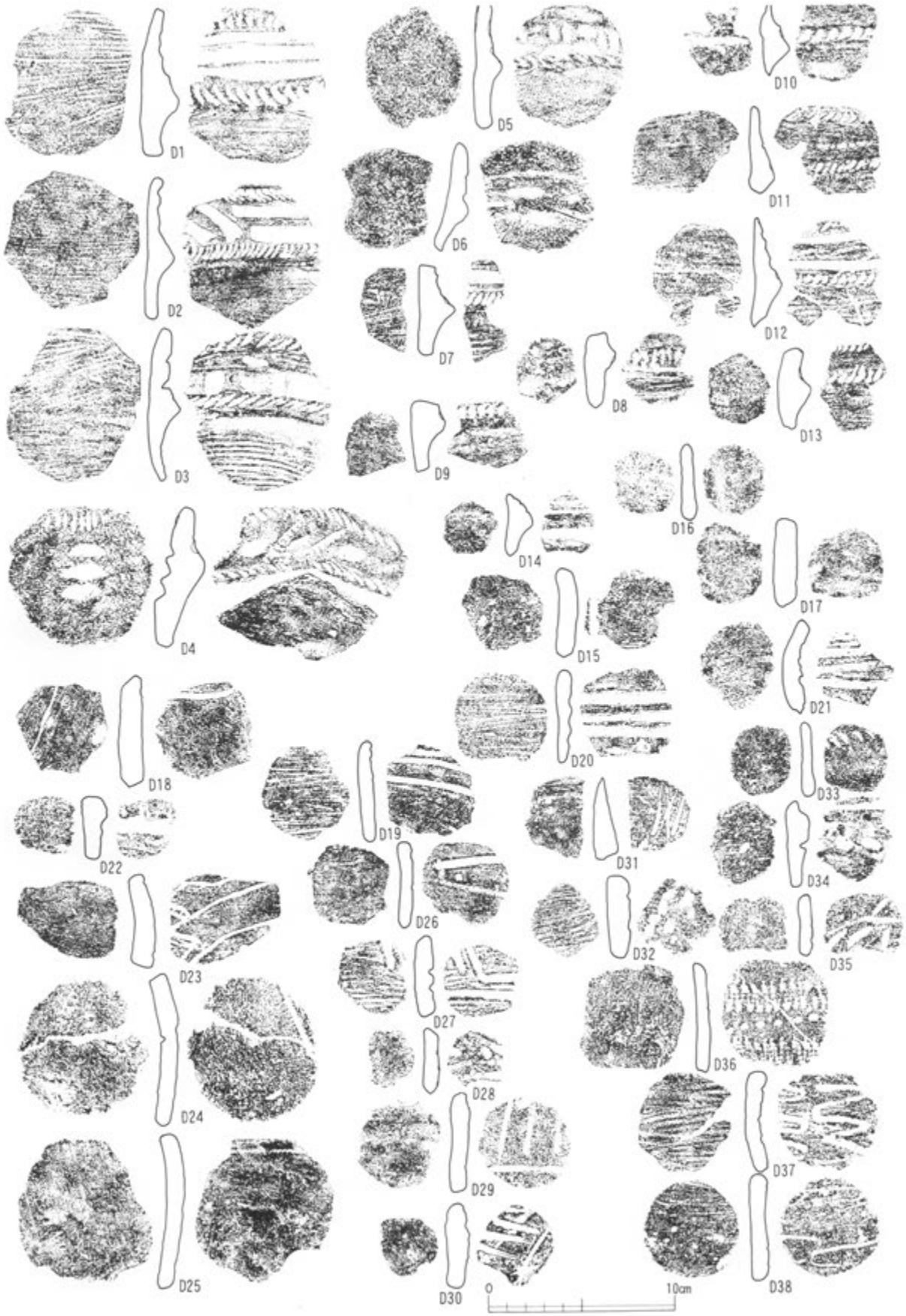
D478はほぼ円形に近く打ち欠き，両側辺にえぐりがある。周辺部および外面屈曲部はツルツルするほどていねいに研磨している。内外とも貝殻条痕があり，外面は屈曲部の上に二段，下に一段の二枚貝押圧がみられる。黒褐色を呈しているが，外面の一部は乳茶褐色を呈している。焼成良好で，石英・金雲母・白色石などこまかい石を多く含んでいる。表採品である。

D479～D481は脚台付深鉢の底を利用し，２か所あるいは３・４か所に欠き目を入れたものである。D479は両側縁を一方から打ち欠きえぐりを入れただけで，周縁加工はみられない。継ぎ目がよく残っている。茶褐色を呈し，焼成良好である。白色石・石英・黄色石などのこまかい石を多く含んでいる。21Ｏ区の自然流路跡で出土。D480は側縁を交互に打ち欠き，上辺が一部欠けている。茶褐色を呈し，焼成度は普通である。石英・白色石・茶色石・黄色石などのこまかい石を多く含んでいる。15Ｇ区の自然流路跡で出土。D481は４か所を打ち欠いている。淡茶褐色を呈し，焼成度は普通。白色石・石英・雲母を多く含み，４mm大のものもある。18Ｇ区の自然流路跡で出土。D482は一方は打ち欠きのみであるが，片方はえぐりを丁寧に作っている。側縁は一部を除き，丁寧に磨いている。乳茶褐色を呈し，焼成度は普通である。茶色石・石英・長石などのこまかい石を含んでいる。16Ｇ区のⅢ層出土。

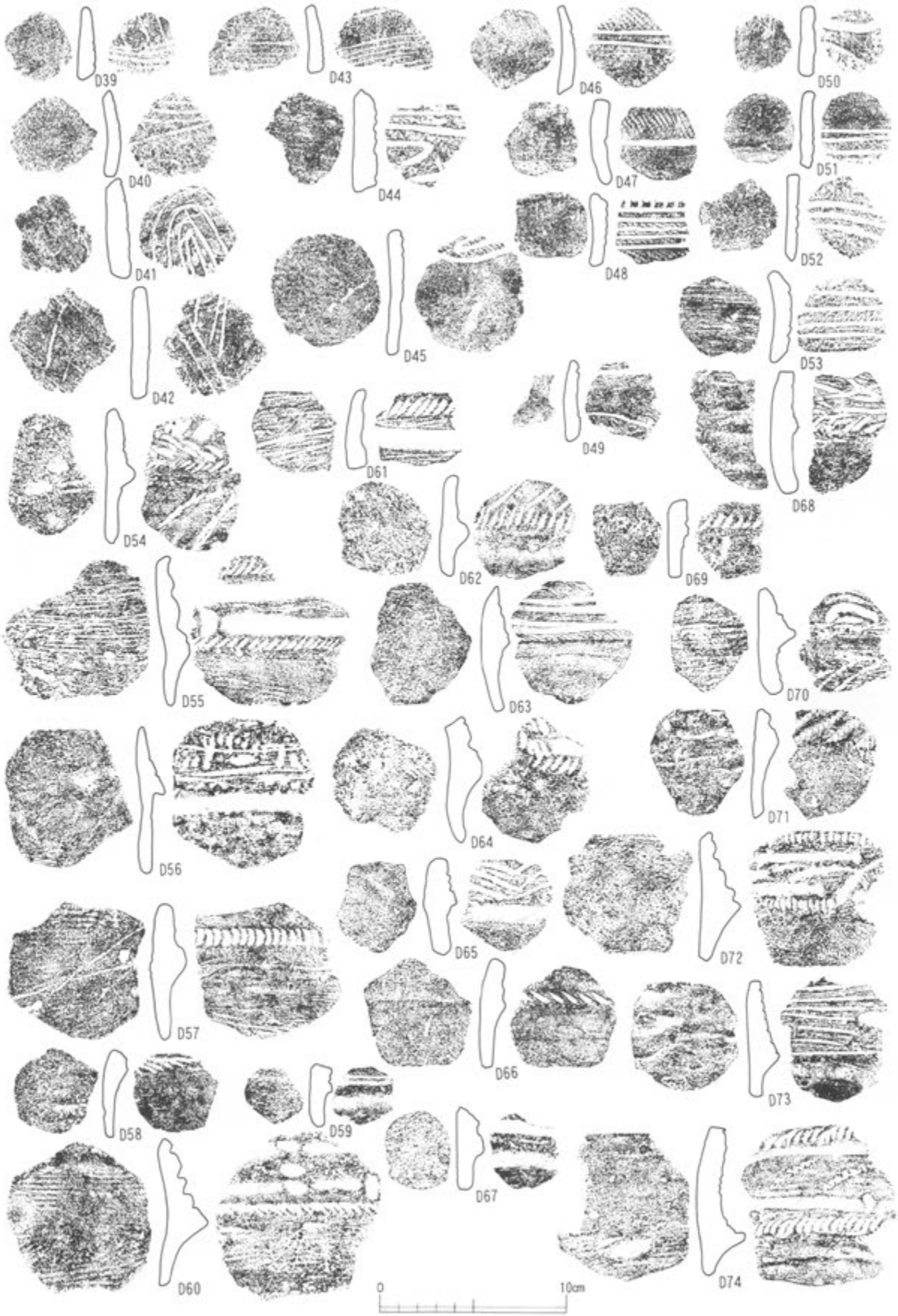
これらは土錘の形状をしているが，えぐり部に使用痕がみられなかったり，調整がていねいであることから実用品でない可能性もある。

（４）ドーナツ状土製品（第13図　D483）

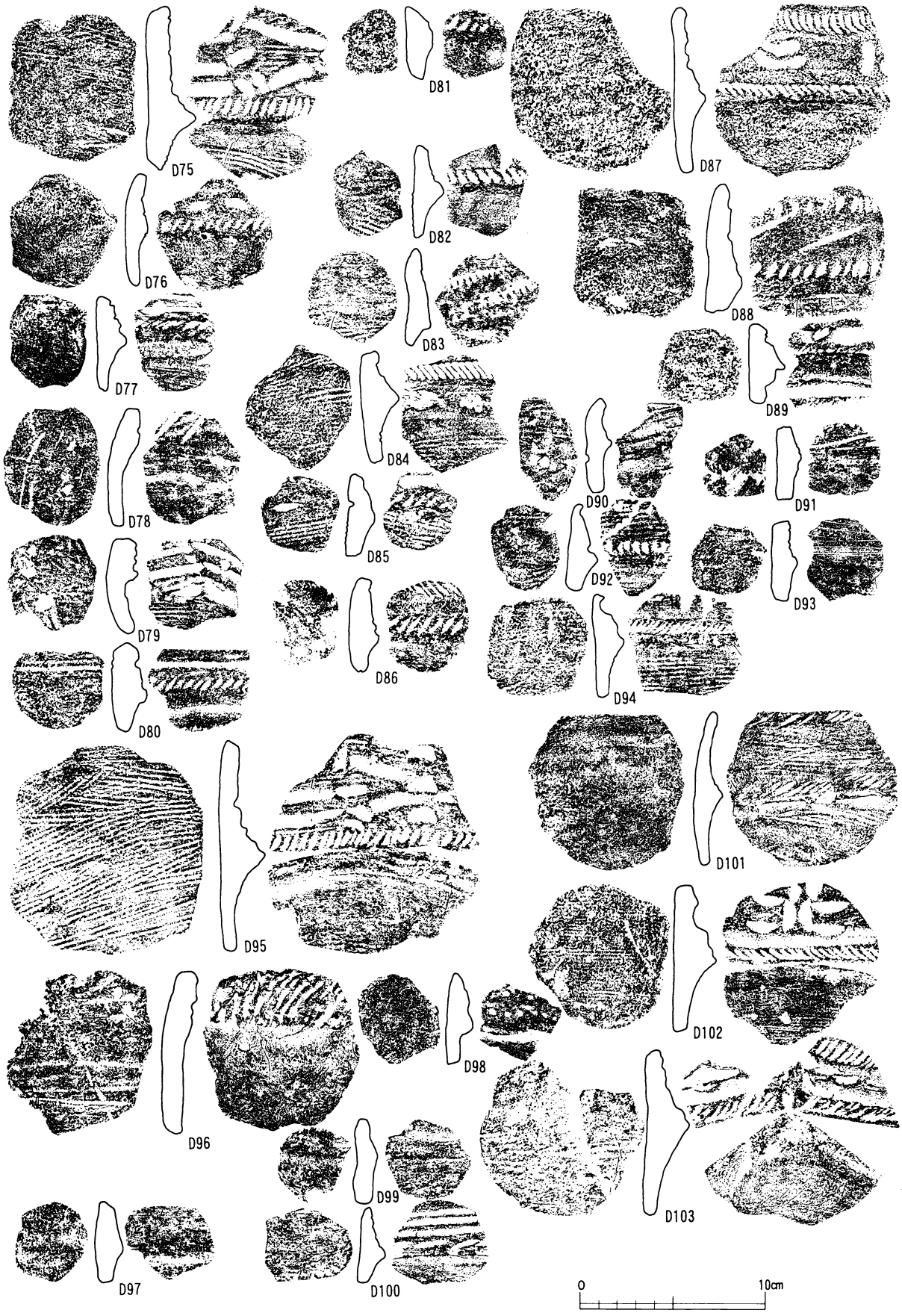
直径3.5cm，孔径１cm，厚さ1.5cmの土製品である。灰褐色・乳褐色を呈し，焼きは普通で摩滅している。白色石・石英・長石などのこまかい石を多く含んでいる。



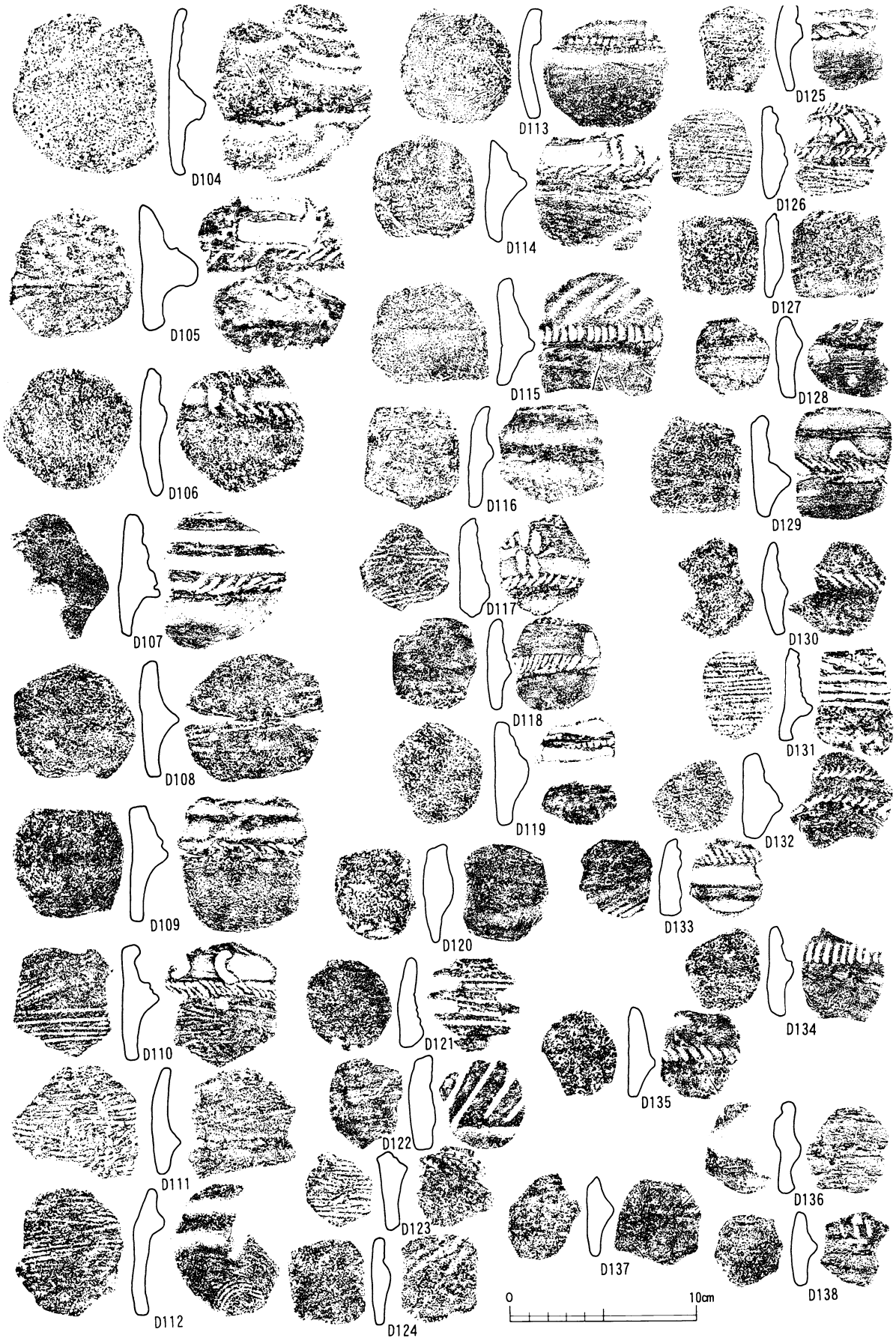
第３図　円盤形土製加工品１



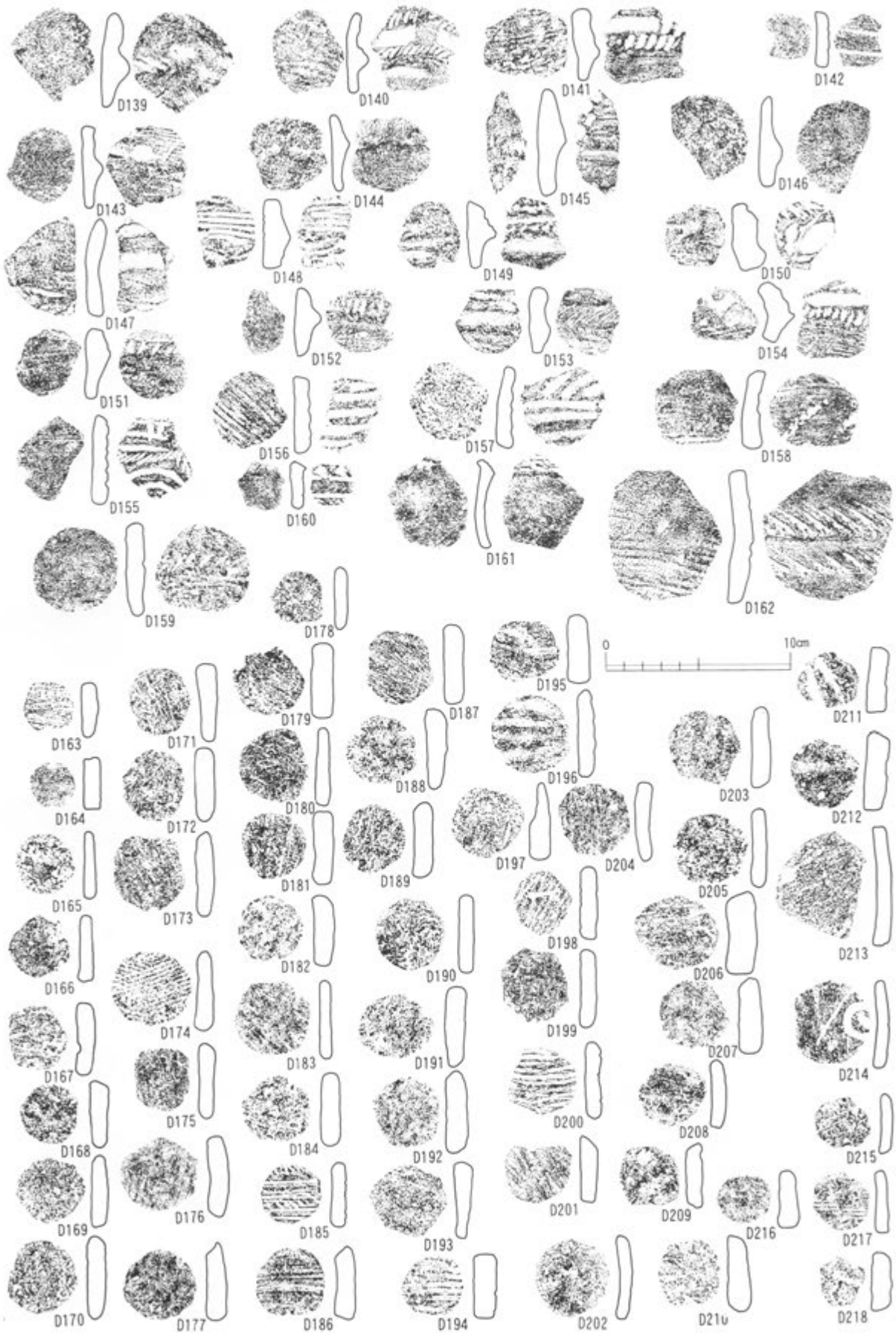
第４図　円盤形土製加工品２



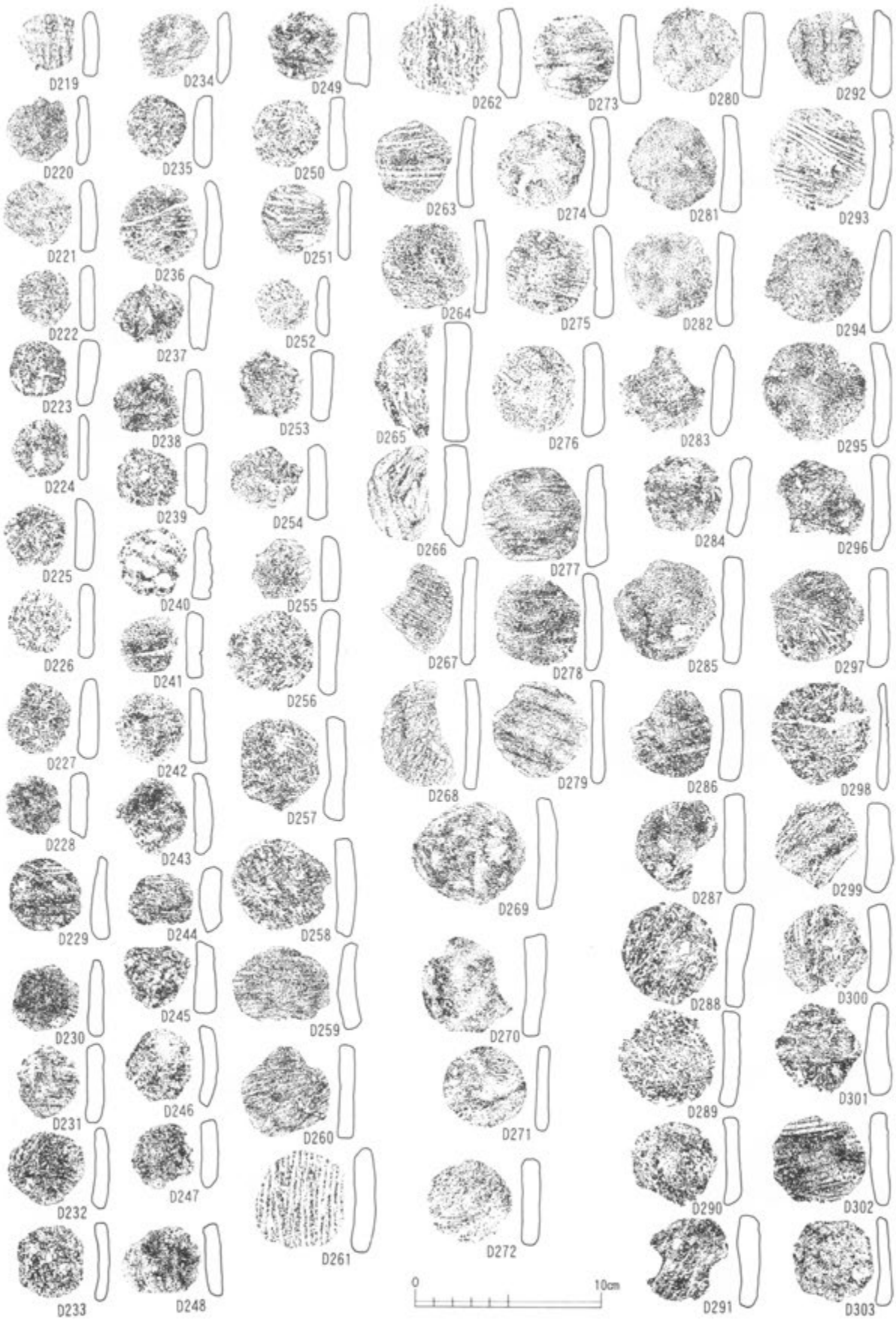
第５図　円盤形土製加工品３



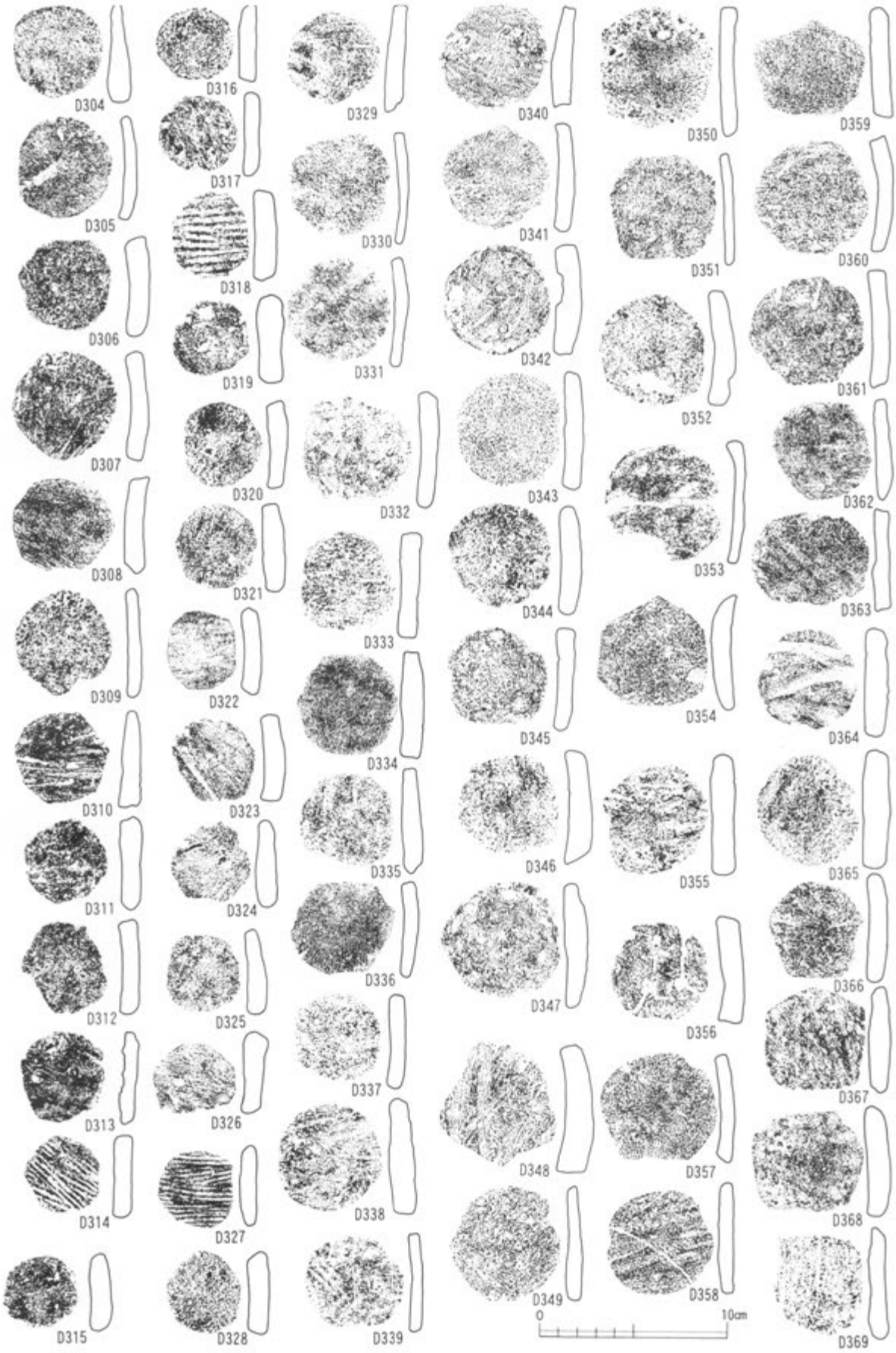
第６図　円盤形土製加工品４



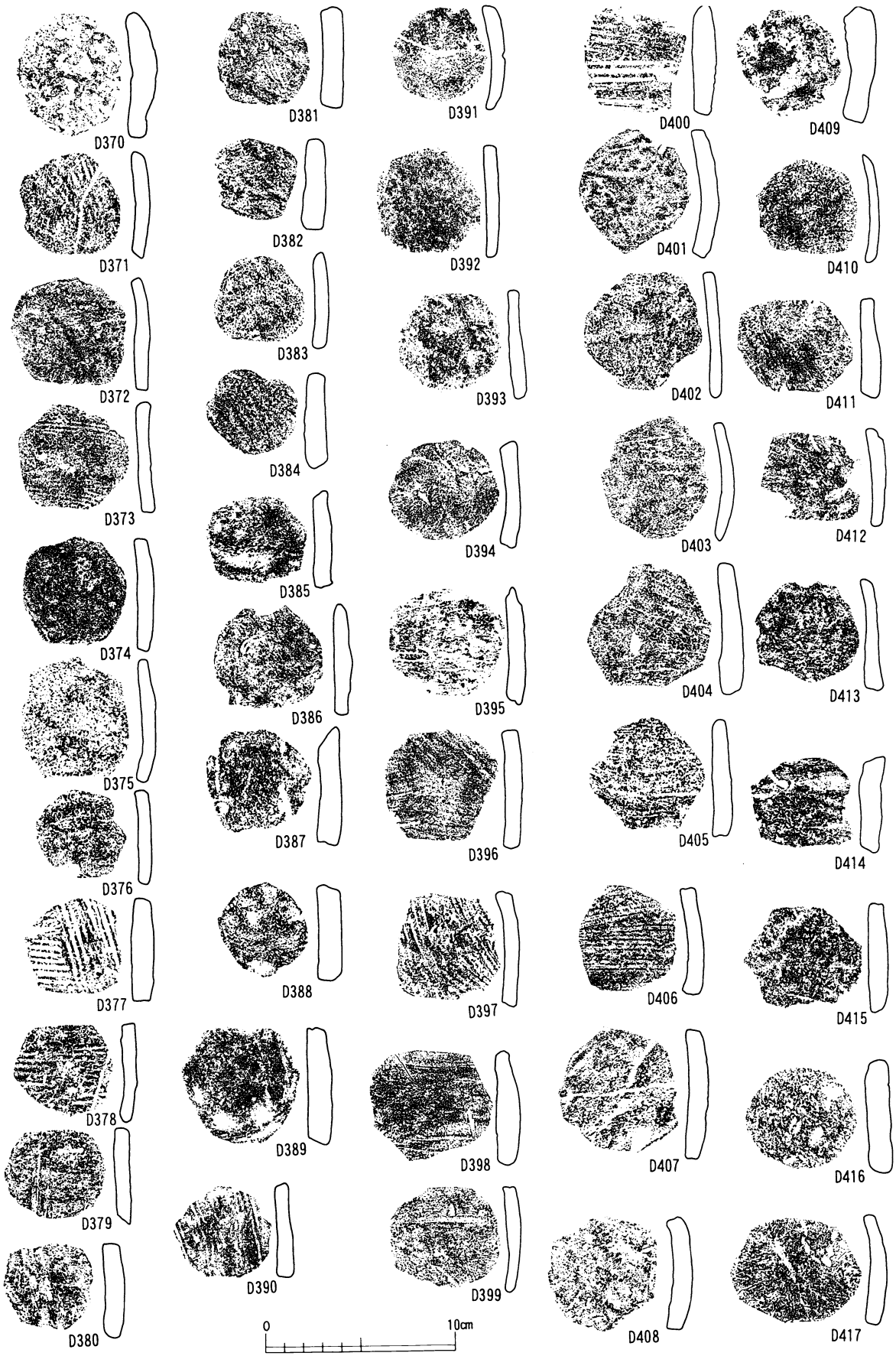
第７図　円盤形土製加工品５



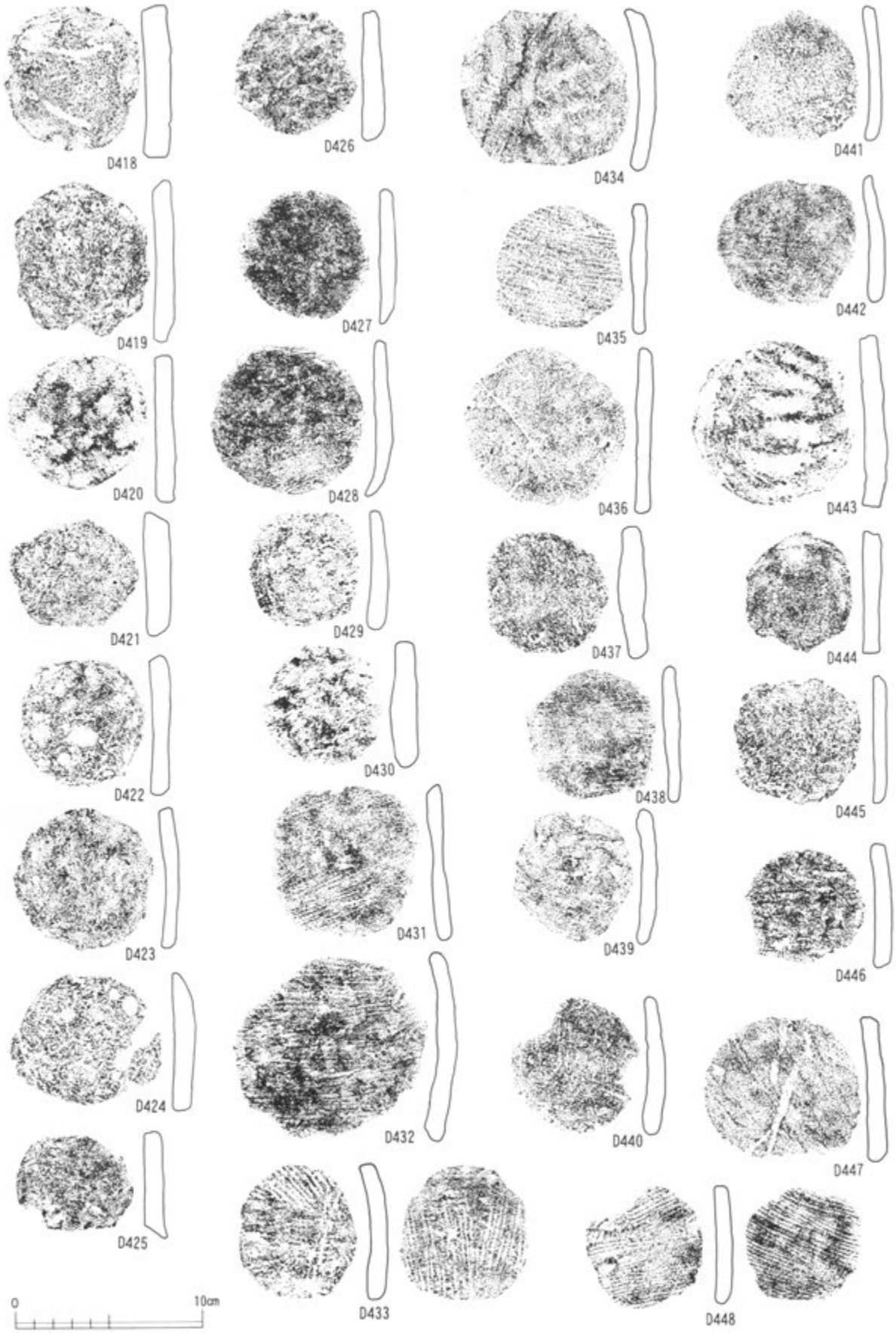
第８図　円盤形土製加工品６



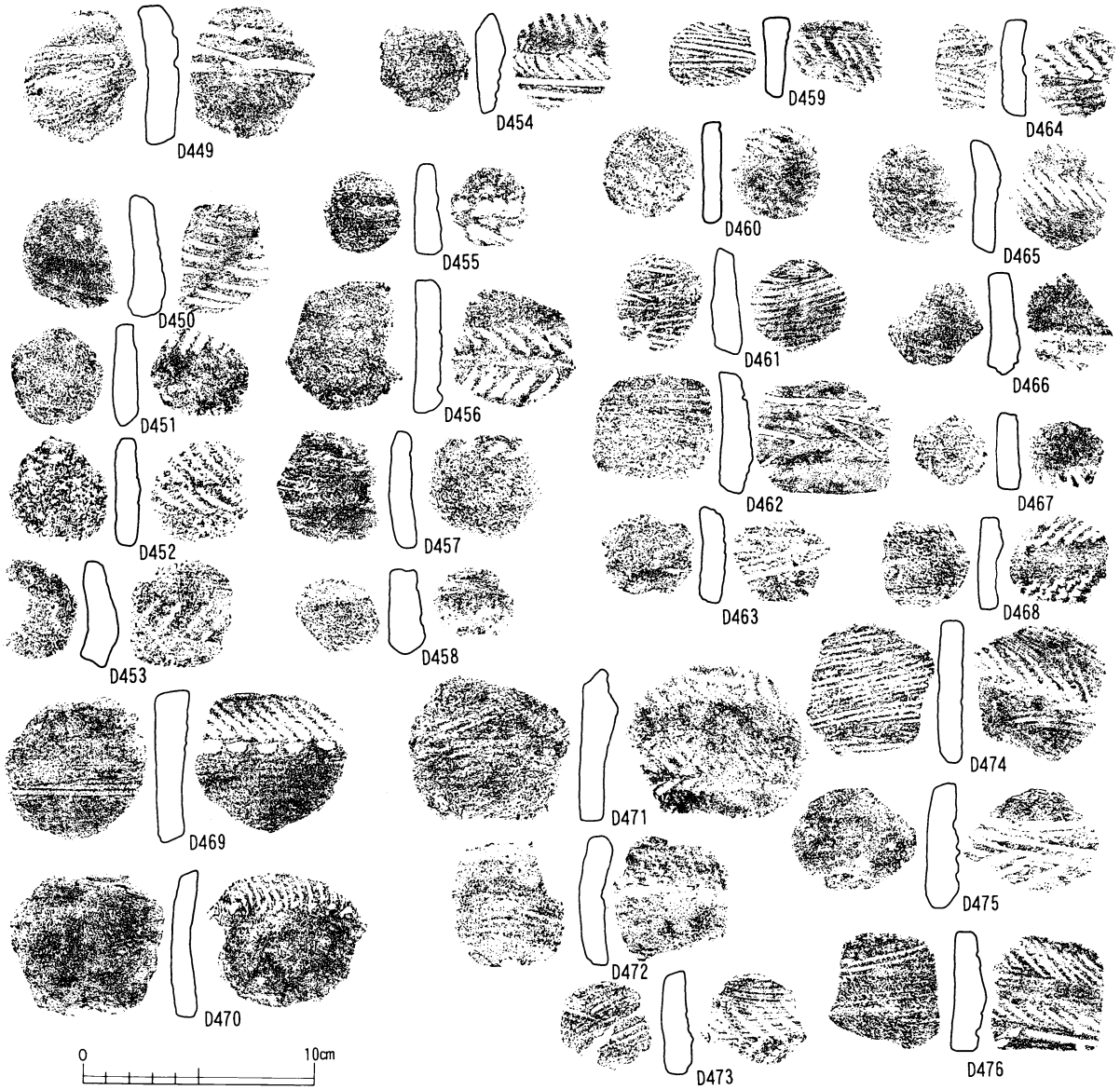
第９図　円盤形土製加工品７



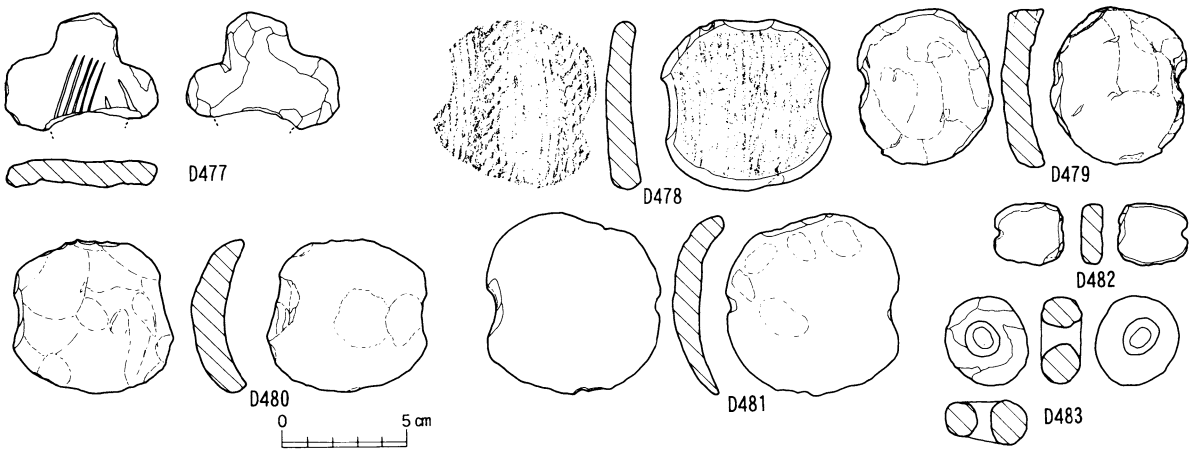
第10図　円盤形土製加工品８



第11図　円盤形土製加工品９



第12図　円盤形土製加工品１０



第13図　土製加工品

縁磨（周縁研磨）　◎：極顕著，○：顕著，△：部分的，×：無し

番号	遺物	部位	出土区 区	R	小区	層位	取上番号	標高(m)	直径(cm)	重さ(g)	縁磨	色調 表 / 裏	備考	文様
1	市来	口縁部	14G	R1					7.8	95.66	×	明茶褐/淡褐色		○
2	〃	〃	12H	R1					7.4	59.95	×	淡褐色		○
3	〃	〃	23K	乳灰褐色砂層					8.2	87.71	×	暗茶褐/明茶褐		○
4	〃	〃	20F	R1	27		43166		7.5×8.4	102.75	×	明茶褐/黒褐色		
5			15G	R1					6.7	46.21				
6	市来	口縁部	15G	R1					5.7	30.81	×	明茶褐/黒褐色	土器片錘？	○
7	〃	〃	15G	R1	17		28248		4.7×2.9	18.77	×	暗茶褐/明茶褐	半欠	○
8	〃	〃	13H	R1					4.0	19.31	×	淡褐色/暗灰褐		○
9	〃	〃	14H	R1					4.0	21.01	△	黒褐色/明茶褐	一部欠	○
10	〃	〃	14G	R1					3.8	16.94	×	〃		○
11	〃	〃	14H	R1					4.4×5.8	29.45	○	暗茶褐/黒褐色	一部欠	○
12	〃	〃	15G	R1					5.5	34.86	×	〃 /明茶褐	〃	○
13	〃	〃	15G	R1					4.2	22.38	×	淡褐色/ 〃		○
14	西平	〃	18D			Ⅴ			3.2	13.40	×	明茶褐/暗褐色		○
15	不明	〃	20D			Ⅵ			4.6	22.02	×	暗茶褐/淡褐色	一部欠	○
16	〃	〃	16G	R1					4.1	10.87	○	淡褐色		○
17	〃	〃	21F			排土			4.6	20.62	○	黄茶褐/暗茶褐	摩耗	○
18	市来？	〃	15G	R1	44		26021		5.7	42.75	×	暗茶褐/淡褐色		○
19	〃	〃	12H	R1					4.9	25.84	×	明茶褐色	一部欠	○
20	〃	〃	14H	R1					4.7	23.65	×	明茶褐/暗茶褐	〃	○
21	〃	〃	12G			Ⅴ	6300	12.92	4.5	20.76	×	黒褐色/ 〃	〃	○
22	〃	〃	18E			Ⅵ	32250	13.57	3.2	16.44	○	暗褐色		○
23	納曽	〃	11H	R1					4. 8×6.0	37.99	○	明黄茶褐色	半欠	○
24	鐘崎？	〃	暗灰茶褐色土				10		7.7	69.29	×	明黄茶/暗褐色		○
25	北久根	〃	12H	R1					8.3	86.39	×	明褐色/暗灰褐		○
26	指宿？	〃	16F			Ⅴ	23226	13.10	4.5	22.84	×	明茶褐/ 〃		○
27	指宿	〃	16F			Ⅴ			4.2	23.89	×	淡褐色/ 〃		○
28	鐘崎？	胴部	13H	R1			2734	13.25	3.3	7.79	×	暗茶褐/淡褐色		○
29	指宿？	〃	15F			東壁			5.1	29.20	×	淡褐色/暗茶褐		○
30	市来？	〃	12H	R1					4.0	20.43	○	〃 /暗褐色		○
31	〃	口縁部	15G	R1					4.2	17.27	×	黒褐色/暗茶褐	半欠	○
32	深浦	胴部	16I			Ⅴ			4.3	27.27	×	淡褐色	一部欠	○
33	市来	口縁部	13E			Ⅴ	18993	13.12	3.8	12.64	○	明茶褐/明黄褐		○
34	辛川	〃	21J			Ⅲ			4.6	27.22	×	暗茶褐/淡褐色		○
35	指宿	胴部	16F	R1					3. 2×4.3	13.16	×	明茶褐/ 〃	一部欠	○
36	深浦	〃	15G	R1					5.5	33.78	×	淡褐色/黒褐色		○
37	指宿	口縁部	15G	R1	91		28165		5.4	29.00	×	暗茶褐/ 〃		○
38	指宿？	胴部	20F	R1	59		43234		5.6	29.25	○	明茶褐/暗褐色		○
39	北久根	〃	16F			Ⅴ			3.8	20.03	×	明黄茶/淡褐色		○
40	納曽？	〃	21D			Ⅵ	39456	13.53	4.6	19.80	×	淡茶褐/黒褐色	一部欠	○
41	市来？	口縁部	21F	R1	53		37339		5.1	32.79	○	黒褐色/明黄茶	〃	○
42	不明	胴部	14G			Ⅴ			5.5	36.64	×	明黄茶/淡褐色	〃	○
43	〃	〃	13H	R1					3. 4×5.3	18.03	×	暗褐色/黒褐色	半欠	○
44	指宿	〃	16G	R1	21		24877		5. 1×4.0	30.05	×	黒褐色/淡褐色	一部欠	○
45			20E			Ⅶ	41509	13.45	6.5	35.85				
46	西平	胴部	干ナシ						4.6	18.51	×	暗褐色		○
47	北久根	〃	22D	R1	81		37980		4.4	22.96	△	〃	土器集中区	○
48	西平	〃	21F	R1					3.2	15.33	×	〃		○
49	不明	〃	16F			Ⅴ			4.1	14.67	×	淡褐色/淡茶褐	一部欠	○
50	指宿？	〃	17F			Ⅴ	17065	13.12	3.4	13.32	△	暗茶褐/淡褐色		○
51	北久根	〃	16F			Ⅴ			4.0	16.61	○	暗灰褐色		○
52	〃	〃	16G	R1					4.1	11.97	×	明茶褐色	一部欠	○
53	〃	口縁部	21F	R1	2		39017		4.7	31.54	△	暗褐色/暗黄茶		○
54	市来	〃	14G	R1	55		27624		6.8	45.63	×	〃 /明茶褐	一部欠	○
55	〃	〃	16G	R1					8.5	72.65	△	〃	〃	○
56	〃	〃	14GH	R2					7.8	56.28	×	暗茶褐色	〃	○
57	〃	〃	15G	R1					8.0	82.91	△	淡茶褐色	〃	○
58	〃	〃	16G	R1					4.8	20.60	△	〃		○
59	〃	〃	20E			Ⅶ			3.6	11.90	×	暗茶褐/淡茶褐		○
60	〃	〃	16F	R1					8.5	121.25	×	淡茶褐/黒褐色		○

第１表　円盤形土製加工品観察表１

縁磨（周縁研磨）　◎：極顕著，○：顕著，△：部分的，×：無し

番号	遺物	部位	出土区 区	R	小区	層位	取上番号	標高(m)	直径(cm)	重さ(g)	縁磨	色調 表 / 裏	備考	文様
61	市来	口縁部	14G	R1					4.8	22.71	×	淡茶褐/明茶褐		○
62	〃	〃	14G	R1					5.4	30.24	△	暗褐色/淡褐色	一部欠	○
63	〃	〃	15G	R1					6.9	46.02	×	〃 /暗褐色	〃	○
64	〃	〃	14G	R1	67		27639		6.4	51.28	×	〃 /淡茶褐		○
65	〃	〃	19E			V			6.2	35.66	×	黒褐色		○
66	〃	〃	14H	R1					5.9	42.19	×	暗茶褐/明茶褐		○
67	〃	〃	15H	R1					4.4	24.49	○	淡褐色/淡灰褐	半欠	○
68	〃	〃	15G	R1	36		26939		6.0	39.76	○	〃 /暗褐色	一部欠	○
69	〃	〃	13H	R1	13		26506		4.0	17.36	×	暗茶褐色		○
70	〃	〃	16G	R1	41		26119		5.6	37.90	×	明茶褐色	一部欠	○
71	〃	〃	19E			V			6.0	32.57	×	淡褐色		○
72	〃	〃	22N	R1					7.3	88.69	×	黒褐色/明茶褐		○
73	〃	〃	15G	R1					6.3	48.49	×	明茶褐/淡茶褐		○
74	〃	〃	18D			Ⅵ	33914		8.0	111.08	×	茶褐色/暗茶褐	一部欠	○
75	〃	〃	干ナシ						8.4	113.38	×	暗茶褐/明茶褐		○
76	〃	〃	干ナシ						6.4	35.08	×	明褐色/暗褐色		○
77	〃	〃	14G	R1					5.4	32.11	×	〃		○
78	〃	〃	19E			Ⅶ			6.2	44.30	○	〃		○
79	〃	〃	14H			V	22599	12.40	5.2	44.46	×	〃		○
80	〃	〃	21D			Ⅵ			6.8	47.16	△	〃	一部欠	○
81	〃	〃	16F	R1					4.1	19.97	×	暗褐色/明茶褐		○
82	〃	〃	12H	R1	58		27291		5.0	25.92	×	〃		○
83	〃	〃	14G			V	23813	12.85	5.9	33.46	×	淡褐色		○
84	〃	〃	15G	R1	83		27484		6.1	52.79	×	淡褐色/明褐色		○
85	〃	〃	14G	R1	68		27133		4.4	25.94	△	暗褐色		○
86	〃	〃	13H	R1					5.0	31.26	○	〃		○
87	〃	〃	16F	R1			28485		9.5	94.92	△	明黄褐/明茶褐	一部欠	○
88	〃	〃	14G	R1					7.4	88.74	△	暗褐色/明褐色	〃	○
89	〃	〃	22N	R2					5.0	39.27	△	黒褐色/ 〃		○
90	〃	〃	13H	R1	23		26454		5.4	20.54	△	〃	一部欠	○
91	辛川	〃	12H						4.0	17.34	×	明褐色		○
92	市来	〃	21F	R1					4.8	28.35	△	〃		○
93	〃	〃	16G	R1	25				4.7	26.96	×	暗褐色	〃	○
94	〃	〃	14H	R1					6.7	50.22	×	暗褐色/明褐色		○
95	〃	〃	22K	R1	54				12.0	208.41	△	〃 /明茶褐	数ヶ所抉り有	○
96	〃	〃	18D			Ⅵ			8.8	105.91	×	〃 /明褐色		○
97	〃	〃	23K			Ⅱ			4.7	27.37	△	暗褐色		○
98	〃	〃	15G	R1					4.9	29.09	×	〃	一部欠	○
99	〃	〃	18D			V			4.6	21.22	×	暗褐色/黒褐色		○
100	〃	〃	14H			V			5.1	26.16	×	明褐色		○
101	〃	〃	18F	R1	87				8.3	92.03	△	暗褐色		○
102	〃	〃	14G	R1	59				8.5	120.65	○	淡褐色/明茶褐		○
103	〃	〃	14H	R1	29				.	138.84	○	明茶褐/暗褐色	一部欠	○
104	〃	〃	18F	R1	76				8.8	89.65	○	暗褐色/明茶褐		○
105			14G	R1	70				7.6	127.41	○	黒褐色/暗褐色		
106	〃	〃	13H	R1					7.2	66.51	△	〃 /明茶褐		○
107	〃	〃	13H	R1					7.1	70.41	×	明茶褐色	一部欠	○
108	〃	〃		R1					7.5	73.49	△	黒褐色/明茶褐	〃	○
109	〃	〃	16G	R1					7.0	82.39	△	暗褐色		○
110	〃	〃	21F	R1	32				6.3	60.35	△	黒褐色/灰黒褐		○
111	〃	〃	16G			V			7.2	46.49	×	明茶褐/灰褐色	一部欠	○
112	〃	〃	22M	暗茶褐色土					7.0	35.52	△	明褐色		○
113	〃	〃	16F	R1					6.8	45.48	○	黒褐色/淡褐色		○
114	〃	〃	15H	R1	24				6.4	59.71	×	暗褐色/明褐色		○
115	〃	〃	19F			新溝			7.1	70.88	△	明褐色	一部欠	○
116	〃	〃	14G	R1	66				5.9	36.30	△	暗褐色/明茶褐		○
117	〃	〃	18D			Ⅵ			5.5	40.04	×	明褐色		○
118	〃	〃	14G	R1	86				4.9	32.95	○	黒褐色/暗褐色		○
119	〃	〃	20F	R1					5.5	45.25	△	明褐色		○
120	〃	〃	14G	R1	66				5.2	41.40	○	黒褐色/明茶褐	一部欠	○

第２表　円盤形土製加工品観察表２

縁磨（周縁研磨）　◎：極顕著，○：顕著，△：部分的，×：無し

番号	遺物	部位	出土区 区	R	小区	層位	取上番号	標高(m)	直径(cm)	重さ(g)	縁磨	色調 表 / 裏	備考	文様
121	市来	口縁部	15G	R1					4.9	.55	△	暗褐色/明褐色		○
122	〃	〃	21F	R1	66				4.9	33.32	△	明褐色		○
123	〃	〃	12G			V			4.4	21.53	×	暗茶褐色	一部欠	○
124	〃	〃	15G	R1					4.6	21.17	△	暗茶褐/明茶褐		○
125	〃	〃	19E			V			4.8	24.63	×	黒褐色/暗茶褐		○
126	〃	〃	19E			Ⅶ			5.0	33.10	○	〃	一部欠	○
127	〃	〃	21F	R1					4.9	22.21	△	明茶褐色		○
128	〃	〃	13H	R1					4.9	26.63	△	黒褐色/暗茶褐	一部欠	○
129	〃	〃	18E			V			5.4	48.53	△	淡茶褐色	略方形	○
130	〃	〃	16F			V			5.2	26.12	△	明茶褐色	一部欠	○
131	〃	〃	11G	R1	79				5.0	29.70	△	暗茶褐/明茶褐		○
132	〃	〃	干ナシ						5.6	41.38	×	淡茶褐色	一部欠	○
133	〃	〃	16G	R1	5				4.6	30.63	△	明茶褐色		○
134	〃	〃	16H			Ⅵ			4.8	30.96	△	〃	一部欠	○
135	〃	〃	10C			Ⅲ			4.9	31.10	△	暗褐色		○
136	〃	〃	21F	R1	54				5.1	28.90	△	明褐色/暗褐色	一部欠	
137	〃	〃	15G	R1					4.6	25.52	△	淡褐色	〃	○
138	〃	〃	12G			V上			4.3	20.24	△	暗褐色		
139	〃	〃	18F	R1					5.2	27.68	△	黒褐色	一部欠	○
140	〃	〃	13H	R1					4.5	18.78	△	暗茶褐/明茶褐		○
141	〃	〃	14H	R1	50				4.8	24.76	△	暗褐色/ 〃		○
142	西平	胴部	21F	R1					3.0	6.23	△	暗褐色	一部欠	○
143	市来	口縁部	21E	R1	81				4.6	16.14	△	黒褐色		○
144	〃	〃	15G	R1					4.3	14.44	△	明茶褐/黒褐色		
145	〃	〃	干ナシ						6.6	19.70	△	淡褐色	半欠	○
146	〃	〃	16G	R1	15				4.9	17.22	△	暗褐色	一部欠	
147	市来？	胴部	干ナシ						5.6	22.22	△	〃	〃	○
148	市来	口縁部	12H	R1	90				4.2	20.30	×	淡褐色	〃	○
149	〃	〃	14G	R1					3.9	14.42	×	黒褐色/明茶褐	〃	○
150	〃	〃	14G	R1					3.7	19.11	△	〃 /暗茶褐		○
151	〃	〃	20F	R1					4.1	19.46	△	明茶褐/淡茶褐		○
152	〃	〃	14G	R1					3.8	14.45	×	暗茶褐/黒褐色	一部欠	○
153	〃	〃	15G	R1	37				3.7	14.25	△	暗褐色		○
154	〃	〃	21F	R1					4.0	21.59	△	黒褐色/明茶褐	一部欠	○
155	〃	胴部	13H	R1	5				4.6	17.17	△	淡褐色/ 〃	〃	○
156	〃	〃	22F	R1	62				4.3	16.16	△	暗茶褐/淡褐色	〃	○
157	〃	〃	12E			V			4.6	19.08	○	明褐色		○
158	〃	〃	19E			Ⅶ			4.8	27.90	△	黒褐色/暗褐色	草野の可有り	○
159	〃	口縁部	15G			V			5.2	32.36	○	暗茶褐/ 〃		○
160	西平	胴部	20F	R1					2.9	7.32	△	〃 /黒茶褐		○
161	〃	口縁部	21F	R1	55				4.8	17.14	×	暗茶褐/黒褐色		○
162	丸尾	〃	16G	R1	7				7.3	70.95	△	〃 /明茶褐	一部欠	○
163	不明	胴部	23K	R2					3.0	8.95	○	明茶褐色		
164	〃	〃	22N	R2	86		38311		2.5	7.84	○	暗褐色/明茶褐		
165	〃	〃	20F	R1	70		43272		3.5	9.20	○	明茶褐/淡褐色		
166	〃	〃	11G	R1					3.5	10.18	○	暗褐色/明茶褐		
167	〃	〃	11G	R1					2.0	14.37	○	淡褐色/暗褐色		
168	〃	〃	13H	R1					3.0	11.43	○	明褐色		
169	〃	〃	21F	R1	44		36803		3.5	13.66	○	明茶褐/淡褐色		
170	〃	〃	16G	R1					4.0	24.30	○	明茶褐色		
171	〃	〃	21D			横転			4.0	16.59	○	暗褐色/暗灰褐		
172	〃	〃	12H	R1	80		27305		3.5	16.75	○	淡褐色		
173	〃	〃	12H	R1					3.5	19.67	○	暗褐色/明茶褐		
174	〃	〃	15F			V	27552	12.92	4.0	20.00	○	明茶褐/暗茶褐		
175	〃	〃	16G	R1					3.5	12.07	○	〃 /暗褐色		
176	〃	〃	16G			溝			4.0	25.44	○	明茶褐色		
177	〃	〃	14G			V			4.0	22.77	○	淡褐色/暗茶褐		
178	〃	〃	15G	R1					3.0	6.51	○	淡黄褐/淡灰褐		
179	〃	〃	21D			V			4.0	21.77	○	暗褐色		
180	〃	〃	20F	R1	57		43243		4.0	16.03	○	黒褐色/淡褐色		

第３表　円盤形土製加工品観察表３

縁磨（周縁研磨）　◎：極顕著，○：顕著，△：部分的，×：無し

番号	遺物	部位	出土区 区 R 小区	層位	取上番号	標高(m)	直径(cm)	重さ(g)	縁磨	色調 表 / 裏	備考	文様
181	不明	胴部	22K R2				4.0	20.93	○	暗茶褐/黒褐色		
182	〃	〃	18F R1				3.5	17.22	○	黒褐色/暗褐色		
183	〃	〃	15G R1 71		26064		4.0	15.96	○	暗褐色		
184	〃	〃	20D	V	37722	13.67	3.5	20.12	○	明褐色		
185	〃	〃	20F R1 56		40926		3.5	12.38	○	暗褐色/淡褐色		
186	〃	〃	18D	V	32780	13.56	4.0	20.87	○	暗茶褐/黒褐色		
187	〃	〃	23K R2				4.0	20.41	○	暗茶褐/明茶褐		
188	〃	〃	干ナシ				4.0	19.53	○	明茶褐/黒褐色		
189	〃	〃	15F R1 98		28267		3.5	19.94	○	黒褐色/明茶褐		
190	〃	〃	11H R1				4.0	18.38				
191	〃	〃	22D 42		37959		4.0	24.18	○	暗茶褐/黒褐色		
192	〃	〃	14B	Ⅲ			4.0	24.58	○	明茶褐/明褐色		
193	〃	〃	21F R1 74		32438		4.0	16.18	○	暗褐色		
194	〃	〃	12G R1				3.5	18.95	○	黒褐色/淡褐色		
195	〃	〃	20F R1 75		40996		3.5	22.08	○	暗褐色/黒褐色		
196	〃	〃	干ナシ				4.5	21.02	○	淡茶褐/ 〃	文様有り？	
197	〃	〃	15F	V	20391	13.01	4.0	16.95	○	明黄褐/暗褐色		
198	〃	〃	15G R1				3.5	14.71	○	明茶褐/暗茶褐		
199	〃	〃	14F	V	16459	13.10	4.0	19.67	○	明褐色		
200	〃	〃	16G R1				4.0	15.40	○	黒褐色		
201	北久根?	〃	21F R1				4.0	17.22	○	明黄褐/暗灰褐		
202	不明	〃	16F R1				4.0	14.45	○	黒褐色		
203	〃	〃	15G R1 83				4.0	19.69	○	黒褐色/黒灰褐	一部欠	
204	〃	〃	22N R2				4.0	17.37	○	暗茶褐色	〃	
205	〃	〃	20P	Ⅵ			4.0	15.23	○	明黄褐/暗褐色		
206	〃	〃	20E	Ⅵ			4.5	32.43	○	明茶褐色	一部欠	
207	〃	〃	12H R1				4.0	23.85	○	暗褐色/黒褐色		
208	〃	〃	18E	Ⅵ			3.5	10.81	○	明茶褐/暗褐色		
209	〃	〃	16G R1				3.7	13.54	○	〃	一部欠	
210	〃	〃	18F R1				4.0	19.30	△	黒褐色/暗褐色		
211	〃	〃	20F R1 30		43225		3.5	13.10	○	明茶褐/暗褐色		
212	〃	〃	18F R1 85		32503		4.0	19.92	○	明茶勝/淡褐色		
213	鐘崎	〃	20F R1				6.5+α×4.7+α	32.37	○	黒灰褐色	2／3欠	
214	〃	〃	15G R1				4.7+α×4.0+α	15.32	○	明茶褐/明褐色	一部欠	
215	不明	〃	18C	Ⅲc			3.0	8.28	△	暗褐色		
216	〃	〃	11H R1				3.0	10.49	△	明茶褐/暗褐色		
217	〃	〃	20F R1 63		38847		3.0	8.86	△	淡褐色/明茶褐		
218	〃	〃	12H R1				3.0	11.57	△	暗褐色/暗黄褐		
219	〃	〃	15G R1				3.0	9.16	○	淡黄褐色		
220	〃	〃	22M 暗茶褐色土				3.5	10.92	△	暗茶褐/黒褐色		
221	〃	〃	11F	V	19691	13.08	3.5	12.99	△	暗褐色/淡褐色		
222	〃	〃	18D	V			3.0	9.31	○	淡明褐/淡黄褐		
223	〃	〃	11G R1				3.5	13.40	△	淡褐色		
224	北久根?	〃	8C	Ⅵc			3.5	6.89	○	淡黄褐色		
225	〃	〃	16G R1				3.5	15.36	○	明茶褐/淡褐色		
226	北久根?	〃	14E	V			3.5	12.62	○	淡黄褐/黒褐色		
227	〃	〃	15G R1				4.0	18.16	△	淡褐色	一部欠	
228	〃	〃	15C	Ⅵ			3.0	13.26	○	明茶褐色		
229	〃	〃	15G R1				4.0	15.71	△	暗褐色/明茶褐		
230	〃	〃	15F	V	20742	13.08	3.5	16.56	△	暗黄茶/暗茶褐		
231	北久根?	〃	20F R1 63		39166		3.5	18.74	△	明黄褐/黒褐色		
232	〃	〃	14G R1				4.0	16.17	△	明茶褐色		
233	〃	〃	16G R1				4.0	12.36	○	暗茶褐色		
234	鐘崎？	〃	11G R1				4.0	13.56	○	黒灰褐/淡褐色		
235	〃	〃	11G R1				3.5	15.29	○	暗茶褐/黒褐色		
236	〃	〃	14G R1 38		27604		4.5	19.52	△	明茶褐/暗褐色		
237	〃	〃	18E	Ⅵ			3.8	18.90	△	淡褐色		
238	〃	〃	22K R2				3.6	16.07	△	暗褐色/明褐色		
239	〃	〃	12H R1				3.8	16.10	○	明茶褐色		
240	〃	〃	12H R1				3.8	17.46	△	明茶褐/明褐色	文様有り？	

第４表　円盤形土製加工品観察表４

縁磨（周縁研磨）　◎：極顕著，○：顕著，△：部分的，×：無し

番号	遺物	部位	出土区 区 R 小区	層位	取上番号	標高(m)	直径(cm)	重さ(g)	縁磨	色調 表 / 裏	備考	文様
241	不明	胴部	13F	Ⅳ			3.6	11.89	○	暗褐色/黒褐色		
242	〃	〃	15G	Ⅴ			4.0	14.13	△	暗茶褐/明褐色		
243	〃	〃	16G R1				4.0	14.62	△	淡褐色/暗褐色		
244	〃	〃	16E	Ⅴ	17119	13.26	3.8	18.06	△	暗茶褐/淡褐色		
245	〃	〃	16G R1 84		24010		3.8	13.43	△	淡黄茶褐色		
246	〃	〃	15E	Ⅴ	370		4.0	13.96	△	淡茶褐/黒褐色		
247	〃	〃	14G	Ⅴ	23790	12.80	3.5	13.62	△	黒褐色/暗褐色		
248	〃	〃	15G R1 39		27714		4.2	15.85	△	明褐色/黒褐色		
249	〃	〃	23K 淡茶褐色粘質土				4.0	22.59	△	暗褐色		
250	〃	〃	21F R1				4.2	15.48	△	明茶褐/淡黄茶		
251	〃	〃	22N R2				4.1	12.48	○	明茶褐/暗茶褐		
252	〃	〃	15E	Ⅴ	13299	13.22	3.4×3.1	7.08	○	淡黄白色		
253	〃	〃	16G R1				3.5	15.64	○	明茶褐色		
254	〃	〃	22N R2				4.0	17.62	△	淡黄褐/暗褐色		
255	〃	〃	14G R1				3.5×3.3	17.41	△	暗褐色		
256	〃	〃	干ナシ				4.7×4.6	25.51	○	淡黄茶褐色		
257	〃	〃	15G R1				5.3×5.0	28.42	○	暗褐色/暗灰褐	一部欠	
258	〃	〃	15G R1 40		28262		5.5×5.3	32.09	○	明茶褐/黒褐色		
259	北久根	〃	16D	Ⅳ			5.3×4.5	29.90	○	淡灰褐色	小判形	
260	鐘崎	〃	15G R1 43		27765		5.3×5.1	26.07	○	淡褐色/暗灰褐		
261	不明	〃	15G R1 36		26939		5.7×5.1	38.42	○	暗褐色/暗茶褐		
262	〃	〃	21F R1				5.1×5.0	27.96	○	暗黄茶/暗茶褐		
263	〃	〃	12H R1				4.6×4.3	17.56	○	暗褐色/淡褐色		
264	〃	〃	21E	Ⅵ	39654	13.55	5.0	16.77	○	黒褐色/暗褐色		
265	〃	〃	12H R1				6.1×3.1+α	31.28	◎	淡黄茶/黒褐色	半欠	
266	〃	〃	16G R1 62		24919		5.2×3.3+α	26.03	○	暗褐色	半欠	
267	北久根	〃	20F	Ⅵ			5.1×4.0+α	17.86	○	黒褐色/暗灰褐	半欠	
268	鐘崎	〃	20F R1 9		38770		5.8×3.7+α	20.14	○	暗灰褐色	半欠	
269	不明	底部	15G R1				6.0	36.79	○	明茶褐/暗茶褐		
270	〃	胴部	23M R2				5.0	30.75	△	淡黄褐/明茶褐		
271	〃	〃	11H R1				4.5	20.74	◎	淡褐色		
272	〃	〃	23K R2				5.0	25.03	○	明褐色/暗褐色		
273	〃	〃	20F R1 56		40930		5.0	28.55	◎	〃 /淡褐色		
274	〃	〃	15G	Ⅴ	21765	12.78	5.0	31.14	◎	暗茶褐/ 〃		
275	〃	〃	20F R1 57		39153		5.0	31.01	◎	暗茶褐色		
276	〃	〃	干ナシ				5.0	36.29	◎	暗褐色		
277	〃	〃	21E R1 91		37238		5.5	42.41	◎	暗灰褐/黒褐色	鐘崎？	
278	〃	〃	13H R1				5.0	23.08	○	暗茶褐/明茶褐		
279	鐘崎	〃	12H R1				5.5	26.72	◎	淡褐色		
280	不明	〃	22K R2				5.0	32.86	◎	明茶褐色		
281	〃	〃	11G R1				5.0	25.88	◎	〃		
282	〃	〃	21F R1 26		36777		5.0	30.18	◎	〃		
283	〃	〃	18F R1 96		33267		5.0	26.33	○	明茶褐/暗褐色		
284	〃	〃	15G R1				4.5	24.79	◎	淡褐色		
285	〃	〃	16G R1				6.0	36.74	◎	淡茶褐/淡褐色		
286	〃	〃	21F R1 34		37311		5.0	33.51	◎	淡褐色/淡黄褐		
287	〃	〃	15G R1				5.5	35.33	◎	淡黄褐/黒褐色		
288	〃	〃	21E R1 73		37998		5.5	43.49	◎	明茶褐色		
289	〃	〃	16G R1 51		28446		5.5	28.84	◎	淡褐色		
290	〃	〃	15G R1				5.0	19.02	○	〃		
291	〃	〃	13H R1				5.5	33.76	◎	暗褐色/明茶褐		
292	〃	〃	20F R2 70		38874		4.5	26.12	◎	暗灰褐色		
293	〃	〃	干ナシ				5.5	27.99	◎	暗褐色/暗灰褐		
294	〃	〃	15G R1				5.5	33.67	○	暗茶褐/暗褐色		
295	〃	〃	14E		12123	13.24	6.0	37.46	◎	暗茶褐/淡褐色		
296	〃	〃	12H R1				5.5	32.61	◎	暗茶褐/黒褐色		
297	〃	〃	22K R2				5.0	38.21	○	暗茶褐色		
298	〃	〃	15G R2				5.5	15.37	○	暗灰褐色		
299	〃	〃	15G		23451	13.19	5.0	32.93	◎	明褐色	集石付近	
300	〃	〃	12H R1				5.0	27.42	○	黒褐色		

第５表　円盤形土製加工品観察表５

縁磨（周縁研磨）　◎：極顕著，○：顕著，△：部分的，×：無し

番号	遺物	部位	出土区 区 R 小区	層位	取上番号	標高(m)	直径(cm)	重さ(g)	縁磨	色調 表 / 裏	備考	文様
301	不明	胴部	23K 乳灰色砂土				5.0	35.60	○	黒褐色		
302	〃	〃	14F	V	18076	13.16	5.0	31.67	○	明茶褐色		
303	〃	〃	15H R1				5.0	16.48	○	淡黄白/明褐色		
304	〃	〃	15F	V	18936	13.17	5.5	29.41	◎	黒褐色/淡黄褐		
305	〃	〃	18F R1 94		33954		5.5	26.55	◎	明茶褐/暗褐色		
306	〃	〃	12H R1				5.0	36.14	◎	明褐色		
307	〃	〃	14D	V			6.0	38.07	◎	黒褐色/暗茶褐		
308	北久根?	〃	20F R1 58		40917		5.5	34.24	○	〃 /灰黒褐		
309	不明	〃	干ナシ				6.0	26.43	○	暗茶褐/明黄褐		
310	〃	〃	干ナシ				5.0	29.10	○	明茶褐色		
311	〃	〃	18F R1 65		32472		4.5	30.19	○	暗茶褐/暗褐色		
312	〃	〃	15G R1 77		26637		5.0	27.29	○	淡茶褐/淡褐色		
313	〃	〃	12H R1 70		26875		5.0	27.68	◎	暗褐色/ 〃		
314	〃	〃	16G R1				4.5	22.58	○	明茶褐/暗褐色		
315	〃	〃	12H	Ⅳ			4.5	23.93	◎	暗茶褐/黒褐色		
316	〃	〃	20F R1 29		43173		4.5	22.63	○	淡灰褐/ 〃		
317	〃	〃	21F R1 13		36714		4.5	20.65	○	黒褐色		
318	〃	〃	14G	V	22243	13.02	4.5	33.41	○	暗茶褐/淡褐色		
319	〃	〃	12G R1 89		28114		4.5	28.87	◎	淡黄茶/明褐色		
320	〃	〃	18F R1 84		32721		4.5	23.75	◎	暗褐色/淡褐色		
321	〃	〃	20F R1 37		40887		4.5	25.63	◎	黒茶褐/黒褐色		
322	鐘崎	〃	16G R1 42		24903		4.5	20.96	◎	黒灰褐/ 〃		
323	不明	〃	12H	溝			4.5	29.59	◎	淡黄褐/淡褐色		
324	〃	〃	12E	V			4.5	26.86	○	明茶褐/淡茶褐		
325	〃	〃	11G R1				4.5	22.89	◎	明褐色		
326	〃	〃	23K R2				4.5	27.18	◎	暗茶褐/明褐色		
327	丸尾？	〃	21F R1				4.5	18.93	◎	〃 /明茶褐		
328	不明	〃	21D	V	37909	13.67	4.5	26.69	○	明褐色/明灰茶		
329	〃	底部	18F R1 99		33273		5.5	30.51	○	黒褐色/黒茶褐		
330	〃	胴部	15G R1				6.0	21.40	○	暗茶褐/黒褐色		
331	〃	〃	22N R1 59		38751		5.5	26.82	◎	明茶褐/暗茶褐		
332	〃	〃	20F R1 56		38942		6.5	47.88	○	暗茶褐/暗褐色		
333	〃	〃	7C				5.5	36.09	◎	明茶褐/暗褐色		
334	〃	〃	15G R1 54		26241		5.5	42.79	◎	暗灰褐/淡灰褐		
335	〃	〃	13H R1 46		27315		5.5	36.14	○	暗茶褐/明褐色		
336	〃	〃	15G R1				5.5	26.34	○	黒茶褐/明茶褐		
337	〃	〃	13H R1				5.0	26.07	○	明茶褐/暗茶褐		
338			干ナシ				6.0	57.57				
339	不明	胴部	15G R1				5.5	24.06	○	黒茶褐/明茶褐		
340	〃	〃	11G R1				5.5	39.77	◎	明茶褐色		
341	〃	〃	15G R1 38		28325		5.5	33.95	◎	暗褐色		
342	〃	底部	20F R1 63		40960		6.0	48.46	◎	暗褐色/明茶褐		
343	〃	胴部	16E	V	20184	13.05	6.0	43.09	◎	暗茶褐/暗褐色		
344	〃	〃	13E	V	19932	13.16	6.0	37.91	◎	明茶褐色		
345	〃	〃	12H R1				5.5	32.98	○	明茶褐/暗茶褐		
346	〃	〃	19E	Ⅵ	41470	13.62	6.0	48.03	◎	黒茶褐/淡明茶		
347	〃	底部	16G R1				6.0	43.05	◎	明茶褐色		
348	〃	胴部	16G R1 74		24929		6.5	73.28	◎	暗茶褐/暗褐色		
349	〃	〃	14G R1				6.0	25.05	○	明茶褐/明褐色		
350	〃	〃	15E	V	235		6.0	43.80	○	黒茶褐/淡褐色		
351	〃	〃	20E	Ⅶ			6.0	21.31	○	明茶褐/暗褐色		
352	〃	〃	14G R1 59		28369		6.0	43.82	○	明茶褐色		
353	鐘崎？	〃	15F	V	5334	13.09	6.5	34.43	◎	暗灰褐/黒褐色		
354	不明	〃	18F R1				6.0	37.85	○	暗褐色/淡茶褐	一部欠	
355	〃	〃	15G R1 83		27501		6.0	51.36	○	黒茶褐/暗褐色		
356	〃	〃	12H	溝			5.5	45.82	○	明茶褐/ 〃		
357	〃	〃	14H R1				6.0	34.19	○	暗褐色/淡明茶		
358	〃	〃	14G R1 69		28302		5.5	30.36	◎	淡褐色/淡黄褐		
359	〃	〃	16F R1 91		26713		5.5	43.35	○	暗褐色/黒褐色	一部欠	
360	〃	〃	14G R1 57		27170		6.0	46.63	◎	淡茶褐色		

第６表　円盤形土製加工品観察表６

縁磨（周縁研磨）　◎：極顕著，○：顕著，△：部分的，×：無し

番号	遺物	部位	出土区 区 R 小区	層位	取上番号	標高(m)	直径(cm)	重さ(g)	縁磨	色調 表 / 裏	備考	文様
361	不明	胴部	22K R2 60		38583		6.5	44.37	○	明茶褐/暗褐色		
362	〃	〃	15H R1 15		28343		5.5	28.92	○	明褐色		
363	〃	〃	15H R1 41		27802		6.0	44.84	○	黒茶褐/黒褐色	小判形	
364	〃	〃	干ナシ				5.5	41.33	◎	暗灰褐/暗褐色	文様有り？	
365	〃	〃	干ナシ				6.0	59.47	◎	黒褐色/黒灰褐		
366	〃	〃	16G R1 6		28491		5.5	37.10	◎	暗褐色	一部欠	
367	〃	〃	13H R1				6.0	39.98	○	淡茶褐色		
368	〃	〃	12G R1				6.0	55.48	○	明茶褐/黒灰褐		
369	〃	〃	22K R2 48		38579		6.0	31.10	○	暗茶褐色	小判形	
370	〃	底部	15E	V			6.5	47.61	○	明茶褐色		
371	〃	胴部	20F R1 5		43126		5.5	28.64	○	淡褐色/明茶褐		
372	〃	〃					6.5	35.14	◎	暗褐色/淡褐色		
373	〃	〃	15G R1				6.0	35.64	○	黒褐色/明茶褐		
374	〃	〃	13H R1				6.0	35.20	○	明茶褐色		
375	〃	〃	16G R1				6.5	38.09	○	黒茶褐/黒褐色	一部欠	
376	〃	〃	13H R1				5.0	19.21	○	暗茶褐/明茶褐		
377	〃	〃	20F R1 50		38817		5.2	38.21	○	黒茶褐/暗灰褐		
378	〃	〃	14G R1				5.5	22.26	○	暗茶褐/明茶褐		
379	〃	〃	18D	Ⅵ	33521	13.54	5.5×5.1	27.27	○	暗褐色/黒褐色		
380	〃	〃	12H R1				4.9	27.03	◎	黒褐色/明茶褐		
381	〃	〃	16G R1				5.4×5.0	37.72	○	暗褐色/明褐色		
382	〃	〃	21E	Ⅵ	39804	13.49	4.7×4.5	24.88	○	黒茶褐/暗褐色		
383	〃	〃	14E	V			5.0	18.98	○	黒茶褐色		
384	〃	〃	15G R1				5.1×5.0	32.84	○	淡褐色/黒褐色		
385	〃	底部	13H R1				5.5	27.62	○	明茶褐色		
386	〃	〃	20E	Ⅶ			6.0	28.12	×	暗褐色/明茶褐	ﾒﾝｺでない可有	
387	〃	〃	16G R1				6.0	48.12	×	明茶褐/暗褐色		
388	〃	〃	16G R1				5.5	38.56	×	明褐色/暗茶褐		
389	〃	〃	16G R1				6.0	56.29	×	明茶褐色		
390	〃	胴部	14H R1				5.0	22.13	×	明茶褐/黒褐色		
391	〃	〃	18H	V			5.5	23.35	×	淡褐色/黒灰褐		
392	鐘崎？	〃	14G	V			6.0	33.74	×	黒褐色/ 〃		
393	不明	〃	14G	V	9708	13.15	5.5	31.63	×	明茶褐/暗茶褐		
394	〃	〃	21F R1		37422		5.5	32.82	○	暗茶褐/暗褐色		
395	〃	〃	12H R1 30		26857		6.0	42.73	○	黒灰褐色		
396	〃	〃	15H R1 3		28335		6.0	43.86	○	淡褐色/明茶褐		
397	〃	〃	22K R2				6.0	38.22	○	暗茶褐色		
398	〃	〃	19E	Ⅶ	41121	13.62	6.0	53.60	○	黒灰褐/黒茶褐		
399	〃	〃	15H R1 42		27803		6.0	28.71	○	明褐色/暗茶褐		
400	〃	〃	12H	V	18317	12.85	5.5	40.95	×	暗褐色/ 〃	略方形	
401	〃	〃	干ナシ				6.5	39.84	○	淡褐色		
402	〃	〃	14G R1				6.5	29.65	○	〃	一部欠	
403	〃	〃	16G R1				6.5	27.45	○	明茶褐/黒褐色	〃	
404	〃	〃	18F R1				6.5	61.37	○	淡褐色/暗褐色	〃	
405	〃	〃	22K R2 58		38581		6.5	43.50	×	暗茶褐/黒茶褐		
406	〃	〃	14G R1				5.5	32.32	×	〃 /明褐色		
407	〃	〃	23N R2				6.5	53.37	×	暗褐色/ 〃		
408	〃	〃	干ナシ				6.0	45.45	×	明茶褐/黒褐色		
409	〃	〃	21F R1 12				6.0	50.99	×	明茶褐色		
410	〃	〃	16F R1				5.5	21.27	×	黒茶褐/明茶褐		
411	〃	〃	14H R2				6.0	38.25	×	明茶褐/暗茶褐		
412	〃	〃	13H R1				6.0	29.62	×	暗茶褐/明褐色		
413	〃	〃	16G R1 64		26431		6.0	32.97	○	明茶褐/淡褐色		
414	〃	〃	16F R1				5.0	37.18	×	暗茶褐/暗褐色		
415	〃	〃	14G R1				6.5	40.52	×	明茶褐/淡褐色		
416	〃	〃	20E	Ⅶ			5.5×7.0	39.52	◎	淡黄茶/黒褐色		
417	〃	底部	13F	V			6.0	48.38	○	明褐色/暗褐色	小判形	
418	〃	〃	14G R1 49		28370		7.5	100.40	◎	明茶褐色		
419	〃	〃	14G R1				7.0×8.0	72.33	○	淡茶褐/淡黄褐		
420	〃	〃	干ナシ				7.5	58.22	○	明茶褐/黒褐色		

第７表　円盤形土製加工品観察表７

縁磨（周縁研磨）　◎：極顕著，○：顕著，△：部分的，×：無し

番号	遺物	部位	出土区 区 R 小区	層位	取上番号	標高(m)	直径(cm)	重さ(g)	縁磨	色調 表 / 裏	備考	文様
421	不明	胴部	23K	Ⅳ			6.5	71.17	○	淡褐色		
422	〃	〃	16F R1				7.0	46.76	◎	淡茶褐/淡褐色		
423	〃	底部	15G R1				7.5	46.34	○	淡褐色/明茶褐		
424	〃	〃	10G R1				8.0	62.31	○	明茶褐/暗褐色		
425	〃	〃	19D	Ⅴ	25635	13.73	6.0	37.81	○	明茶褐色	一部欠	
426	〃	胴部	18F R1 83		32720		7.0	61.63	◎	淡褐色/黒灰褐		
427	〃	〃	20F	Ⅶ	41037	13.14	7.0	58.10	○	黒茶褐/明茶褐		
428	〃	〃	14G R1 65		26693		8.5	66.81	◎	暗茶褐/明茶褐		
429	〃	〃	19E	Ⅶ			6.5	40.93	○	暗茶褐/淡黄白		
430	〃	〃	15G R1 37		28235		6.5	63.75	◎	淡褐色		
431	〃	〃	15G R1				8.0	67.27	◎	黒灰褐/明茶褐		
432			14H R1 30		28394		10.5×9.5	125.00				
433	〃	〃	14H R1 61		28659		7.0	53.32	○	明茶褐色		
434	〃	〃	14H R1 61		28406		9.0	74.10	◎	暗茶褐/明茶褐		
435	〃	〃	14G R1 79		27654		7.0	47.33	○	暗褐色/淡褐色		
436	〃	〃	15G R1 95		27496		8.5	63.48	◎	暗茶褐/ 〃		
437	〃	〃	18F R1 84		33419		7.0	72.64	◎	淡茶褐/暗褐色		
438	〃	〃	18F R1 75		33932		7.0	55.88	○	黒茶褐/暗茶褐		
439	〃	〃	13H R1 89		27975		7.0	41.23	◎	淡茶褐色		
440	〃	〃	23M 暗茶褐色土				7.0	54.11	◎	明茶褐/淡褐色	一部欠	
441	〃	〃	15G R1				7.0	47.61	○	黒茶褐/暗茶褐		
442	〃	〃	13H R1				7.0	49.16	○	暗茶褐/明茶褐	一部欠	
443	〃	底部	16G R1 72		26436		9.5	101.38	○	淡茶褐/黒灰褐		
444	〃	〃	12G R1				6.5	42.80	○	明茶褐色		
445	〃	〃	16G R1				7.0	33.42	×	明茶褐/淡褐色		
446	〃	胴部	13H R1 15		26895		6.5	46.86	○	暗褐色/黒茶褐		
447	〃	〃	20F R1				8.0	84.54	◎	淡褐色/暗褐色	鐘崎？	
448	〃	〃	13G R1				6.5	48.06	◎	黒茶褐/明茶褐		
449	丸尾	口縁部	21E R1 71		37195		5.5	50.40	○	暗茶褐/淡褐色		○
450	〃	胴部	21F R1 26		36733		5.0	32.77	◎	〃	一部欠	○
451	〃	〃	16H	Ⅴ	17942	12.68	4.5	20.75	◎	明茶褐/暗褐色		○
452	〃	〃	14D	Ⅴ			4.5	21.87	○	暗茶褐色		○
453	〃	〃	干ナシ				5.0	29.32	◎	明茶褐/暗褐色	一部欠	○
454	〃	〃	12H R1				4.5	29.92	◎	明褐色		○
455	〃	〃	12H R1				4.0	17.43	◎	暗褐色/明茶褐		○
456	〃	〃	11G R1				6.0	38.43	○	〃	一部欠	○
457	〃	〃	11G R1				5.5	21.78	○	〃	〃	○
458	〃	〃	15G R1				4.0	20.65	◎	〃		○
459	〃	〃	15G	Ⅴ			4.0×2.5	16.59	◎	暗茶褐/明茶褐	一部欠	○
460	〃	〃	12H R1 87		28712		4.0	17.64	◎	暗褐色/ 〃		○
461	〃	〃	16G R1 26		24888		4.5	24.66	◎	黒茶褐/ 〃		○
462	納曽	〃	22K R2 59		38582		6.0×5.0	54.23	◎	暗褐色/淡褐色	略長方形	○
463	〃	〃	11H R1				4.5	19.95	×	明茶褐/淡茶褐		○
464	丸尾	〃	21F R1				4.0	16.65	○	〃	一部欠	○
465	〃	〃	15F	Ⅴ			4.5	25.40	○	黒褐色/暗茶褐		○
466	〃	〃	20L	Ⅲ			4.5	22.86	○	淡褐色/明茶褐	一部欠	○
467	〃	〃	15G	Ⅴ			3.5	11.37	○	黒茶褐/黒褐色		○
468	〃	〃	12H R1 77		29000		4.0	16.44	○	淡褐色/暗褐色		○
469	〃	〃	16F R1 96		26403		6.0	63.40	○	黒褐色/明茶褐		○
470	〃	〃	12H R1 57		26526		6.5	46.99	○	淡褐色/黒褐色		○
471	〃	〃	17F	Ⅴ	17074	13.08	8.0×6.5	82.68	○	淡褐色/明茶褐		○
472	〃	〃	16G	Ⅴ	3625	12.94	6.0	42.06	○	明茶褐色		○
473	〃	〃	15G R1				4.5	24.53	○	黒茶褐/暗褐色		○
474	〃	〃	23K	Ⅳ			6.0	45.74	○	暗褐色/明茶褐		○
475	納曽	〃	15F·G R1				6.0×4.5	41.09	○	黒褐色/暗褐色	一部欠	○
476	丸尾	〃	12H R1				5.5	40.16	○	明茶褐色	略方形	○

第８表　円盤形土製加工品観察表８

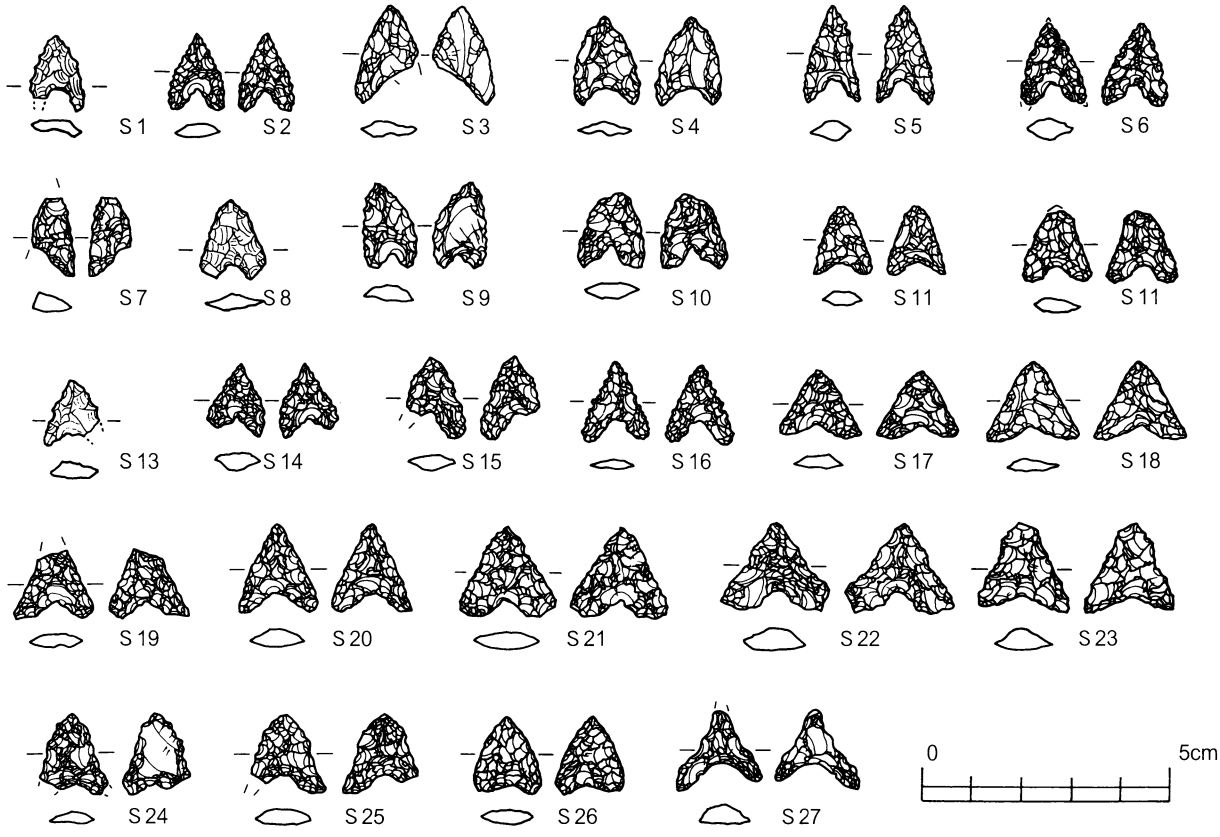
3）石器

多種多様な石器がある。定型石器として石鏃・石匙・スクレイパー・石錐・ピエスエスキーユ・打製石斧・磨製石斧・石刃・磨石・敲石・凹石・石皿・石錘・砥石・礫器などがあり，この他に二次加工のある剥片石器，使用痕のある剥片石器・石核も多い。

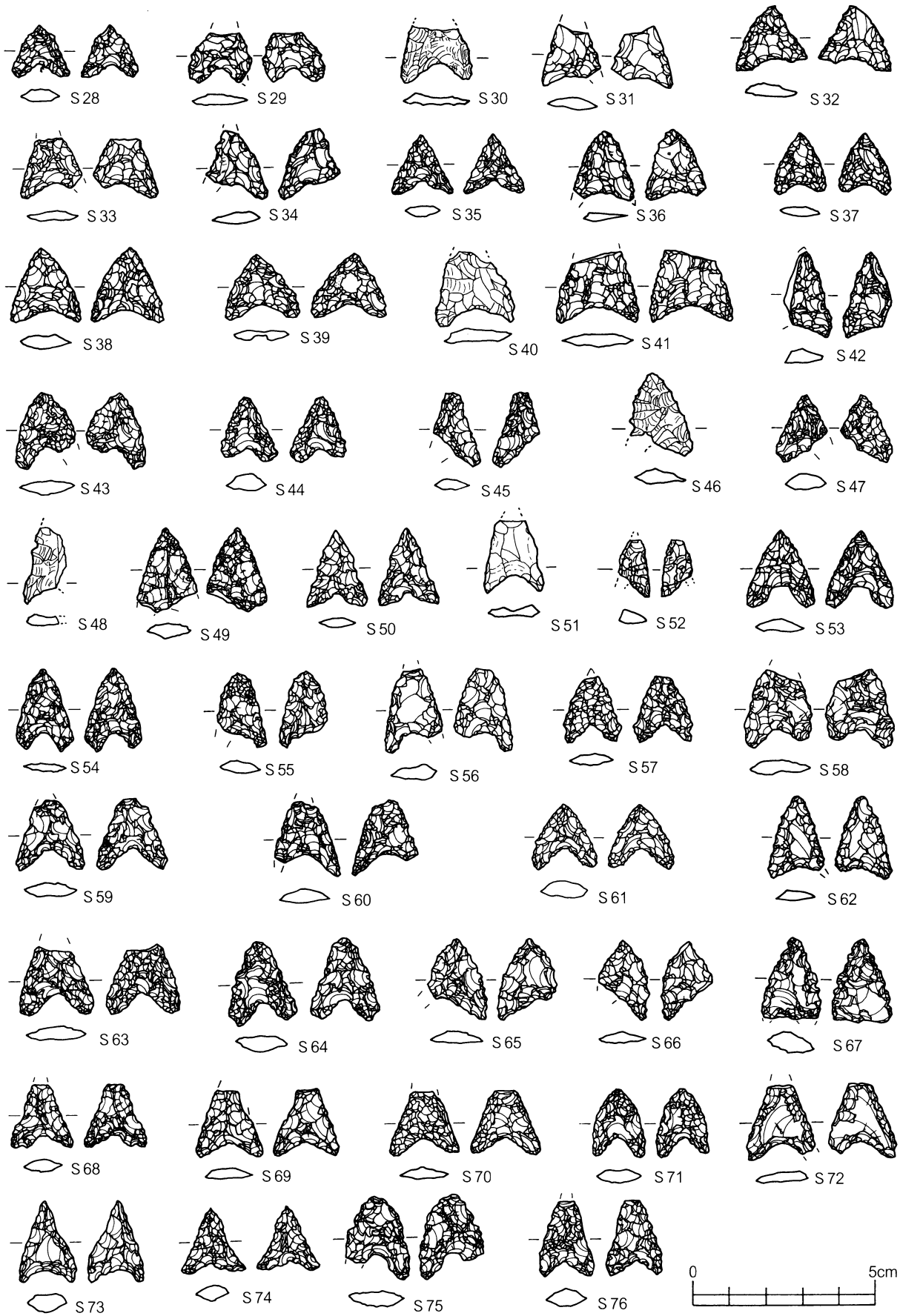
(1) 石鏃（第14～25図）

485点の石鏃を掲載した。ほとんど打製石鏃で，１点だけが磨製石鏃である。打製石鏃は基部調整によって凹基・平基・凸基の３種に分けることができる。

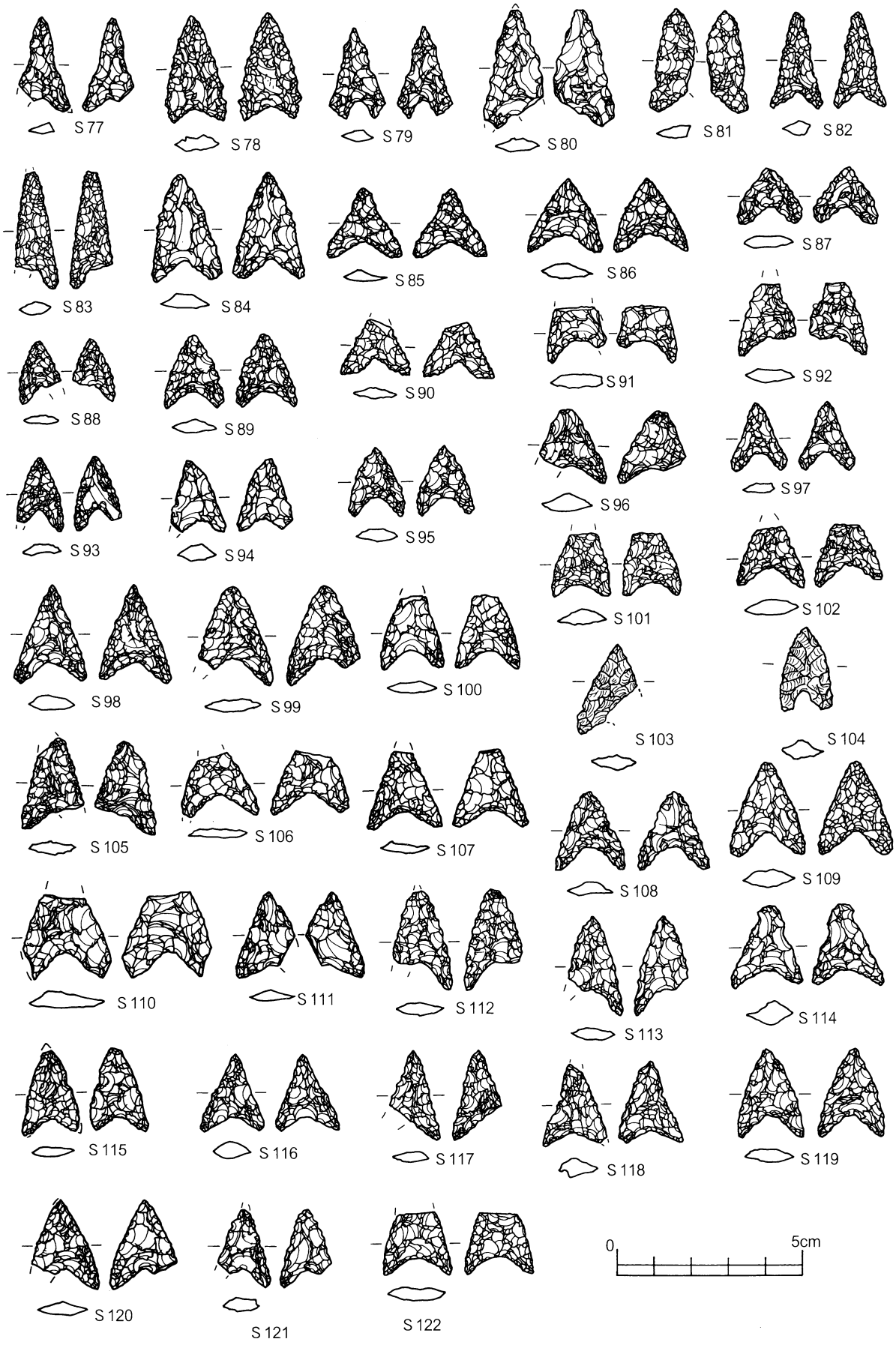
凹基は332点ある。えぐりの深いものと浅いものに大別できるが，浅いものが多い。えぐりの形も丸みをおびたものと直にのび脚の先端が鋭いものとがある。長さが1.1cmほどの小さいものから2.8cmもある大きなものまで大きさは多様である。S16はサメ歯鏃であるが，概してサメ歯鏃は少ない。S22は略五角形を呈し，えぐりは丸い。S27は先端が欠けており，ほぼ正三角形に近いが，えぐりが広く深く，先端部・脚部とも狭い。調整はていねいに細かくしたものもあるが，周辺のみ加工して中央部は一次剥離面を残しているものも多い。S77～S84は長さの割りに幅の狭い長二等辺三角形を呈しているが，S83は特に細長い。S79・S110も五角形を呈している。S133・S134は先端近くで屈曲し，貼り出している。S134とS151は基部近くでくびれて多角形となる。S140は大型である。S158も大型であるが基部や中央部はほとんど加工しておらず，２辺の周辺部だけ細かく剥離を施している。S160～S332はえぐりが浅い。この中にもS160・S172・S179・S195・S242・S288・S298・S304・S306



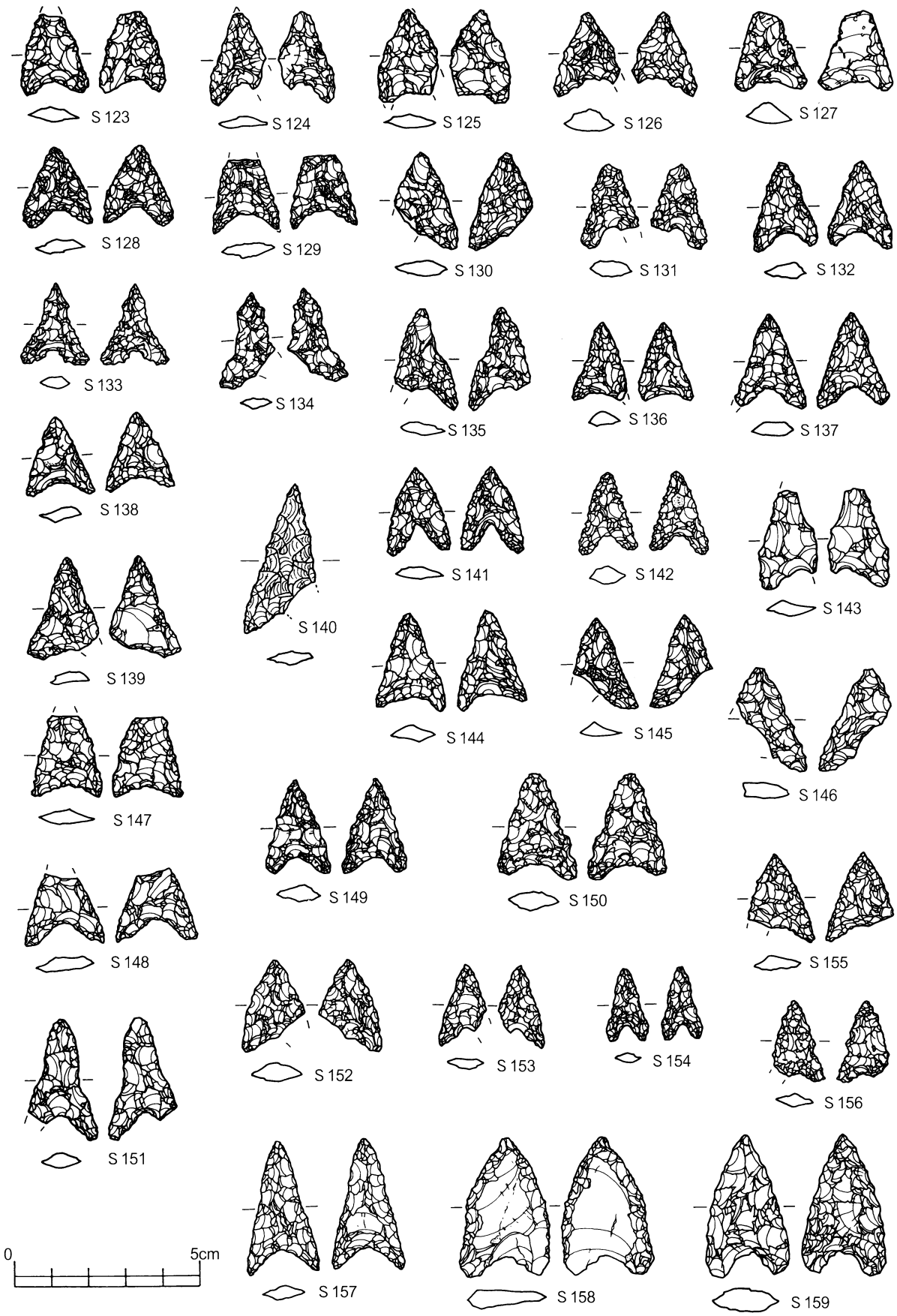
第14図　石 鏃1


S 28
S 29
S 30
S 31
S 32
S 33
S 34
S 35
S 36
S 37
S 38
S 39
S 40
S 41
S 42
S 43
S 44
S 45
S 46
S 47
S 48
S 49
S 50
S 51
S 52
S 53
S 54
S 55
S 56
S 57
S 58
S 59
S 60
S 61
S 62
S 63
S 64
S 65
S 66
S 67
S 68
S 69
S 70
S 71
S 72
S 73
S 74
S 75
S 76
0
5cm

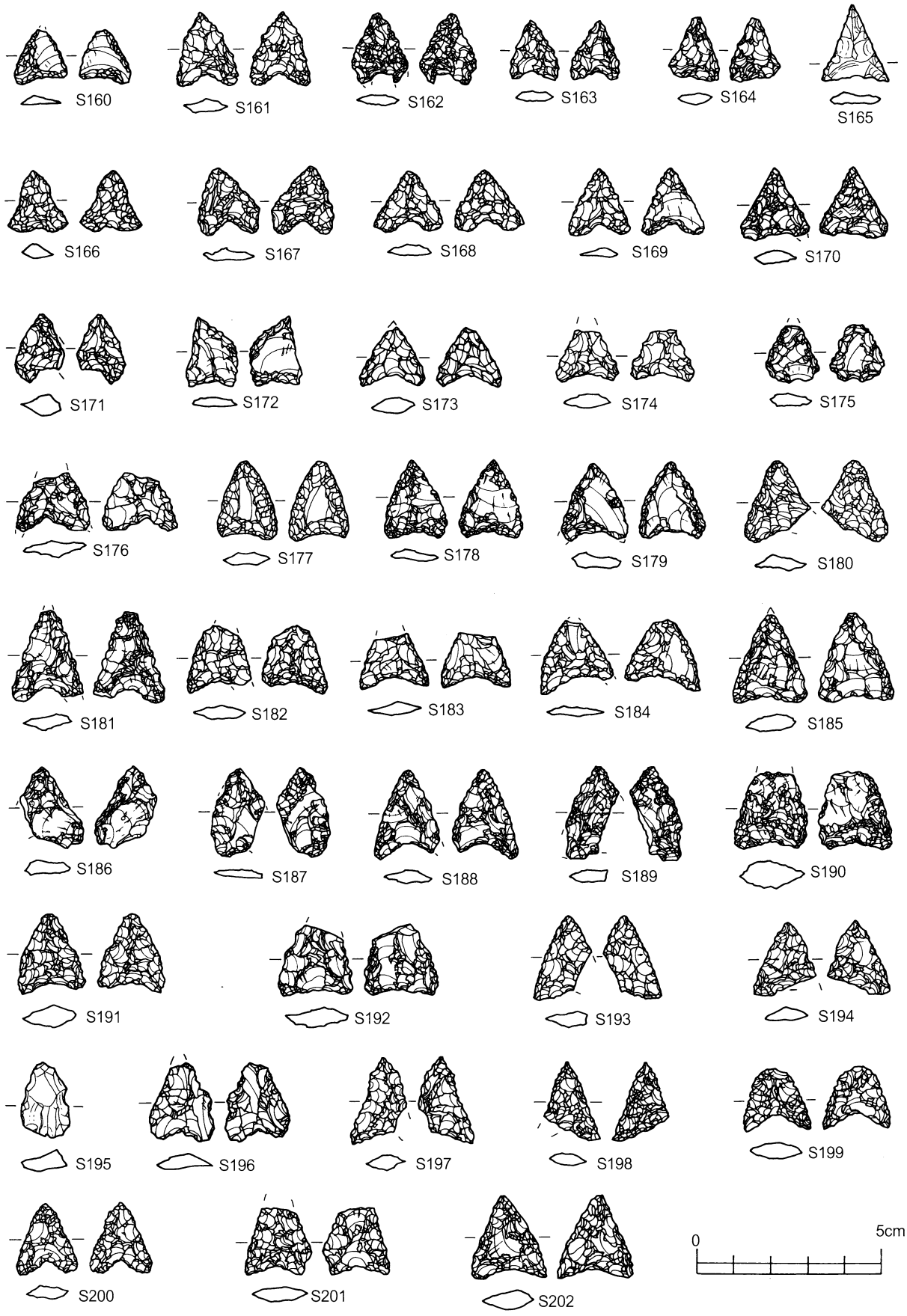
第15図　石 鏃 2


S 77
S 78
S 79
S 80
S 81
S 82
S 83
S 84
S 85
S 86
S 87
S 88
S 89
S 90
S 91
S 92
S 93
S 94
S 95
S 96
S 97
S 98
S 99
S 100
S 101
S 102
S 103
S 104
S 105
S 106
S 107
S 108
S 109
S 110
S 111
S 112
S 113
S 114
S 115
S 116
S 117
S 118
S 119
S 120
S 121
S 122
0
5cm

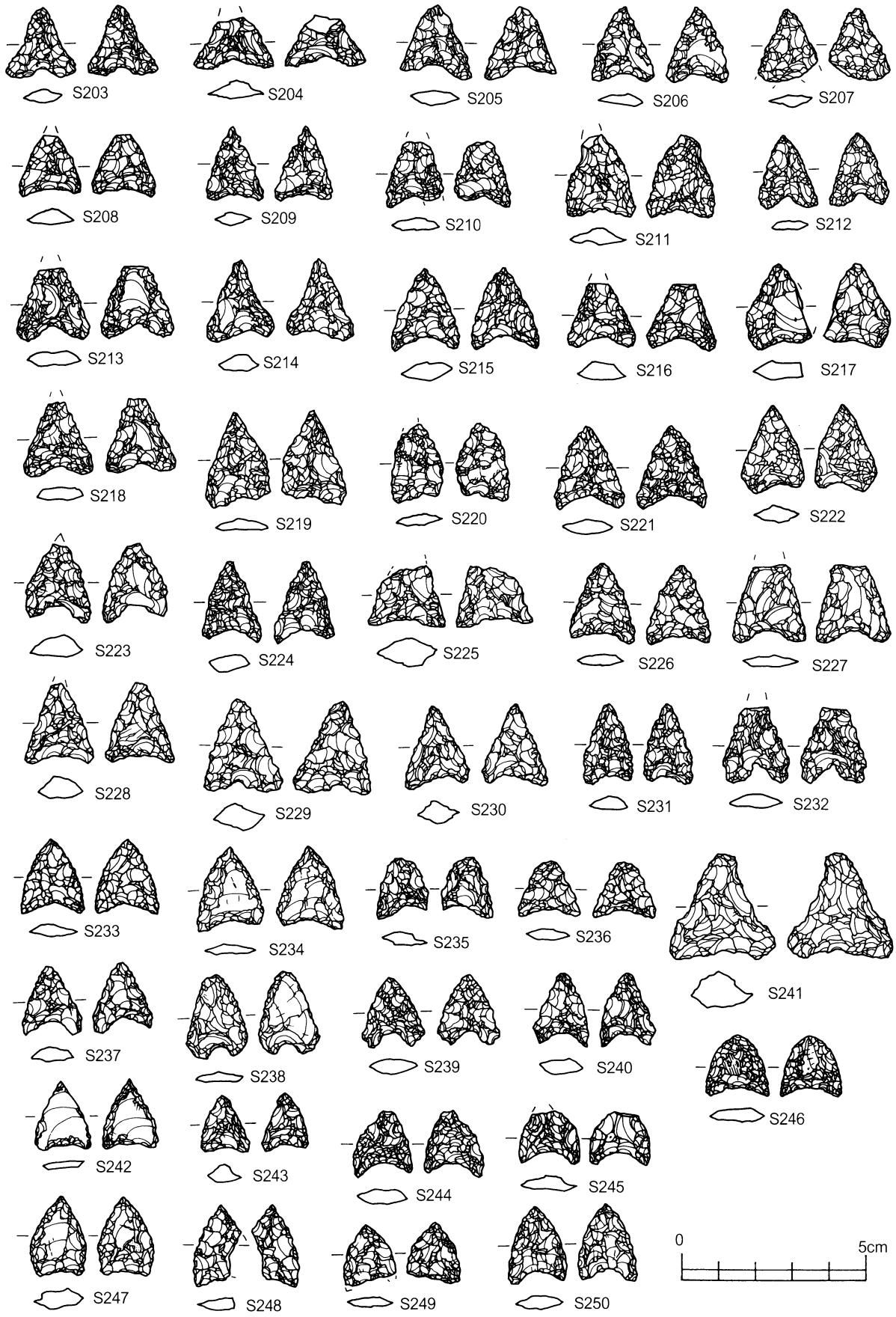
第16図　石 鏃 3


S 123
S 124
S 125
S 126
S 127
S 128
S 129
S 130
S 131
S 132
S 133
S 134
S 135
S 136
S 137
S 138
S 139
S 140
S 141
S 142
S 143
S 144
S 145
S 146
S 147
S 148
S 149
S 150
S 151
S 152
S 153
S 154
S 155
S 156
S 157
S 158
S 159
0
5cm

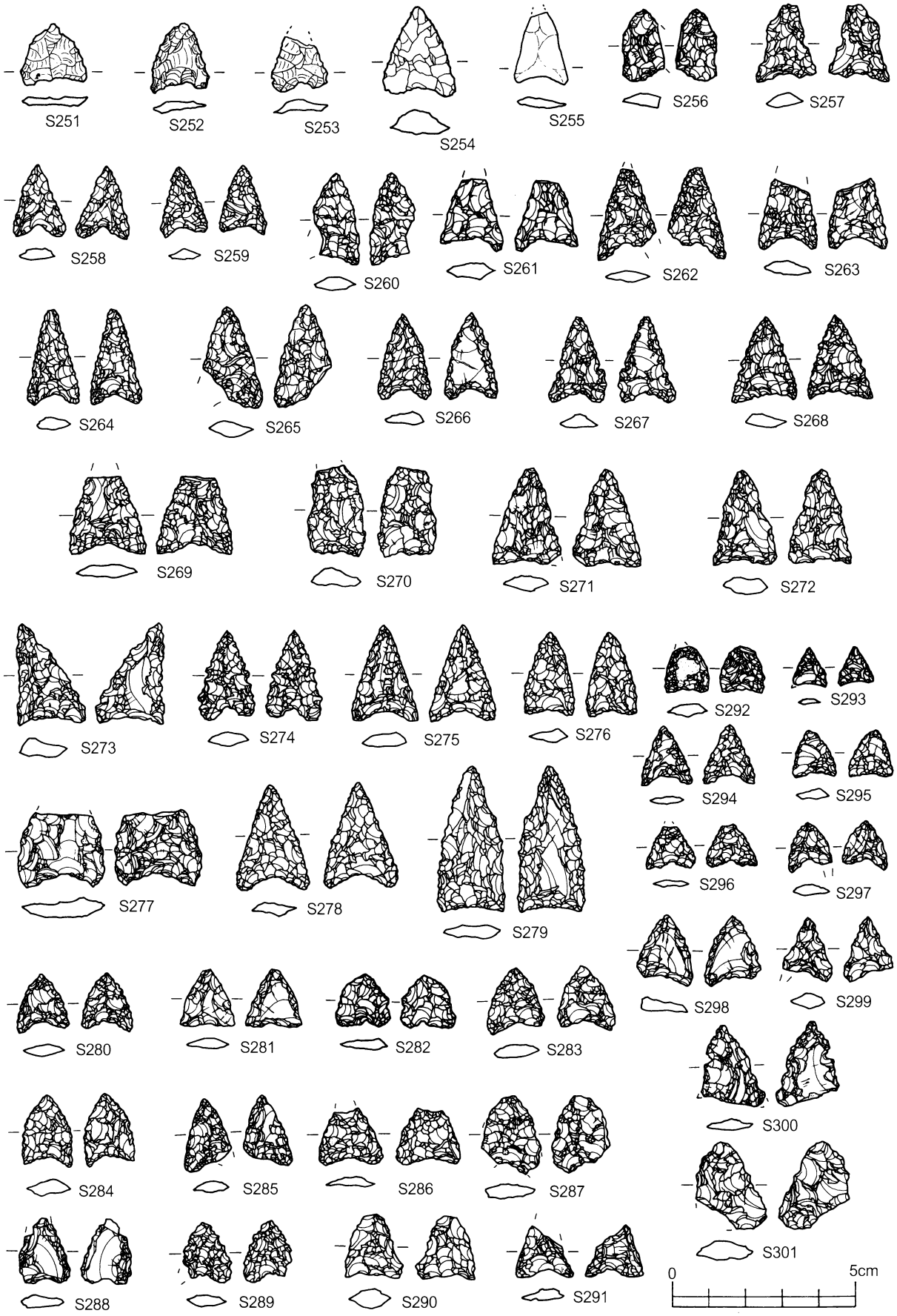
第17図　石 鏃 4


S160
S161
S162
S163
S164
S165
S166
S167
S168
S169
S170
S171
S172
S173
S174
S175
S176
S177
S178
S179
S180
S181
S182
S183
S184
S185
S186
S187
S188
S189
S190
S191
S192
S193
S194
S195
S196
S197
S198
S199
S200
S201
S202
0
5cm

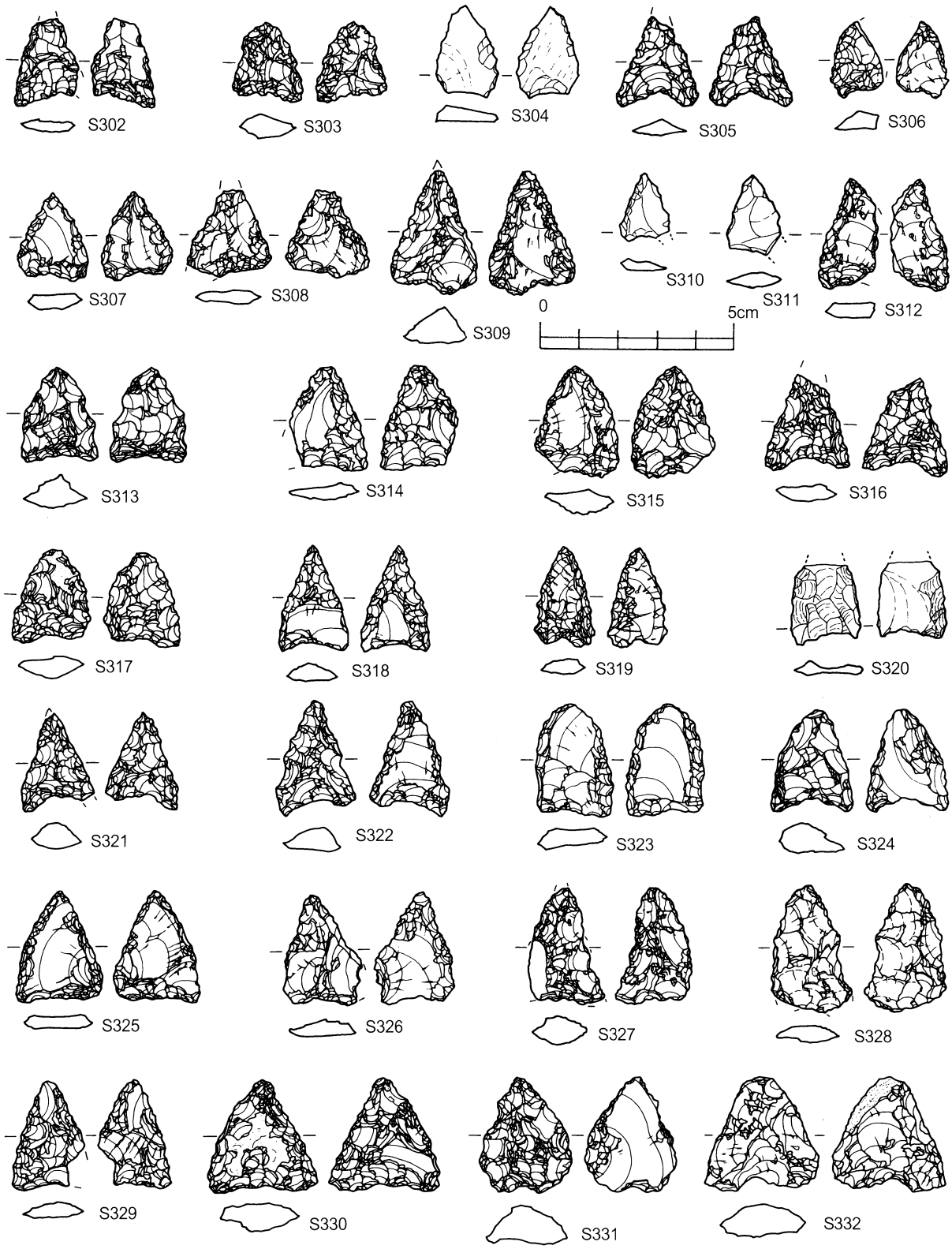
第18図　石 鏃5


S203
S204
S205
S206
S207
S208
S209
S210
S211
S212
S213
S214
S215
S216
S217
S218
S219
S220
S221
S222
S223
S224
S225
S226
S227
S228
S229
S230
S231
S232
S233
S234
S235
S236
S241
S237
S238
S239
S240
S246
S242
S243
S244
S245
S247
S248
S249
S250
0
5cm

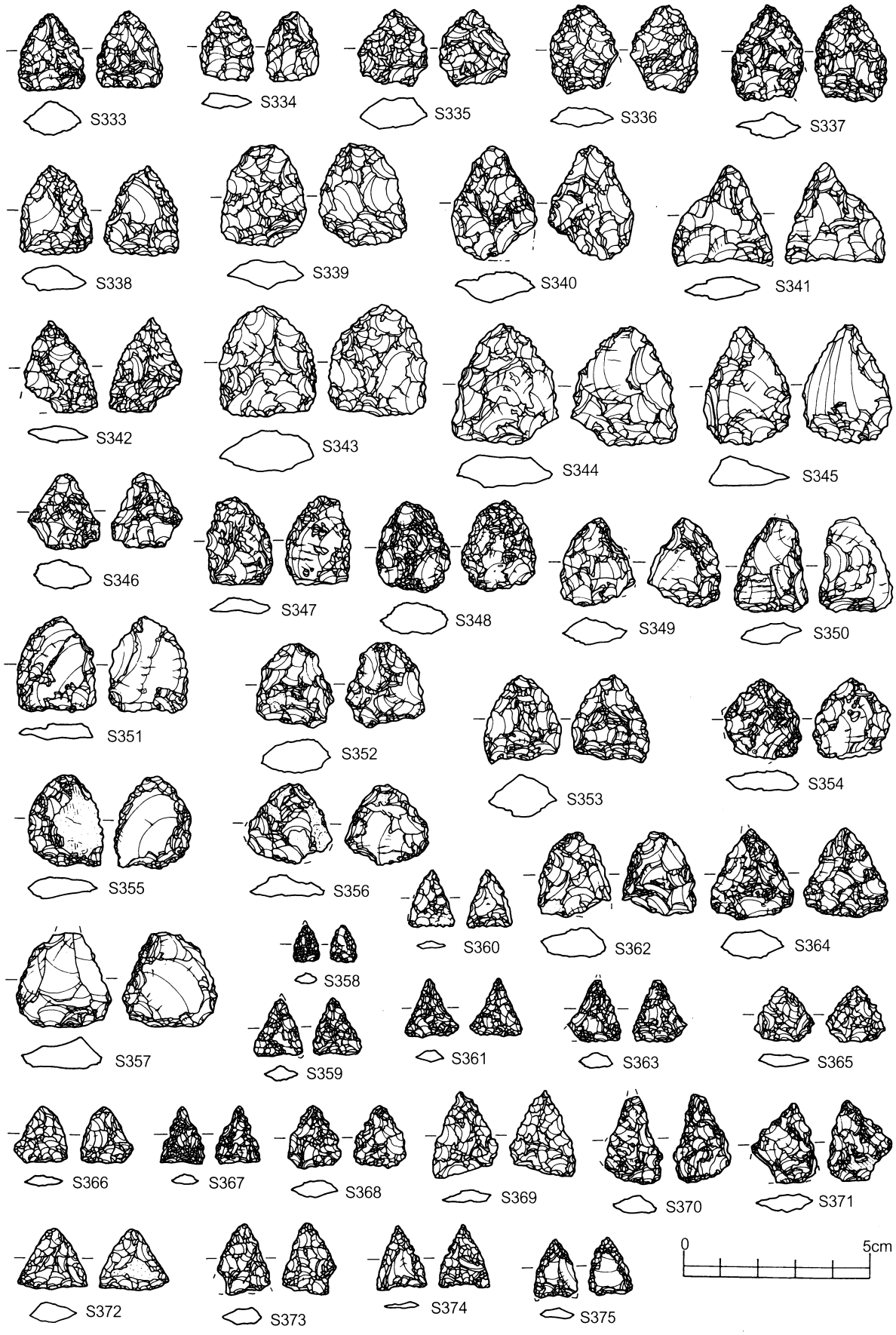
第19図　石 鏃 6


S251
S252
S253
S254
S255
S256
S257
S258
S259
S260
S261
S262
S263
S264
S265
S266
S267
S268
S269
S270
S271
S272
S273
S274
S275
S276
S292
S293
S294
S295
S277
S278
S279
S296
S297
S298
S299
S280
S281
S282
S283
S300
S284
S285
S286
S287
S301
S288
S289
S290
S291
0
5cm

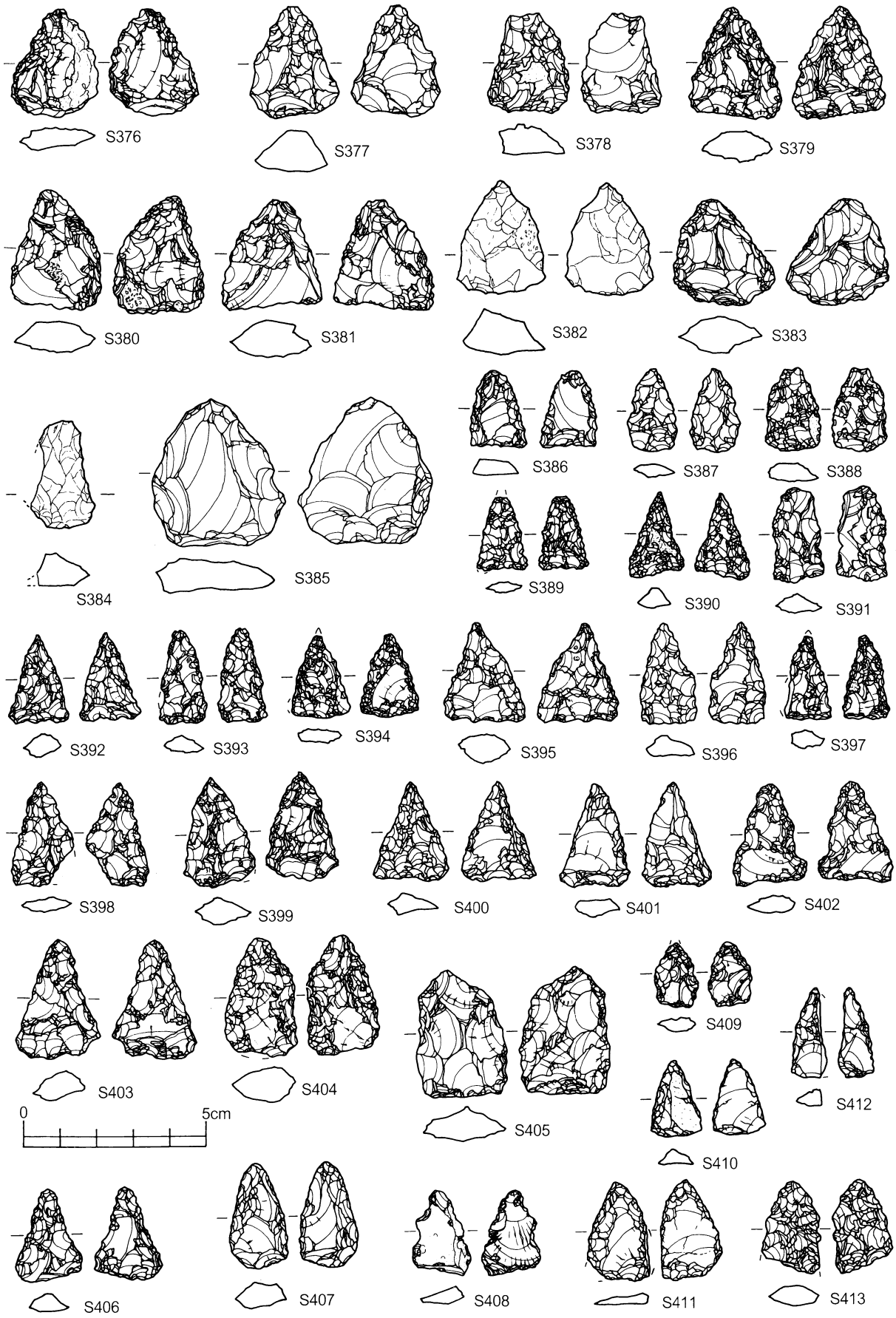
第20図　石 鏃 7


S302
S303
S304
S305
S306
S307
S308
S309
S310
S311
S312
0
5cm
S313
S314
S315
S316
S317
S318
S319
S320
S321
S322
S323
S324
S325
S326
S327
S328
S329
S330
S331
S332

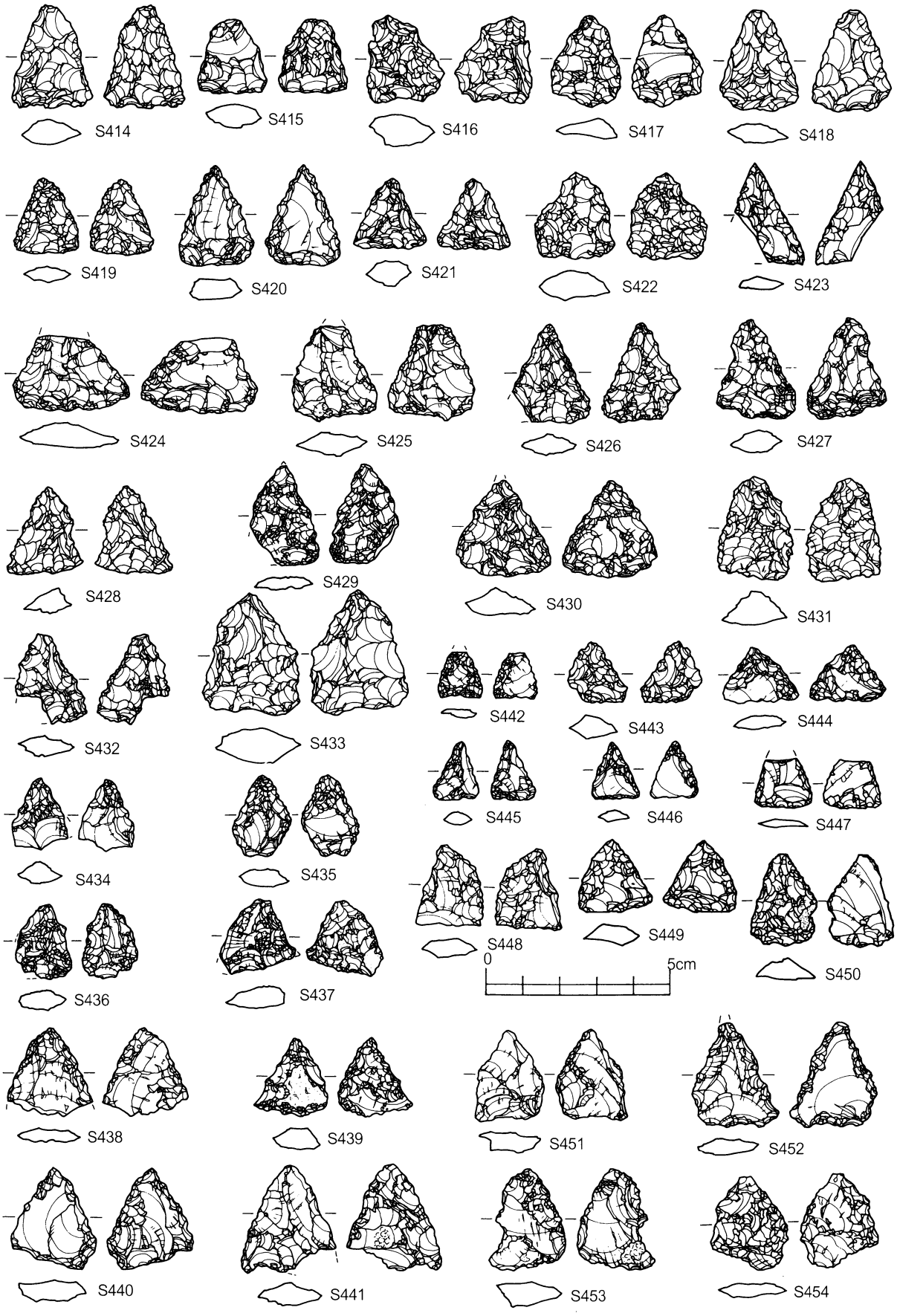
第21図　石 鏃 8


S333
S334
S335
S336
S337
S338
S339
S340
S341
S342
S343
S344
S345
S346
S347
S348
S349
S350
S351
S352
S353
S354
S355
S356
S357
S358
S359
S360
S361
S362
S363
S364
S365
S366
S367
S368
S369
S370
S371
S372
S373
S374
S375
0
5cm

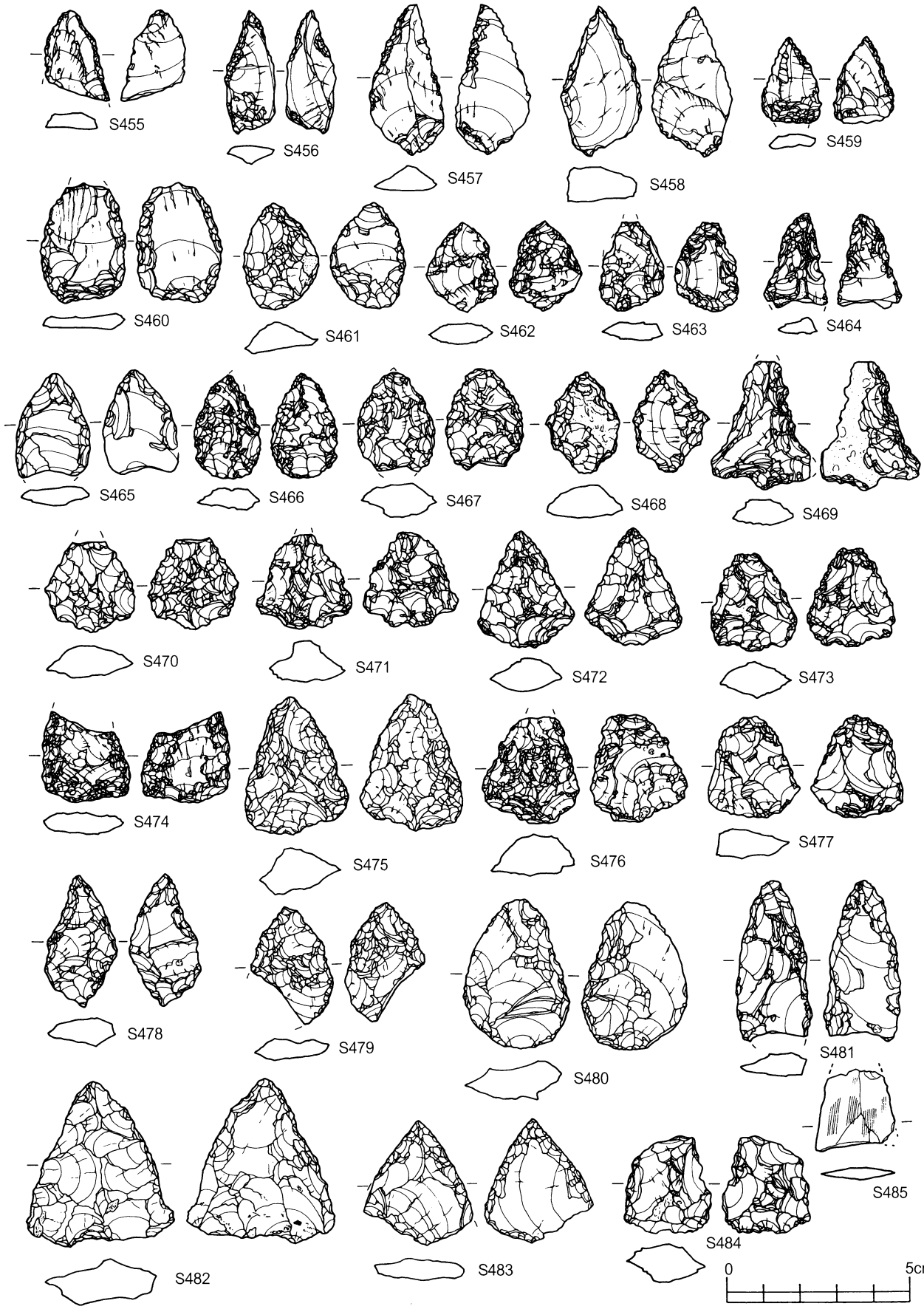
第22図　石 鏃 9


S376
S377
S378
S379
S380
S381
S382
S383
S384
S385
S386
S387
S388
S389
S390
S391
S392
S393
S394
S395
S396
S397
S398
S399
S400
S401
S402
S403
S404
S405
S406
S407
S408
S409
S410
S411
S412
S413
0
5cm

第23図　石 鏃10


S414
S415
S416
S417
S418
S419
S420
S421
S422
S423
S424
S425
S426
S427
S428
S429
S430
S431
S432
S433
S442
S443
S444
S434
S435
S445
S446
S447
S436
S437
S448
S449
S450
0
5cm
S438
S439
S451
S452
S440
S441
S453
S454

第24図　石 鏃11


S455
S456
S457
S458
S459
S460
S461
S462
S463
S464
S465
S466
S467
S468
S469
S470
S471
S472
S473
S474
S475
S476
S477
S478
S479
S480
S481
S482
S483
S484
S485
0
5cm

第25図　石 鏃12

S307・S310・S311・S320・S323・S325・S326・S331のように一次剥離面を多く残しているものが多くある。S172・S273は形も整然としていない。S199・S246は先端部が丸い。S255は磨滅しており，稜線もはっきりしない。S292～S297は長さが1.3cm前後と小さい。S304～S332の中には調整が粗く，未製品と思われるものも多い。

平基（S333～S454）のものは122点出土した。S333～S357は丸みをおびた形を呈し，先端部も鈍い。S358・S359・S361・S363～S368・S372～S375は小型である。S376～S385は大型であるが，調整が粗く未製品の可能性もある。S395～S413・S434～S454も調整が粗く基部調整などしていないものもある。

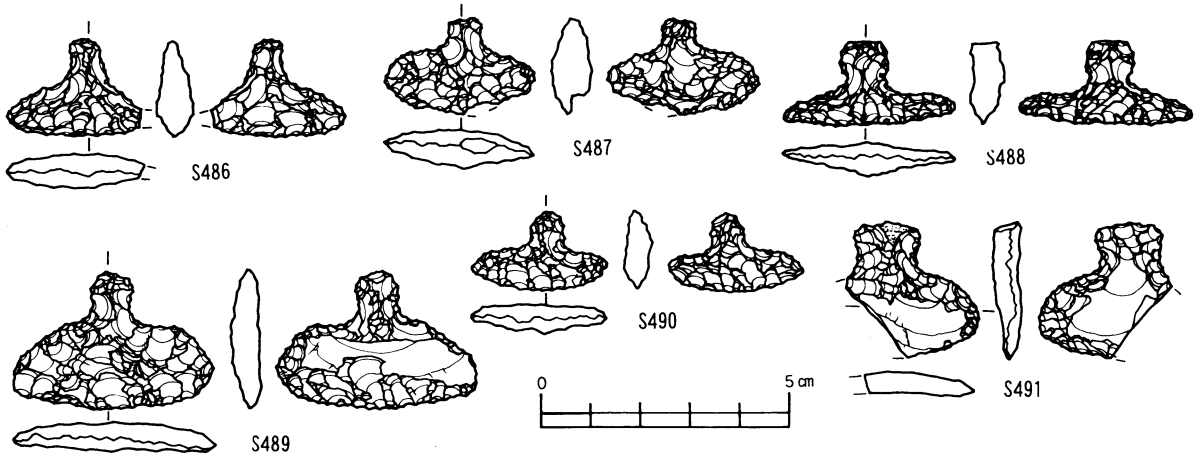
凸基（S455～S484）と思われるものが30点あるが，舌のしっかりしたものはなく，基部調整が粗く未製品と考えられるものもある。S455～S459はナイフ様石器の可能性もある。周辺や先端が丸くなっているものもある。S469は舌を作り出しているようにも見えるが，片面の半分ほどは自然面を残している。S478の基部は先端がとがっている。

S485は二等辺三角形を呈し，基部が丸みをおびて浅くえぐれる。二等辺三角形で稜がある。これは弥生時代のものである可能性が高い。

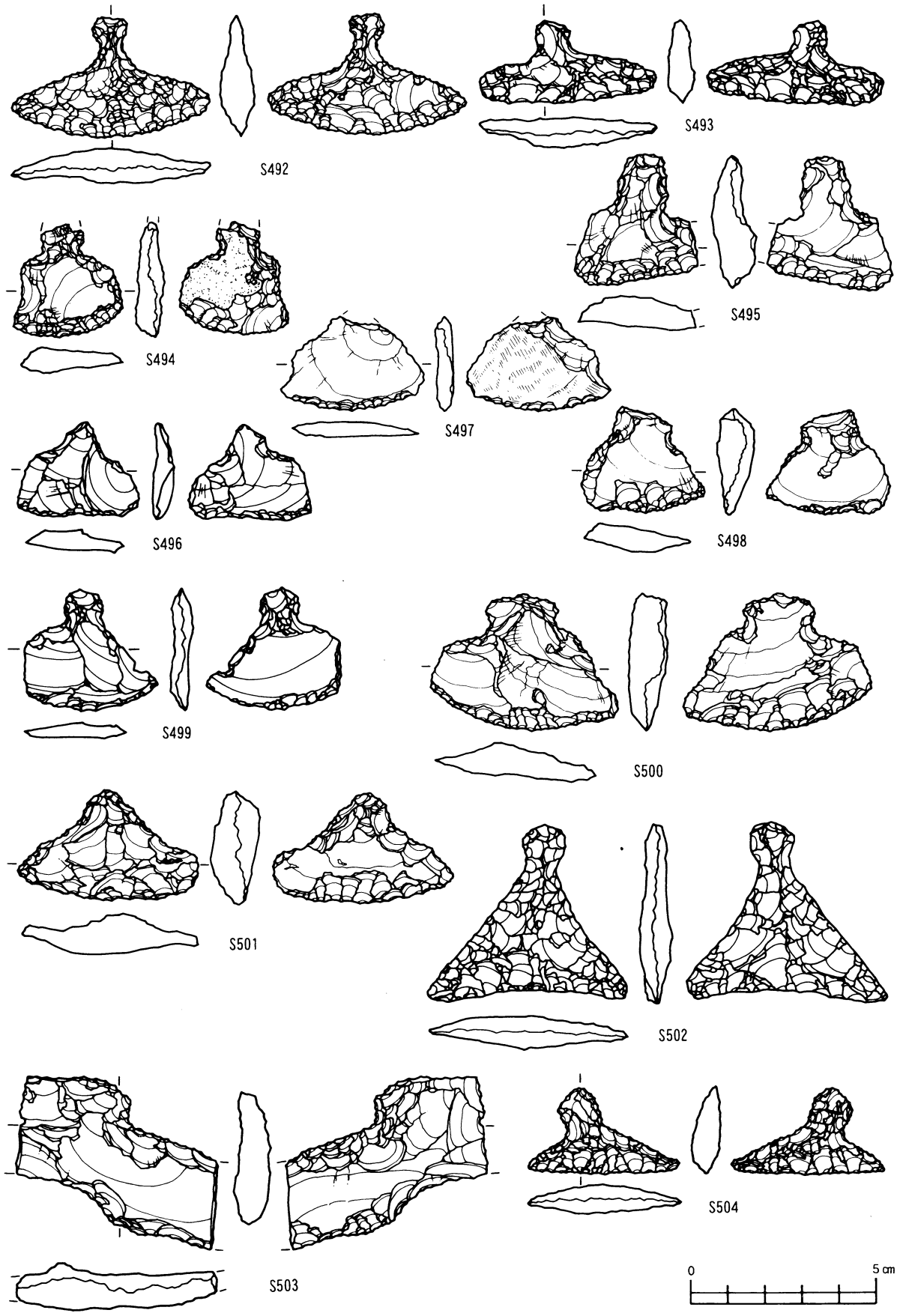
(2) 石匙（第26～30図）

68点（59点掲載）の石匙が出土している。このうち１点は遺構から出土している。形から大きく２種に分けることができる。刃部が長辺にある横長のもの（Ⅰ類）と，短辺にある縦長のもの（Ⅱ類）である。Ⅰ類の中には，つまみがほぼ中央にあるもの（Ⅰa類）と，やや片寄った位置にあるもの（Ⅰb類）とがある。Ⅱ類の中にも，つまみが長軸上にあるもの（Ⅱa類）と，やや片寄った位置にあるもの（Ⅱb類）とがある。

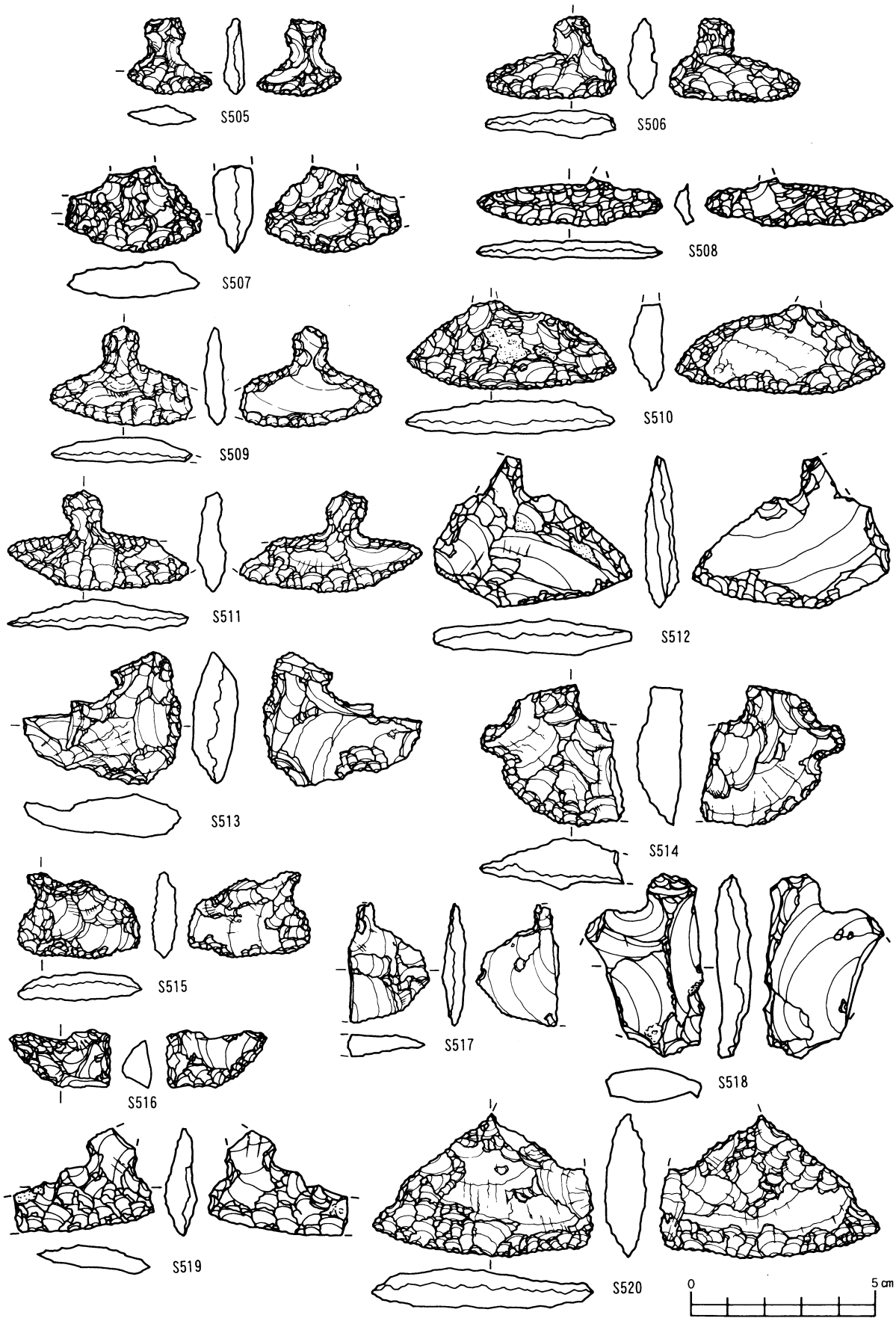
Ⅰa類（S486～S503）は20点中18点掲載した。S486～S491は刃部の長さが2.7cm～4.0cm，幅が0.7cm～1.7cmと小型のものである。S491はやや大きいため，一次剥離面を広く残しているが，他は細かく調整を施している。S488は細い刃部で直線的だが，他はやや外反ぎみになっている。S492とS493は刃部の長さが4.7cm～5.2cm，幅が1.3cm～1.7cmと中型のものである。S492の刃部が外反ぎみなのに対して，S493の刃部はやや外反しているが直線的である。S494～S499は幅に対して長さが２



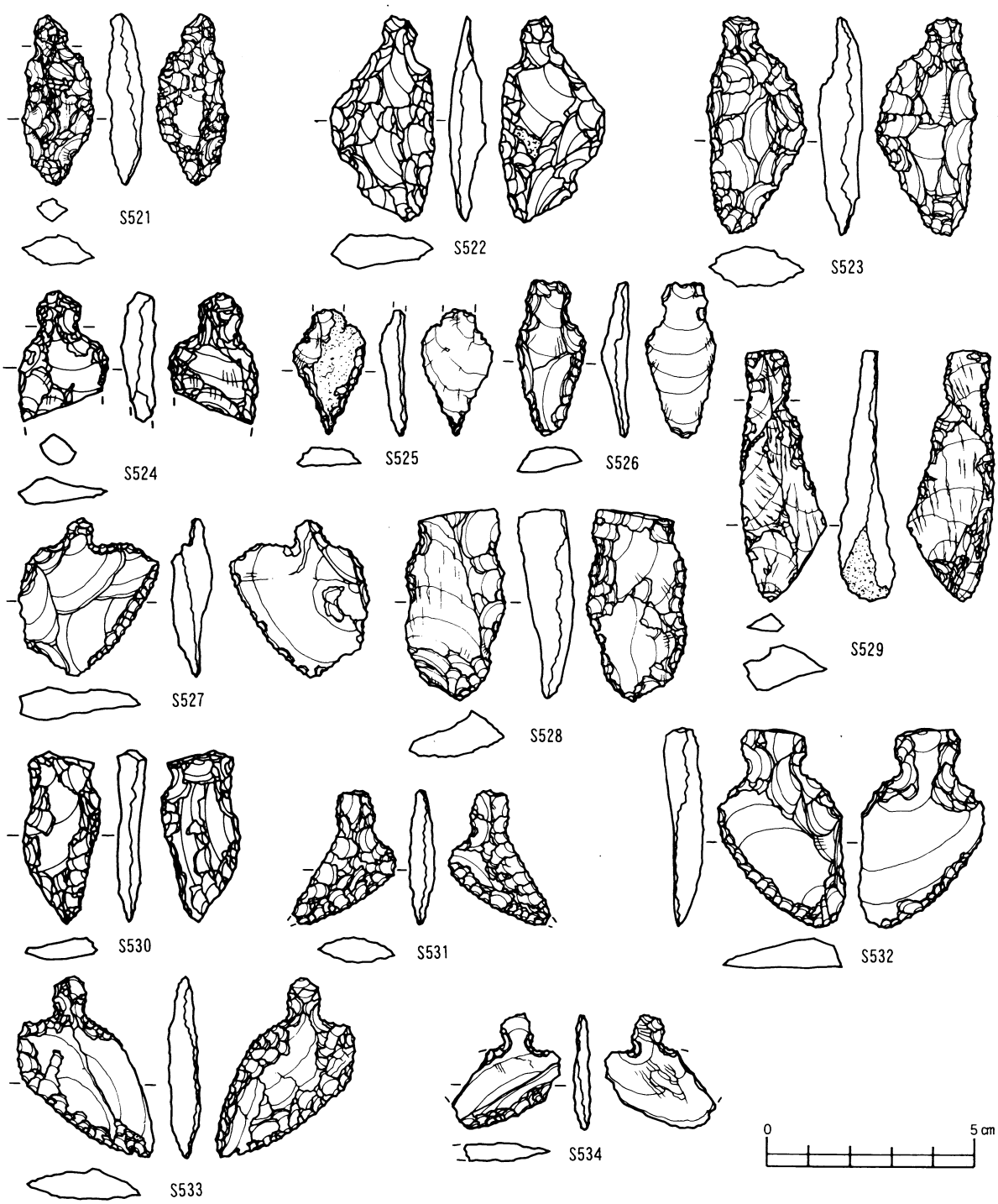
第26図　石 匙１


S492
S493
S494
S495
S496
S497
S498
S499
S500
S501
S502
S503
S504
0
5 cm

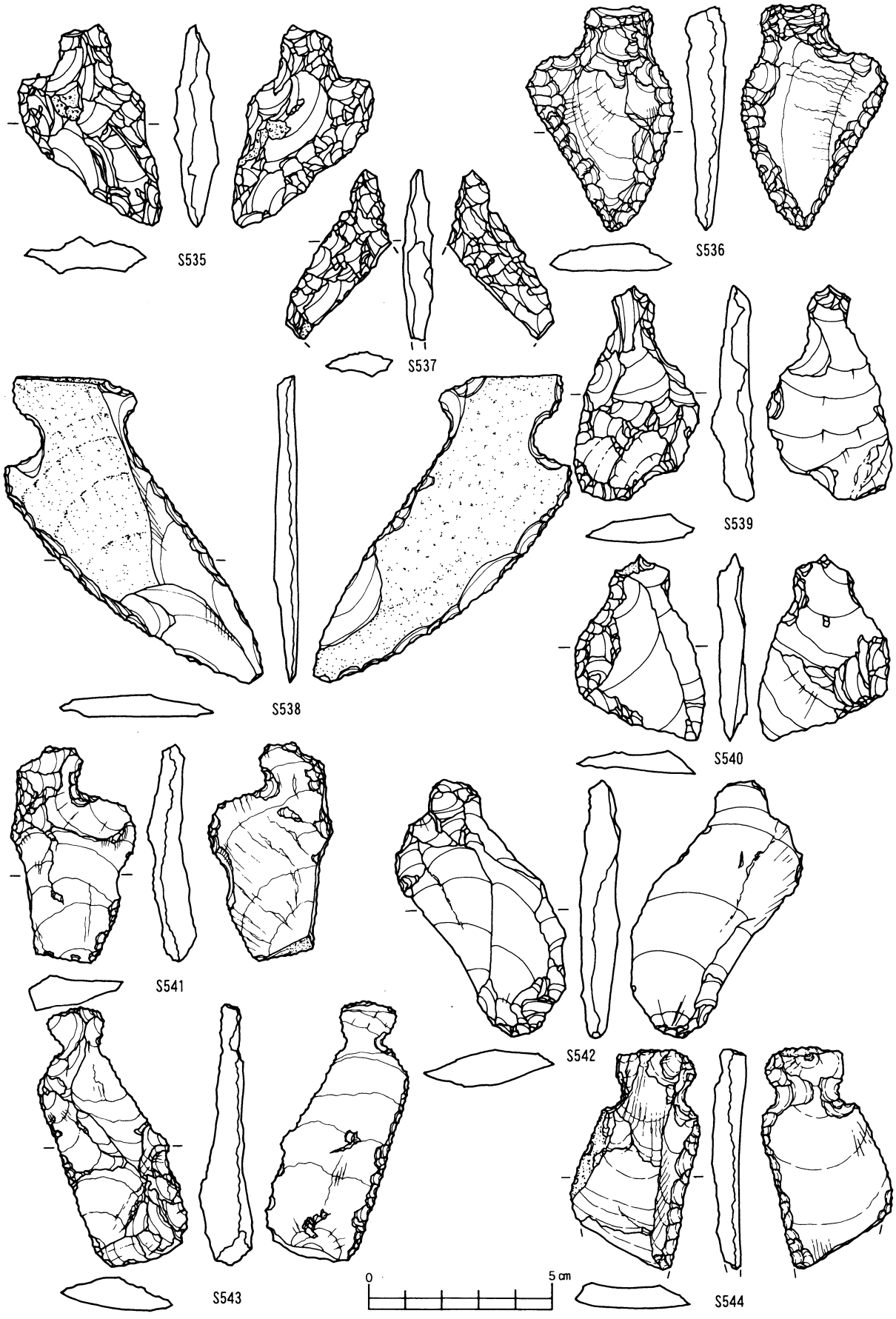
第27図　石 匙 2


S505
S506
S507
S508
S509
S510
S511
S512
S513
S514
S515
S516
S517
S518
S519
S520
0
5cm

第28図　石 匙 3


S521
S522
S523
S524
S525
S526
S527
S528
S529
S530
S531
S532
S533
S534
0
5cm

第29図　石 匙 4



第30図　石 匙 5

倍ない寸詰まりの形態をした部類で，長さが2.7cm～3.5cm，幅が1.8cm～2.2cmである。周辺のみ加工して一次剥離面を広く残すものが多く，S494は片面に自然面を残している。S496とS498はつまみ部分のえぐりが浅い。S494とS499は刃部が外反しているが，他のものは直線的である。S500とS501はつまみのえぐり部分が浅いもので，特にS501は顕著である。刃部は外反しており，一次剥離面を片面あるいは両面に残している。S502は正三角形を呈し，その頂部につまみが付いている。周辺を丁寧に打ち欠いており，刃部はやや内弯している。S503は両側が欠けているが横長の形態を呈し，つまみも横長となる。刃部は整然としておらず内弯している。

Ⅰb類（S504～S520）は21点中17点掲載した。S504～S508は長さが2.2cm～5.1cm，幅が1.0cm～1.7cmと幅の狭い小型の部類で，特にS505は小型である。また，S508は非常に細長い。刃部は外反するものと，直のものとがあり，調整はいずれも丁寧である。S507は片面の一部に自然面を残している。S509～S512・S517は長さが3.8＋αcm～5.6cm，幅が1.5cm～3.0cmの中型である。片面に一次剥離面を広く残し，刃部は外反している。S510は片面に自然面を残している。S513～S516・S518・S519はつまみが長辺の端部に位置するもので，S514・S519以外は一次剥離を広く残している。刃部は外反している。S518はつまみ部分を作っているものの，その他の調整は粗く，刃部の調整は見られない。未完成のものかもしれない。S514はつまみが幅広いものに一部小さいものを別に作り，２段になっている。S520はつまみが欠けているが，細かく調整しており，長さ5.9cm，幅3.8cmと大型である。

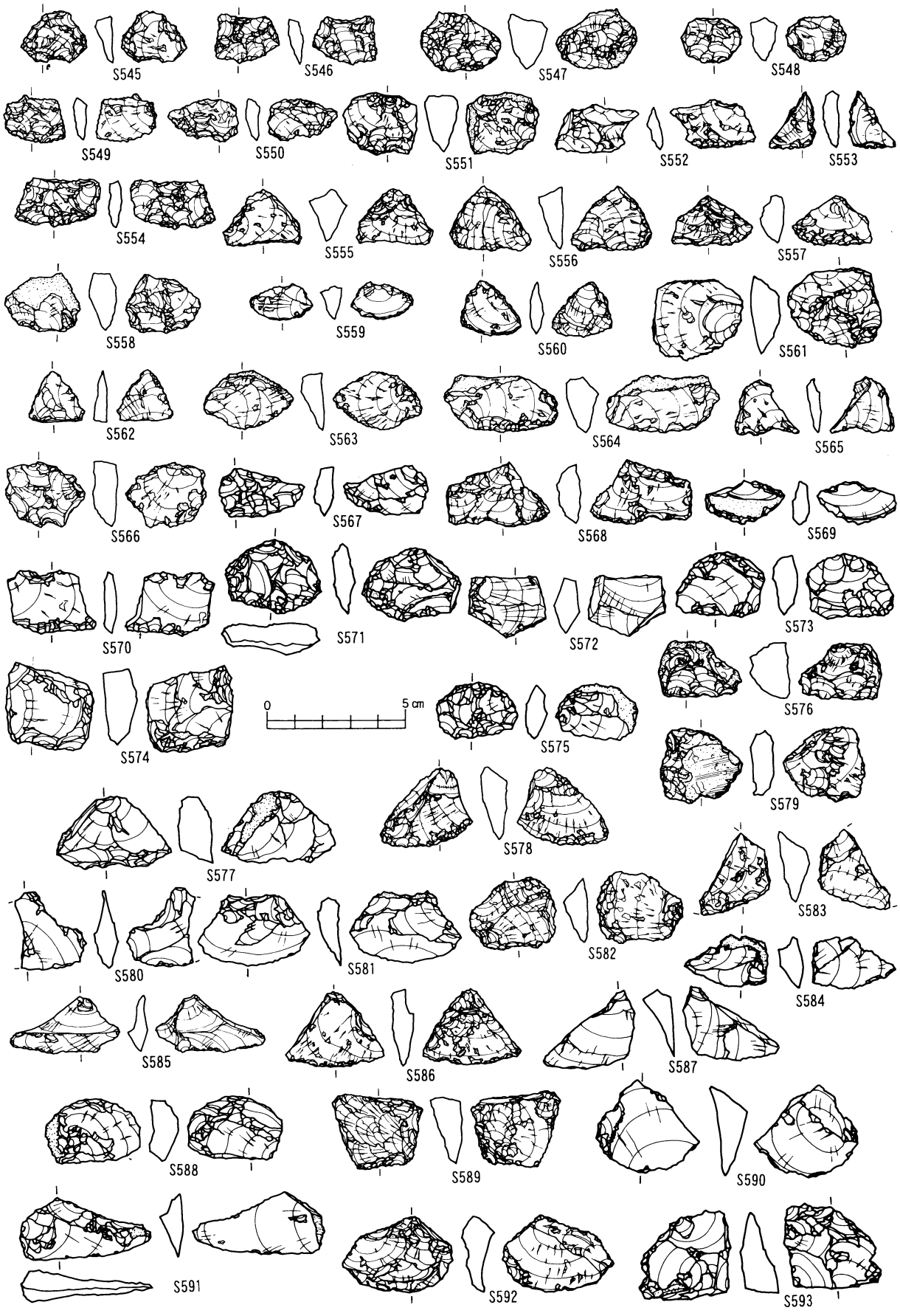
Ⅱa類（S521～S530）は10点出土している。二次的調整が縁辺のみに見られるものが多い。S525～S527の片面はほとんど細部調整がされておらず，S525は自然面を残す片面の一側辺のみに加工が見られる。また，S522も一側辺のみ両面に加工痕跡が見られる。つまみは幅の狭いものと，広くてくびれ部の明瞭でないものとがある。S526は風化が目立つ。

Ⅱb類は，14点出土している。S531～S538は刃部が三角形を呈するもので，ほとんどは細部調整が周辺のみにある。S531～S534は長さが2.8cm～4.3cm，幅が1.5cm～2.8cmと小型である。S531は加工が細かいが，S532は一側辺だけ，S534は片面の一側辺のみに加工が見られる。S535とS536は長さが4.8cm～4.9cm，幅が3.1cm～3.6cmと中型である。S538は長さが8.5cm，幅3.5cmと大型であるが，加工は側辺のみに限られ，扁平である。S539～S544は縦長剥片を利用した，刃部が矩形に近い形を呈しているもので，ほとんどは刃部の調整が片面あるいは一側辺のみにとどまっている。

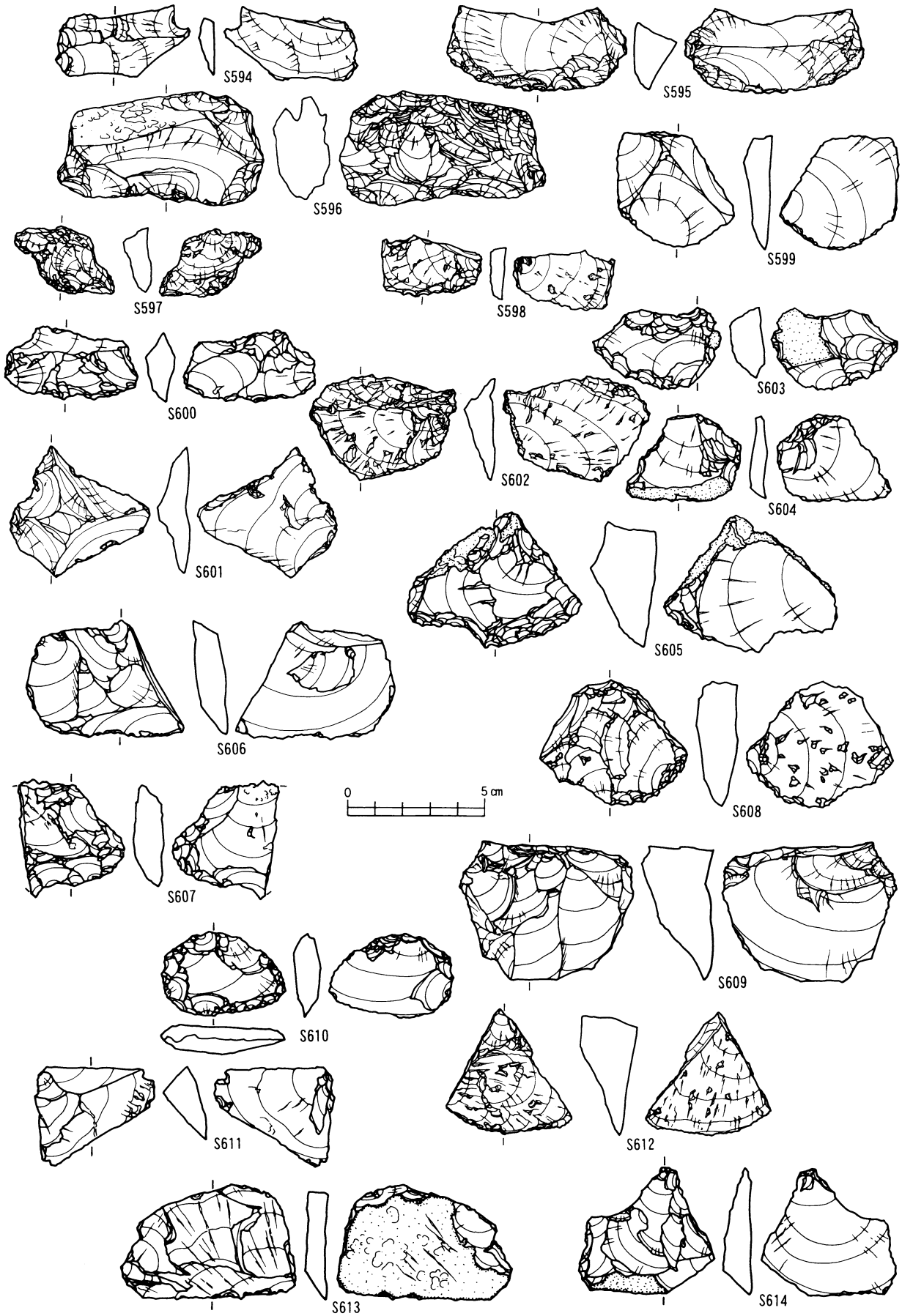
(3) スクレイパー（第31～45図）

多くのスクレイパーが出土しており，これは剥片を横に長く利用して長いほうを刃部としたサイドスクレイパー（Ⅰ類：S642～S731）と剥片を縦方向に長く利用して片側の短側辺，あるいは長側辺の両側を刃部とするエンドスクレイパー（Ⅱ類：S732～S848），刃部をえぐり状につくるスクレイパー（Ⅲ類：S849～S857），指先状の剥片の周辺を加工するサムエンドスクレイパー（Ⅳ類：S858～S864）に分かれる。これらの中には２次加工が粗く剥片に少しの加工をしただけのものもある。

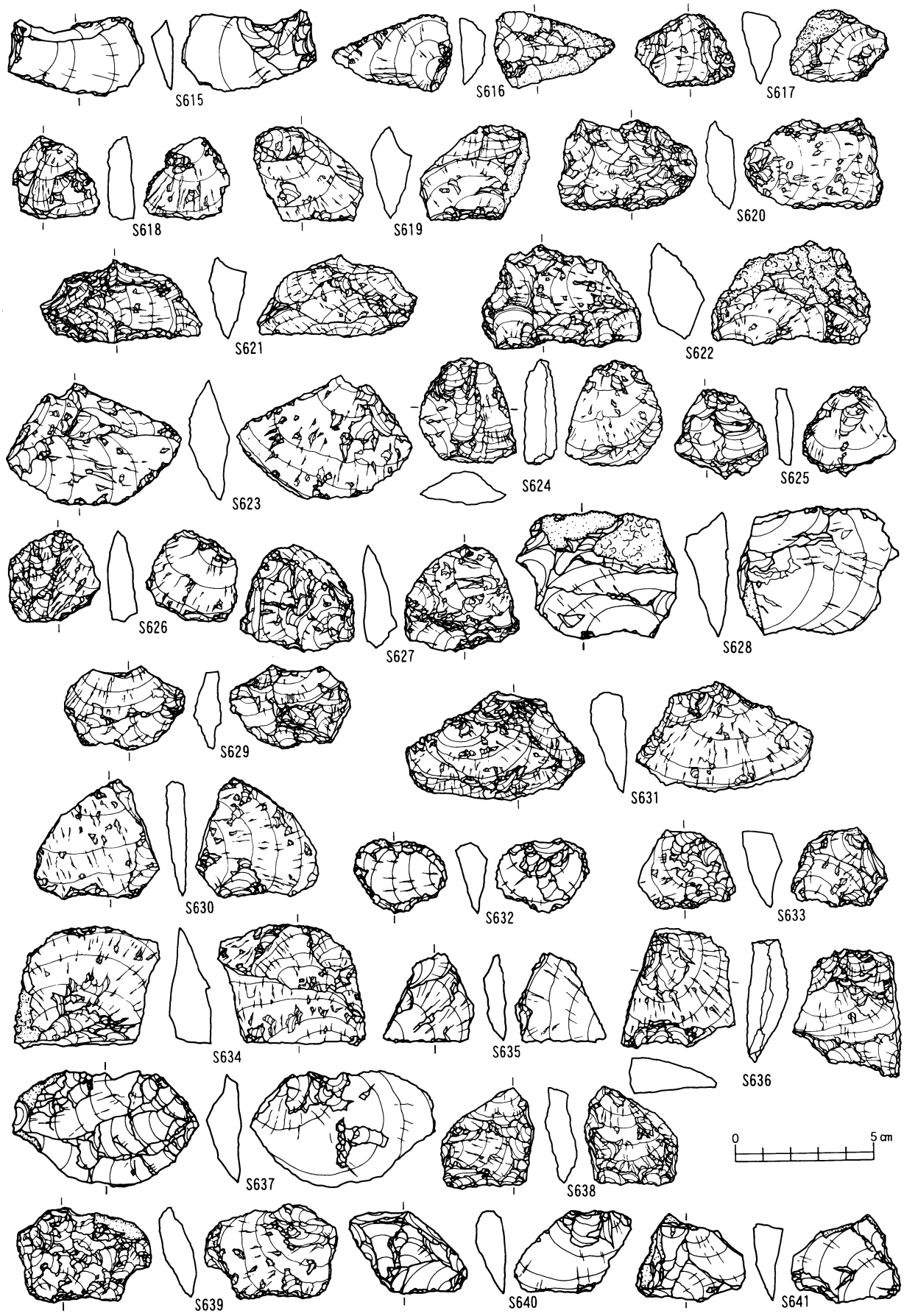
サイドスクレイパーはS643やS649・S670などのように小型のものから，S697・S698・S706などのような大型のものまで，大きさは多種である。形態も横に長いもの，三角形に近いもの，丸みをおびたもの，半円形に近いものなど適当な大きさの剥片を利用してスクレイパーに用いている。



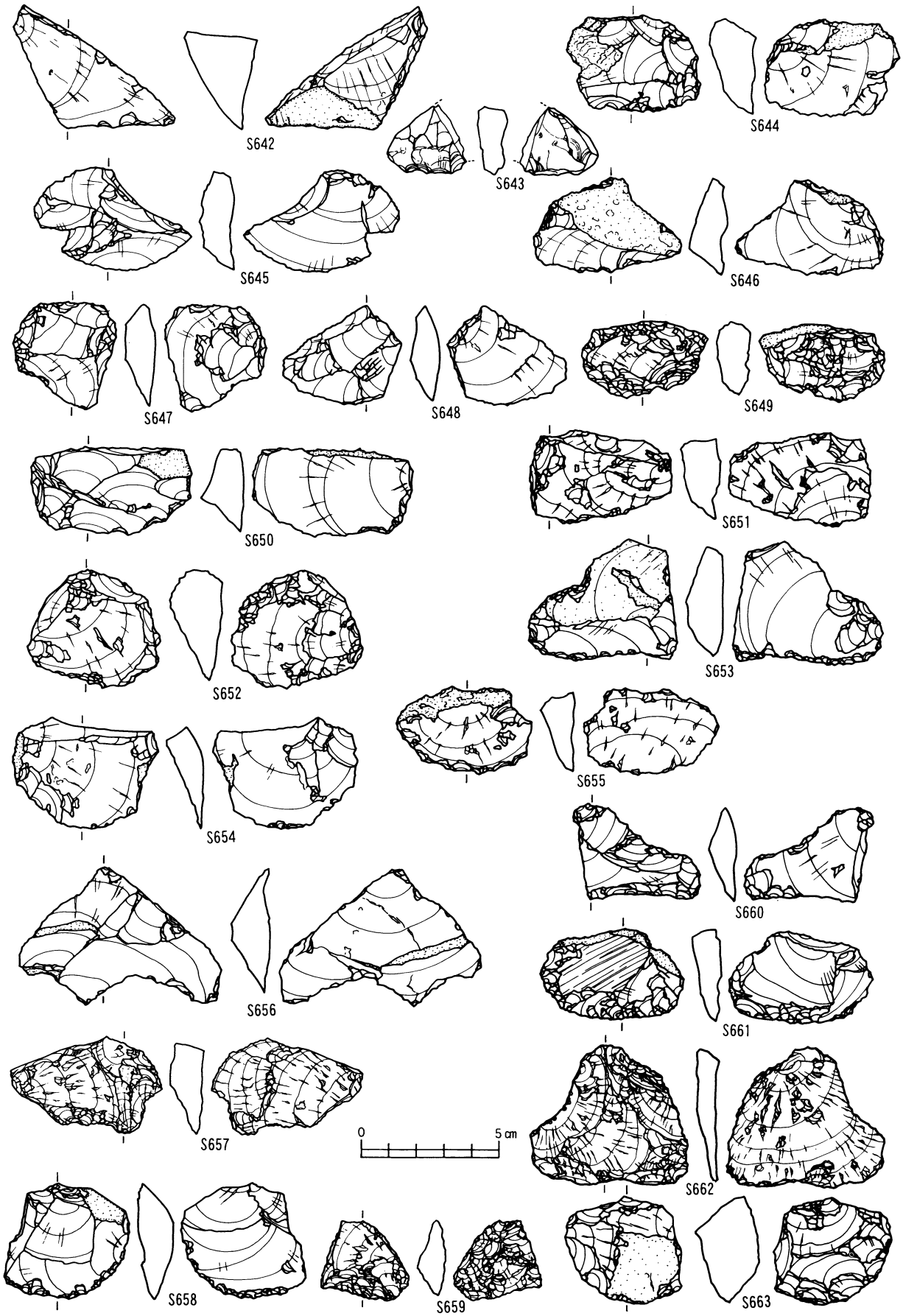
第31図　スクレイパー1



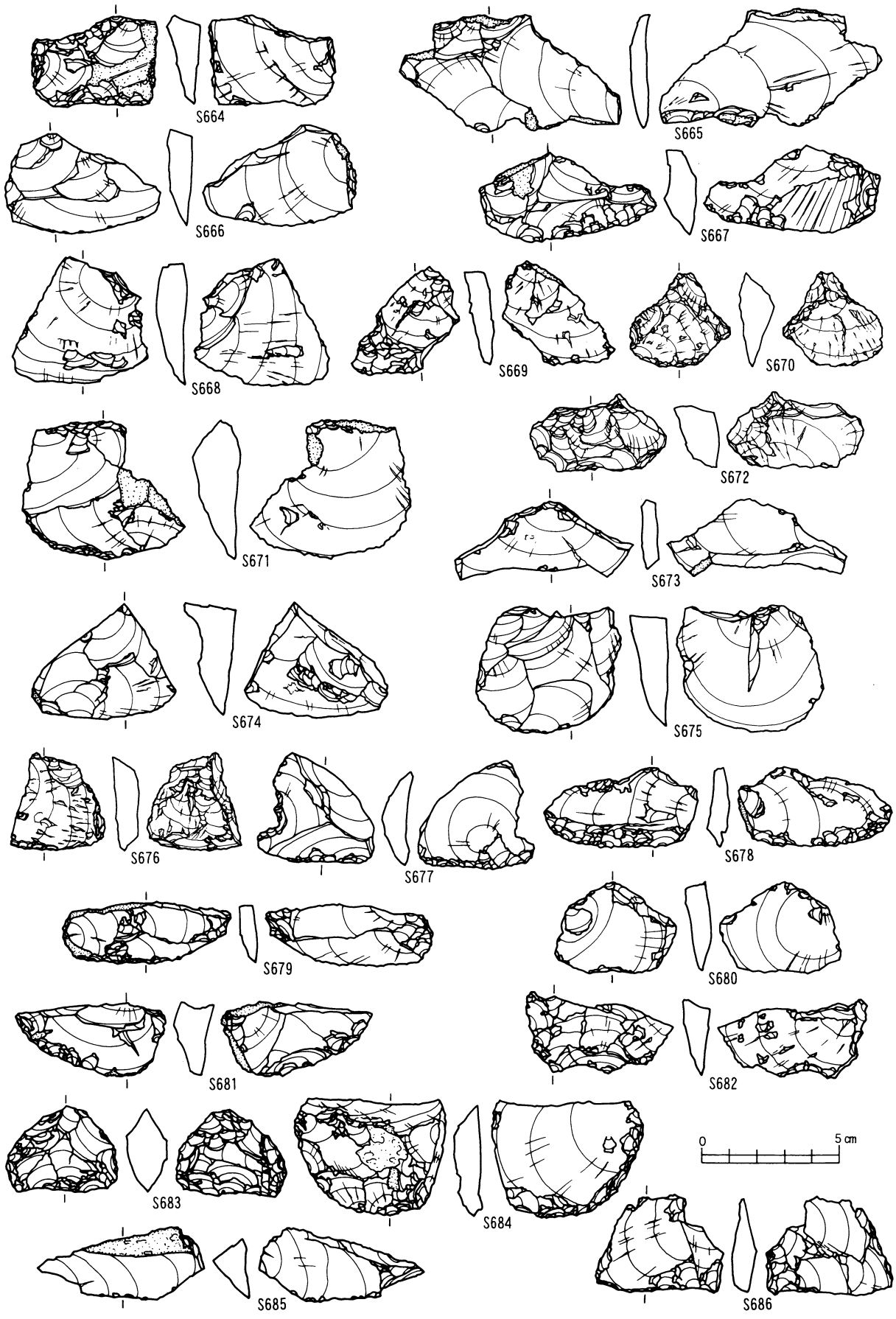
第32図　スクレイパー２



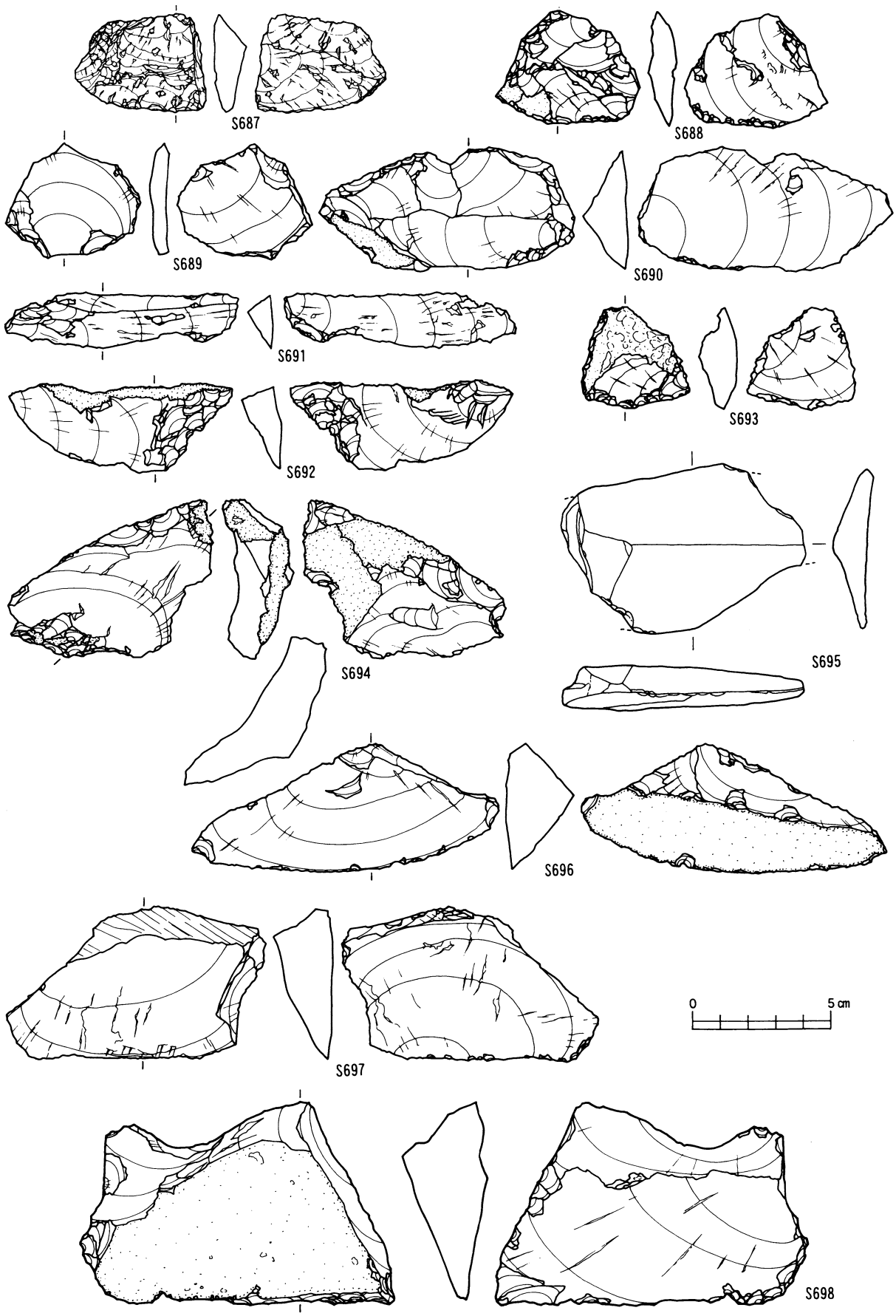
第33図　スクレイパー３



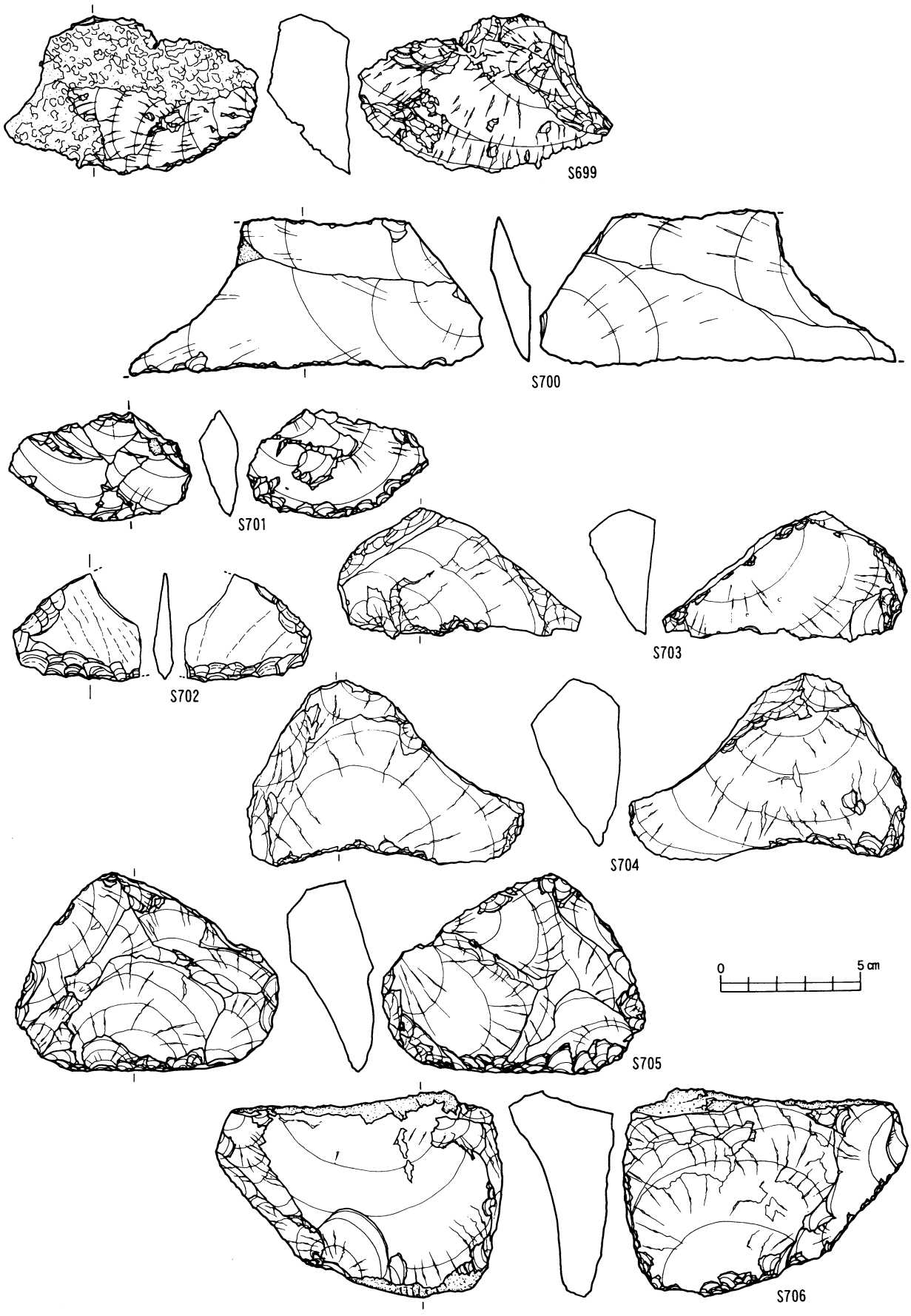
第34図　スクレイパー４



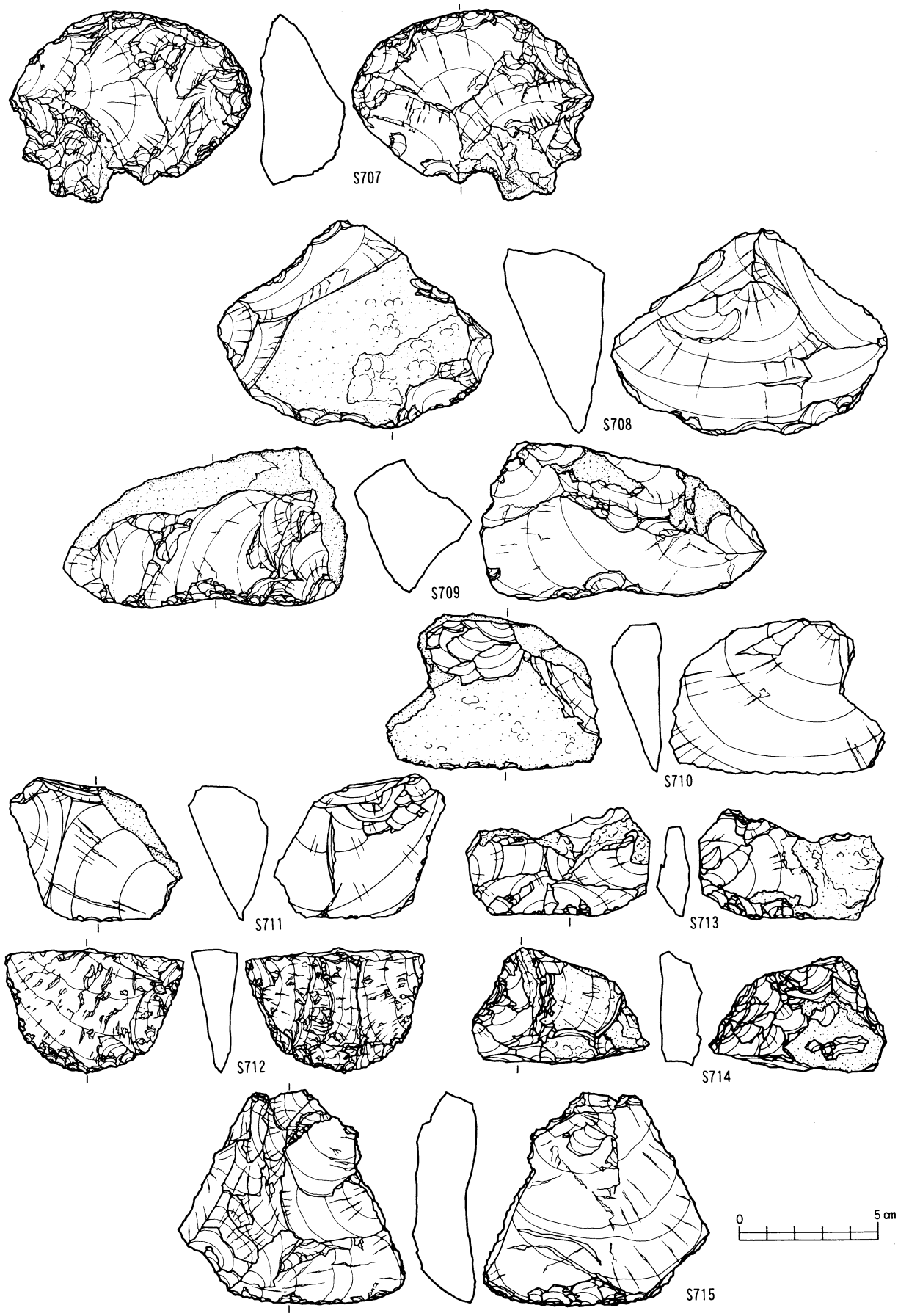
第35図　スクレイパー５



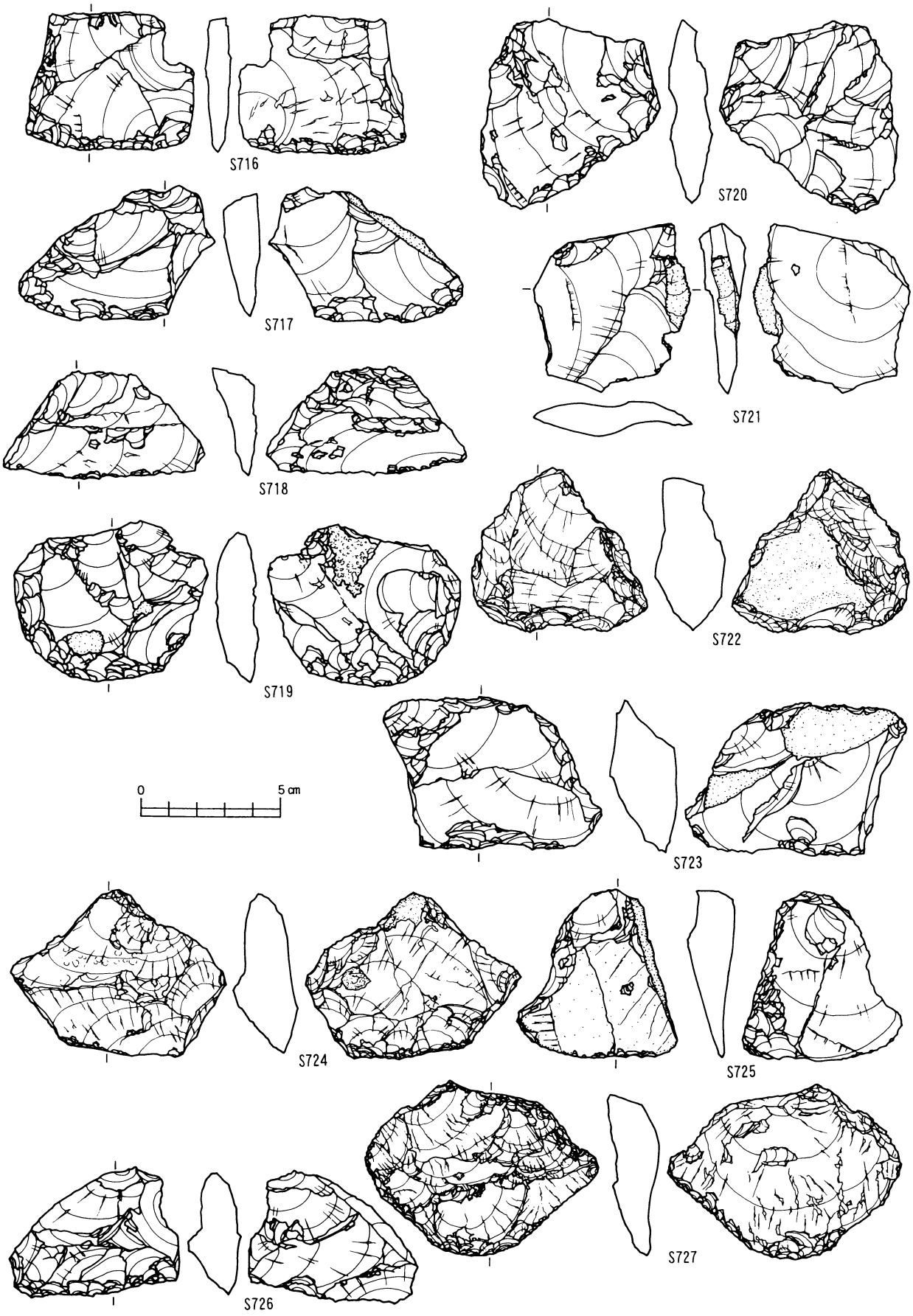
第36図　スクレイパー6



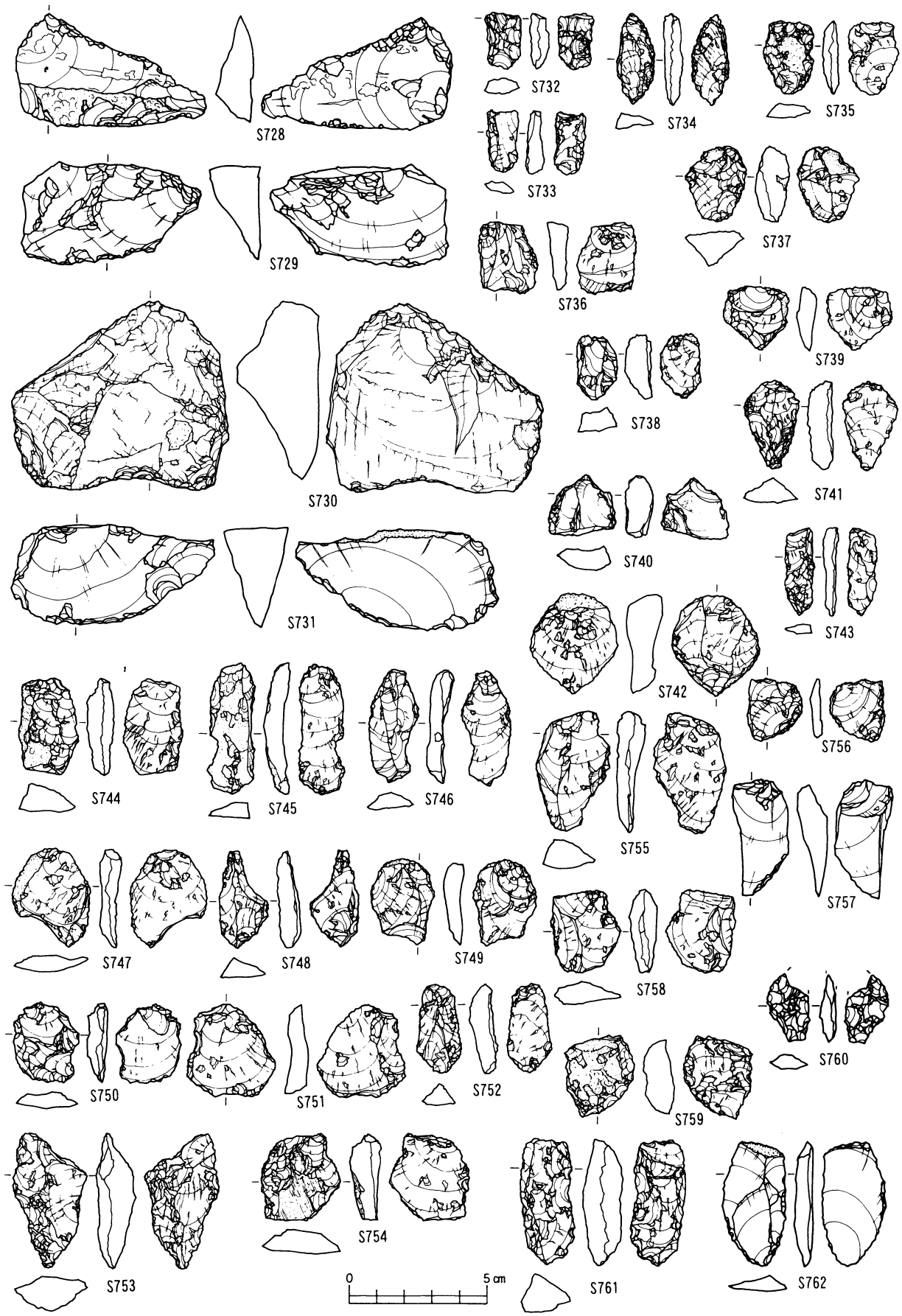
第37図　スクレイパー7



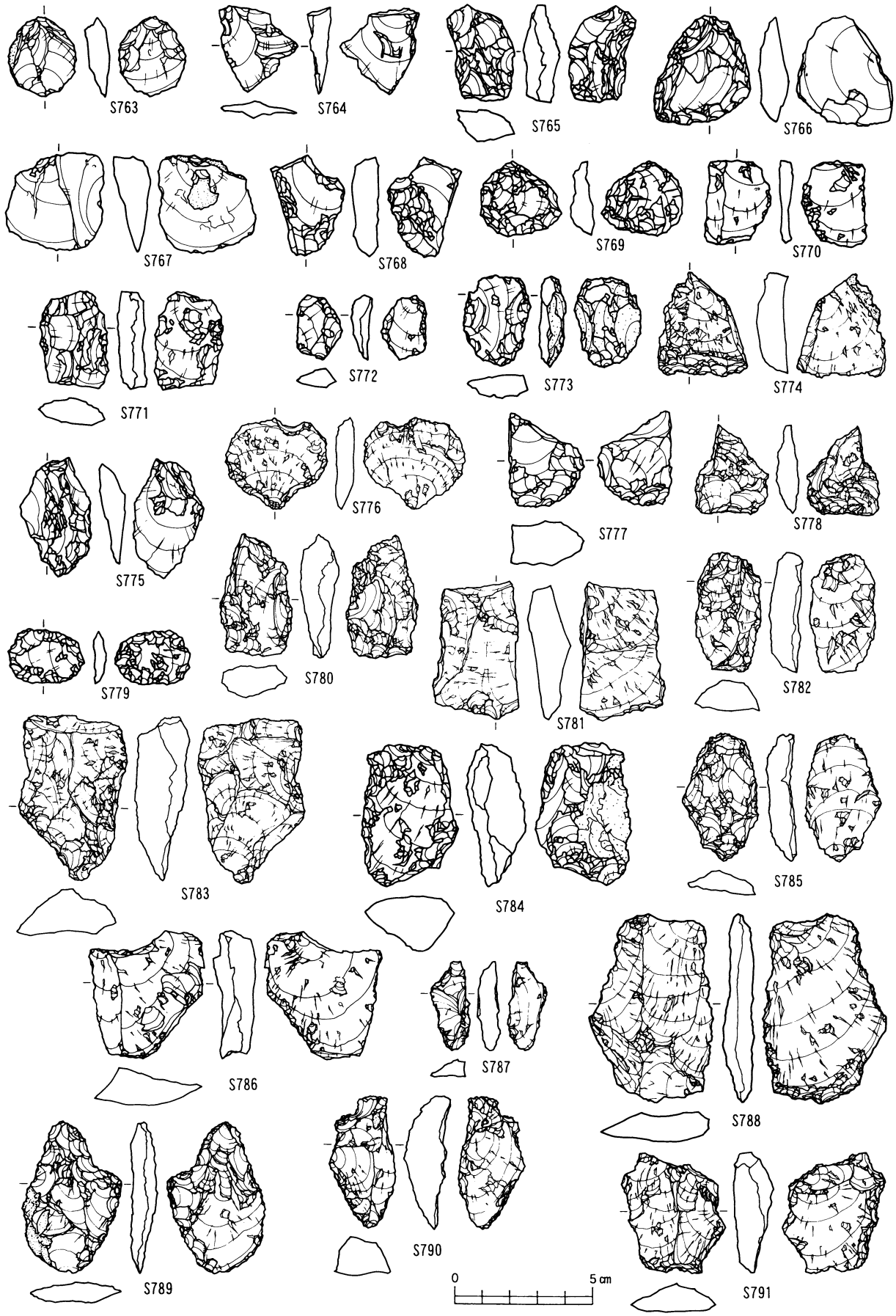
第38図　スクレイパー８



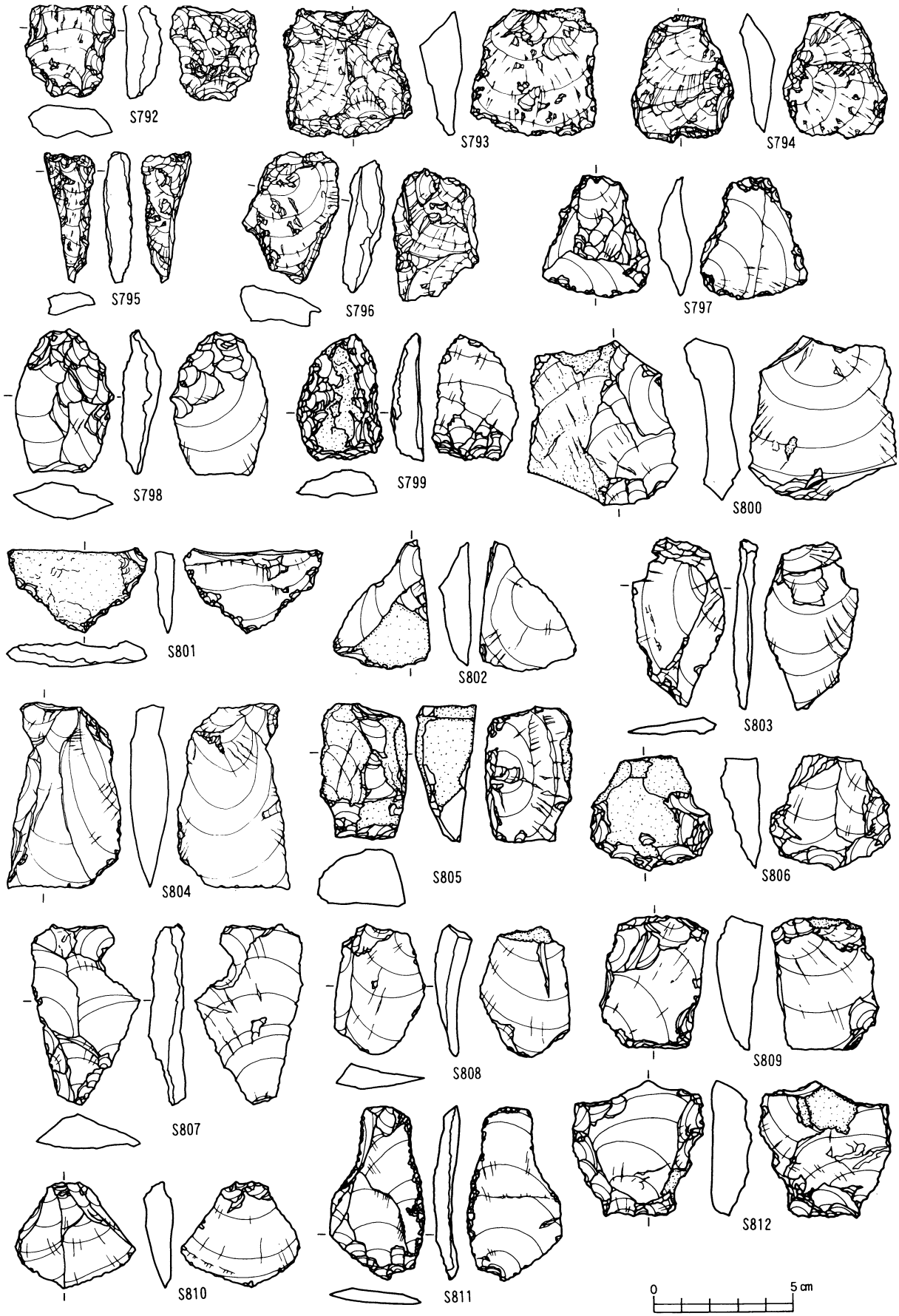
第39図　スクレイパー９



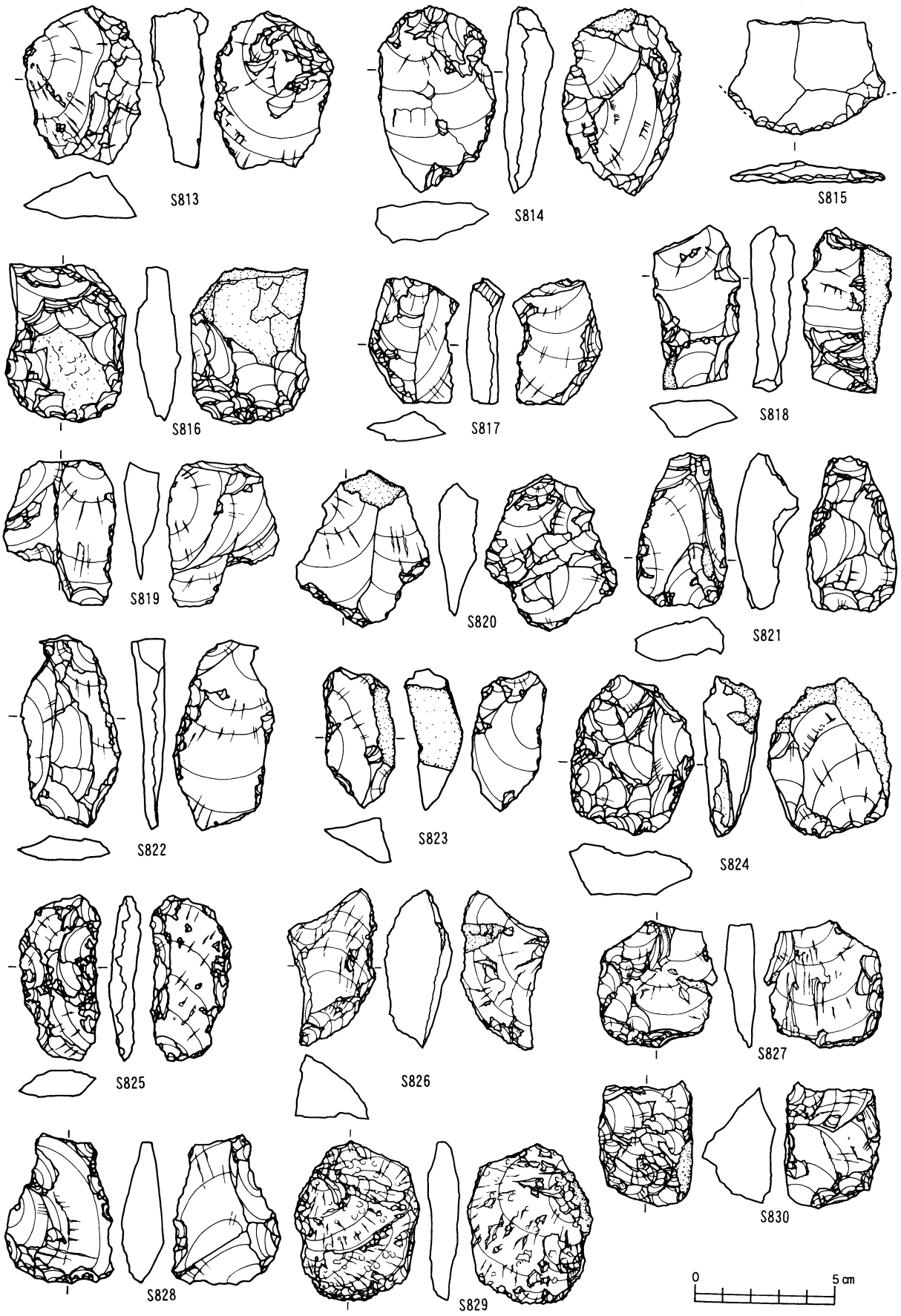
第40図　スクレイパー10



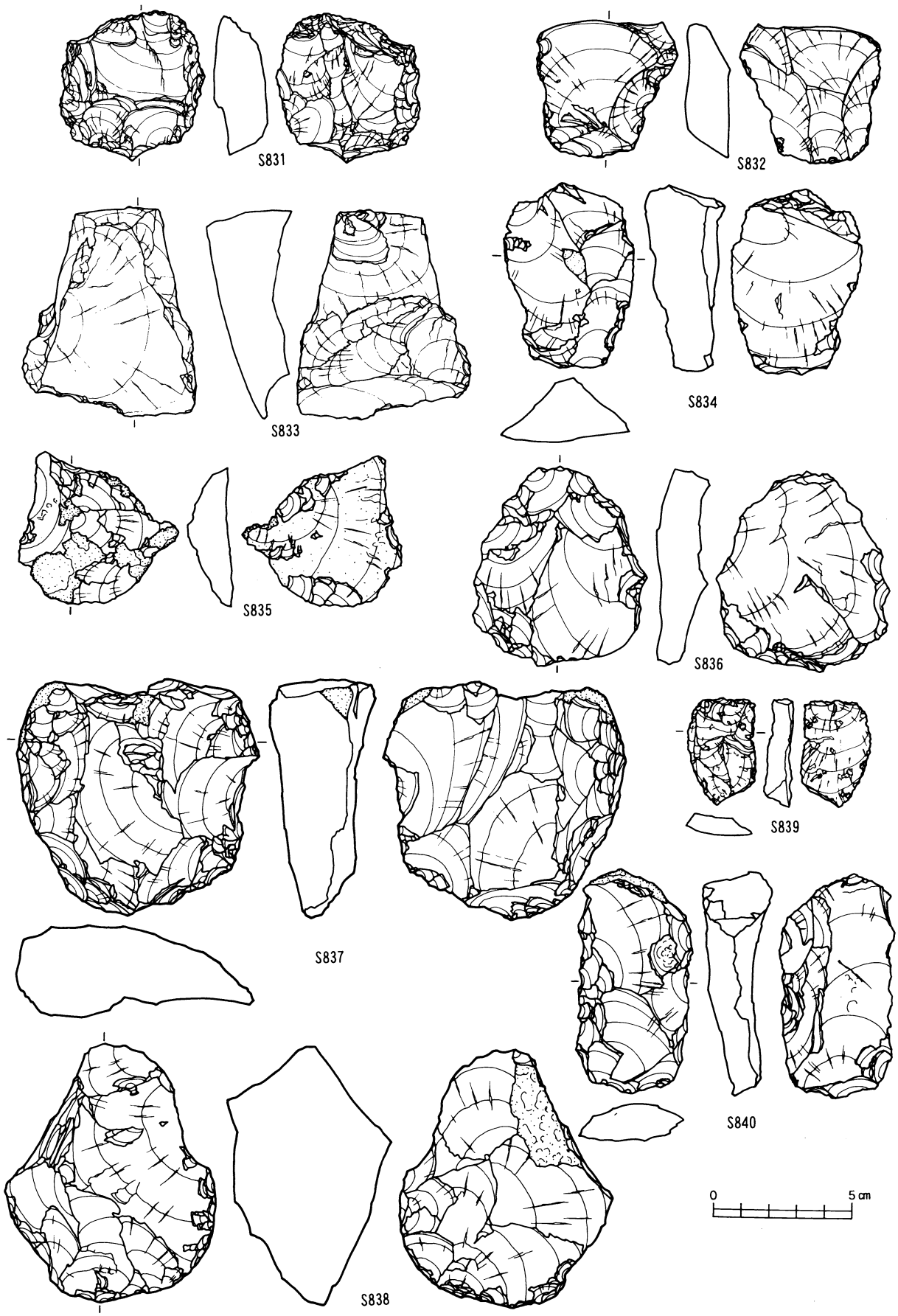
第41図　スクレイパー11



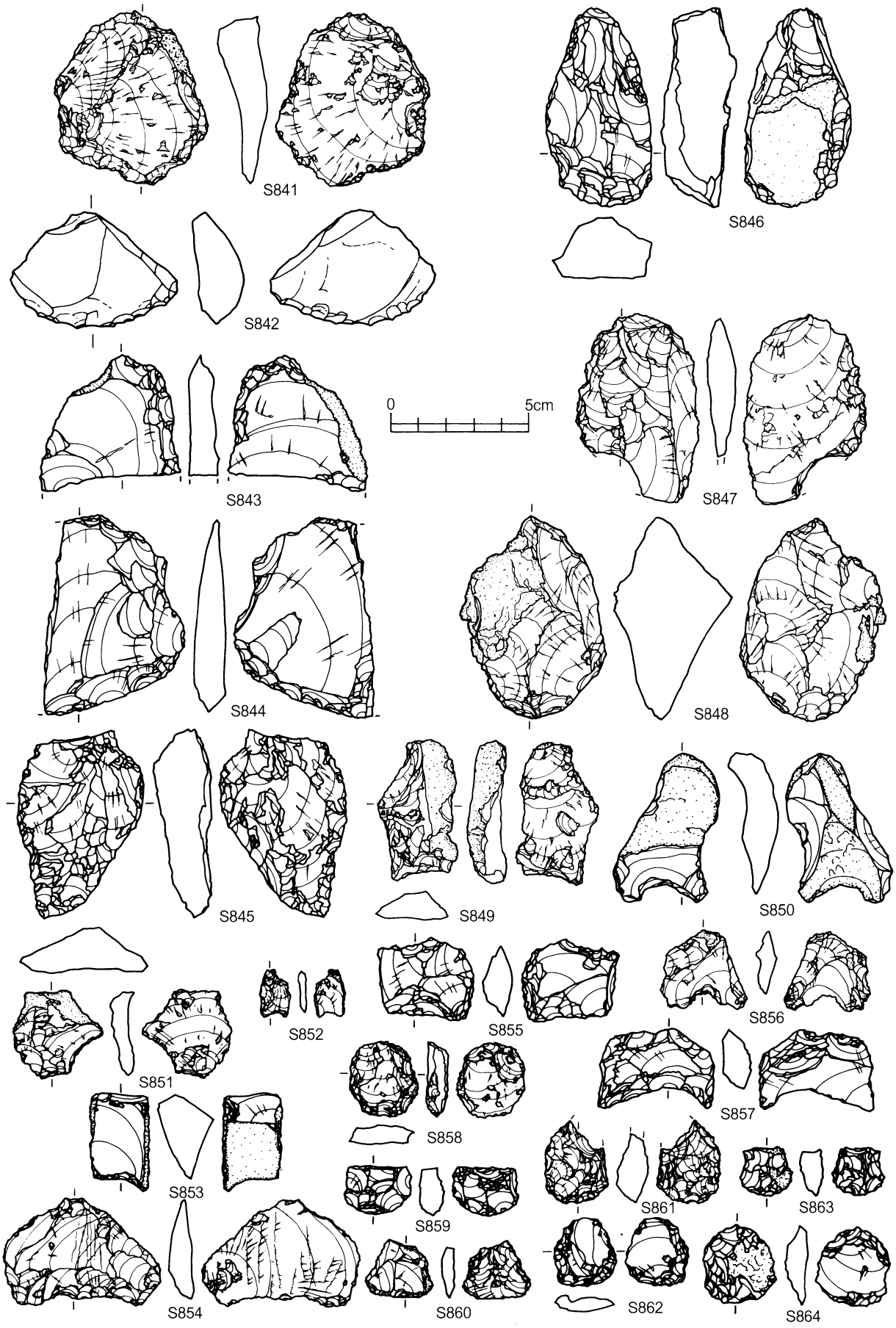
第42図　スクレイパー12



第43図　スクレイパー13



第44図　スクレイパー14



第45図　スクレイパー15

刃部も直になるものと，長く外反するもの，短く外反するもの，三角状になるもの，やや内弯するものなど多様である。刃も両側から丁寧に加工しているもの，片方のみを加工し反対側はほとんど加工のないもの，両側とも加工の少ないものなどがある。なかには自然面を広く残しているものもみられる。S683は刃部に比べ頭部あたりの加工はこまかい。S702は周辺を丁寧に加工しており石匙の可能性がある。S704～S709は部厚い剥片を利用しているが，概して加工は粗い。

エンドスクレイパーはS732～S779などのように小型のものが多く，これらのほとんどは縦長剥片を利用しているが，S753やS787・S790などのように横長剥片を使っているものもある。平面形は縦長の長方形のものが多いが，正方形を呈するものもある。S753やS783などは先端が細く石錐のようにもみえる。S816・S845・S848などは刃部の加工がこまかい。

えぐり状に作られたスクレイパーは短辺を加工したもの，長辺を加工したもの，側辺を加工したものなど用途に応じた使われ方をしているようである。S849・S850は自然面を広く残しているが，刃部加工はこまかい。

サムエンドスクレイパーは丁寧な加工をしたものもあるが，一次剥離面を多く残したものもある。

(4) 石錐（第46、47図）

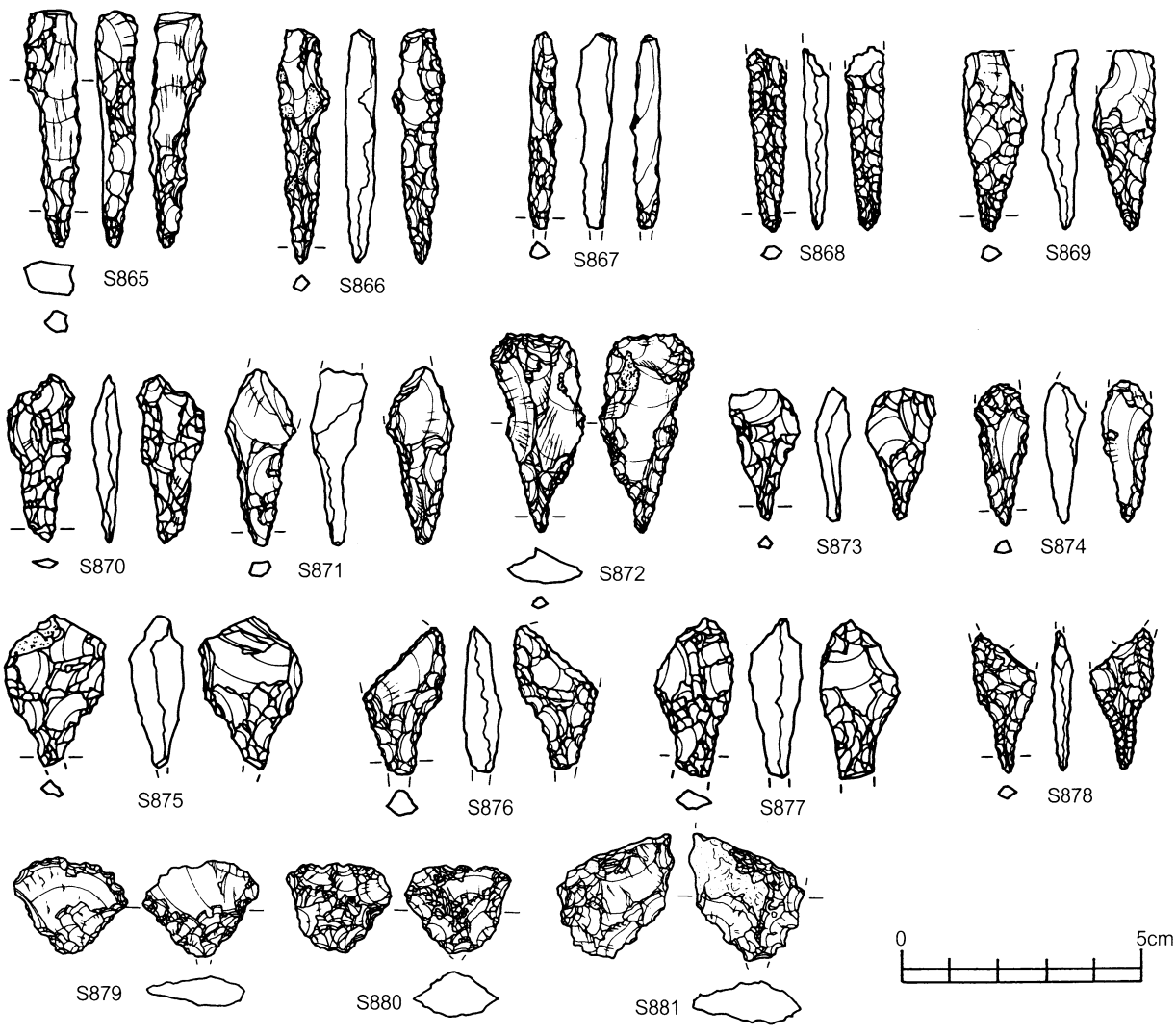
40点出土している。頭部，錐部の形態や大きさなどからⅠ類，Ⅱ類，Ⅲ類に分ける。Ⅰ類は頭部と錐部の境がはっきりせず，棒状を呈するものである。Ⅱ類は幅の広い頭部と棒状の錐部からなるものである。Ⅲ類は逆三角形を呈し，錐部の短いものである。

Ⅰ類は４点ある。錐部は断面が五角形あるいは六角形を呈し，長さは５cm足らずである。錐部は細かく調整しているが，頭部は一次剥離面を残している。

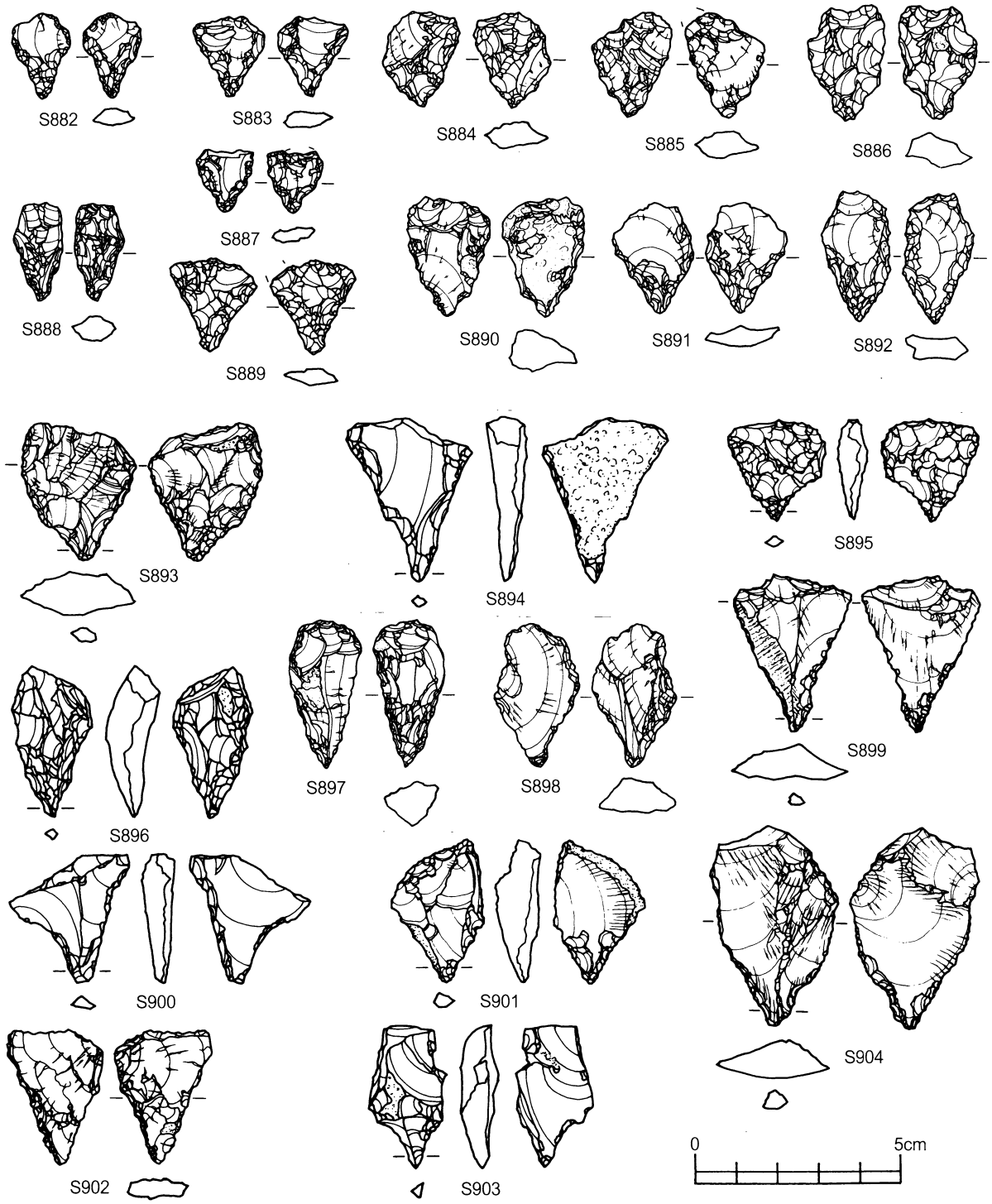
Ⅱ類は13点出土した。二等辺三角形に近いもの（Ⅱa類）と，頭部と錐部の境がはっきりしたもの（Ⅱb類）とがある。

Ⅱa類（S869～S874）は６点あり，頭部の二次加工は粗く，錐部の断面は四角形あるいは五角形を呈している。Ⅱb類（S875～S881）は７点あり，S878は頭部まで細かく調整しているが，他の頭部調整は粗い。錐部の断面は四角形を呈する。

Ⅲ類は23点ある。錐部の断面が四角形のものと三角形のものがある。錐部のみを細かく加工し，頭部は自然面，一次剥離面を残したものが多いが，S889とS895は頭部まで二次加工を施している。S898は錐部の加工もほとんどなく剥片に少し加工しただけである。



第46図　石 錐 1


S882
S883
S884
S885
S886
S887
S888
S889
S890
S891
S892
S893
S894
S895
S896
S897
S898
S899
S900
S901
S902
S903
S904
0
5cm

第47図　石 錐 2

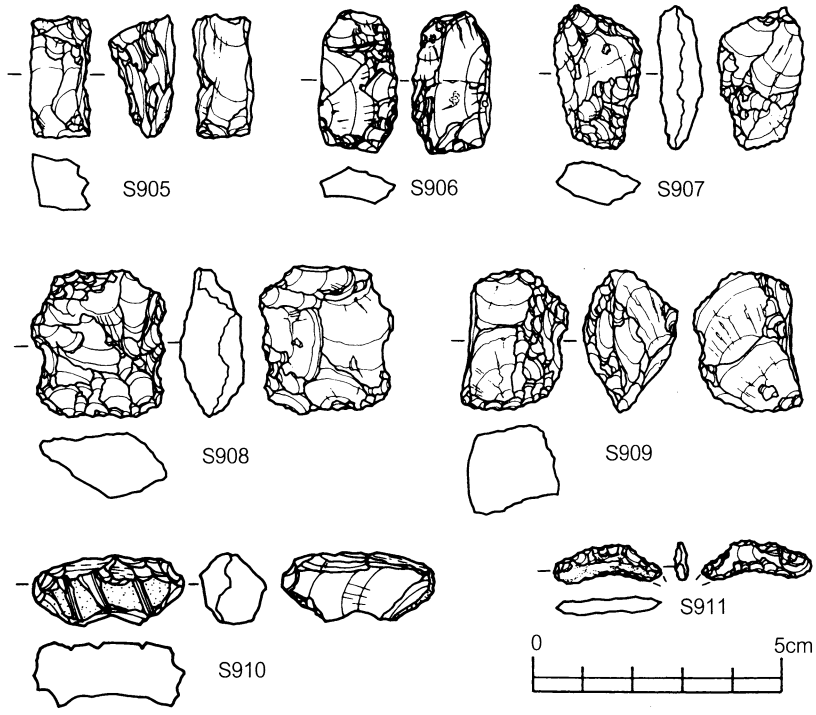
(5) ピエスエスキーユ（第48図）

５点出土している。長方形あるいは略台形を呈しており，短側辺の片面に下部からの押圧痕を残している。縦剥ぎ，あるいは横剥ぎの部厚い剥片を利用しており，長側辺に調整痕を残すものもあるが，粗い加工である。

(6) 異形石器（第48図）

特異な形態をした石器が３点出土しいる（うち１点は51号土坑で出土：Ｆ758）。S910は磨滅した直方体の黒曜石石核の一面に断面が三角形をした３条の筋をほぼ並行に刻み込んでいる。14Ｆ区Ｖ層出土。

S911は弧状に曲がったブーメラン状の石器で，内弯部・外反部ともに両側からこまかい押圧剥離を施している。片面に自然面を残した黒曜石製縦長剥片を使用したもので14Ｇ区の自然流路跡で出土。重さ0.46ｇ。



第48図　ピエスエスキーユ・異形石器

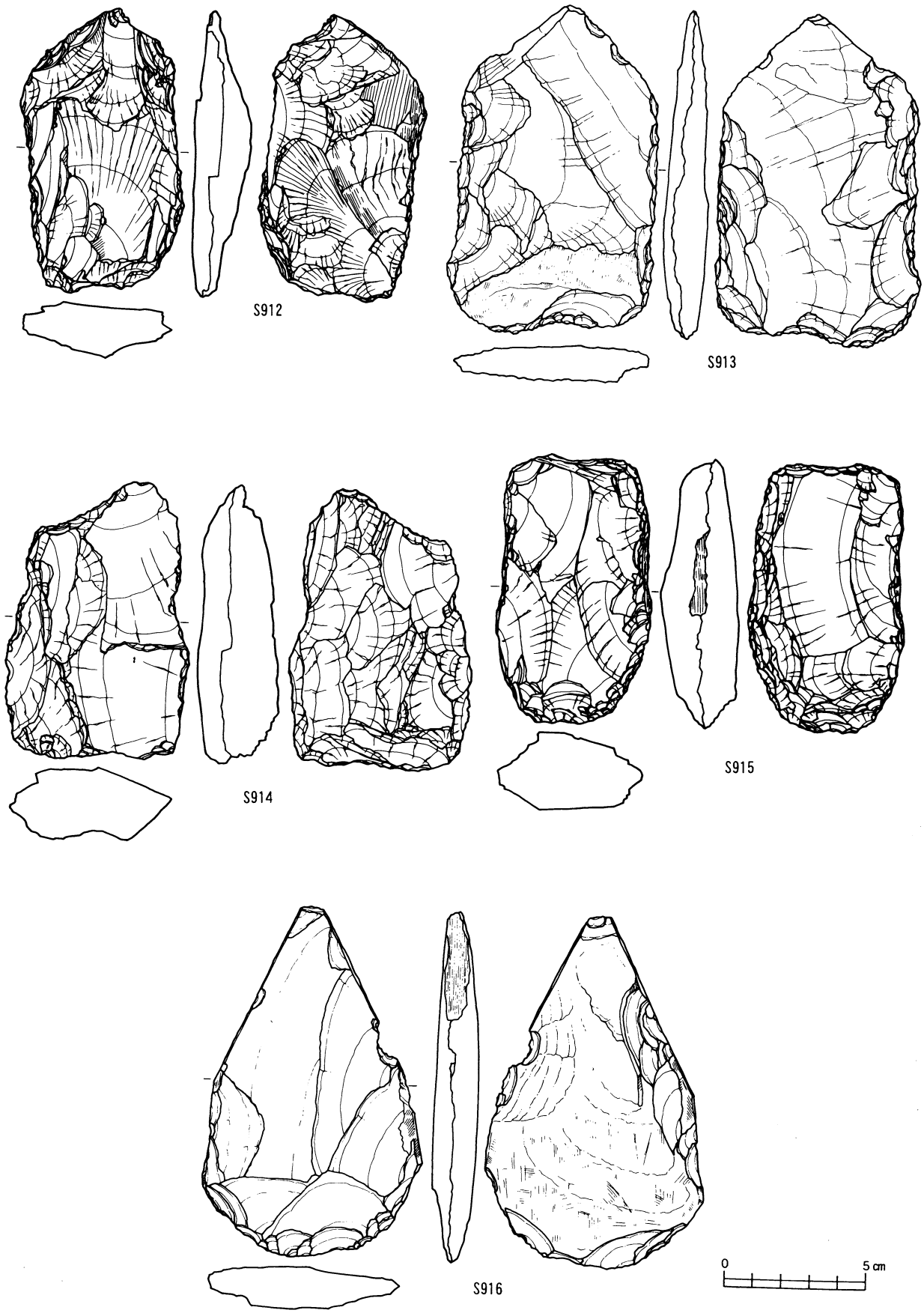
(7) 打製石斧（第49～56図）

32点の打製石斧を掲載したが，この他に安山岩剥片を利用したものもかなりある。

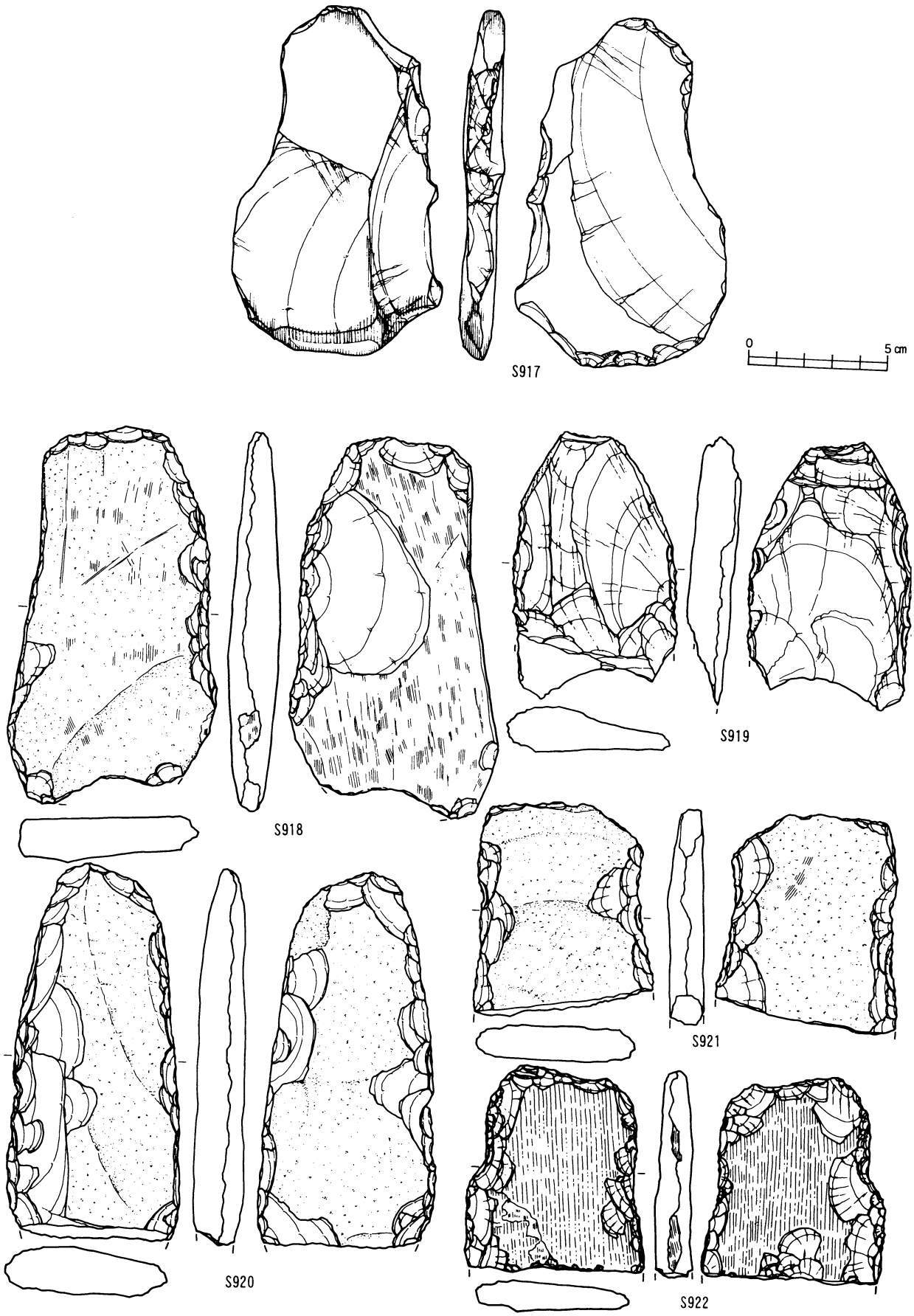
形態からバチ形を呈するもの（S912～S932）と，えぐりを有するもの（S933～S943）とがある。バチ形のものは長さ9.5cmと小さいものから，20cmを越える大きいものまであり，多くは横に折れている。S912～S915は両面を打ち欠いて形を作り，さらに側辺部をこまかく調整して長方形状に加工している。S913の片方は使用痕が顕著である。S916はナスビ形を呈するもので，両面に使用痕がみられるが，片面は特に目立ち，横・斜めあるいは横方向に磨痕がみられる。S917・S918は自然面を多く残しているが，周辺をこまかく調整しており，斜め方向・縦方向の使用痕が全体にみられ，刃部が欠けている。S919～S923は頭部から体部の破片で，頭部は丸みをおびたものと，方形を呈するものとがある。S919のように剥片を利用したものと，その他のように扁平な板状礫の周辺を加工したものとがある。

S924とS925は体部で，S924は剥片を，S925は自然礫を利用している。S925の片面には斜め方向の使用痕がみられる。S926～S932は刃部で，使用によって磨耗したものが多い。

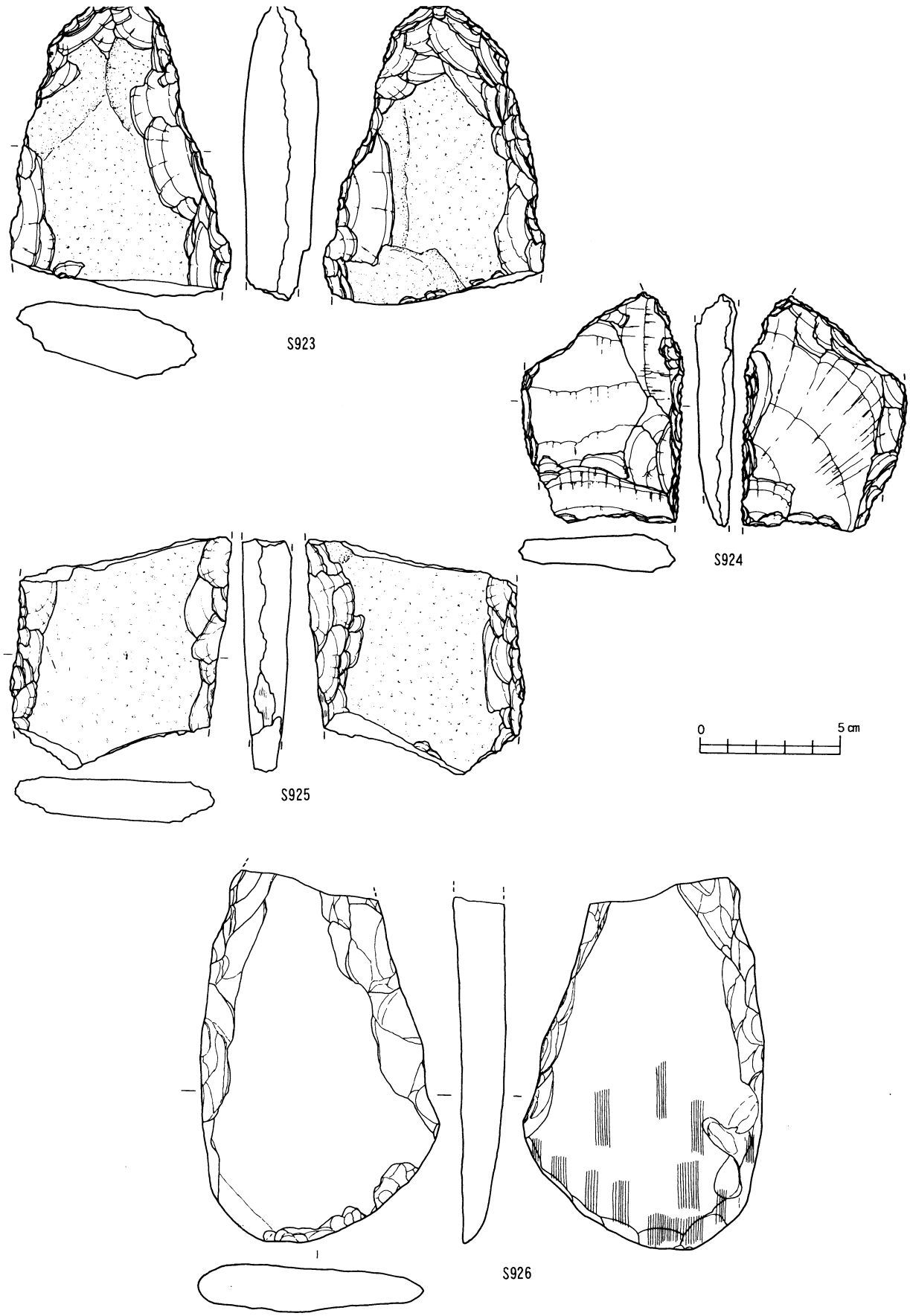
S933～S943はえぐりを有するものであるが，えぐりの位置が頭部近くにあるものと，中央部付近にあるものとがある。えぐりも左右対象となるものと，片方のみのえぐりが深いものの２種がある。特にS938・S939・S941・S942などは片方のみが深くナタ状を呈している。刃部は直線に近くなるもの（S938・S942），左右対称の弧状となるもの（S937・S943），左右非対象の弧状となるもの（S933・S936・S941），先端がとがるもの（S939）とがある。刃部の多くは使用痕跡が強く，磨耗している。



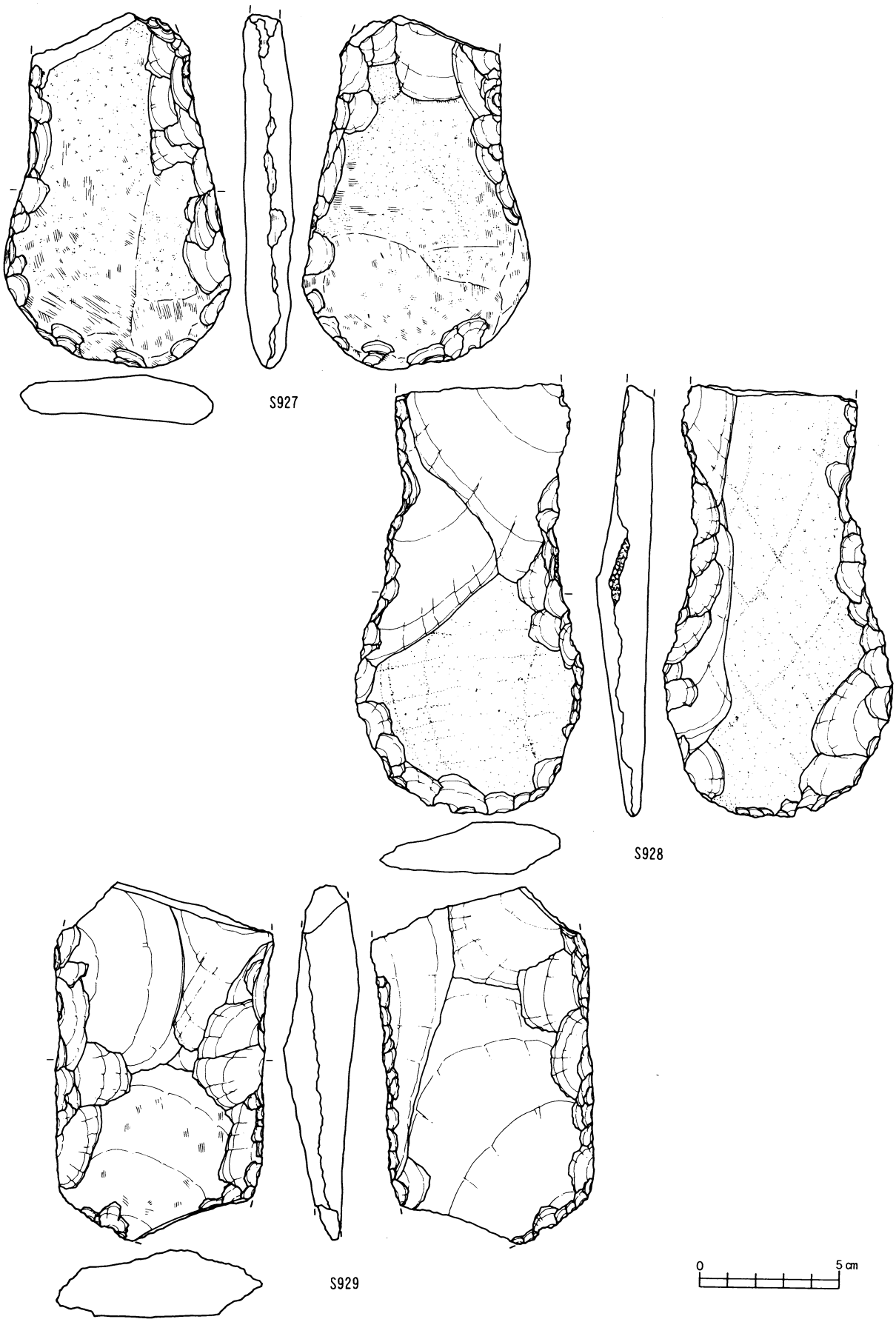
第49図　打製石斧１



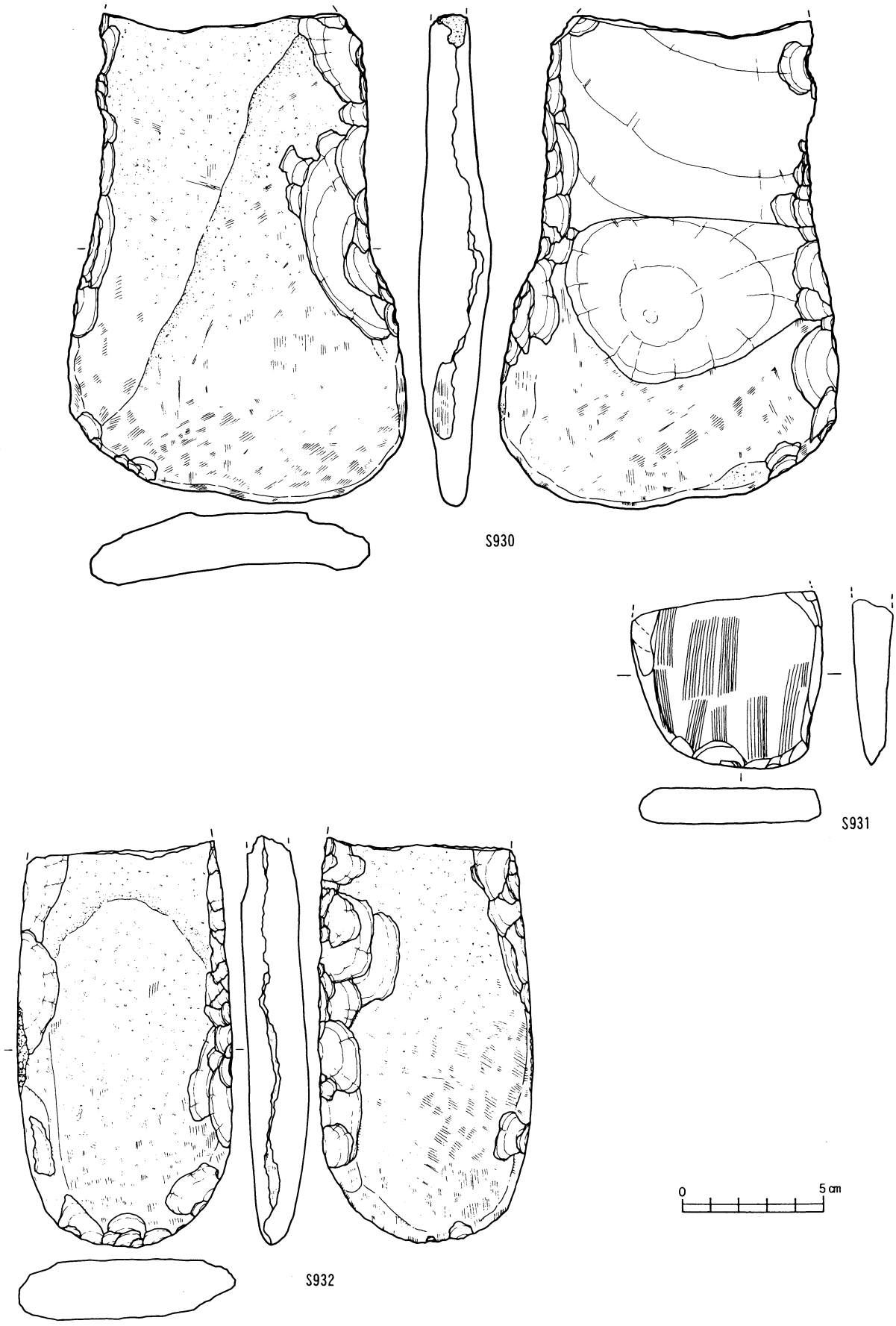
第50図　打製石斧２



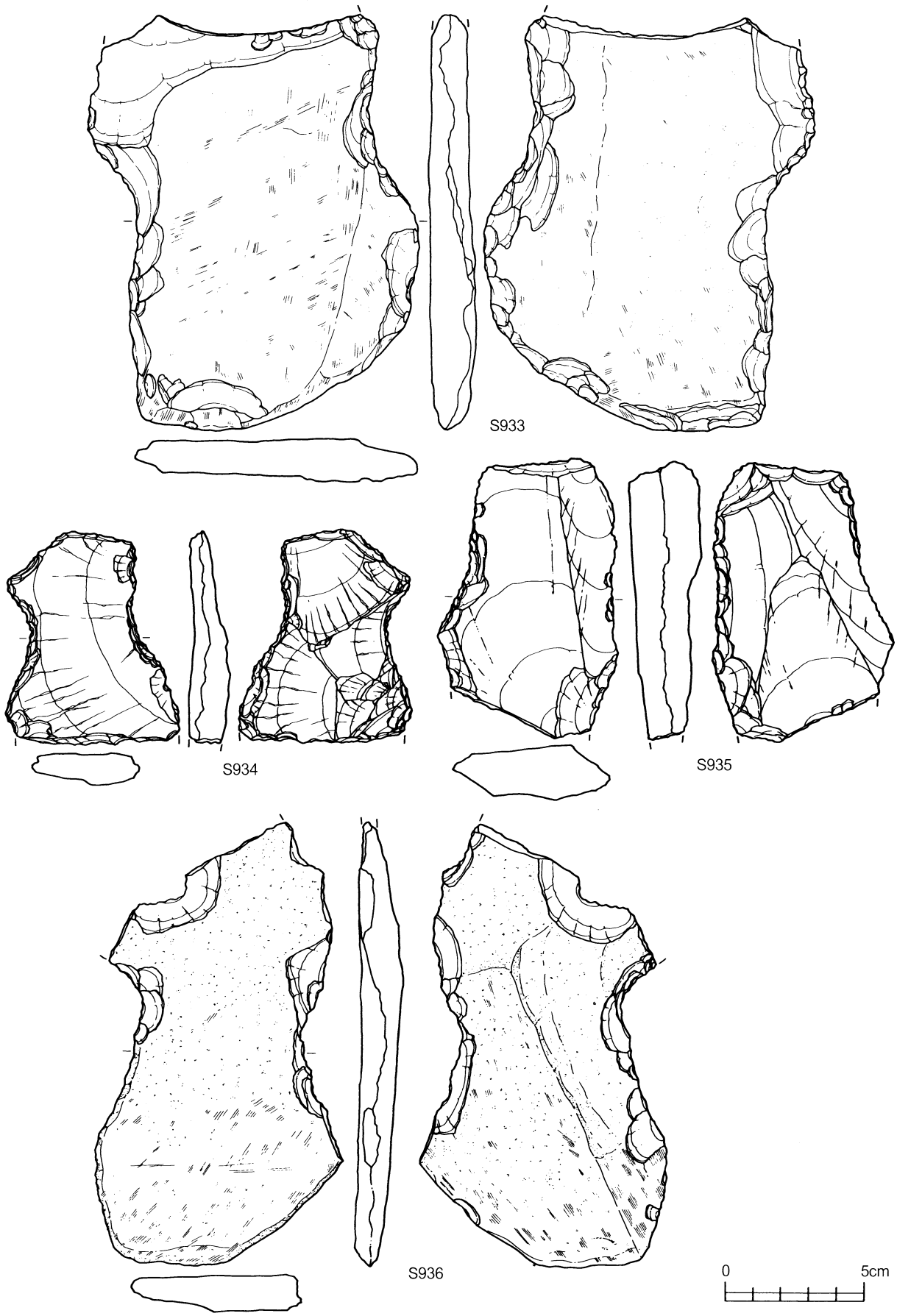
第51図　打製石斧３



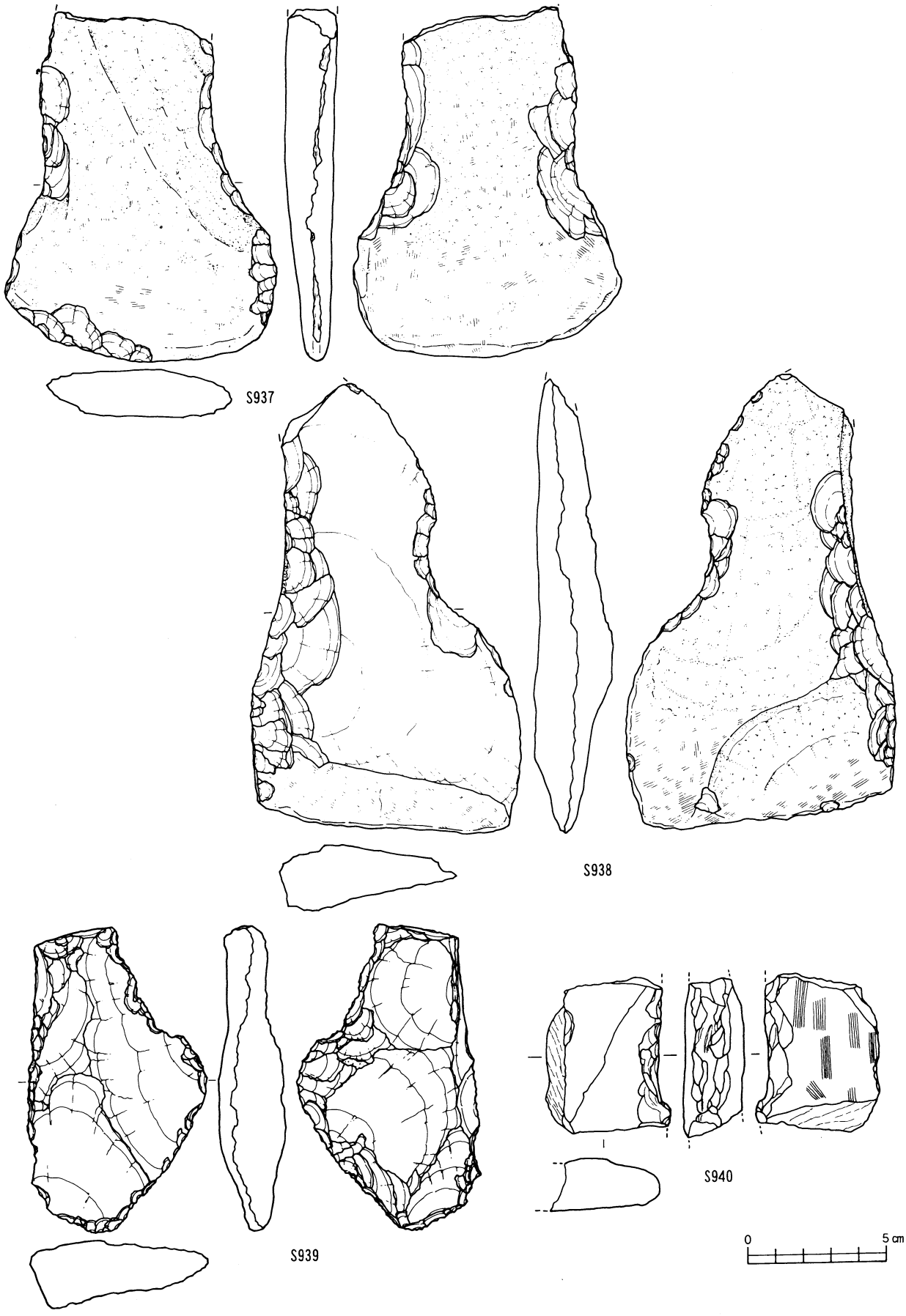
第52図　打製石斧４



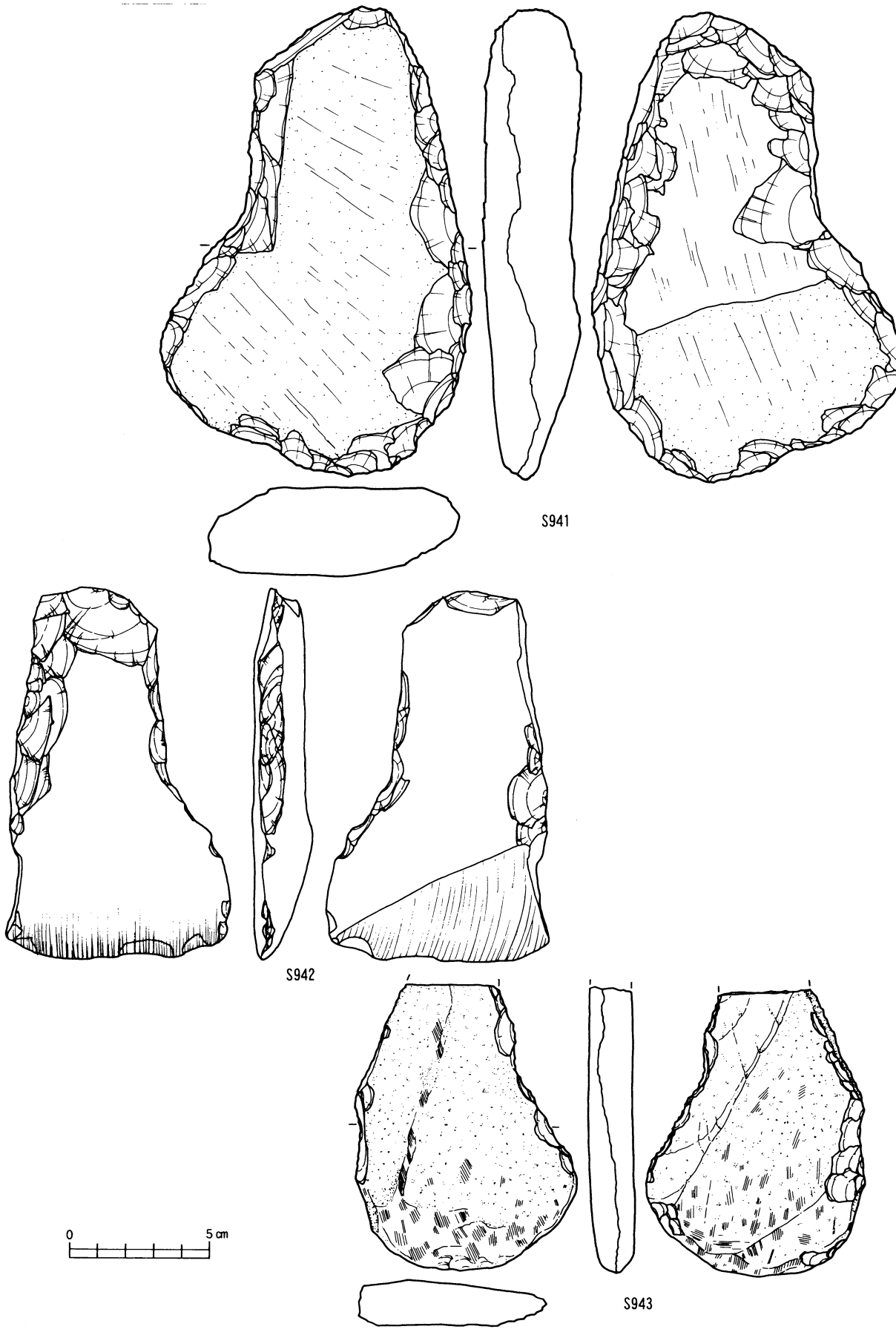
第53図　打製石斧５



第54図　打製石斧６



第55図　打製石斧７

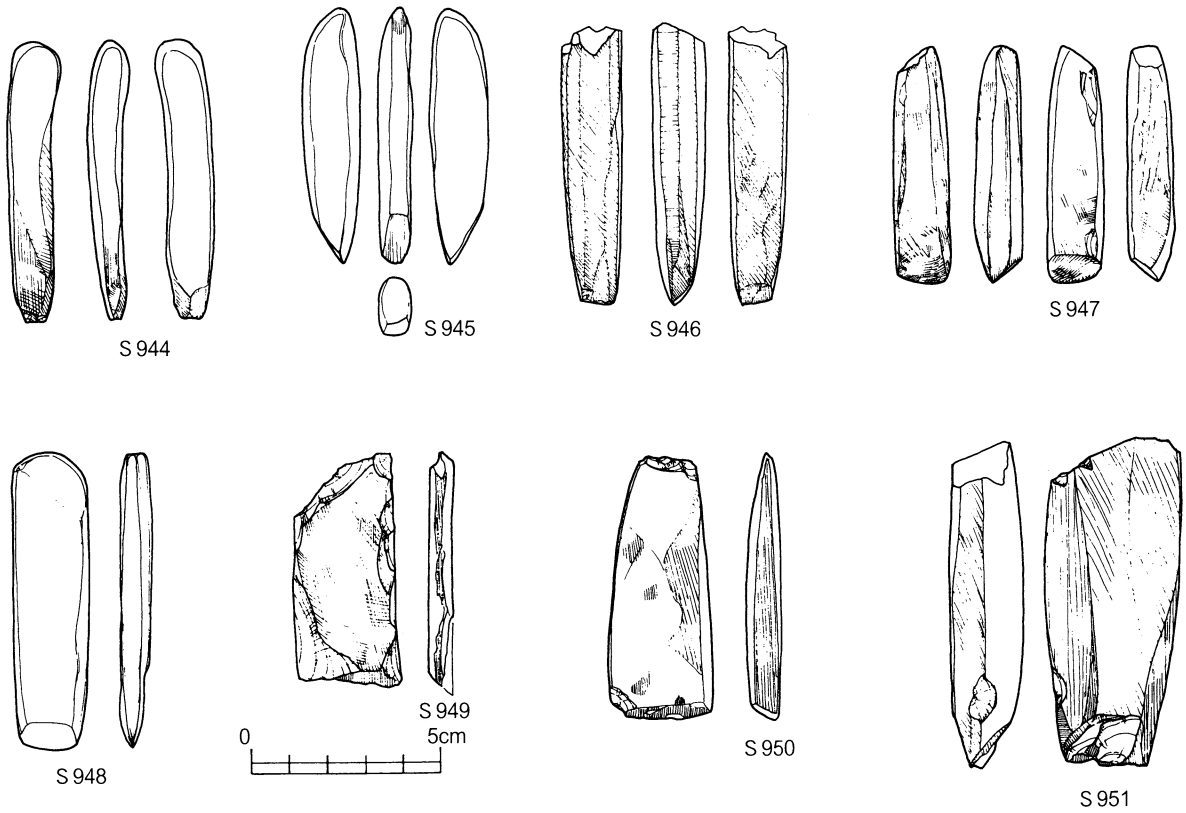


第56図　打製石斧８

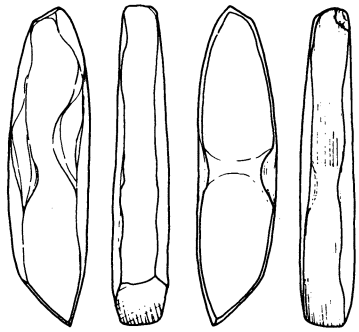
（８）磨製石斧（第57～62図）

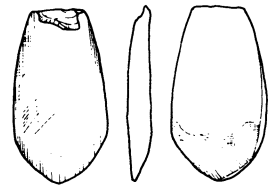
磨製石斧は50点掲載した。そのうちS944～S964が比較的小形の石斧で，いわゆるノミ状の石斧を多く含んでいる。頁岩系のものが多いが，S947・S949・S960は蛇紋岩を使用している。特にS947のような形態は，南九州の縄文時代後期によく見られるもので，擦り切り技法による製作が考えられる例である。これらノミ状の小形石斧は，片刃のものが多いのも特徴である。また，S952やS964は中央部付近に抉り部をもつ。

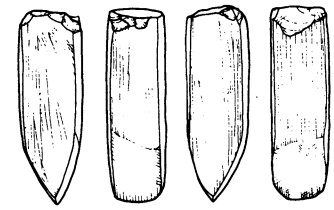
S965～S993は敲打による整形痕が顕著な磨製石斧である。本遺跡の磨製石斧のほとんどが使用によると考えられる欠損品であったが，接合したS989とS993を含め，比較的残りの良いものを掲載した。

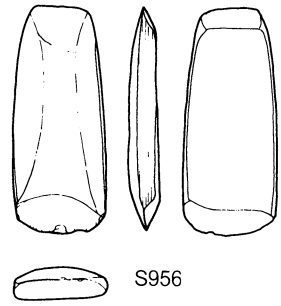


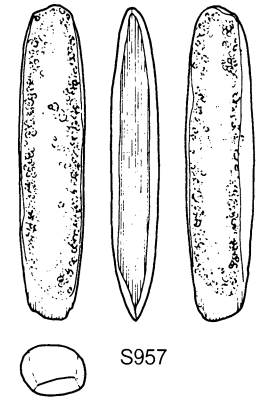
第57図　磨製石斧１

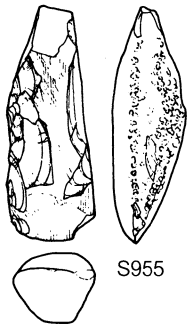

S952

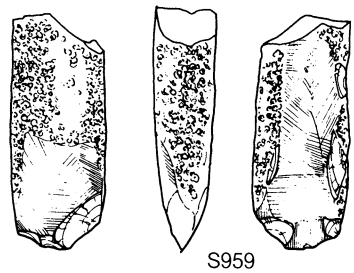

S953

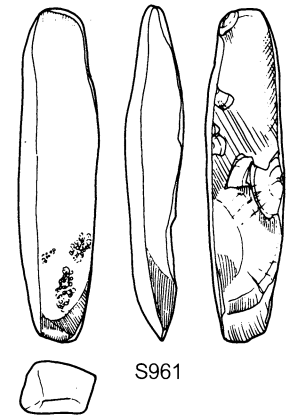

S954

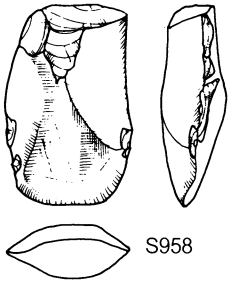

S956

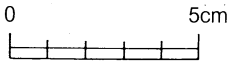

S957

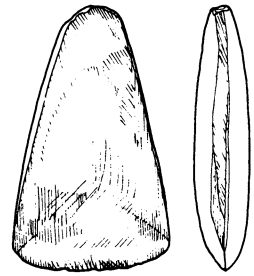

S955

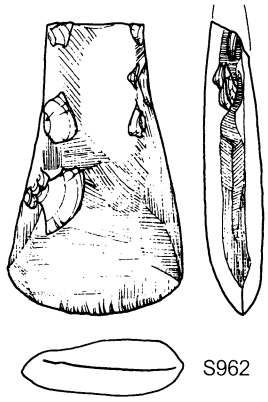

S959

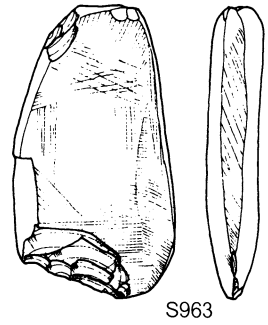

S961

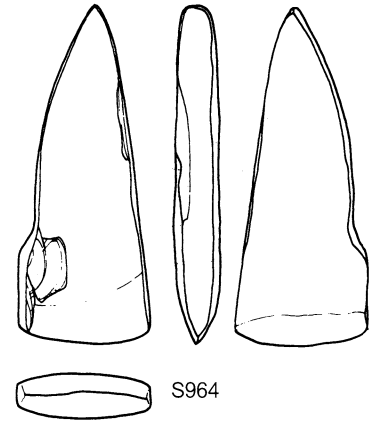

S958


0
5cm

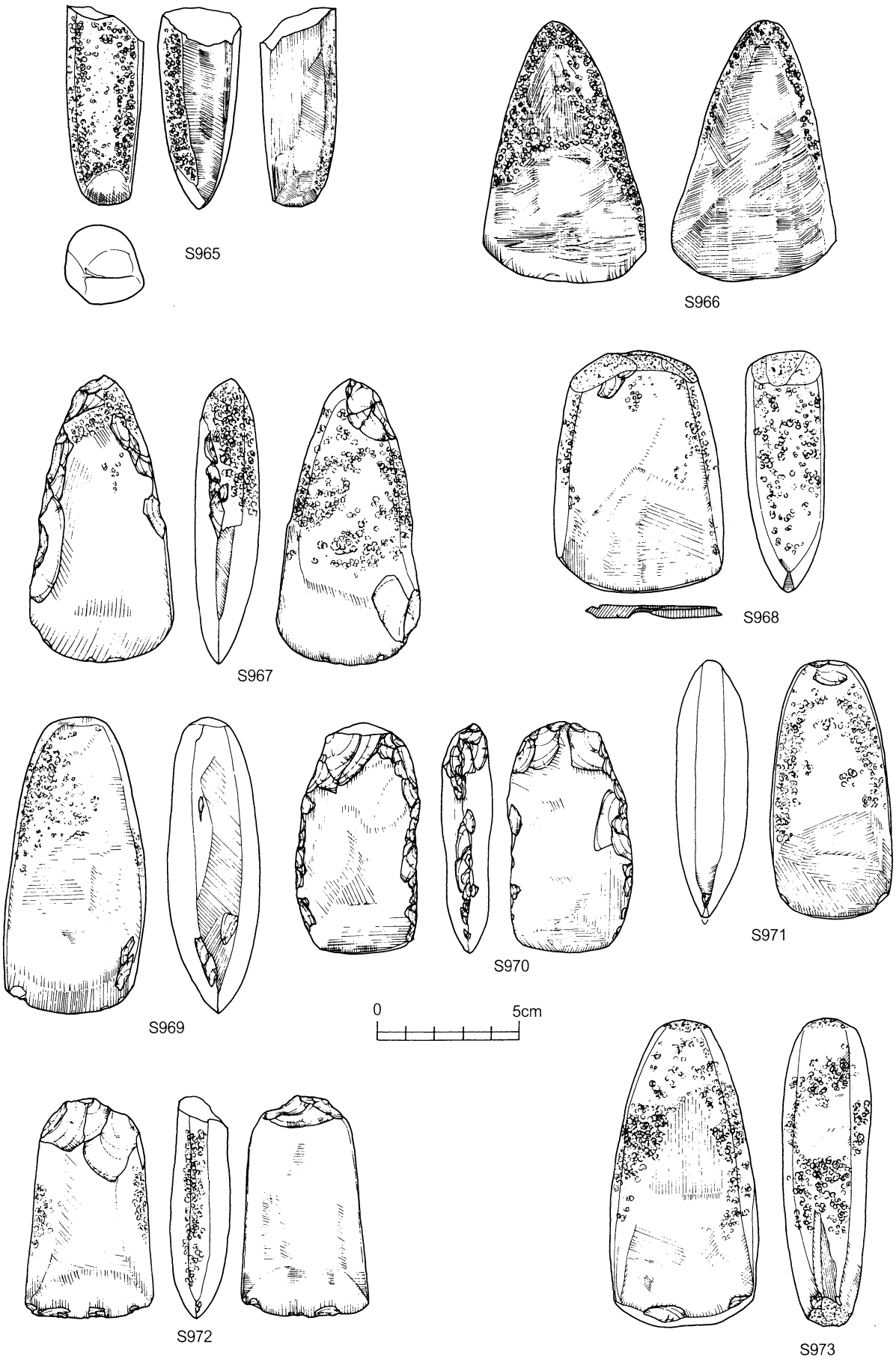

S960


S962

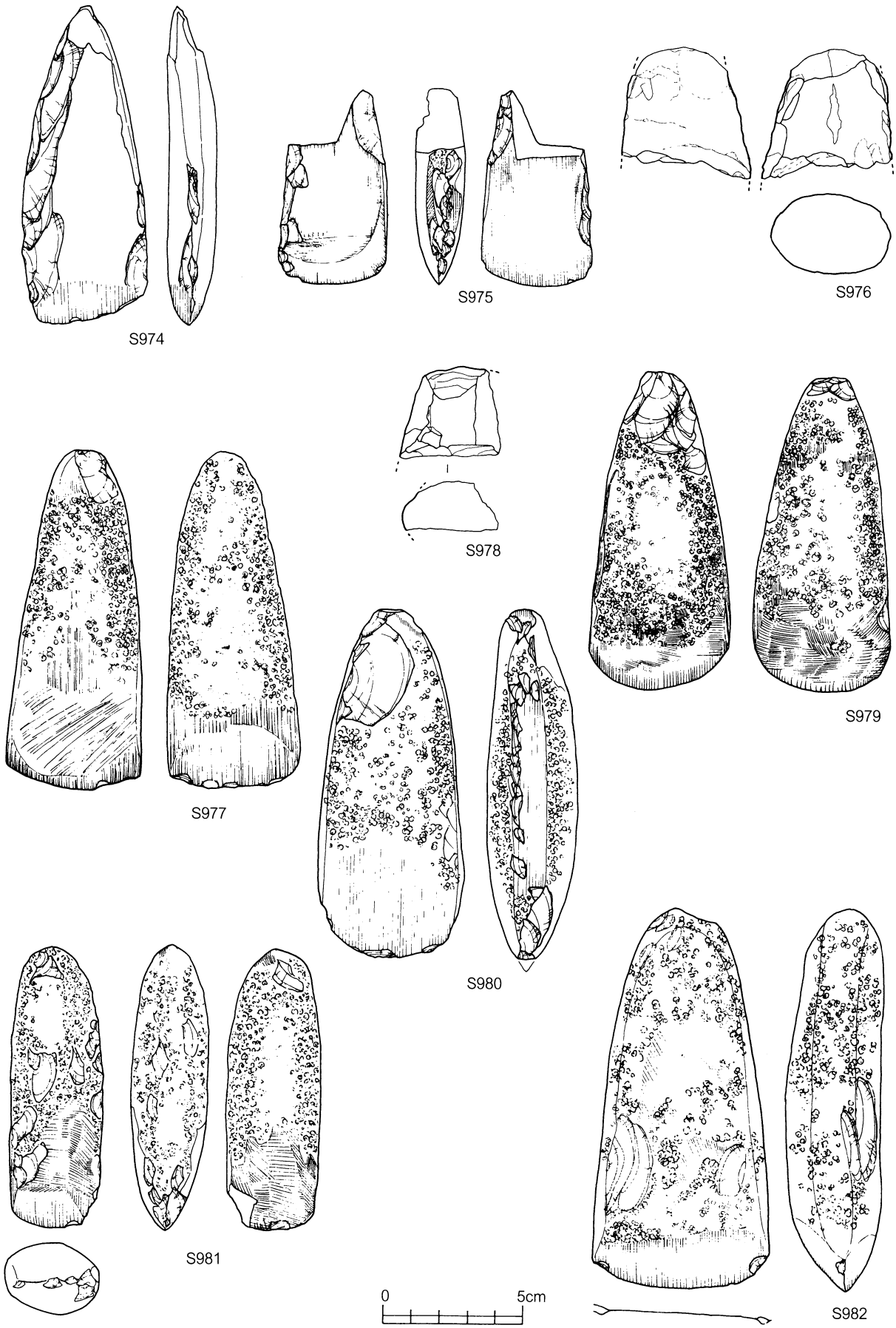

S963


S964

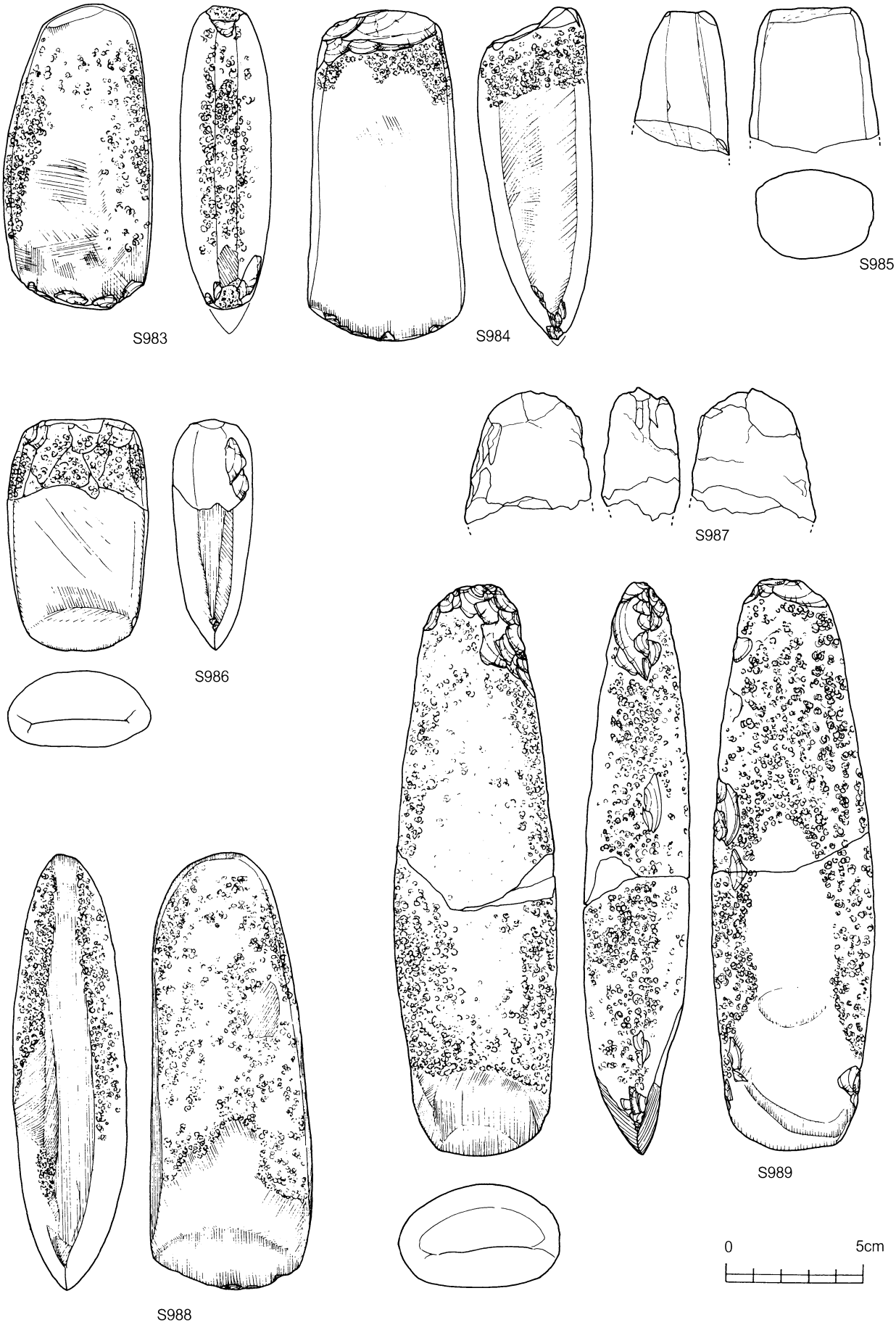
第58図　磨製石斧２



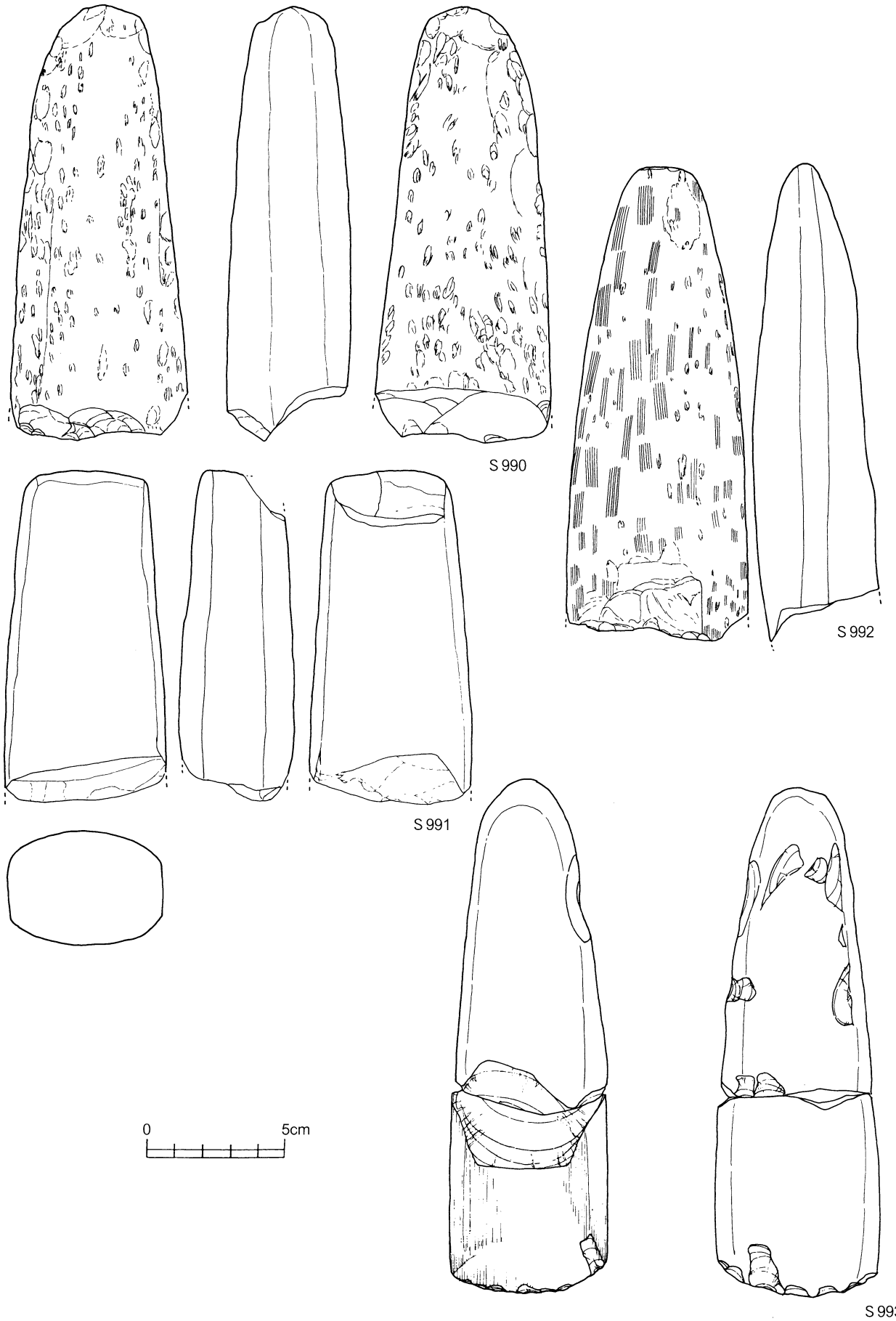
第59図　磨製石斧 3



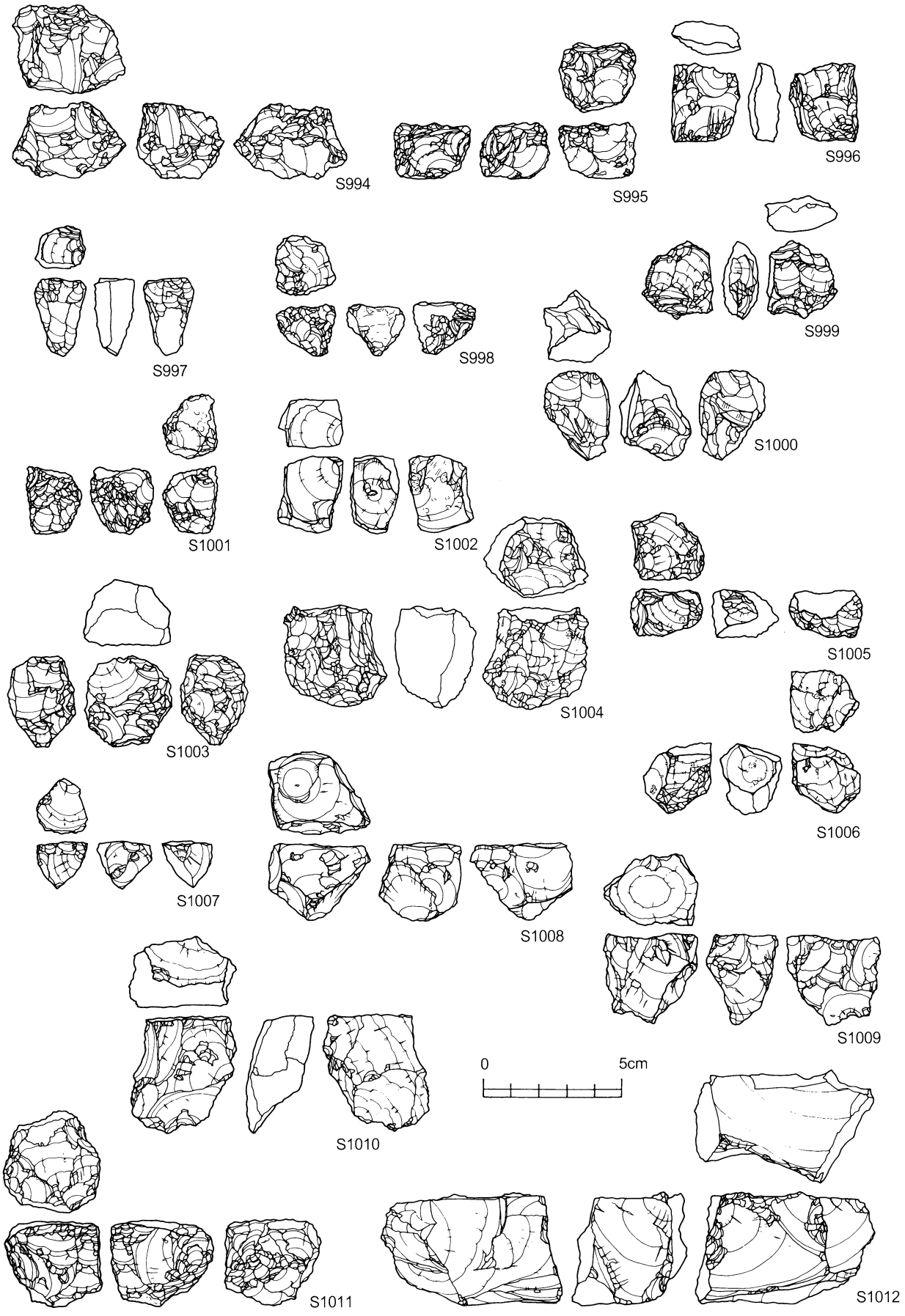
第60図　磨製石斧４



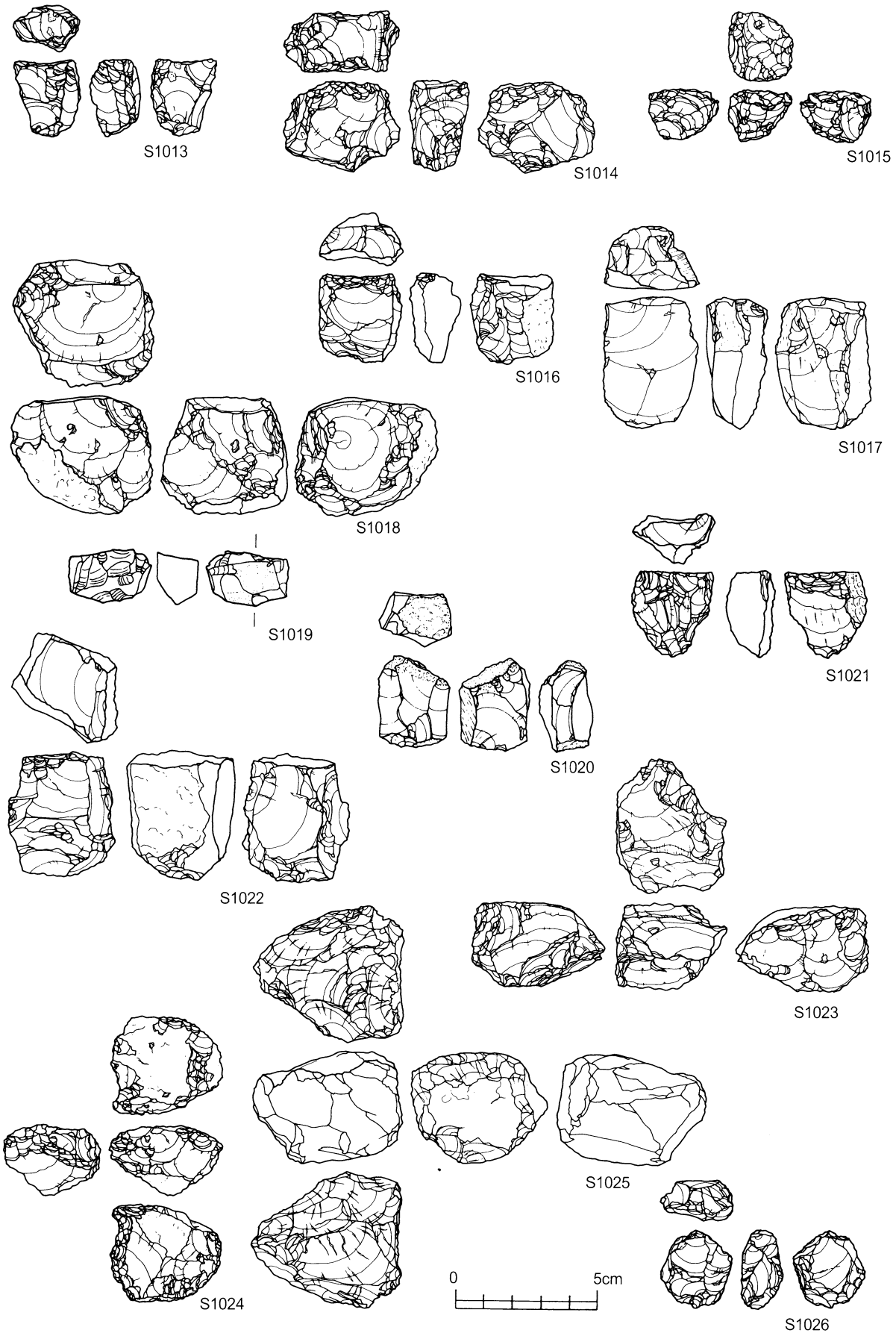
第61図　磨製石斧５



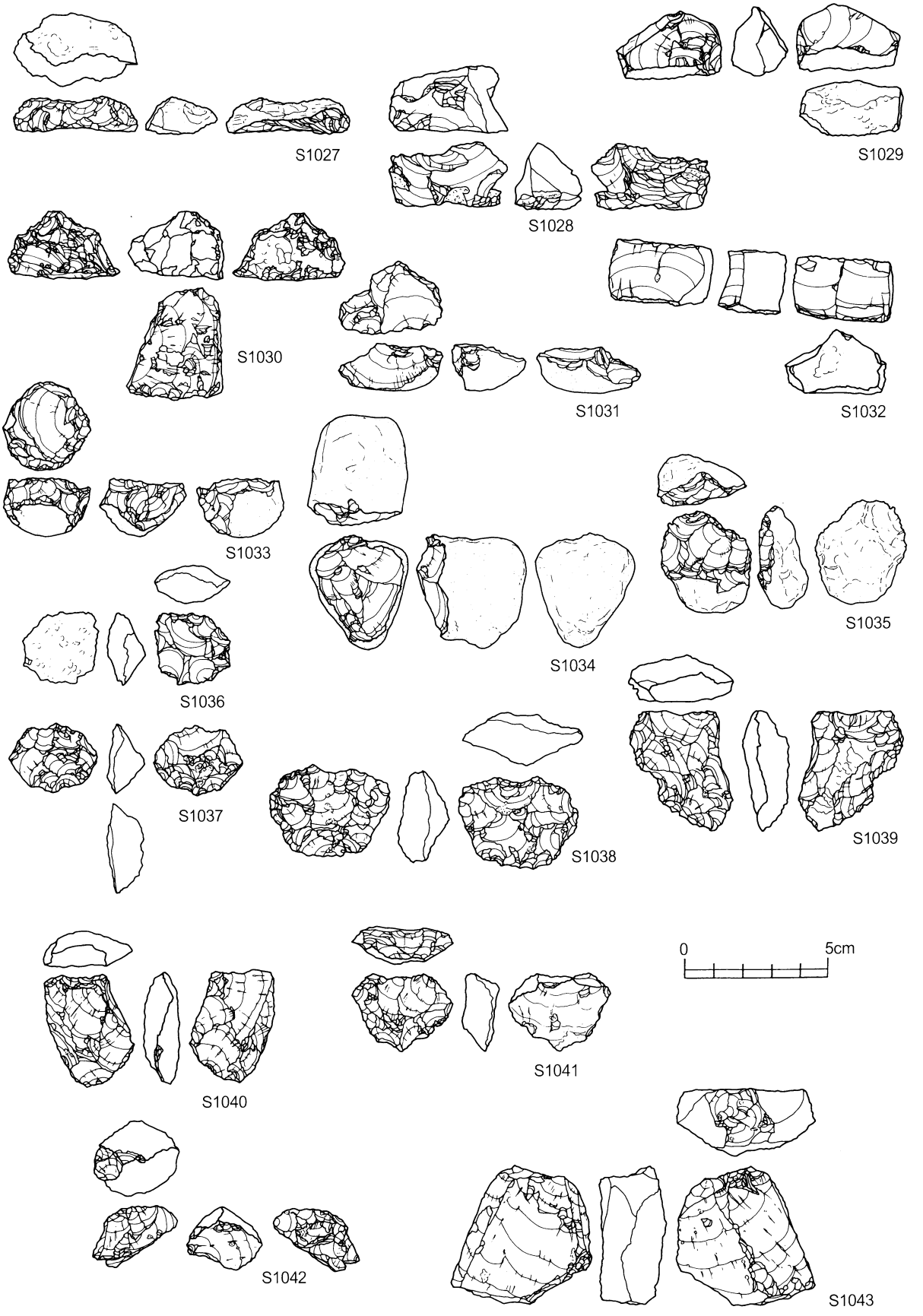
第62図　磨製石斧 6


S994
S995
S996
S997
S998
S999
S1000
S1001
S1002
S1003
S1004
S1005
S1006
S1007
S1008
S1009
S1010
S1011
S1012
0
5cm

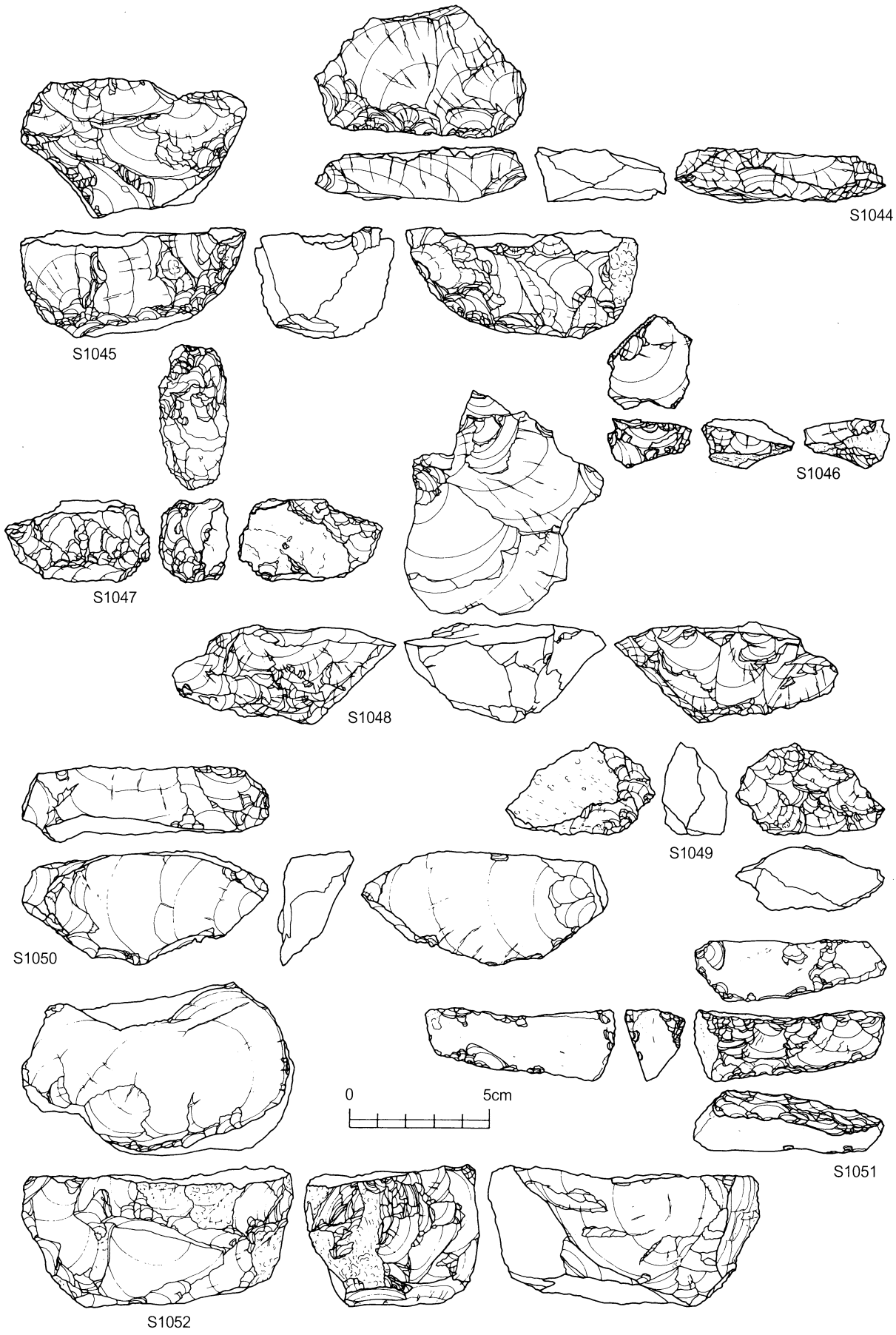
第63図　石 核1


S1013
S1014
S1015
S1016
S1017
S1018
S1019
S1020
S1021
S1022
S1023
S1024
S1025
S1026
0
5cm

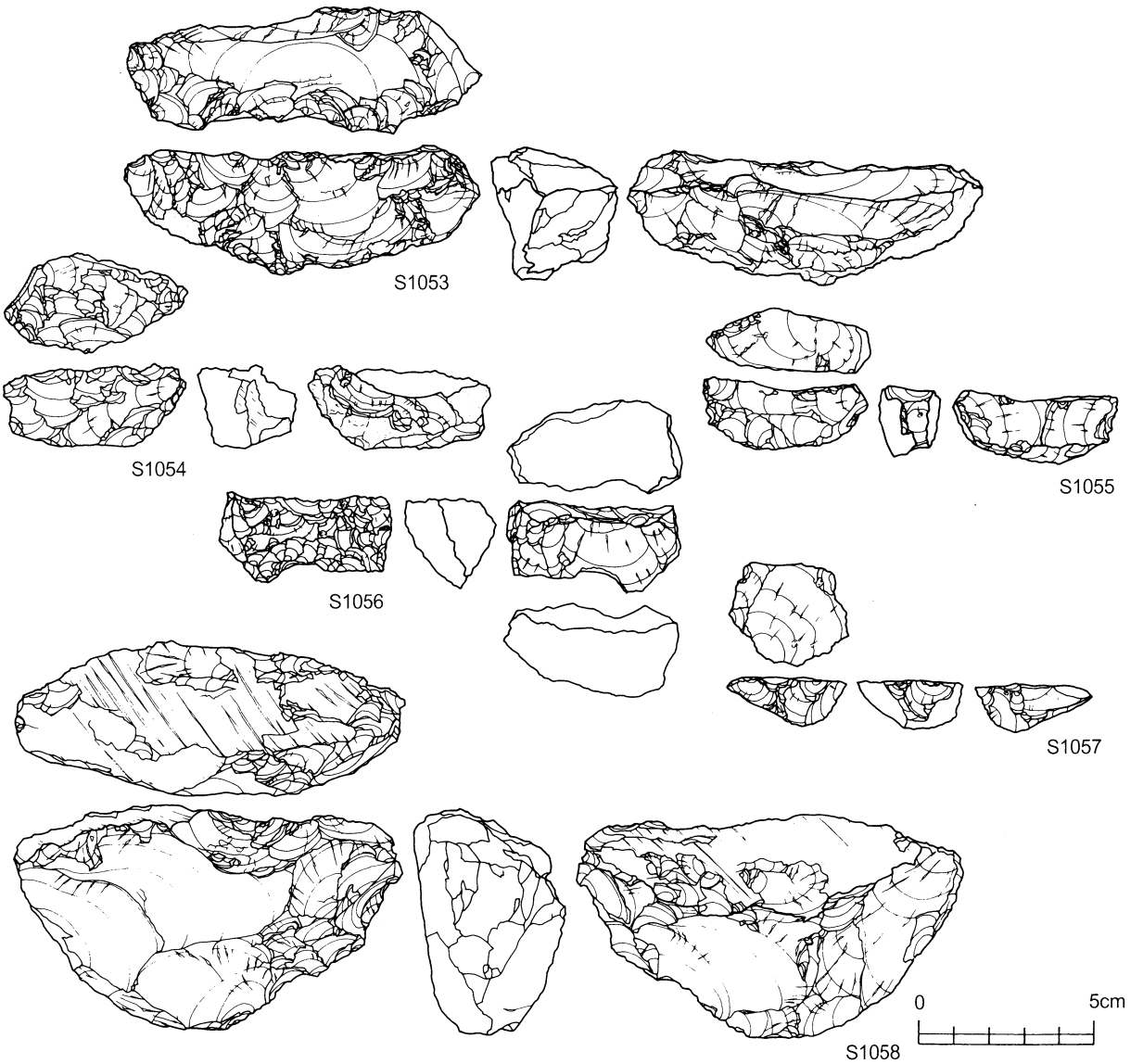
第64図　石 核 2


S1027
S1028
S1029
S1030
S1031
S1032
S1033
S1034
S1035
S1036
S1037
S1038
S1039
0
5cm
S1040
S1041
S1042
S1043

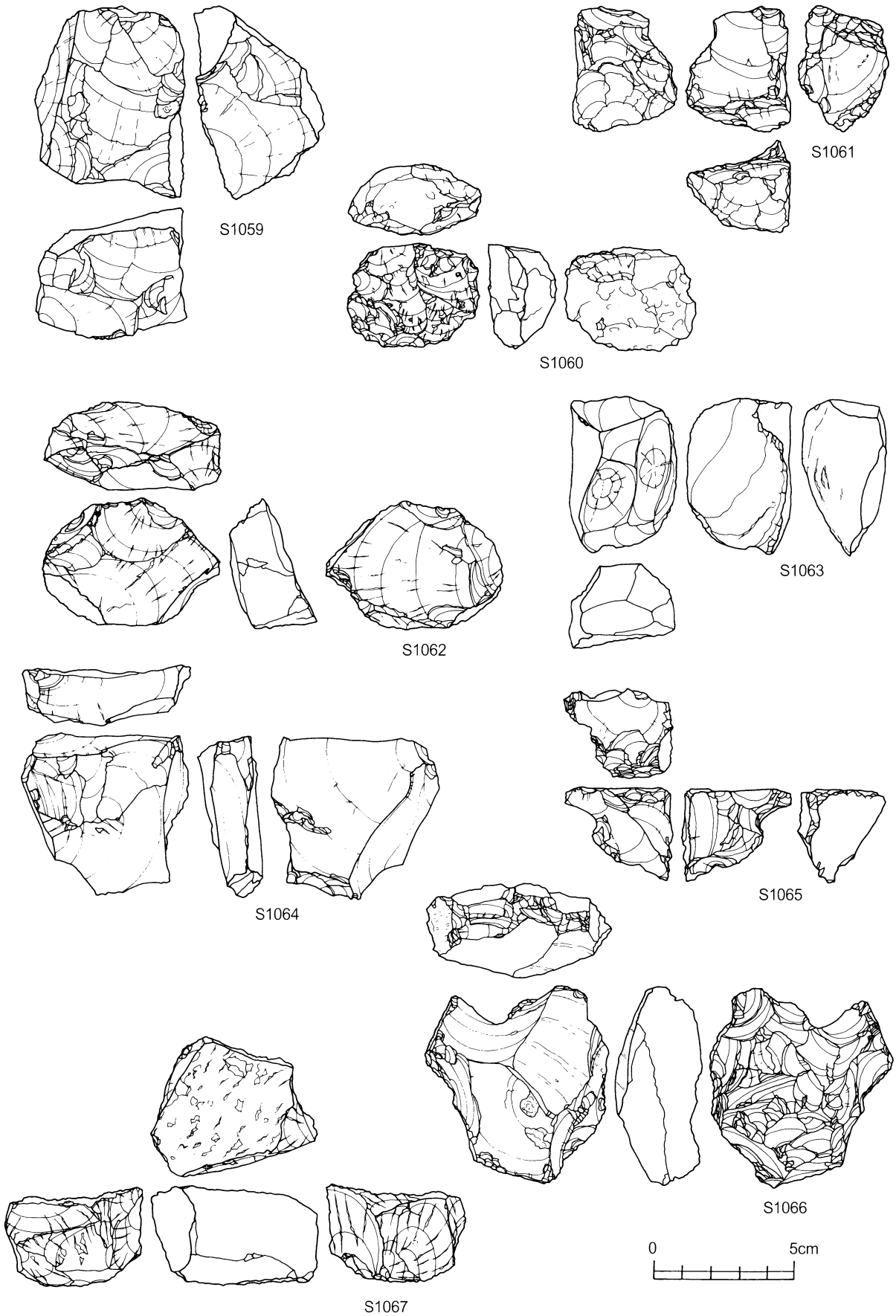
第65図　石 核3



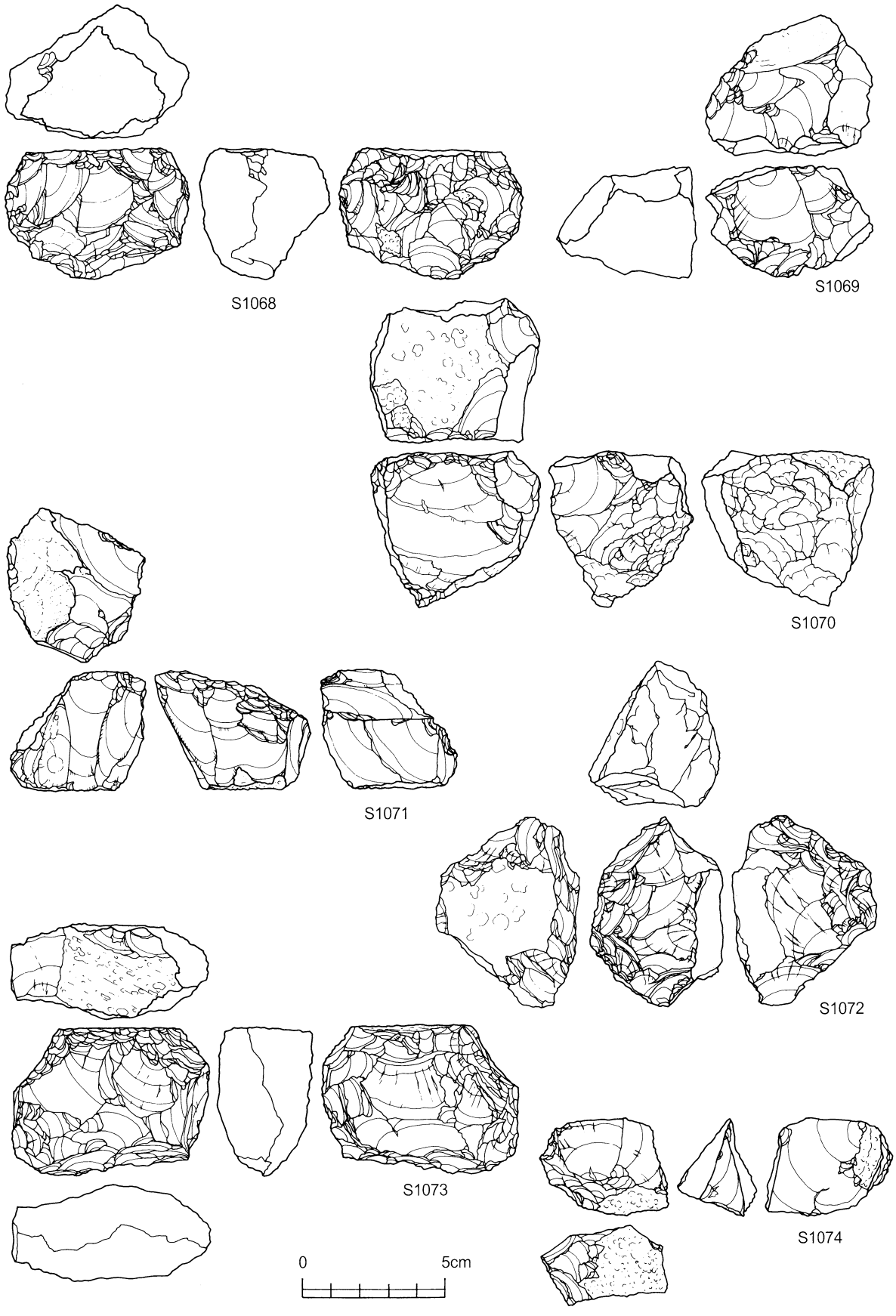
第66図　石 核４



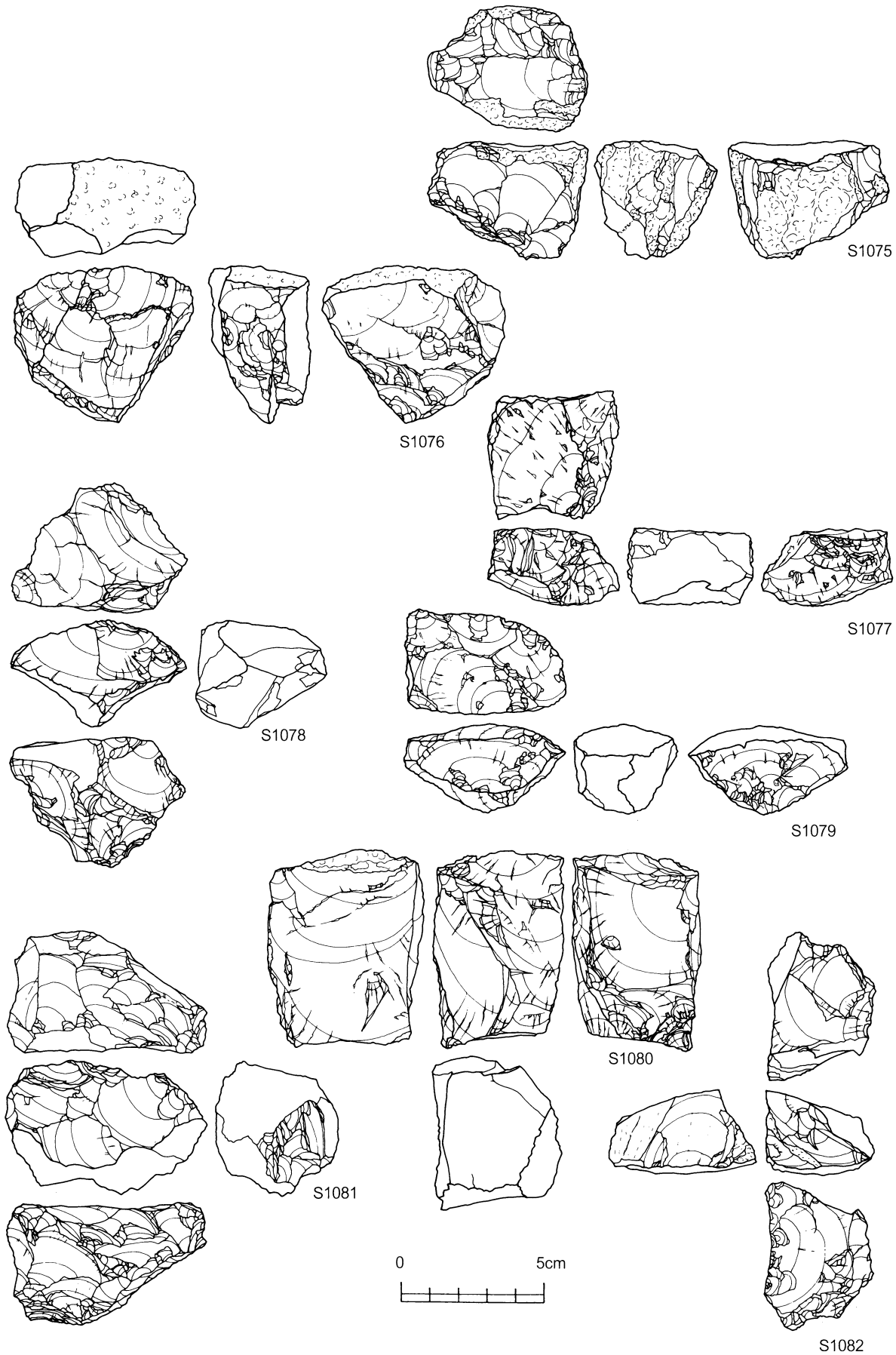
第67図　石 核5



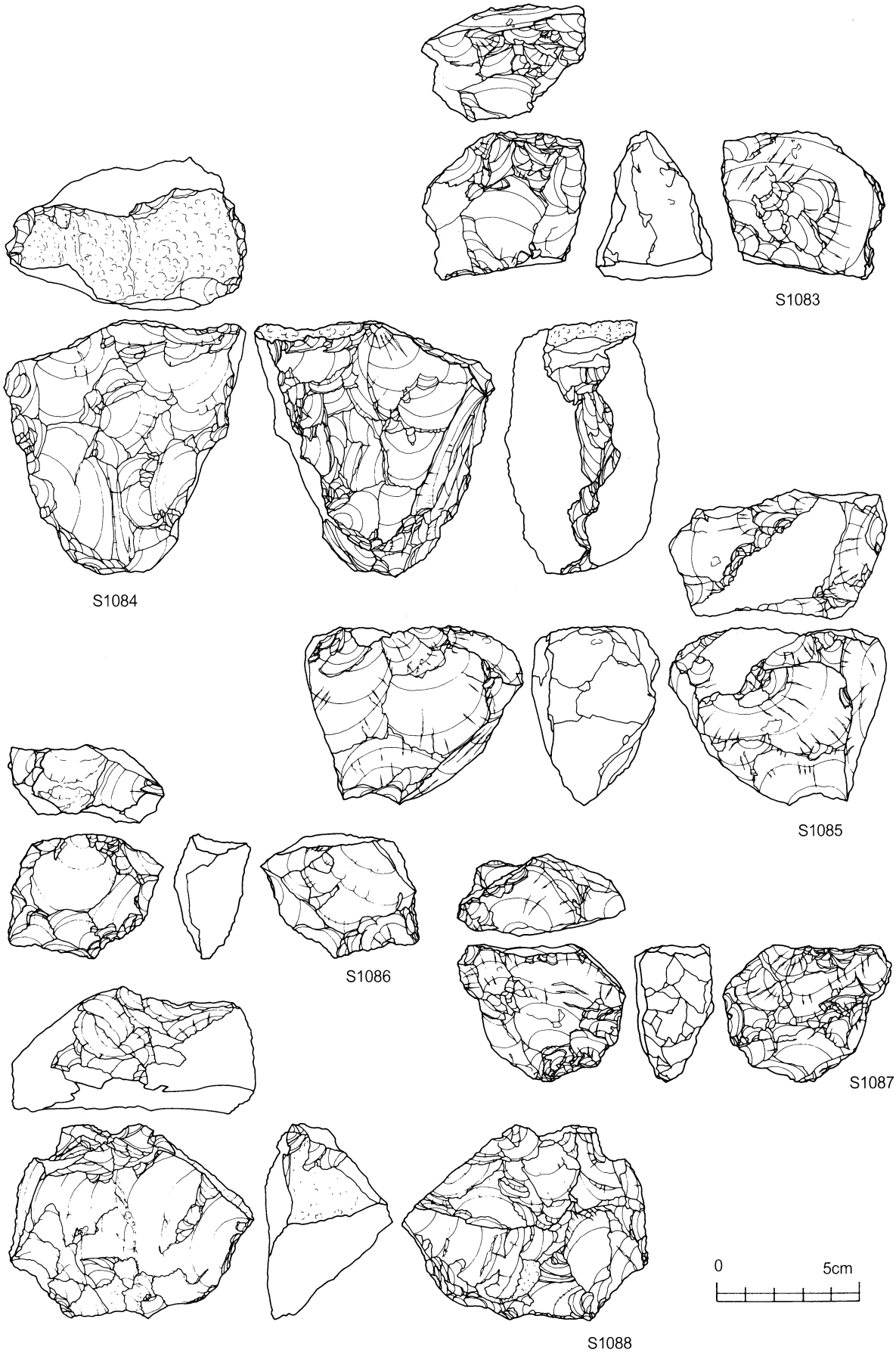
第68図　石 核 6



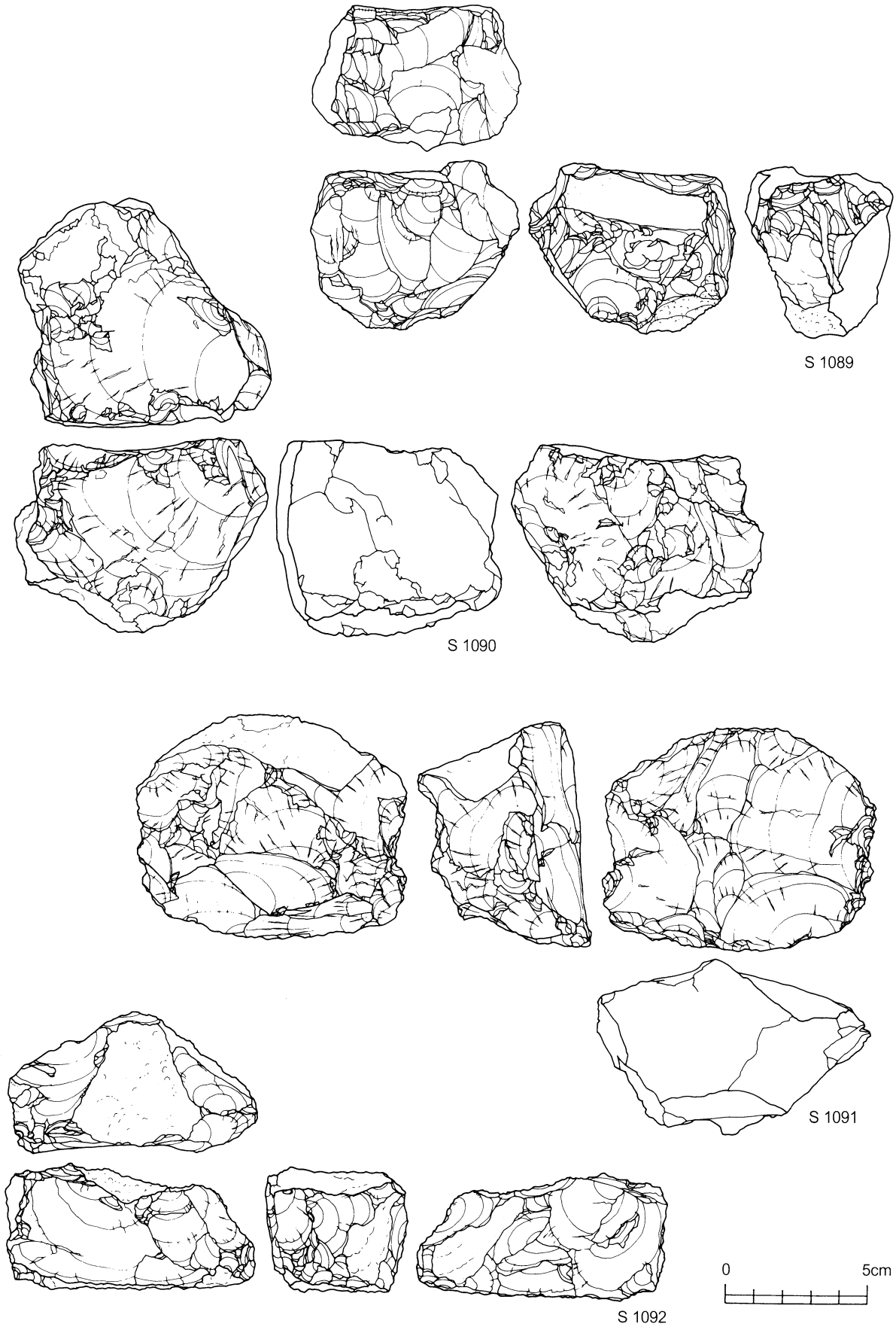
第69図　石 核7



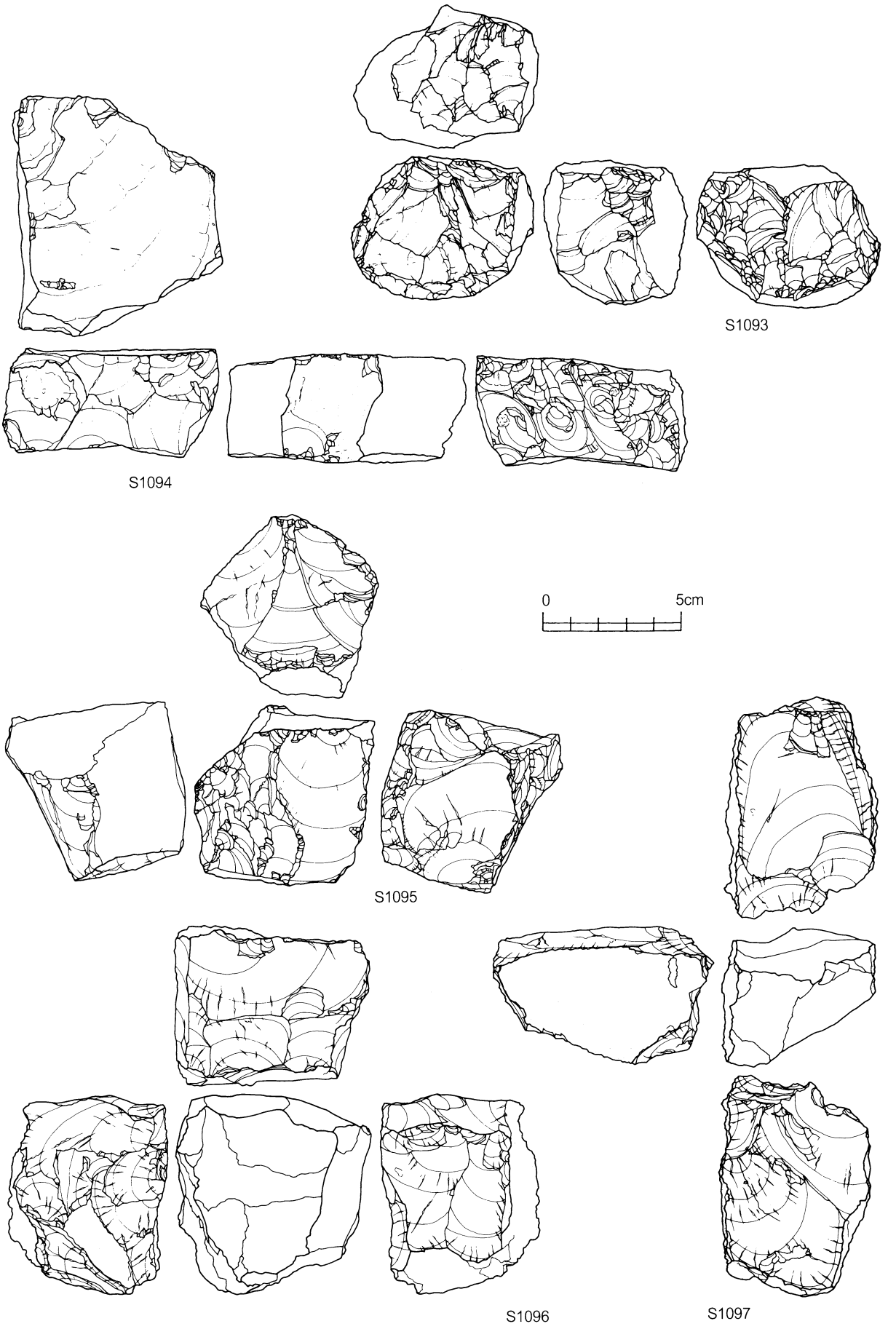
第70図　石 核8



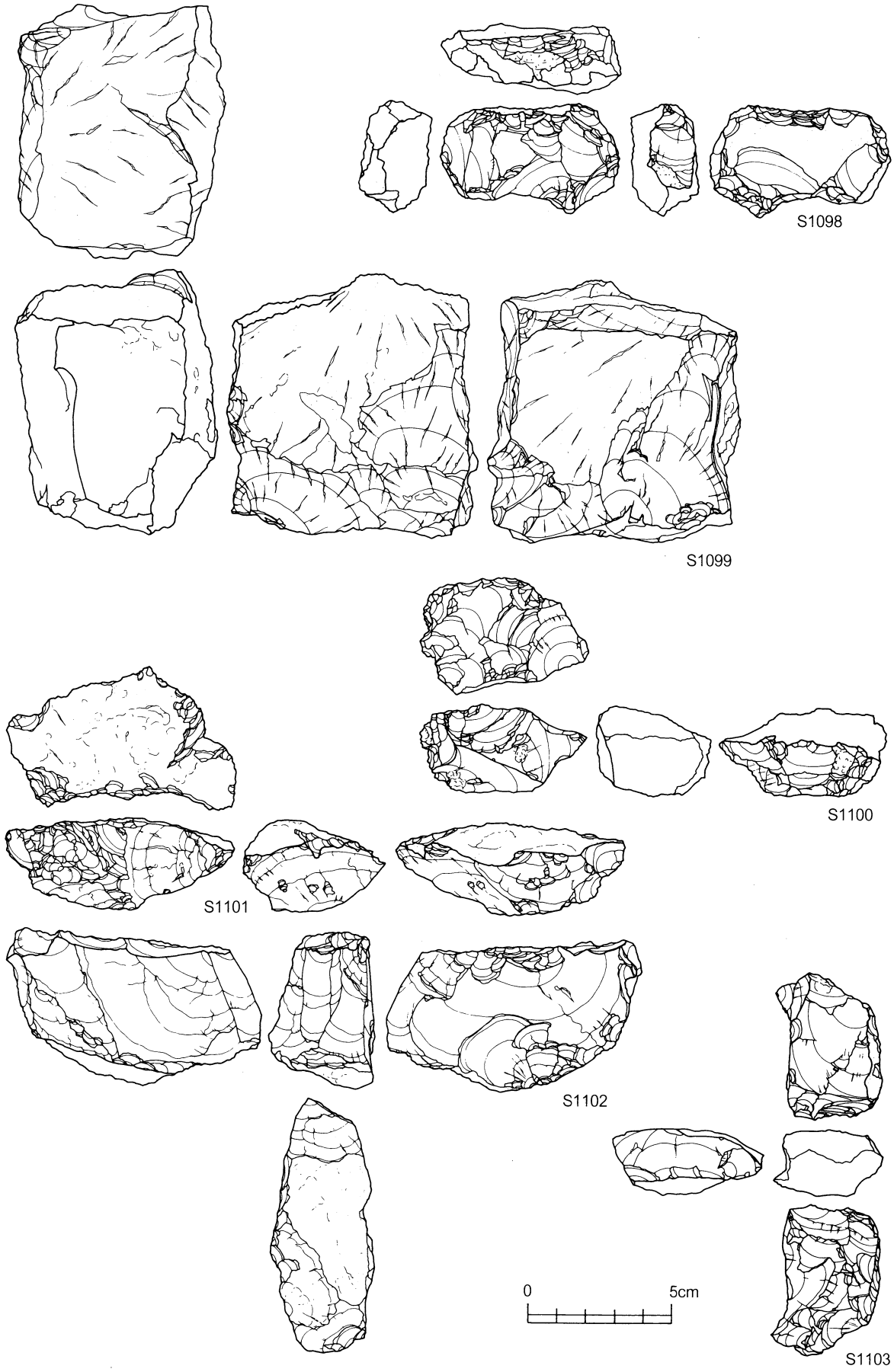
第71図　石 核9



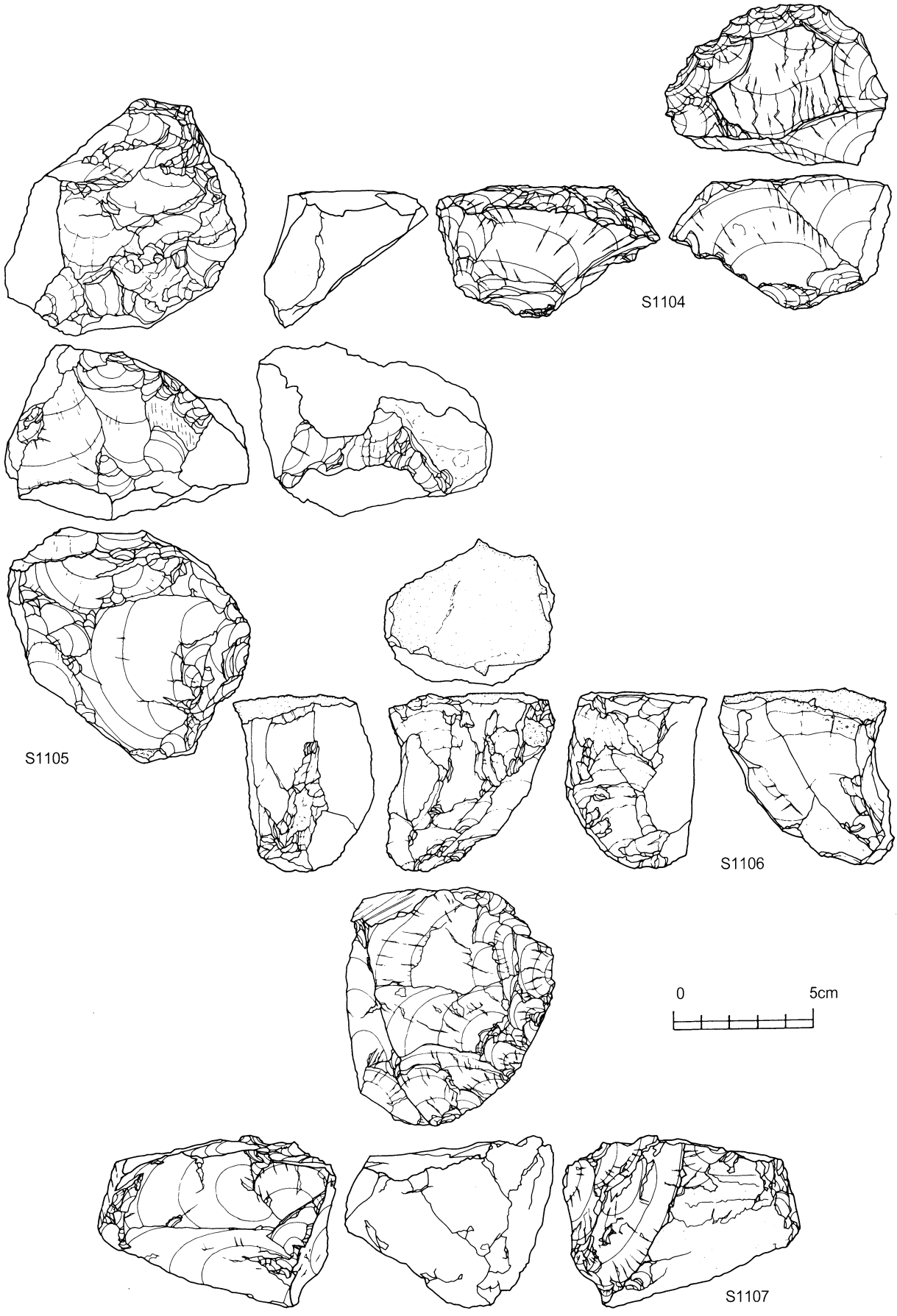
第72図　石 核10



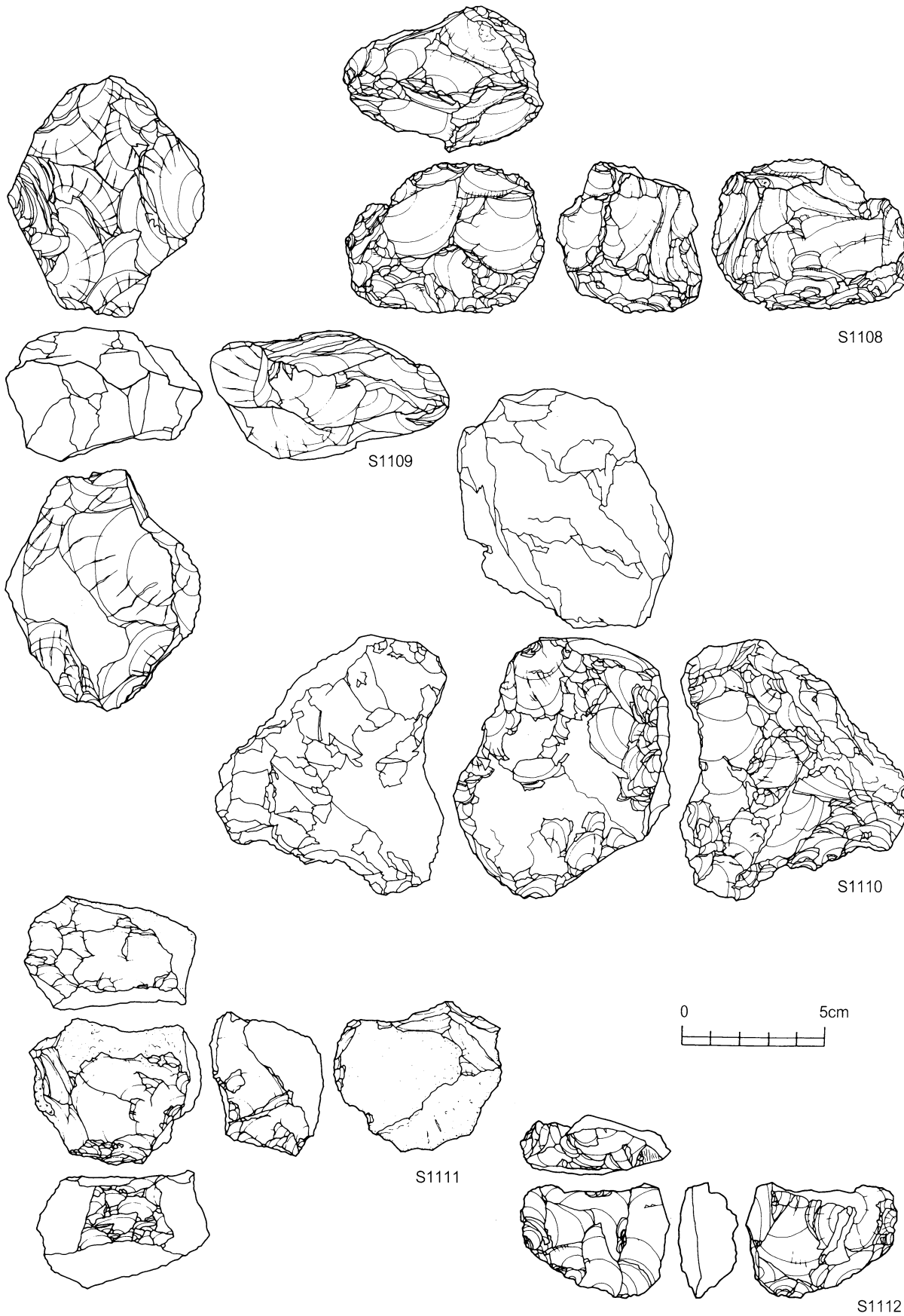
第73図　石 核11



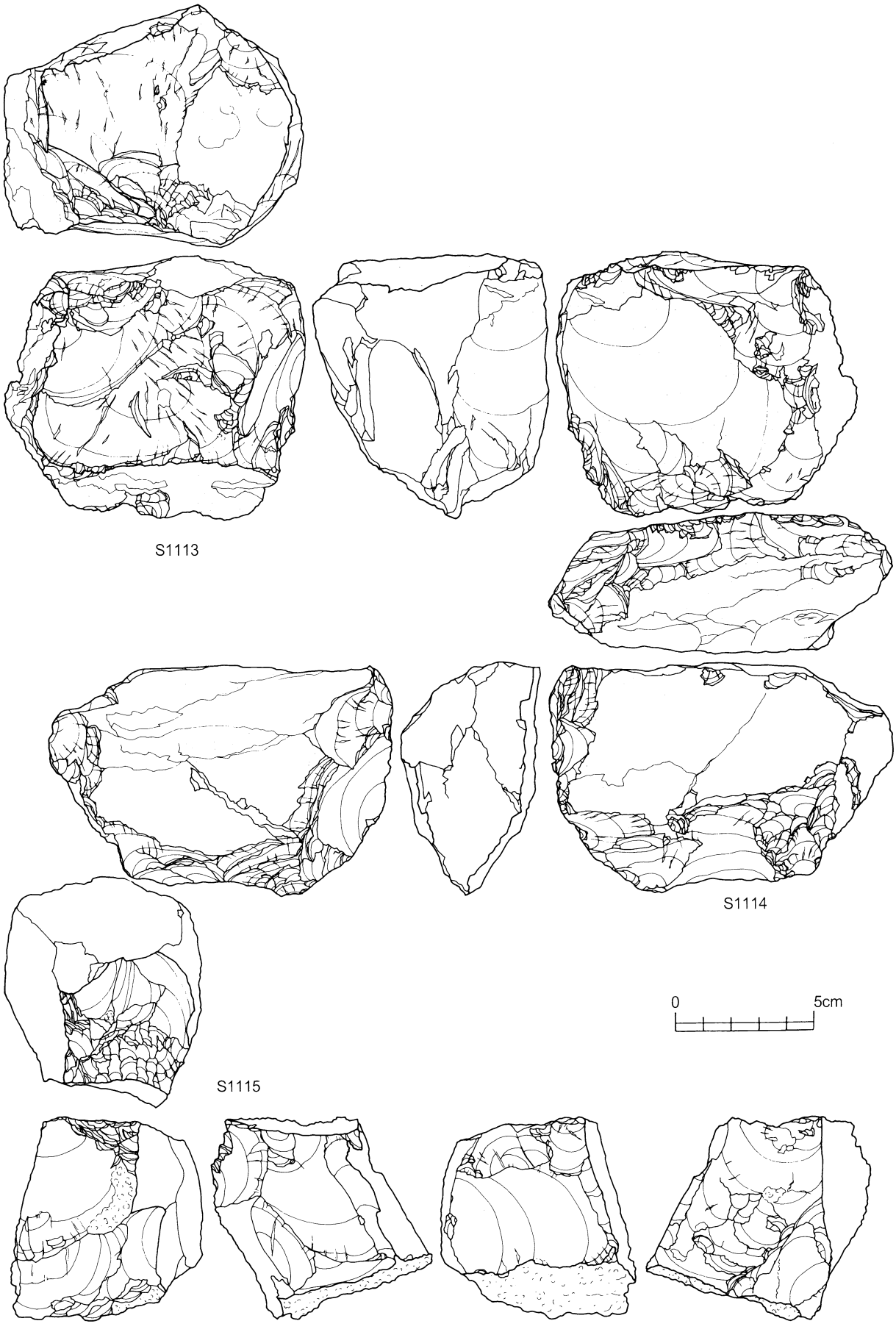
第74図　石 核12



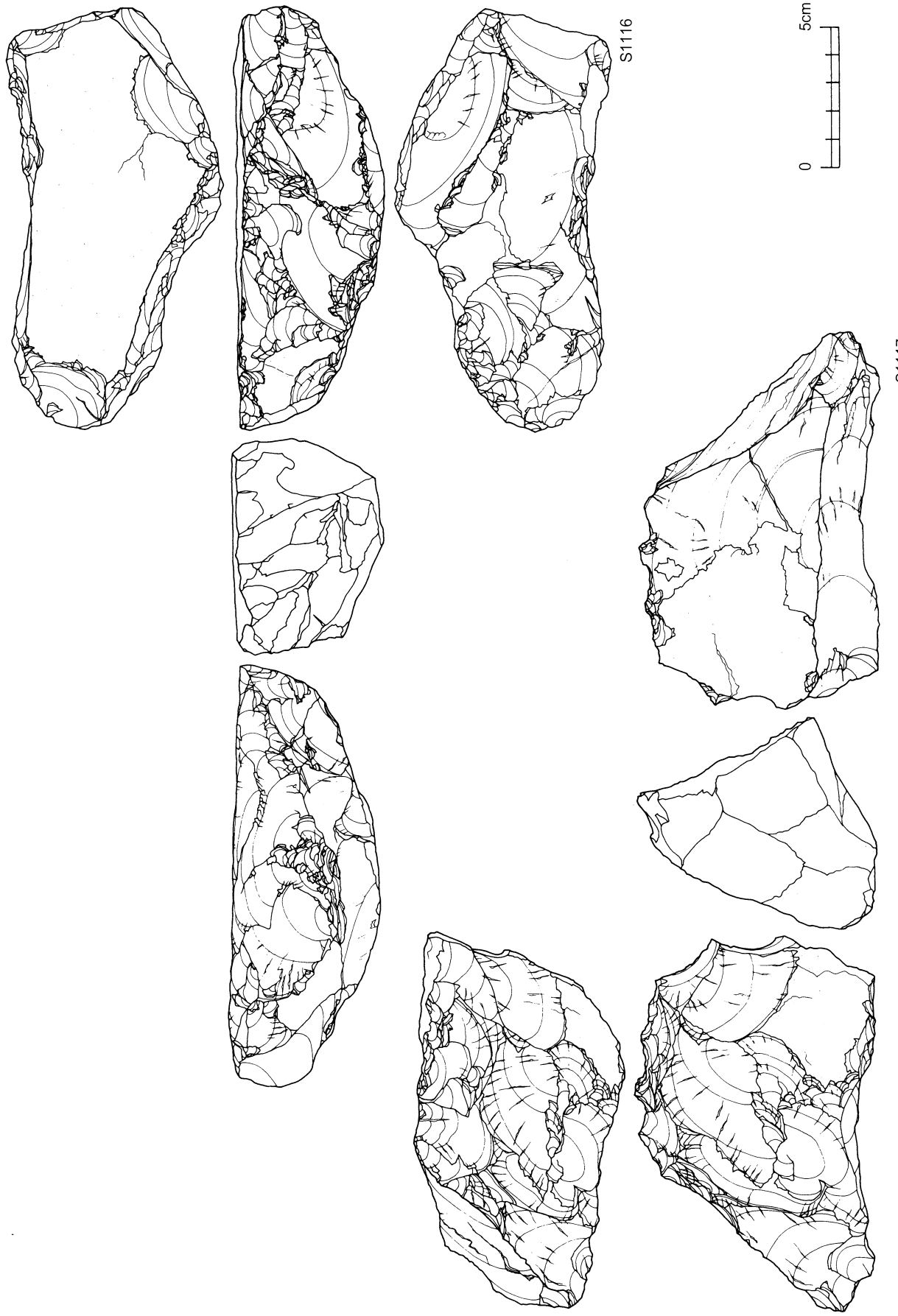
第75図　石 核13



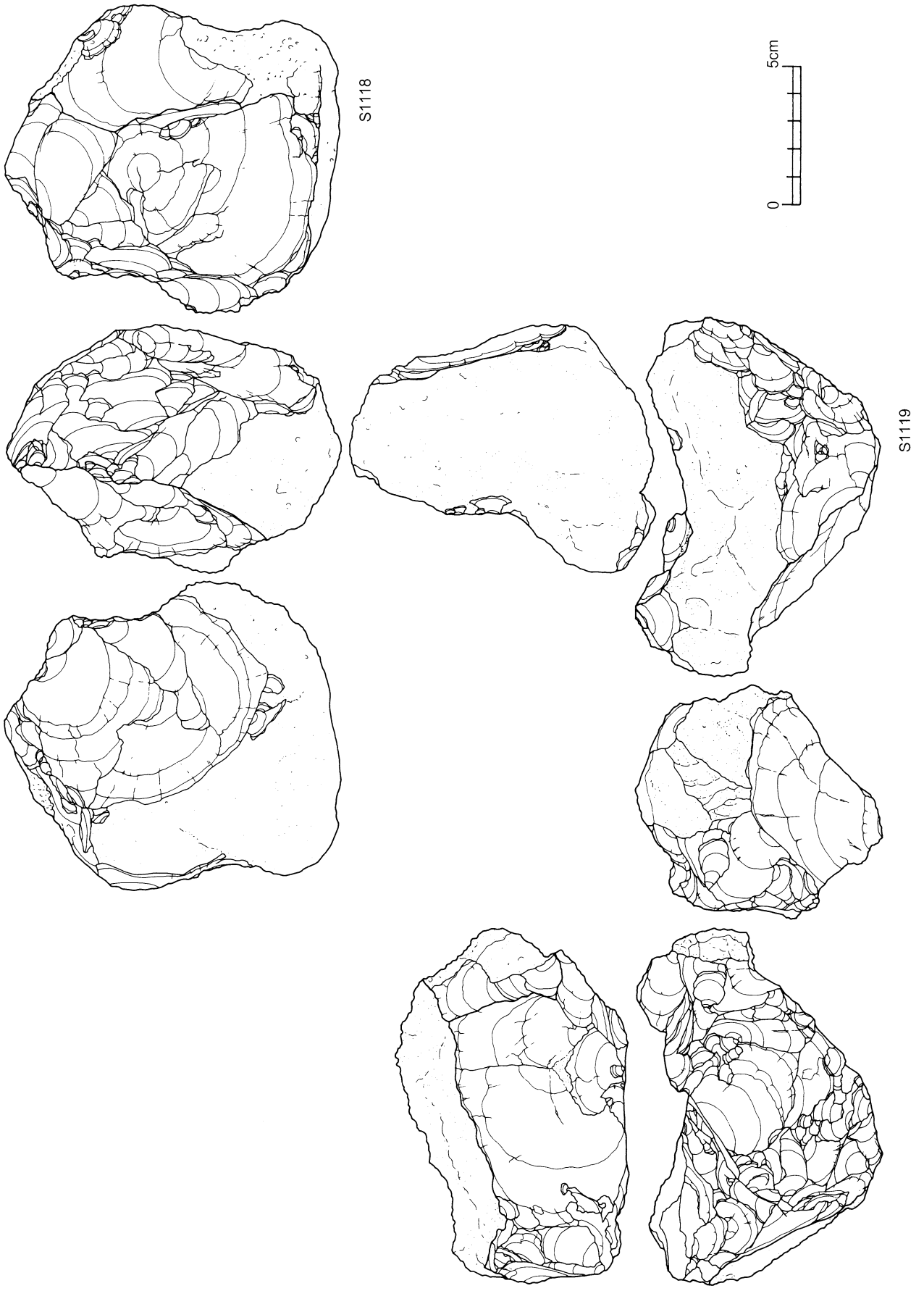
第76図　石 核14



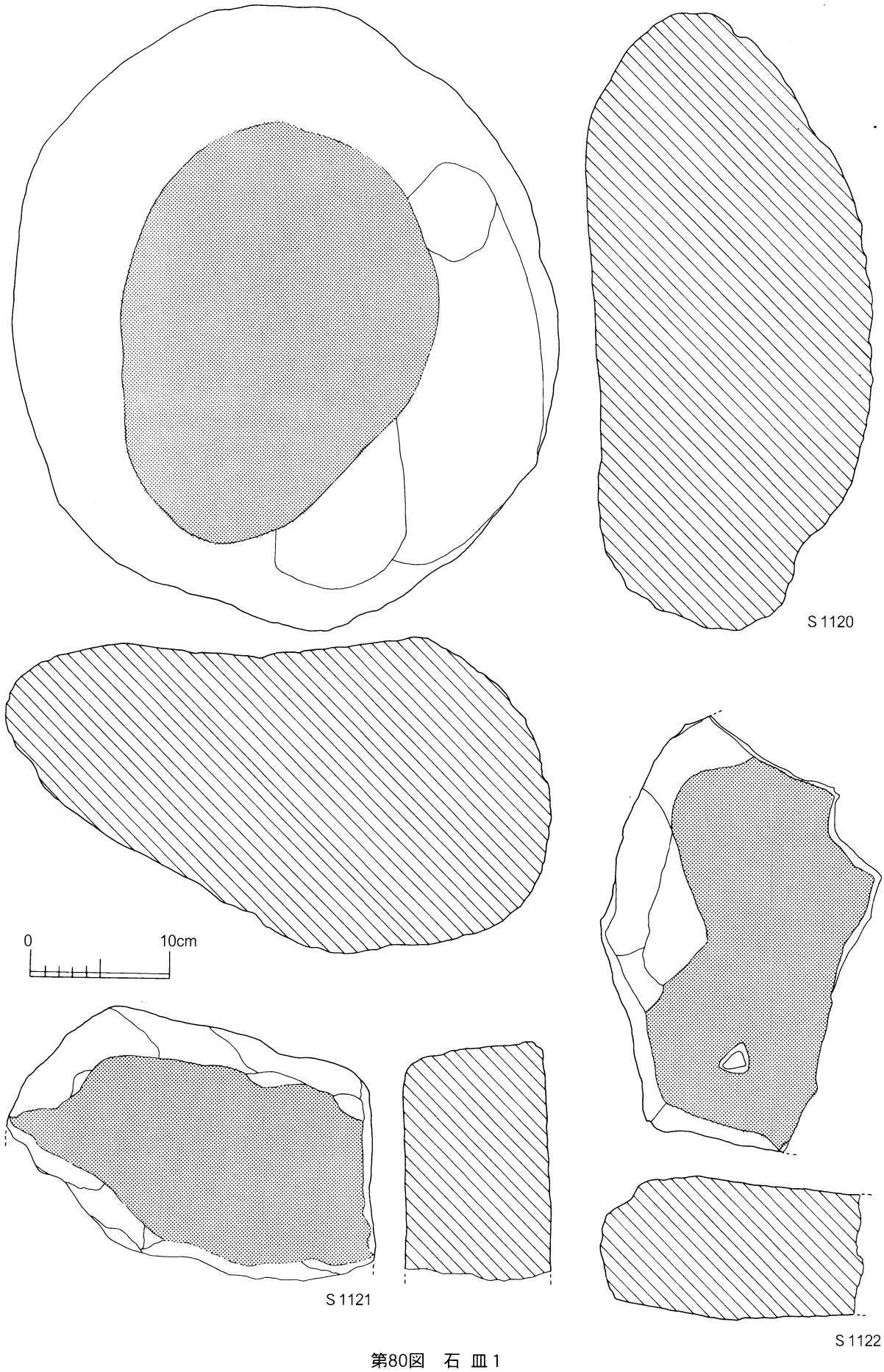
第77図　石 核15



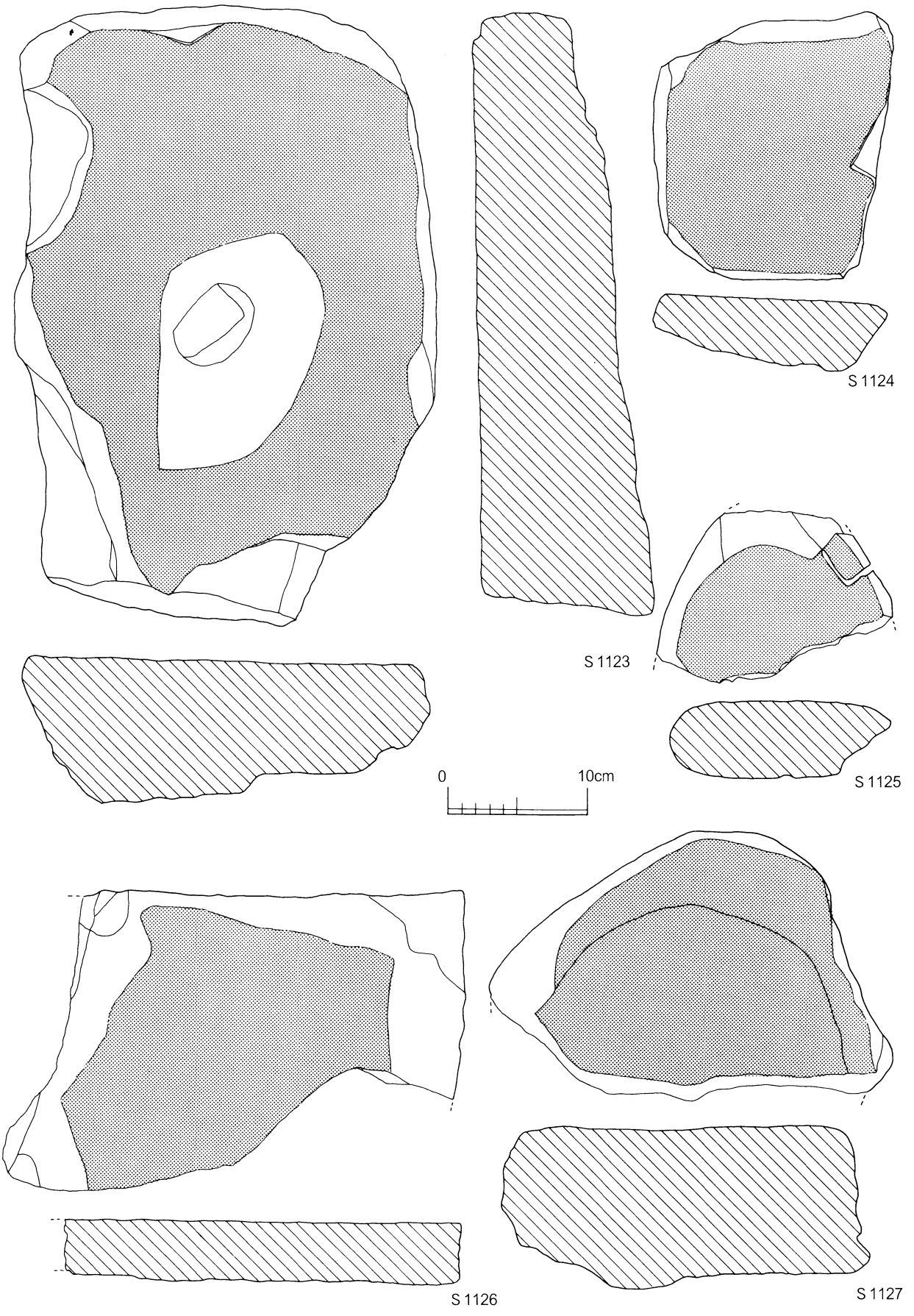
第78図　石 核16



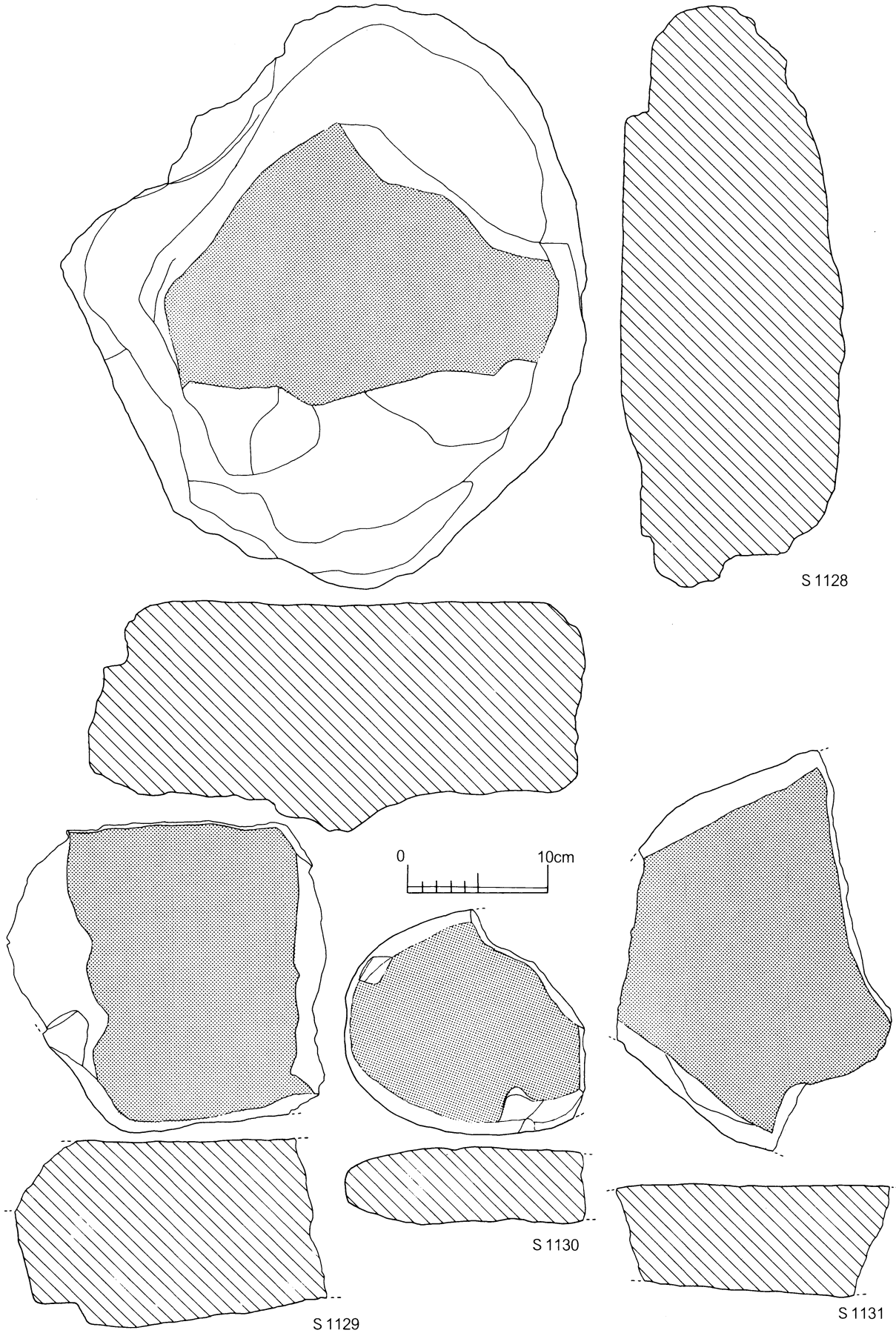
第79図　石 核17



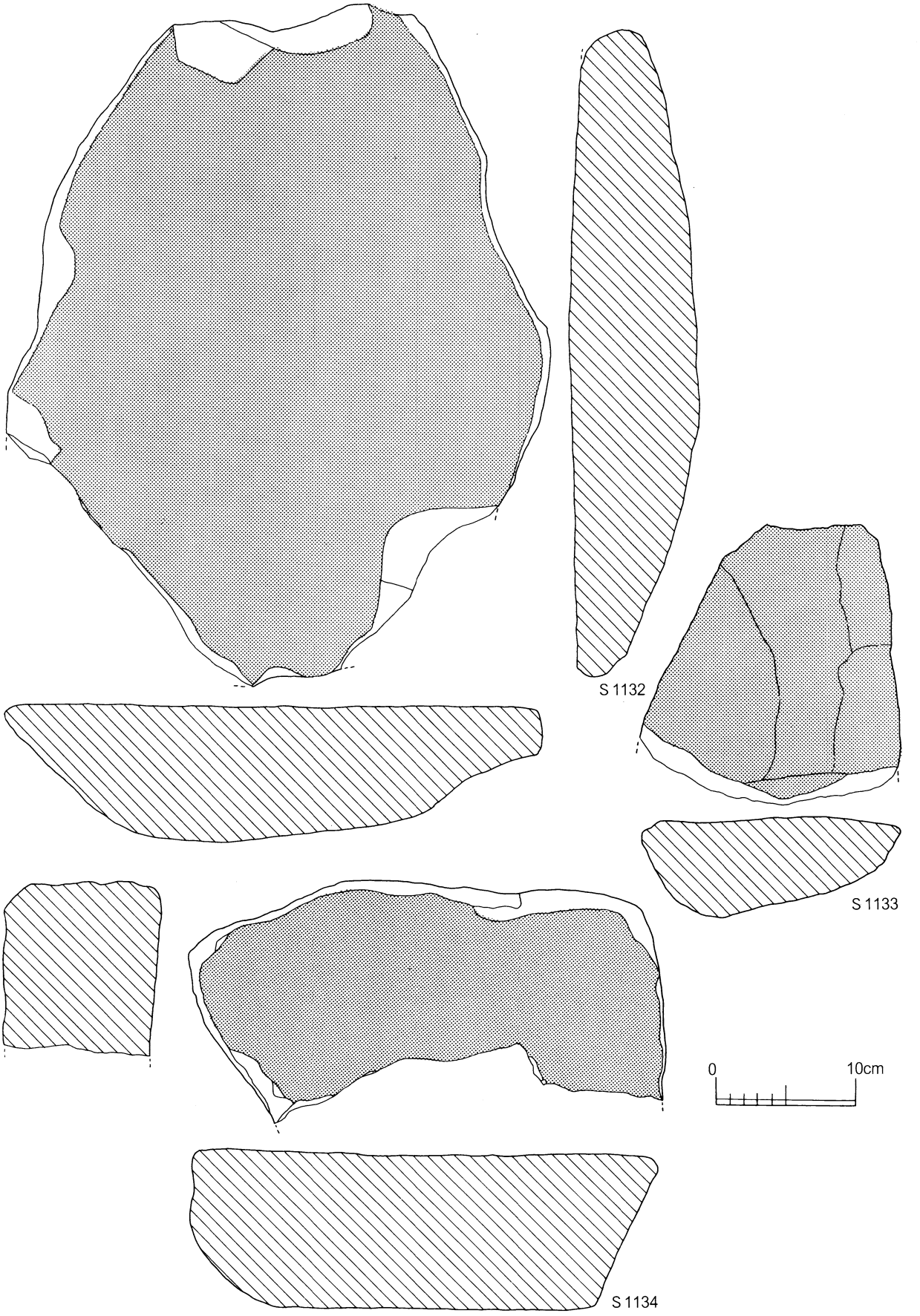
第80図　石 皿 1



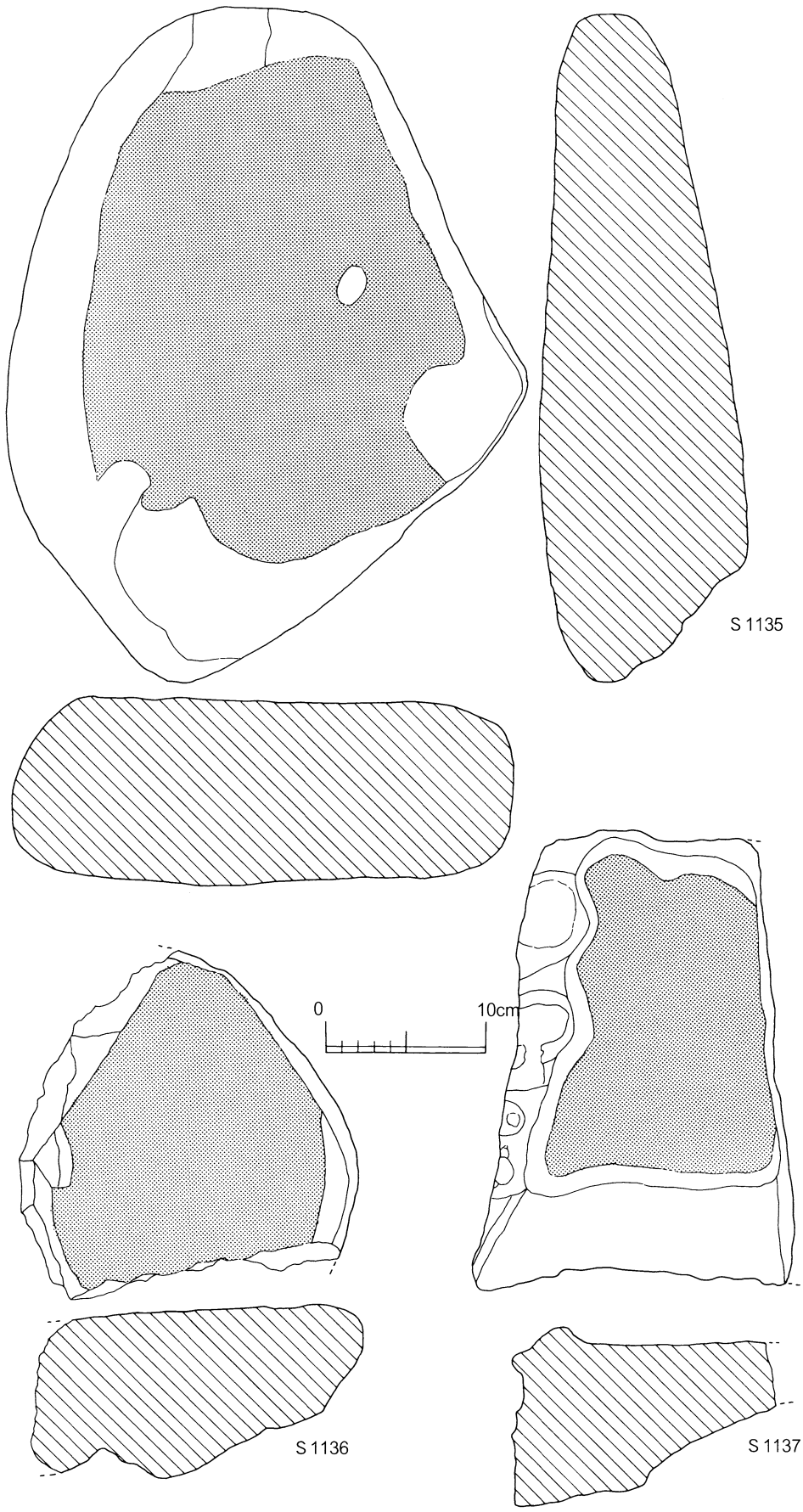
第81図　石 皿2



第82図　石 皿 3



第83図　石 皿 4



第84図　石 皿 5

番号	器種	出土区			層位	取上番号	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	図No.
		区	R	小区									
S1	石鏃	13G			表採		黒曜石	1.50	1.10	0.20	(0.38)		14
S2	〃	14G			V	22591	〃	1.60	(1.10)	0.30	(0.30)		
S3	〃	17J			Ⅳ		めのう	2.00	1.30	0.30	0.57		
S4	〃	16H			V	17957	流紋岩	1.80	1.30	0.20	0.51		
S5	〃	21F	R1	34		35807	黒曜石	2.00	1.20	0.40	0.53		
S6	〃	20E			Ⅵ	41484	めのう	1.70	1.30	0.40	0.57		
S7	〃	19F	R1				黒曜石	(1.50)	(0.80)	0.40	(0.37)		
S8	〃	13E			V		〃	1.60	1.30	0.30	0.49		
S9	〃	21F	R1	22		36786	〃	1.60	1.10	0.30	0.49		
S10	〃	18E			Ⅵ	35397	〃	1.40	1.30	0.30	0.51		
S11	〃	14G	R1	78		27676	〃	1.40	1.20	0.30	0.28		
S12	〃	21F	R1	15		36662	めのう	(1.40)	1.40	0.30	(0.44)		
S13	〃				表採			1.40	(1.10)	0.30	(0.36)		
S14	〃	14G	R1				黒曜石	1.50	1.20	0.30	0.30		
S15	〃	21D			V		〃	1.60	(1.10)	0.30	(0.32)		
S16	〃	14G	R1	84		27668	〃	1.60	1.11	0.20	0.31		
S17	〃	14H			V	22701	安山岩	1.40	1.70	0.30	0.50		
S18	〃	18F	R1	89		33432	めのう	1.60	1.90	0.30	0.51		
S19	〃	16G	R1	12		28541	〃	(1.40)	1.60	0.30	(0.45)		
S20	〃	22E					〃	1.80	1.60	0.30	0.65	畦	
S21	〃	19E			Ⅶ	41778	黒曜石	1.80	1.90	0.30	0.84		
S22	〃	22N	R2	54		38246	〃	1.80	2.20	0.50	1.02		
S23	〃	20J			V	42334	〃	1.90	1.80	0.40	0.97		
S24	〃	23M	R2				めのう	1.60	(1.40)	0.20	(0.45)		
S25	〃	19E			Ⅶ	41357	黒曜石	1.60	(1.50)	0.30	(0.48)		
S26	〃	19E			Ⅶ	41135	〃	1.60	1.40	0.30	0.53		
S27	〃	10T			Ⅲc	8	めのう	1.60	1.70	0.40	0.52		
S28	〃	18D			Ⅵ	35427	黒曜石	1.40	1.60	0.30	0.45		15
S29	〃	20F	R1	24		40837	〃	(1.40)	1.70	0.30	(0.60)		
S30	〃	14I			V	16794	〃	(1.60)	1.90	0.30	(0.97)		
S31	〃	18F	R1	93		32516	フリント	(1.60)	(1.60)	0.30	(0.56)		
S32	〃	21J			Ⅵ		めのう	1.80	1.90	0.30	0.81		
S33	〃	19D			Ⅵ	35023	〃	(1.60)	(1.70)	0.20	(0.85)		
S34	〃	18D			V		〃	(1.80)	(1.60)	0.30	(0.75)		
S35	〃	18F	R1				〃	1.60	1.60	0.30	0.45		
S36	〃	13E			V		〃	1.80	(1.60)	0.20	(0.67)		
S37	〃	14D					黒曜石	1.60	1.40	0.30	0.52		
S38	〃	13E			V	18728	めのう	2.00	1.80	0.30	1.23		
S39	〃	21F	R1	47		36813	黒曜石	1.80	1.90	0.20	0.86		
S40	〃	20F	R1	12		40830		(2.00)	2.10	0.40	(1.05)		
S41	〃	15G			V	20815	めのう	(1.90)	2.20	0.20	(1.33)		
S42	〃	21F	R1				黒曜石	(2.40)	(1.10)	0.40	(0.98)		
S43	〃	19E			Ⅶ	41362	〃	(2.00)	(1.50)	0.40	(0.90)		
S44	〃	18D			Ⅵ	30982	〃	(1.70)	1.40	0.50	(0.71)		
S45	〃	19C			Ⅵ		〃	(2.00)	(1.00)	0.30	(0.46)		
S46	〃	14G	R1				〃	2.20	(1.70)	0.40	(0.92)		
S47	〃	18M			ⅢⅣ		〃	(1.80)	(1.20)	0.40	(0.67)		
S48	〃	14J			Ⅲ			(2.10)	(1.20)	0.30	(0.88)		
S49	〃	21F	R1				黒曜石	(2.30)	(1.60)	0.40	(1.20)		
S50	〃	20F	R1	66		39173	流紋岩	2.10	1.60	0.20	(0.56)		
S51	〃	18L			Ⅲ			(2.00)	1.60	0.30	(0.71)		
S52	〃							(1.60)	(0.80)	0.40			
S53	〃	22K	R2				チャート	2.10	1.70	0.30	0.93		
S54	〃	18D			Ⅵ	30900	流紋岩	2.30	1.50	0.20	0.61		
S55	〃	20F	R1				黒曜石	(2.00)	(1.20)	0.30	(0.58)	溝	
S56	〃	6T			Ⅱ		チャート	(2.30)	(1.50)	0.40	(1.08)		
S57	〃	15G	R1				〃	(1.80)	1.50	0.30	(0.68)		
S58	〃							(2.10)	1.80	0.40	(1.19)		
S59	〃	17D				35136		(1.80)	1.70	0.30	(0.96)		
S60	〃	13G						(2.00)	(1.80)	0.50	(0.92)		

第９表　石器観察表1

番号	器種	出土区 区	出土区 R	出土区 小区	層位	取上番号	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	図No.
S61	石鏃	21O	R2	9		38752	黒曜石	1.80	1.80	0.40	0.86		15
S62	〃	20F	R1	43		38806	めのう	2.20	(1.50)	0.30	(0.95)		
S63	〃	21F	R1	77		37396	黒曜石	(1.80)	2.00	0.40	(1.07)		
S64	〃	15G	R1	69		27472	〃	(2.20)	1.80	0.40	(1.09)		
S65	〃	20L			V		安山岩	2.20	(1.50)	0.30	(0.90)		
S66	〃	14G			V			(2.10)	(1.40)	0.30	(0.64)		
S67	〃	16G	R1	65		28437	めのう	2.20	1.60	0.60	1.48		
S68	〃	19J			V			(1.70)	1.70	0.30	(0.70)		
S69	〃	21F	R1	38		35814	めのう	(1.80)	1.80	0.30	(0.85)		
S70	〃	21F	R1	34		35808	〃	(1.70)	1.80	0.30	(0.87)		
S71	〃	18M			Ⅳ	34115	〃	1.80	1.40	0.30	0.68		
S72	〃	12E			V		〃	(2.00)	(1.80)	0.30	(0.95)		
S73	〃	15H	R1	4		28378		2.20	1.50	0.50	1.07		
S74	〃	13H	R1				めのう	1.70	1.70	0.40	0.64		
S75	〃	22N	R2				黒曜石	(2.20)	(1.70)	0.40	(1.16)		
S76	〃	15G	R1	70		28197	〃	(2.00)	1.40	0.50	(0.97)		
S77	〃	14D				31986	めのう	2.60	(1.20)	0.30	(0.72)		16
S78	〃	23K			Ⅱ			2.30	1.70	0.40	(1.53)		
S79	〃	12D			Ⅵ	29891	めのう	2.40	1.40	0.30	0.68		
S80	〃	14G			V		フリント	3.30	(1.60)	0.30	(0.99)		
S81	〃	16G			Ⅰ			2.80	(1.00)	0.30	(1.06)		
S82	〃	15G	R1	12		26913	黒曜石	2.60	1.40	0.40	0.89		
S83	〃	15I			Ⅳ		〃	(3.10)	(1.10)	0.30	(1.00)		
S84	〃				表採		めのう	2.80	2.00	0.40	1.46		
S85	〃	21I			Ⅲ		黒曜石	1.80	2.00	0.30	0.60		
S86	〃	14G			V	9192	めのう	2.00	2.00	0.30	0.93		
S87	〃	19M			V		黒曜石	(1.50)	1.60	0.30	(0.58)		
S88	〃	20F	R1				チャート	1.70	(1.10)	0.20	(0.23)		
S89	〃	17J			Ⅳc		めのう	1.90	1.60	0.30	0.79		
S90	〃	18F	R1				〃	(1.50)	1.90	0.30	(0.60)		
S91	〃	16G				24130	〃	(1.50)	(1.50)	0.30	(0.69)	溝	
S92	〃	20E			Ⅵ	43033	チャート	(1.90)	(1.40)	0.30	(0.80)		
S93	〃	18E			V	30470	めのう	2.00	(1.10)	0.20	(0.43)		
S94	〃	20F	R1				フリント	(1.90)	(1.40)	0.40	(0.51)		
S95	〃	16F			V		黒曜石	1.90	1.40	0.30	0.56		
S96	〃	20L			V		〃	2.00	(1.80)	0.50	(0.97)		
S97	〃	12E			V	19666		1.80	1.50	0.20	0.39		
S98	〃	20D			Ⅰ		めのう	2.60	1.90	0.40	1.39		
S99	〃	21E			V		流紋岩	2.20	(1.90)	0.30	(1.00)		
S100	〃	15G	R1			26041	チャート	(2.00)	1.70	0.30	(0.83)		
S101	〃				表採		黒曜石	(1.70)	2.00	0.40	(0.91)		
S102	〃	18E			V	30305	めのう	(1.70)	1.80	0.40	(0.84)		
S103	〃							2.40	1.60	0.40			
S104	〃							2.20	1.40	0.50			
S105	〃				V		めのう	(2.40)	(1.60)	0.30	(0.96)		
S106	〃				表採		〃	(1.80)	2.10	0.20	(0.92)		
S107	〃				V	37778	〃	(2.00)	2.00	0.20	(0.98)		
S108	〃				V	30384	〃	2.10	1.70	0.30	0.68		
S109	〃				Ⅵ	29579	〃	2.50	2.00	0.40	1.62		
S110	〃				Ⅳ	670	〃	(2.30)	(2.40)	0.40	(2.11)		
S111	〃				Ⅲ		〃	2.30	(1.50)	0.30	(0.84)		
S112	〃				V	22428	チャート	(2.70)	(1.50)	0.30	(0.94)		
S113	〃		R1				フリント	2.70	(1.50)	0.30	(0.92)		
S114	〃				Ⅳ	34148	〃	(2.20)	1.90	0.60	(1.06)		
S115	〃		R2				めのう	2.30	(1.50)	0.30	(0.92)		
S116	〃				V	5586	〃	2.10	1.60	0.40	0.85		
S117	〃						〃	2.40	(1.30)	0.30	(0.64)	溝	
S118	〃				V	22753	〃	(2.20)	(1.70)	0.50	(1.17)		
S119	〃						流紋岩	2.40	1.80	0.40	0.86		
S120	〃					35327	めのう	(2.40)	(1.70)	0.30	(1.06)		

第10表　石器観察表２

番号	器種	出土区			層位	取上番号	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	図No.
		区	R	小区									
S121	石鏃				Ⅴ	17918	めのう	(2.10)	(1.30)	0.40	(0.65)		16
S122	〃		R1				〃	(1.70)	1.70	0.30	(1.02)		
S123	〃		R1	14		24876	黒曜石	(2.20)	1.80	0.40	(1.29)		17
S124	〃				Ⅴ	42672	流紋岩	(2.40)	(1.40)	0.30	(0.87)		
S125	〃				Ⅴ	34974	黒曜石	2.50	(1.60)	0.40	(1.39)		
S126	〃		R1	47		35841	めのう	2.30	(1.70)	0.60	(1.35)		
S127	〃				Ⅳ		フリント	2.10	1.90	0.60	1.80		
S128	〃				表採		黒曜石	2.10	1.80	0.40	1.13		
S129	〃		R1				めのう	(2.00)	1.70	0.30	(1.07)		
S130	〃				Ⅴ		黒曜石	(2.50)	(1.70)	0.40	(1.18)		
S131	〃				Ⅴ	25430	〃	2.20	(1.40)	0.40	(1.11)		
S132	〃				Ⅴ	9103	〃	2.40	1.70	0.40	1.06		
S133	〃				Ⅵ	35392	めのう	2.10	1.80	0.30	0.62		
S134	〃		R1				〃	2.50	(1.10)	0.30	(0.83)		
S135	〃						〃	2.70	(1.50)	0.30	(1.11)		
S136	〃				Ⅲ		〃	2.10	1.50	0.30	1.05		
S137	〃				Ⅲ		〃	2.50	1.70	0.40	1.30		
S138	〃		R1	56		36039	〃	2.10	1.90	0.30	1.02		
S139	〃				Ⅲb	16	〃	2.70	(1.70)	0.30	(1.57)		
S140	〃							3.90	1.60	0.40			
S141	〃				Ⅴ	15912	黒曜石	2.20	1.70	0.30	0.85		
S142	〃						〃	2.20	1.60	0.50	1.04	暗茶褐色土	
S143	〃				Ⅴ		フリント	2.60	1.60	0.40	1.13		
S144	〃				Ⅵ	34515	めのう	2.70	1.80	0.40	1.72		
S145	〃						流紋岩	2.50	(1.30)	0.40	(0.70)	黒褐色土	
S146	〃		R1				めのう	2.70	(1.30)	0.40	(1.41)		
S147	〃						〃	(2.10)	1.80	0.40	(1.37)	落込黒褐色土	
S148	〃				Ⅳ		〃	1.90	2.10	0.40	(1.16)		
S149	〃					35337	〃	2.50	1.70	0.40	1.11		
S150	〃				Ⅳ	34114	〃	2.80	2.00	0.50	2.02		
S151	〃		R2	68		38379	〃	3.20	(1.60)	0.40	(1.50)		
S152	〃		R1	62		26356	粘板岩	2.40	(1.60)	0.50	(1.31)		
S153	〃				Ⅴ		めのう	2.20	(1.00)	0.30	(0.58)		
S154	〃				Ⅴ	11453		1.90	1.20	0.20	0.39		
S155	〃				Ⅴ	29804	めのう	1.90	(1.60)	0.40	(1.19)		
S156	〃				Ⅴ	42604	黒曜石	2.20	(1.30)	0.30	(0.90)		
S157	〃				Ⅴ		流紋岩	3.60	1.90	0.40	1.85		
S158	〃		R1			39195		3.70	2.40	0.50	4.59		
S159	〃				Ⅵ		流紋岩	3.80	2.20	0.60	0.95	溝状落込付近	
S160	〃		R1				黒曜石	(1.50)	1.40	0.20	(0.35)		18
S161	〃		R2	54		38569	めのう	2.00	1.50	0.30	0.92		
S162	〃						黒曜石	1.90	1.50	0.30	0.60		
S163	〃						〃	1.40	1.20	0.30	0.53	溝	
S164	〃						めのう	1.60	1.30	0.30	0.65		
S165	〃					41187	流紋岩	2.10	1.80	0.30	0.73		
S166	〃		R1	26		35801	めのう	1.60	1.50	0.40	0.75		
S167	〃				Ⅴ	24087	黒曜石	1.60	1.60	0.30	0.86		
S168	〃				Ⅳ		〃	1.30	1.80	0.30	0.90		
S169	〃		R1	58			流紋岩	1.50	1.50	2.00	0.52		
S170	〃				Ⅴ	17629	黒曜石	1.70	1.80	0.30	0.81		
S171	〃				Ⅴ		〃	1.90	(1.30)	0.60	(0.86)		
S172	〃				Ⅴ		めのう	1.80	1.30	0.20	0.74		
S173	〃						流紋岩	2.10	1.80	0.40	0.78		
S174	〃				Ⅴ	7573	めのう	(1.20)	1.70	0.40	(0.79)		
S175	〃				Ⅴ		〃	(1.50)	1.40	0.30	(0.75)		
S176	〃				Ⅴ	34291	黒曜石	1.50	2.00	0.50	(0.95)		
S177	〃				Ⅴ	20496	めのう	2.10	1.60	0.40	1.12		
S178	〃				Ⅴ	29180	黒曜石	1.90	1.60	0.20	0.83		
S179	〃		R1	23		40834	めのう	1.90	1.80	0.40	1.21		
S180	〃				Ⅴ		黒曜石	2.20	(1.80)	0.40	(0.91)		

第11表　石器観察表３

番号	器種	出土区 区	R	小区	層位	取上番号	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	図No.
S181	石鏃				表採		めのう	2.00	(1.90)	0.30	(1.58)		18
S182	〃				V	13451	〃	(1.50)	1.80	0.30	(1.04)		
S183	〃				V		〃	(1.20)	1.70	0.30	(0.81)		
S184	〃		R1	78		39088	〃	(1.60)	1.90	0.20	(0.96)		
S185	〃				Ⅱ		粘板岩	2.20	2.00	0.50	1.94		
S186	〃						黒曜石	2.20	(1.70)	0.40	(1.00)		
S187	〃						〃	2.40	(1.50)	0.40	(0.72)		
S188	〃				Ⅳ		硬質安山岩	1.90	(1.60)	0.40	1.09		
S189	〃				V	11652	黒曜石	2.30	(1.00)	0.30	(1.12)		
S190	〃				Ⅵ	36481	〃	(1.90)	1.90	0.70	(2.83)		
S191	〃				Ⅶ	41354	めのう	1.80	(1.60)	0.60	(1.79)		
S192	〃				Ⅲc		〃	(1.80)	1.90	0.50	(1.73)		
S193	〃		R1				硬質安山岩	2.20	(1.20)	0.40	(1.08)		
S194	〃				V		黒曜石	1.70	(1.60)	0.30	(0.88)		
S195	〃							2.10	1.30	0.60			
S196	〃				表採		めのう	(2.00)	1.70	0.40	(1.33)		
S197	〃		R1				〃	2.10	(1.10)	0.40	(0.98)		
S198	〃				Ⅵ	34957	黒曜石	1.80	1.20	0.30	0.66		
S199	〃				Ⅳ		〃	(1.20)	1.60	0.40	(0.94)		
S200	〃		R1				〃	1.50	1.50	0.30	0.70		
S201	〃						〃	(1.70)	1.70	0.40	(1.13)		
S202	〃				Ⅶ		〃	2.00	2.00	0.50	1.68		
S203	〃		R1	38		35816	めのう	1.60	1.80	0.30	0.61		19
S204	〃		R1	73		28427	〃	(1.20)	1.90	0.50	(0.79)		
S205	〃	20F	R1				〃	1.60	1.70	0.40	0.86		
S206	〃	19D			Ⅵ	40734	〃	1.80	1.70	0.30	0.87		
S207	〃	14D			V	29563	〃	(1.90)	(1.50)	0.30	(0.92)		
S208	〃	18D				35311	〃	(1.40)	1.60	0.40	(0.95)		
S209	〃	20F	R1	41		39128	〃	1.80	1.30	0.40	0.66		
S210	〃	18D			V	31081	〃	(1.50)	(1.50)	0.30	(0.77)		
S211	〃	18E			Ⅵ	32264	黒曜石	(2.00)	1.80	0.40	(1.29)		
S212	〃	15G	R1	36		27509	チャート	1.60	1.50	0.20	0.73		
S213	〃	14E			V	10961		(1.70)	19.00	0.40	(1.16)		
S214	〃	11H	R1	17		28772	めのう	1.90	1.80	0.40	1.22		
S215	〃	12F			V	15726	〃	1.80	1.80	0.50	1.22		
S216	〃	18D			Ⅵ	33601	〃	(1.50)	1.80	0.50	1.11		
S217	〃	20F	R1	32		39126	〃	2.10	(1.70)	0.50	(2.11)		
S218	〃	18F	R1	84		33417	黒曜石	(1.70)	1.90	0.30	(1.22)		
S219	〃	16F			V	2897	〃	2.30	(1.70)	0.30	(1.03)		
S220	〃	13H	R1				〃	(1.90)	(1.40)	0.30	(0.94)		
S221	〃	13D			V	29172	〃	1.80	1.80	0.40	1.08		
S222	〃	13E					〃	2.10	1.60	0.40	1.05	東側畦	
S223	〃	16I			Ⅳa		〃	(1.70)	1.70	0.60	(1.51)		
S224	〃	20F				31373	〃	1.80	1.50	0.40	1.03		
S225	〃	15G					〃	(2.00)	1.70	0.60	(1.76)		
S226	〃	20M			V		めのう	1.80	1.70	0.30	1.12		
S227	〃	15D			V	29612	〃	(1.90)	1.80	0.30	(1.19)		
S228	〃	21E			Ⅵ	36334	〃	(1.90)	1.80	0.60	(1.84)		
S229	〃	14H			V	22672	〃	2.20	2.10	0.60	2.13		
S230	〃	16E			V	26149	〃	1.90	1.60	0.60	1.22		
S231	〃	15F	R1	100		28265	黒曜石	1.90	1.30	0.40	0.76		
S232	〃	19E			Ⅶ	41056	〃	(1.70)	1.70	0.40	(0.97)		
S233	〃	15E			V	24179		1.70	1.60	0.30	0.92		
S234	〃	12F			V	19665	粘板岩	2.00	1.80	0.20	1.19		
S235	〃	13D			V	19142	めのう	(1.40)	(1.30)	0.30	(0.79)		
S236	〃	15E			V	4417	黒曜石	1.30	1.60	0.30	0.53		
S237	〃	15D			Ⅵ	29774	めのう	1.50	1.60	0.40	0.66		
S238	〃	14G			V	22590	チャート	1.90	1.60	0.30	1.19		
S239	〃	13H			V	22788	黒曜石	1.40	1.50	0.40	0.92		
S240	〃	18D			V	31646	めのう	(1.60)	(1.50)	0.40	(0.85)		

第12表　石器観察表４

番号	器種	出土区 区	R	小区	層位	取上番号	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	図No.
S241	石鏃	12F			Ⅲ.		めのう	2.60	2.80	0.90	4.19		19
S242	〃	14E			Ⅴ	5054	〃	1.70	1.50	0.20	0.53		
S243	〃	19L			Ⅴ		〃	1.80	1.60	0.60	0.73		
S244	〃	15F			Ⅴ	4590	黒曜石	(1.40)	1.50	0.40	(0.82)		
S245	〃	19D			表採		めのう	(1.10)	1.60	0.40	(0.76)		
S246	〃	12H			Ⅴ		黒曜石	1.40	1.60	0.40	0.88		
S247	〃	16F			Ⅴ	20611	めのう	2.00	1.50	0.50	1.56		
S248	〃	20L			Ⅴ		〃	2.00	(1.00)	0.30	(0.79)		
S249	〃				表採		安山岩	1.50	1.40	0.30	0.66		
S250	〃	16F			Ⅴ	11642	流紋岩	1.70	1.50	0.40	0.98		
S251	〃	18D		土2			黒曜石	1.70	1.80	0.80	0.92		20
S252	〃	4T					〃	1.90	1.60	0.30	0.84	茶色がかった灰色土	
S253	〃	23K			Ⅳ		〃	(1.50)	1.60	0.40	(0.69)		
S254	〃	16F			Ⅴ	17567		2.50	2.00	0.70	1.97		
S255	〃	15F			Ⅴ		フリント	(2.00)	1.50	0.40	(0.66)		
S256	〃						黒曜石	2.00	(1.10)	0.40	(0.64)		
S257	〃				表採		めのう	1.80	1.50	0.30	1.13		
S258	〃	20F	R1				流紋岩	1.60	1.40	0.30	0.59		
S259	〃	21F	R1	37		36785	黒曜石	1.70	1.50	0.30	0.48		
S260	〃	23K			Ⅳ		めのう	2.20	(1.10)	0.30	(1.04)		
S261	〃	23M					〃	(1.60)	1.60	0.50	(1.21)	暗茶褐色土	
S262	〃	11D			Ⅰ		黒曜石	(2.00)	(1.50)	0.30	(1.03)		
S263	〃	12H					めのう	(1.70)	1.50	0.40	(0.87)	溝	
S264	〃	18D				37136	流紋岩	2.30	1.40	0.30	0.95	P39	
S265	〃	12H	R1				黒曜石	2.50	(1.40)	0.40	(1.24)		
S266	〃	8A			Ⅱ		流紋岩	2.00	1.40	0.30	0.94		
S267	〃						黒曜石	2.00	1.40	0.40	0.99	7～10, A～DミゾV	
S268	〃	22N	R2				チャート	2.10	1.70	0.30	1.10		
S269	〃				表採		めのう	(1.80)	2.00	0.30	(1.41)		
S270	〃	9E			Ⅵ		黒曜石	(2.30)	1.50	0.40	(2.05)		
S271	〃	18K			Ⅳ	34100	硬質安山岩	2.60	1.70	0.50	1.78		
S272	〃	18E			Ⅴ	30320	めのう	2.40	1.50	0.40	1.70		
S273	〃	21F			Ⅵ	35485	黒曜石	2.60	1.80	0.50	2.34		
S274	〃	22K	R2	37		38143	〃	2.00	1.50	0.40	0.79		
S275	〃	14D					めのう	2.30	1.70	0.30	1.38		
S276	〃	16F	R1	98		26405	黒曜石	2.10	1.30	0.30	0.97		
S277	〃	21F	R1				流紋岩	(2.00)	2.40	0.50	(2.53)		
S278	〃	11H	R1			28768	めのう	2.50	1.90	0.30	1.53		
S279	〃	20E			Ⅶ	41764	チャート	4.00	1.90	0.40	2.97		
S280	〃	14G	R1	12		26343	黒曜石	1.30	1.30	0.30	0.54		
S281	〃	16I					流紋岩	1.50	1.40	0.30	0.52		
S282	〃	20F	R1				黒曜石	1.20	1.50	0.20	0.65	北側畦	
S283	〃	13F			Ⅴ		〃	1.50	1.50	0.30	0.62		
S284	〃	12H			Ⅴ	18287	めのう	1.70	1.30	0.40	1.01		
S285	〃	21F	R1				黒曜石	1.70	(1.20)	0.30	(0.46)		
S286	〃	15D				31938	〃	(1.30)	1.60	0.20	(0.75)		
S287	〃	18E			Ⅶ	32162	〃	(2.20)	(1.60)	0.40	(1.26)		
S288	〃	20E			Ⅴ		めのう	(1.60)	1.30	0.30	0.89		
S289	〃	10E			Ⅴ		黒曜石	1.40	(1.20)	0.30	(0.57)		
S290	〃	15D			Ⅴ		めのう	1.70	1.60	0.50	1.31		
S291	〃	15G	R1	70		28197	粘板岩	(1.40)	(1.50)	0.30	(0.46)		
S292	〃	23M					黒曜石	(1.20)	1.20	0.30	(0.45)	暗茶褐色土	
S293	〃	19E			Ⅶ	41328	〃	1.60	1.40	0.20			
S294	〃	21F	R1				〃	1.30	1.30	0.20	0.38		
S295	〃	15F			Ⅴ		〃	1.10	1.20	0.30	0.31		
S296	〃	21E			Ⅵ	36402	チャート	(1.10)	1.30	0.20	(0.35)		
S297	〃	12D			Ⅵ	29834	めのう	1.00	1.20	0.30	0.32		
S298	〃	17D					〃	1.70	1.50	0.40	0.78	新溝	
S299	〃	16G	R1	32		24002	流紋岩	1.50	1.30	0.40	0.56		
S300	〃			表採			フリント	(2.00)	(1.70)	0.30	(0.94)		

第13表　石器観察表５

番号	器種	出土区 区	R	小区	層位	取上番号	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	図No.
S301	石鏃	21F	R1	16		36668	めのう	(2.40)	(1.60)	0.60	(2.00)		20
S302	〃	15H			Ⅳ		〃	(1.90)	(1.50)	0.20	(1.30)		21
S303	〃	13H			Ⅴ		チャート	1.80	1.80	0.60	1.89		
S304	〃	14G			Ⅴ			2.40	1.60	0.50	1.41		
S305	〃	13F			Ⅳ	35	めのう	(2.30)	2.10	0.50	(1.46)		
S306	〃	17C			Ⅲ		黒曜石	(1.70)	(1.40)	0.40	(1.36)	遺物集中区	
S307	〃	22D				37993	めのう	2.00	1.80	0.30	1.90	土器集中区	
S308	〃	14D			Ⅴ		〃	(2.10)	(2.10)	0.30	(1.53)		
S309	〃	15G			Ⅳ		〃	(3.10)	2.20	0.90	3.98		
S310	〃	14G			Ⅴ	16596	〃	1.80	(1.30)	0.40	(0.62)		
S311	〃	20F	R1	5		40789		2.90	(1.50)	0.40	(0.70)		
S312	〃	13D			Ⅴ	29164		(2.40)	(2.00)	0.90	(2.03)		
S313	〃	19D				35024	めのう	2.20	1.90	0.80	2.70	溝1	
S314	〃	13E			Ⅴ	8575	〃	2.50	(1.80)	0.40	(1.82)		
S315	〃	14H					フリント	2.70	(2.10)	0.60	(3.63)	北畦	
S316	〃	23K			Ⅳ		めのう	(2.20)	2.10	0.40	(1.59)		
S317	〃	21F	R1	78		36875	〃	2.20	(1.90)	0.50	(2.63)		
S318	〃	14E					〃	2.50	1.70	0.40	1.28		
S319	〃	15G	R1	36		26940	黒曜石	2.30	1.50	0.40	1.25		
S320	〃	20K			Ⅴ	42058	〃	(2.00)	(1.80)	0.40	(1.57)		
S321	〃	18D			Ⅵ	30856	めのう	(2.10)	(1.90)	0.60	(1.80)		
S322	〃	14H			Ⅴ	22688		1.60	(1.70)	0.50	(2.65)		
S323	〃	14F			Ⅴ		フリント	2.60	1.90	0.50	3.58		
S324	〃	20F	R1	25		40839	〃	2.20	2.00	0.70	2.38		
S325	〃	21F	R1	22		37277	〃	2.70	2.10	0.30	2.73		
S326	〃	19L			Ⅴ		めのう	2.60	1.90	0.50	2.81		
S327	〃	17M			Ⅵ		黒曜石	(2.80)	(1.80)	0.70	(3.07)		
S328	〃	21E			Ⅲ		安山岩	3.10	2.00	0.40	3.04		
S329	〃	11G	R1				めのう	2.60	(1.60)	0.40	(1.90)		
S330	〃	11H	R1	8		28758	〃	3.00	2.80	0.80	4.47		
S331	〃	20M			Ⅴ		〃	2.80	2.30	1.90	4.77		
S332	〃	21K			D2		黒曜石	2.60	2.70	0.80	7.00		
S333	〃	17M			Ⅳ	34112	〃	2.00	1.70	0.80	2.52		22
S334	〃	15G	R1				めのう	(1.80)	1.40	0.40	(1.17)		
S335	〃	13D			Ⅴ		黒曜石	1.90	1.80	0.80	2.43		
S336	〃	14G			Ⅳ		〃	2.30	(1.80)	0.50	(2.05)		
S337	〃	14G			Ⅴ		〃	2.60	(1.90)	0.70	(2.16)		
S338	〃	20F	R1	50		43229	めのう	2.30	1.90	0.70	3.16		
S339	〃	13C					〃	2.60	2.20	0.70	4.91	溝	
S340	〃				表採		〃	2.90	2.30	0.80	4.80		
S341	〃	20F	R1				フリント	2.70	2.70	0.60	2.46		
S342	〃	19F	R1			41035	めのう	2.20	(1.80)	0.40	(1.80)		
S343	〃	19L			Ⅴ		水晶	2.90	2.50	1.10	7.77		
S344	〃	16H			Ⅲ		めのう	3.10	2.80	0.70	8.97		
S345	〃	21D			Ⅵ	39431	〃	3.10	2.30	0.80	5.04		
S346	〃	14D					黒曜石	(2.00)	1.80	0.70	(2.17)		
S347	〃	15G	R1				〃	2.30	(1.70)	0.30	(2.25)		
S348	〃	19D			Ⅶ		〃	2.30	1.90	0.80	3.49		
S349	〃	13H					めのう	2.20	(2.00)	0.70	(2.69)	溝	
S350	〃	17D			攪乱		安山岩	2.50	2.00	0.60	2.68		
S351	〃	18E			Ⅵ		めのう	2.40	2.00	0.40	2.77		
S352	〃	15C	R2		Ⅲ		黒曜石	2.30	(2.10)	0.90	(3.48)		
S353	〃	22K					めのう	2.40	2.10	1.10	4.48		
S354	〃	18F	R1				黒曜石	2.10	1.90	0.50	2.38		
S355	〃	15H					フリント	2.40	1.90	0.50	2.95	北畦	
S356	〃	23K					めのう	2.10	2.20	0.50	2.26	淡褐色粘質土	
S357	〃	14H			Ⅴ		〃	(2.50)	2.50	0.90	(5.59)		
S358	〃	21F	R1				黒曜石	0.90	0.60	0.30	0.14		
S359	〃	15E			Ⅴ	13246	〃	1.40	1.20	0.40	0.50		
S360	〃	21E	R1			40018	〃	1.50	1.20	0.20	0.52		

第14表　石器観察表6

番号	器種	出土区 区	R	小区	層位	取上番号	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	図No.
S361	石鏃	21E			Ⅵ	36336	黒曜石	1.50	1.40	0.30	0.46		22
S362	〃	23K			Ⅲ		めのう	(2.10)	(1.90)	0.80	(3.11)		
S363	〃	14D			Ⅴ	29534	〃	1.60	(1.30)	0.40	(0.98)		
S364	〃	20L			Ⅴ		黒曜石	2.30	2.20	0.70	3.29		
S365	〃	16L			Ⅴ		〃	1.40	(1.50)	0.30	(0.62)		
S366	〃	12E			Ⅴ		〃	1.50	(1.40)	0.30	(0.67)		
S367	〃	13F			Ⅴ	10202	〃	1.50	1.10	0.20	0.43		
S368	〃	23M					〃	1.60	1.40	0.40	0.81	暗茶褐色土	
S369	〃	13D			Ⅴ		めのう	2.20	(1.60)	0.30	(1.21)		
S370	〃	14I			Ⅴ		黒曜石	(2.30)	(1.40)	0.50	(1.36)		
S371	〃	17M			Ⅲ～Ⅳ		〃	2.10	(1.60)	0.50	(1.45)		
S372	〃	21L	?		D2		めのう	(1.60)	1.80	0.50	(1.53)		
S373	〃	20L			Ⅲ		黒曜石	(1.80)	(1.40)	0.40	(1.05)		
S374	〃	19D			Ⅴ		めのう	1.60	1.30	0.10	0.43		
S375	〃	17F			Ⅴ		黒曜石	1.50	(1.20)	0.20	(0.33)		
S376	〃	12E				15073	めのう	3.00	2.40	0.60	5.51		23
S377	〃	21E				36922	フリント	3.00	2.40	1.10	6.29	溝1	
S378	〃	18C					めのう	2.60	2.20	0.80	4.71	北畦	
S379	〃	21F	R1				〃	2.90	2.50	0.80	4.82		
S380	〃	17C			Ⅲ		〃	3.10	2.40	0.80	6.23	遺物集中区	
S381	〃	13F			Ⅴ		〃	2.80	2.70	1.00	6.32		
S382	〃	18D					〃	3.10	2.40	1.30	6.83		
S383	〃	21D			Ⅴ		〃	2.80	2.70	1.00	6.12		
S384	〃	18D			Ⅵ	33075	〃	2.90	1.70	0.90	1.49		
S385	〃	13I	R1				フリント	4.00	3.60	0.90	8.97		
S386	〃	21E			Ⅵ	39212	めのう	2.00	1.50	0.40	1.52		
S387	〃	20F	R1				フリント	2.20	1.30	0.30	0.56		
S388	〃	14H			Ⅳ		めのう	(2.20)	1.50	0.30	(1.64)		
S389	〃	15H			Ⅴ		黒曜石	(1.90)	1.30	0.30	(0.80)		
S390	〃	21F	R1	49		35848	〃	2.20	1.40	0.50	1.25		
S391	〃						めのう	2.60	1.30	0.50	2.07		
S392	〃	15G	R1	10		28497	〃	2.30	1.60	0.40	1.85		
S393	〃	11E				15913	〃	2.50	1.20	0.40	1.44		
S394	〃	21F	R1				黒曜石	2.20	1.50	0.30	1.33		
S395	〃	21F	R1	38		35815	めのう	2.70	2.10	0.80	3.44		
S396	〃	19M			Ⅴ		〃	2.70	1.50	0.50	2.28		
S397	〃	19E			Ⅴ		黒曜石	2.20	(1.20)	0.50	(1.33)		
S398	〃	20E			Ⅴ		めのう	2.80	(1.50)	0.30	(1.55)		
S399	〃	22N			Ⅴ		〃	2.90	1.90	0.70	3.08		
S400	〃	14F					〃	2.60	2.00	0.50	2.24		
S401	〃	12H	R1	37		26511	〃	2.70	1.80	0.50	2.56		
S402	〃	21D			Ⅴ		〃	2.60	2.00	0.50	2.28		
S403	〃	13E	R2		Ⅴ	18662	〃	3.30	2.30	0.40	4.33		
S404	〃	22N					黒曜石	3.30	2.00	1.00	5.03		
S405	〃	20F	R1				流紋岩	3.40	2.40	0.90	7.04		
S406	〃	11G			Ⅴ	15846	めのう	2.40	1.80	0.50	1.77		
S407	〃	14G	?		Ⅴ		流紋岩	2.90	1.60	0.70	3.24		
S408	〃	13F			Ⅳ		黒曜石	2.40	1.60	0.50	1.56		
S409	〃	4T			Ⅲb		めのう	1.70	1.10	0.40	0.86		
S410	〃	20M			Ⅴ		フリント	2.00	1.30	0.50	1.21		
S411	〃	12I			Ⅲ		〃	2.60	1.70	0.30	2.04		
S412	〃	18K			Ⅲ		めのう	(2.30)	(0.90)	0.40	(0.84)		
S413	〃				表採		黒曜石	2.40	1.50	0.50	2.15		
S414	〃	13G			Ⅴ		めのう	2.70	2.10	0.70	3.92		24
S415	〃	6T			Ⅱ		〃	2.00	1.80	0.60	2.33		
S416	〃	14G			Ⅴ		黒曜石	2.30	2.00	0.90	4.10		
S417	〃	14G			Ⅴ		めのう	2.50	1.90	0.60	2.14		
S418	〃	16G		22		22945	フリント	2.70	2.10	0.50	2.44	溝	
S419	〃	19E			Ⅶ	41046	めのう	2.00	1.70	0.40	1.31		
S420	〃	16G	R1				チャート	2.70	2.00	0.60	3.36		

第15表　石器観察表7

番号	器種	出土区 区	R	小区	層位	取上番号	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	図No.
S421	石鏃	21E	R1	71		37193	めのう	1.90	2.00	0.70	1.86		24
S422	〃	20E			Ⅶ		黒曜石	2.30	2.10	0.70	3.12		
S423	〃	18D			Ⅵ	32095	めのう	1.50	(1.80)	0.40	(1.18)		
S424	〃	22E					〃	2.10	(3.10)	0.70	(4.21)	盛土	
S425	〃	20F	R1	45		39135	〃	(2.40)	2.20	0.60	(3.53)		
S426	〃	18D			Ⅴ	31169	〃	2.50	(1.90)	0.60	(2.24)		
S427	〃	13I			Ⅴ		〃	2.60	2.10	0.60	2.92		
S428	〃	18F	R1				〃	2.30	1.80	0.60	2.16		
S429	〃	19D			Ⅴ		黒曜石	2.60	(1.70)	0.30	(1.48)		
S430	〃	20F	R1				めのう	2.60	2.50	0.70	4.15		
S431	〃	13D			Ⅴ		〃	2.60	1.90	0.90	4.47		
S432	〃	20E			Ⅲ		〃	2.30	(1.60)	0.50	(1.70)		
S433	〃	17D					〃	3.10	2.50	0.90	8.54	新溝	
S434	〃	19E			Ⅶ		〃	1.90	1.50	0.60	1.03		
S435	〃	18D			Ⅴ		〃	2.10	(1.50)	0.50	(1.66)		
S436	〃	17F			Ⅳ		黒曜石	2.00	(1.40)	0.50	(1.43)		
S437	〃						〃	(2.10)	2.10	0.60	(1.98)		
S438	〃	21D			Ⅵ		めのう	(2.30)	(2.20)	0.30	(1.82)		
S439	〃	13E			Ⅴ		黒曜石	2.00	1.90	0.60	1.91		
S440	〃	17F			Ⅳ		フリント	2.50	2.30	0.60	3.78		
S441	〃	14G			Ⅴ	9679	めのう	2.80	(2.50)	0.60	(3.91)		
S442	〃	19M			ⅢC		黒曜石	(1.20)	1.20	0.20	(0.34)		
S443	〃	21L			Ⅵ		〃	1.60	1.60	0.60	1.13		
S444	〃						チャート	1.60	2.00	0.40	0.75		
S445	〃	21F	R1				めのう	1.40	1.20	0.30	0.67		
S446	〃	18F	R1				フリント	1.40	1.20	0.30	0.43		
S447	〃	14G					めのう	(1.40)	1.50	0.20	(0.62)	東側畦	
S448	〃	21J			Ⅵ		〃	(2.10)	1.80	0.50	(2.05)		
S449	〃	23J					〃	1.90	2.00	0.50	1.84	攪乱	
S450	〃	11G	R1				黒曜石	2.40	1.60	0.60	2.33		
S451	〃	12F			Ⅴ	6521	フリント	2.50	1.90	0.60	2.57		
S452	〃	21F	R1	1	Ⅰ	39014	〃	2.60	2.10	0.40	3.03		
S453	〃	18F	R1				めのう	(2.60)	(1.80)	0.60	(3.51)		
S454	〃	15D			Ⅴ		黒曜石	2.50	2.10	0.30	2.32		
S455	〃	14G			Ⅳ		めのう	2.50	1.70	0.50	1.94		25
S456	〃	16G			Ⅴ	3686	〃	3.40	1.40	0.50	2.00		
S457	〃	15G	R1				〃	4.10	2.00	0.70	4.39		
S458	〃	15H	R1	3		2772	フリント	4.10	2.20	1.00	6.45		
S459	〃	13H	R1				鉄石英	2.30	1.60	0.30	1.77		
S460	〃	17D			Ⅱ		フリント	3.30	2.40	0.40	5.11		
S461	〃	18K			Ⅲ		めのう	2.40	2.00	0.70	4.45		
S462	〃	14G			Ⅳ		黒曜石	2.40	2.00	0.60	2.28		
S463	〃	19D					めのう	2.40	1.70	0.50	2.51	横転	
S464	〃	20L			Ⅴ		〃	2.40	1.60	0.40	1.92		
S465	〃	21F	R1				フリント	2.60	2.00	0.50	1.65		
S466	〃	19M			Ⅳ		黒曜石	2.70	1.70	0.60	2.83		
S467	〃	17I			Ⅴ	3849	めのう	2.60	2.00	0.90	4.67		
S468	〃	20F	R1				黒曜石	2.70	2.00	0.80	4.37		
S469	〃	15E			Ⅴ		〃	(3.40)	2.70	0.70	(4.95)		
S470	〃	22M					めのう	(2.40)	2.40	0.80	(4.50)	暗茶褐色土	
S471	〃	18F	R1				〃	2.50	2.60	1.10	5.55		
S472	〃	20F	R1	0			〃	3.10	2.60	0.90	5.74		
S473	〃	19E			Ⅴ		〃	2.60	2.30	1.00	5.03		
S474	〃	16F			Ⅴ		黒曜石	(2.10)	2.40	0.60	(3.63)		
S475	〃	20E			Ⅴ		〃	3.70	2.80	1.30	10.37		
S476	〃	13H	R1				〃	2.80	2.60	1.10	7.77		
S477	〃	12F			Ⅳ		めのう	3.30	2.50	0.80	5.42		
S478	〃	13C					〃	3.60	1.90	0.70	4.73	溝	
S479	〃	9B			Ⅰ		黒曜石	(3.20)	(2.30)	0.60	(3.03)		
S480	〃	22E			Ⅵ		硬質安山岩	4.10	2.90	1.10	9.66		

第16表　石器観察表８

番号	器種	出土区 区	R	小区	層位	取上番号	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	図No.
S481	石鏃	22N			Ⅳ		めのう	4.40	2.10	0.70	5.79		25
S482	〃	18E			Ⅴ		鉄石英	4.60	4.00	1.30	16.94		
S483	〃	15G			Ⅴ		フリント	(3.40)	(3.00)	0.60	(4.87)		
S484	〃	15G			Ⅳ		流紋岩	2.30	2.00	1.00	5.90		
S485							黒曜石	2.30	2.10	0.40			
S486	石匙	19E			Ⅵ	40328	〃	1.90	(2.70)	0.70	(3.05)		26
S487	〃	17M					〃	1.80	3.00	0.80	3.16		
S488	〃	20F	R1	58		43236	〃	(1.70)	3.40	0.70	1.90		
S489	〃	22N	R2				〃	2.80	4.00	0.60	4.79		
S490	〃	18L			Ⅴ		めのう	1.60	2.70	0.60	1.44		
S491	〃	14H			Ⅴ		〃	(2.60)	(2.30)	0.40	(3.49)		
S492	〃	22N	R2	90		38325	チャート	3.20	5.30	0.90	9.10		27
S493	〃	14H	R1	14		27870		2.20	4.70	0.80	4.42		
S494	〃	22K			Ⅵ		チャート	3.00	2.80	0.70	5.96		
S495	〃	15G	R1				めのう	3.30	(3.20)	0.90	(8.41)		
S496	〃	21J			Ⅵ		鉄石英	2.50	3.20	0.50	3.57		
S497	〃							2.50	3.70	0.40	5.09		
S498	〃	22J			Ⅵb	38109	チャート	2.70	3.20	0.60	7.00		
S499	〃	10C			Ⅱ			3.20	3.50	0.40	5.17		
S500	〃	22N	R2				チャート	3.60	4.80	0.80	14.19		
S501	〃	全般区	R1				めのう	2.90	4.80	1.10	11.80		
S502	〃	19E			Ⅶ		〃	4.50	5.30	0.90	13.00		
S503	〃	23J			Ⅵ		〃	3.60	(5.40)	1.20	(22.50)		
S504	〃	21C			Ⅲ		黒曜石	2.30	4.00	0.80	4.04	溝状落込み	
S505	〃	22K	R2				チャート	2.00	2.10	0.50	1.49		28
S506	〃	16G	R1	5		26419	めのう	2.20	3.50	0.70	3.95		
S507	〃	20F	R1				黒曜石	(2.20)	3.60	0.90	(7.96)		
S508	〃	14H	R1					(1.30)	5.00	0.40	(3.05)		
S509	〃	22K	R2				硬質安山岩	2.60	(3.80)	0.60	(4.52)		
S510	〃	19E			Ⅵ		めのう	(2.40)	5.60	0.90	(11.03)		
S511	〃	13H	R1				チャート	2.60	4.20	0.70	5.55		
S512	〃	16G	R1				めのう	4.00	5.20	0.90	16.15		
S513	〃	16I			Ⅳa		チャート	(3.40)	(4.20)	1.10	(14.48)		
S514	〃	22J			Ⅵc	38563	〃	(3.80)	(3.60)	1.40	(14.35)		
S515	〃	23K			Ⅳ		黒曜石	2.20	3.30	0.80	4.34		
S516	〃						めのう	3.30	2.30	0.80	2.52		
S517	〃	22K			Ⅵ		〃	(3.10)	(2.10)	0.60	(3.28)		
S518	〃	13I					〃	(4.90)	(3.00)	0.90	(11.93)	溝	
S519	〃	14G			Ⅴ	12825	〃	2.60	(3.70)	0.60	(6.56)		
S520	〃						黒曜石	(3.90)	5.90	1.10	(21.46)	場所不明	
S521	〃	14I			Ⅴ		チャート	4.00	1.70	0.70	4.71		29
S522	〃	15H			Ⅴ		めのう	4.80	2.40	0.80	8.70		
S523	〃	12H	R1				〃	5.20	2.30	0.90	10.62		
S524	〃	9C			Ⅲ		〃	(2.80)	2.10	0.60	(4.49)		
S525	〃	13H	R1				黒曜石	3.00	1.70	0.40	5.55		
S526	〃	14G			Ⅴ			3.60	1.70	0.60	2.58		
S527	〃	16M					めのう	3.70	3.10	0.80	7.42		
S528	〃	15B			Ⅲ		硬質安山岩	4.50	2.30	1.00	12.17		
S529	〃	16F	R1					6.00	2.00	0.90	9.57		
S530	〃	15J			Ⅳ		めのう	4.00	1.80	0.50	5.25		
S531	〃	17L			Ⅲ		チャート	2.80	1.90	0.60	3.13		
S532	〃	22N	R2				めのう	4.40	2.90	0.70	9.96		
S533	〃	21K			Ⅵ上		〃	3.50	2.70	0.70	6.61		
S534	〃	21K			Ⅵb	38012	〃	2.40	2.10	0.40	1.90		
S535	〃	22K					〃	4.70	3.40	0.80	17.42	遺物集中区　暗茶褐色砂質土	30
S536	〃	19D			Ⅴ	25638	チャート	6.00	3.90	0.70	22.34		
S537	〃	14H			Ⅴ		めのう	(2.90)	1.90	0.60	(5.88)		
S538	〃	20E			Ⅵ	41740		4.60	10.30	0.60	25.38		
S539	〃	21D			Ⅴ	37906	めのう	5.70	3.20	0.70	15.88		
S540	〃	19D			Ⅴ		〃	5.10	3.40	0.60	10.87		

第17表　石器観察表９

番号	器種	出土区 区	R	小区	層位	取上番号	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	図No.
S541	石匙	16K			Ⅵ		チャート	5.70	3.40	0.80	18.09		30
S542	〃					17925	めのう	7.00	4.60	1.00	22.94		
S543	〃	22K			Ⅵ		チャート	6.70	2.90	0.90	23.13		
S544	〃	14H			Ⅴ	22718	〃	6.00	3.10	0.60	15.35		
S545	ｽｸﾚｰﾊﾟｰ	22C			Ⅲ下		黒曜石	2.40	1.90	0.60	2.51	ｻﾑｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	31
S546	〃	13C			ミゾ		〃	2.30	1.70	0.60	2.04	石鏃未製品？	
S547	〃	17N			谷		〃	2.90	2.20	1.40	7.70	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S548	〃	18L			Ⅰ～Ⅳ		〃	2.20	1.70	0.90	4.26	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S549	〃	13H	R1				〃	2.20	1.70	0.50	2.24		
S550	〃	21E			Ⅲ		〃	2.60	1.50	0.50	2.30	石鏃？	
S551	〃	18M			Ⅲ～Ⅳ		〃	2.70	2.30	1.20	7.26		
S552	〃	20F			新ミゾ		〃	3.00	1.70	0.60	2.65		
S553	〃	16J			Ⅲ		〃	1.70	2.10	0.60	1.39		
S554	〃						〃	3.10	1.70	0.50	2.83	石鏃未製品？	
S555	〃	15F			Ⅴ	14377	〃	2.90	2.10	1.40	4.83		
S556	〃	11H	R1				〃	3.00	2.40	0.90	4.80		
S557	〃	18D			Ⅴ		〃	3.00	2.80	0.90	3.69	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S558	〃	16J			Ⅰ		〃	2.70	2.10	1.00	4.89		
S559	〃	20F	R1				〃	2.30	1.30	0.80	1.47		
S560	〃	21F	R1				〃	2.20	2.00	0.50	1.51		
S561	〃	14G			Ⅴ		〃	3.30	2.90	1.10	10.48		
S562	〃	14G			Ⅴ		〃	(2.00)	1.80	0.50	(1.08)		
S563	〃	11H	R1				〃	3.20	2.00	0.80	4.26		
S564	〃	11H	R1				〃	4.10	2.00	1.20	9.10	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S565	〃	13G			Ⅴ		〃	2.30	1.90	0.50	1.40		
S566	〃	15G			Ⅴ	21002	〃	2.90	2.40	0.90	6.74	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S567	〃	20F	R1	77		39197	〃	3.10	1.80	0.70	4.37	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S568	〃	15D			Ⅱ		〃	3.80	2.40	0.90	8.40		
S569	〃	15G			Ⅴ		フリント	2.90	1.50	0.60	2.19		
S570	〃	16G			Ⅴ	13064	めのう	3.10	(2.20)	0.50	(4.75)		
S571	〃				表採		〃	4.80	2.40	0.80	9.23		
S572	〃	18F	R1				黒曜石	2.30	2.20	0.90	7.08		
S573	〃	12H	R1	58		26532	めのう	3.20	2.30	0.90	7.24	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S574	〃	16F			Ⅴ	23005	黒曜石	3.10	3.10	1.20	10.04	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S575	〃	18F	R1	93		33440	〃	3.00	2.10	0.80	5.78		
S576	〃	11H	R1				〃	3.00	2.00	1.50	9.61	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S577	〃	15G			Ⅴ		フリント	4.10	2.70	1.40	11.20	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S578	〃	17J			Ⅲ		黒曜石	3.30	2.90	1.00	6.97	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S579	〃	14G			Ⅴ		〃	3.00	2.70	0.90	6.14		
S580	〃	13H			Ⅳ		めのう	2.60	(2.80)	0.90	(3.26)	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S581	〃						〃	3.10	2.10	0.40	6.39		
S582	〃	17F			Ⅴ	9924	黒曜石	3.10	2.70	0.90	6.31		
S583	〃	13D			Ⅴ		〃	(2.60)	(2.90)	1.10	(6.05)		
S584	〃	14G			Ⅴ		めのう	6.00	3.90	0.70	4.47		
S585	〃	14H			Ⅳ～Ⅴ		黒曜石	4.00	2.10	0.70	2.95		
S586	〃	19M			Ⅴ		〃	3.00	2.70	0.80	5.25		
S587	〃	20F	R1				めのう	6.70	2.90	0.90	4.51		
S588	〃	19C			Ⅴ		黒曜石	3.40	2.40	1.10	11.13		
S589	〃	14F			北畦		〃	3.30	2.80	1.10	10.00		
S590	〃	14G			Ⅴ	9564	フリント	5.70	3.20	0.70	10.66		
S591	〃	14G			Ⅴ		めのう	3.70	3.10	0.80	6.90		
S592	〃	14F			Ⅴ	7681	黒曜石	4.00	2.80	1.20	10.08		
S593	〃						めのう	3.40	3.10	1.40	16.19		
S594	〃	14F			Ⅴ			5.70	(3.40)	0.80	(7.42)		32
S595	〃	12G			Ⅴ		フリント	6.50	3.10	1.50	36.35	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S596	〃	14G			Ⅴ	13814	安山岩	7.50	4.10	2.00	74.81		
S597	〃	15D			Ⅵ		黒曜石	3.60	3.00	1.00	7.46	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S598	〃	18E			Ⅵ		〃	3.70	2.30	0.60	6.75		
S599	〃	14G	R1				安山岩	4.30	4.10	1.10	14.27		
S600	〃	17K			Ⅲ		めのう	4.80	2.60	1.10	11.76		

第18表　石器観察表10

番号	器　種	出土区			層位	取上番号	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	備　考	図No.
		区	R	小区									
S601	ｽｸﾚｰﾊﾟｰ	２０Ｄ			Ⅴ		フリント	5.00	4.80	1.20	16.90		32
S602	〃	２０Ｆ	Ｒ１				黒曜石	5.30	3.80	1.20	17.06		
S603	〃	１４Ｇ			Ⅴ	16647	フリント	4.60	3.00	1.30	21.63		
S604	〃	１４Ｆ			Ⅴ		〃	5.20	2.30	0.90	12.00		
S605	〃	１５Ｆ			Ⅴ		〃	6.30	5.00	2.40	58.70		
S606	〃	２１Ｅ	Ｒ１				めのう	(4.20)	5.70	1.20	(26.42)		
S607	〃	１１Ｈ	Ｒ１				〃	3.90	(4.20)	1.10	(21.07)	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S608	〃	１６Ｇ	Ｒ１	53		26132	黒曜石	5.30	4.50	1.50	36.43		
S609	〃	１３Ｈ			Ⅴ	10717	フリント	6.30	5.00	2.60	87.79		
S610	〃	１５Ｇ	Ｒ１				〃	2.60	3.70	0.60	14.93		
S611	〃	１６Ｇ	Ｒ１	61		24917	めのう	4.00	1.70	0.70	13.42		
S612	〃	１６Ｇ	Ｒ１				黒曜石	4.60	4.50	2.10	21.58		
S613	〃	１５Ｄ			Ⅱ		フリント	6.00	3.90	0.70	26.05		
S614	〃	１３Ｃ			ミゾ		めのう	3.90	5.90	1.10	21.81		
S615	〃	１４Ｇ	Ｒ１				黒曜石	4.00	5.20	0.90	10.46		33
S616	〃	１５Ｇ	Ｒ１				〃	4.30	2.80	0.90	8.51		
S617	〃	１２Ｅ			表採		〃	3.70	2.70	1.40	9.61		
S618	〃	１８Ｊ			Ⅲ		〃	3.20	3.00	1.00	9.25		
S619	〃	１５Ｇ			Ⅴ		〃	4.00	3.40	1.50	16.31	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S620	〃	１４Ｆ			Ⅴ		〃	5.00	4.30	1.10	18.30	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S621	〃	１５Ｇ			Ⅴ	24503	〃	5.80	3.00	1.30	18.38		
S622	〃	２０Ｅ			Ⅶ		〃	6.80	3.80	2.00	39.04	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S623	〃					場所不明	〃	6.30	4.40	1.50	31.61		
S624	〃	２１Ｆ	Ｒ１				〃	3.50	3.80	1.20	14.47		
S625	〃	２３Ｍ					〃	3.40	3.30	0.70	6.80	黒褐色土	
S626	〃	２２Ｏ	Ｒ２				〃	3.30	3.30	1.00	11.26		
S627	〃	１３Ｈ	Ｒ１	65		27221	〃	4.20	4.30	1.30	16.93		
S628	〃	２３Ｋ			Ⅱ		めのう	2.00	4.10	0.90	47.86		
S629	〃	２１Ｆ	Ｒ１				黒曜石	4.30	3.10	1.00	10.38		
S630	〃	１２Ｈ	Ｒ１				〃	4.60	4.30	0.70	17.21	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S631	〃	２０Ｅ	Ｒ１				〃	6.50	3.90	1.30	23.56		
S632	〃	１７Ｍ			Ⅲ		〃	3.40	2.70	1.20	8.02		
S633	〃	１１Ｈ	Ｒ１				〃	3.10	2.90	1.40	12.60	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S634	〃	２０Ｆ	Ｒ１	58		40916	〃	5.30	4.40	1.50	31.72		
S635	〃	１１Ｇ	Ｒ１				フリント	3.20	(3.20)	0.90	(868.00)	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S636	〃	２０Ｋ			Ⅴ	38951	黒曜石	4.10	4.30	1.50	22.47		
S637	〃	２０Ｆ	Ｒ１	8		43168	フリント	2.20	3.60	0.90	34.71		
S638	〃	２０Ｊ			Ⅴ		黒曜石	3.40	3.70	1.20	16.71	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S639	〃	１４Ｄ			Ⅴ		〃	4.80	3.50	1.30	19.86	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S640	〃	１８Ｌ			Ⅲ・Ⅳ		チャート	2.60	3.80	0.60	10.56		
S641	〃	１７Ｍ			Ⅵ		硬質安山岩	4.00	3.20	1.10	10.23		
S642	〃	１０Ｄ			Ⅲ		フリント	2.80	1.90	0.60	33.63		34
S643	〃	１７Ｄ					黒曜石	2.80	2.50	1.10	7.59		
S644	〃	１３Ｈ	Ｒ１				フリント	3.50	4.60	1.60	25.35		
S645	〃	１４Ｇ			Ⅴ	9177	めのう	3.20	3.50	0.40	18.59		
S646	〃	１３Ｈ	Ｒ１				フリント	4.70	3.40	0.80	21.99		
S647	〃	１４Ｆ			Ⅴ		めのう	3.80	3.50	0.90	18.09		
S648	〃	１８Ｄ			Ⅵ		〃	4.30	3.60	1.10	11.01		
S649	〃	２１Ｌ			表採		黒曜石	4.60	2.80	1.20	19.58		
S650	〃	１２Ｈ			Ⅴ	10806	フリント	6.80	3.20	1.50	29.09		
S651	〃	１５Ｈ	Ｒ１	1		27769	黒曜石	5.20	3.40	1.50	28.03		
S652	〃	１９Ｍ			Ⅴ		〃	4.80	4.20	1.90	27.65		
S653	〃	１５Ｇ			Ⅴ	5822	フリント	5.40	4.40	1.40	28.15		
S654	〃	１４Ｄ			Ⅴ		めのう	5.20	4.00	1.40	21.37		
S655	〃	１２Ｈ	Ｒ１				黒曜石	4.90	3.10	1.30	14.79	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S656	〃	１２Ｆ			Ⅴ	6663	フリント	7.30	5.00	1.40	37.35		
S657	〃	１３Ｇ			Ⅴ	10536	黒曜石	5.40	3.50	1.20	27.50	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S658	〃	１５Ｇ	Ｒ１				フリント	4.30	4.20	1.30	23.27	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S659	〃	２３Ｊ			Ⅵ		黒曜石	3.20	2.80	1.00	8.07		
S660	〃	１９Ｆ			新ミゾ		安山岩	4.70	3.50	1.00	13.10	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	

第19表　石器観察表11

番号	器　種	出土区			層位	取上番号	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	備　考	図No.
		区	R	小区									
S661	ｽｸﾚｰﾊﾟｰ	22N	R2	79		38689	黒曜石	5.20	3.30	1.10	17.58		34
S662	〃	22K	R2				〃	5.70	5.00	0.90	19.90		
S663	〃	13H	R1				めのう	4.20	3.90	2.30	37.44		
S664	〃	14E			V	7411	フリント	3.60	1.70	0.60	23.23		35
S665	〃	20F	R1				〃	3.00	2.80	0.70	24.51		
S666	〃	15G	R1	91		27753	めのう	4.40	2.90	0.70	21.91		
S667	〃	16G	R1				〃	6.40	3.20	1.10	19.69	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S668	〃	20E			Ⅵ		〃	3.20	5.30	0.90	19.06		
S669	〃	21F			廃土		黒曜石	3.90	3.90	1.00	10.37	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S670	〃	14F			北畦		〃	3.70	3.40	1.20	11.58		
S671	〃	13E			V	8210	フリント	5.80	4.90	1.70	32.78	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S672	〃	14G	R1	30		28319	めのう	4.90	3.90	1.70	25.57		
S673	〃	23J			Ⅳ		〃	2.80	2.10	0.60	11.80		
S674	〃	13H			V	10712	〃	5.20	4.20	1.80	30.32		
S675	〃	14H	R1				フリント	4.60	5.00	1.40	31.93		
S676	〃	15G	R1	98		27492	黒曜石	3.40	3.50	1.00	11.26	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S677	〃	19E			Ⅲ		自然礫使用	4.20	3.90	1.10	12.88	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S678	〃	13H			V		めのう	5.50	3.00	0.60	14.35	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	36
S679	〃	15G	R1	12		26001	〃	6.10	2.30	0.60	13.80		
S680	〃	14F.G			畦		〃	4.40	3.20	1.00	13.08		
S681	〃	13H	R1				〃	5.40	2.70	1.50	19.51	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S682	〃	16E			V	2261	黒曜石	5.30	3.00	1.00	13.25		
S683	〃	11G			溝		めのう	4.00	3.20	1.40	17.53		
S684	〃	16G			溝上		〃	5.50	4.20	1.00	32.68	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S685	〃	8D			Ⅲ		〃	1.80	3.00	0.80	16.78		
S686	〃	18D			V		〃	4.60	3.60	0.90	13.67		
S687	〃	14E			V	7199	黒曜石	4.70	3.50	1.20	18.00	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S688	〃	22K	R2				めのう	5.20	4.00	1.00	18.19	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S689	〃	18K			Ⅱ		フリント	4.80	4.10	0.70	17.57		
S690	〃	15G	R1	73		27479	黒曜石	2.20	4.00	0.80	64.60	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S691	〃	14E			V		めのう	2.70	3.20	0.60	14.52		
S692	〃	21F	R1	69		36887	フリント	8.00	3.20	1.50	31.59		
S693	〃	10E			V	6004	〃	4.00	3.60	1.30	19.09	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S694	〃	15H			V	5939	めのう	4.50	2.30	1.00	60.24		
S695	〃							8.80	6.20	1.30			
S696	〃	15G			V			2.20	3.50	0.70	82.41		
S697	〃	13H	R1	43		26809	めのう	3.60	4.80	0.80	98.84		
S698	〃	15E			V	415		11.30	7.30	3.10	164.88		
S699	〃	14H	R1	40		28397	黒曜石	9.10	6.70	3.00	98.79		37
S700	〃	22M					安山岩	2.40	5.60	0.90	75.59	暗茶褐色土	
S701	〃	15D			Ⅵ	29730	めのう	6.50	3.90	1.30	31.44		
S702	〃	17D						4.60	3.80	0.70	12.07		
S703	〃	22D			土集	37961	フリント	8.80	4.70	2.30	74.30		
S704	〃	18D			Ⅵ	33625	〃	10.00	6.60	3.20	165.17	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S705	〃	22D		82		37981	黒曜石	9.40	7.20	3.10	167.74		
S706	〃	13F			V		〃	10.30	7.40	3.70	256.57		
S707	〃	16G	R1	75		24031	フリント	8.70	6.80	3.10	163.00		38
S708	〃	16G		76	溝	23000	〃	10.00	7.40	3.70	200.73		
S709	〃	21E			Ⅵ	37005	〃	10.30	5.70	4.20	232.67		
S710	〃	13F			V	8886	〃	3.30	3.20	0.90	77.55		
S711	〃	19D			Ⅲ		〃	2.20	4.70	0.80	60.75		
S712	〃	19E			Ⅵ		黒曜石	5.50	4.50	1.70	37.95		
S713	〃	19E			Ⅶ		めのう	6.60	4.00	1.20	33.67		
S714	〃	12H	R1				〃	6.50	4.20	1.50	54.23		
S715	〃	15H	R1				フリント	8.30	7.80	2.30	149.33		
S716	〃	14G			V	9432	めのう	6.00	5.00	0.90	41.98		39
S717	〃	14G			V	12911	砂岩	7.00	4.90	1.30	28.75	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S718	〃	場所不明					フリント	7.30	3.80	1.60	28.69		
S719	〃	21C			V上		めのう	6.90	5.70	1.50	63.08	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S720	〃	14D			V		〃	6.50	6.80	1.60	73.48		

第20表　石器観察表12

番号	器　種	出土区			層位	取上番号	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	備　考	図No.
		区	R	小区									
S721	ｽｸﾚｰﾊﾟｰ	２２Ｋ	Ｒ２				めのう	5.60	6.10	1.70	37.25		39
S722	〃	２１Ｅ			Ⅵ	37047	フリント	6.40	6.00	2.00	86.69		
S723	〃	２０Ｍ			Ⅲ		めのう	8.00	5.50	2.50	106.65		
S724	〃	１２Ｈ	Ｒ１	30		26857	フリント	7.70	6.00	2.30	92.81		
S725	〃	２２Ｋ			Ⅵ			5.80	6.10	1.70	43.33		
S726	〃	１９Ｅ			Ⅶ	41117	フリント	6.10	4.80	1.80	43.68	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S727	〃	１３Ｈ	Ｒ１				〃	8.40	6.40	1.90	77.54	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S728	〃	１５Ｄ	Ｒ１	66		26977	めのう	6.80	4.50	1.30	26.87	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	40
S729	〃	２０Ｄ			Ⅵ		〃	6.50	3.70	1.80	39.15		
S730	〃	７Ｃ			Ⅰ		フリント	7.80	6.80	2.90	137.91	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S731	〃	１５Ｆ			Ⅴ	4646	〃	7.30	3.70	2.30	46.07	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S732	〃	１１Ｇ			Ⅳ		黒曜石	2.00	1.30	0.70	1.98	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S733	〃	１８Ｄ			Ⅴ	31865	〃	2.20	1.20	0.70	1.39		
S734	〃	２０Ｌ			Ⅴ		〃	3.30	1.30	0.70	2.34	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S735	〃	２１Ｋ			Ⅵａ	38025	〃	2.70	1.80	0.60	2.82		
S736	〃	２３Ｌ					〃	2.60	2.20	0.70	3.86	黒褐色土落込	
S737	〃	１９Ｅ			Ⅵ	41399	〃	2.70	2.20	1.20	5.48		
S738	〃	２３Ｋ			Ⅳ		〃	2.40	1.50	1.00	3.32		
S739	〃	２３Ｍ					〃	2.30	2.30	0.70	3.76	暗茶褐色土	
S740	〃	１８Ｄ			Ⅴ		〃	2.50	2.20	1.00	5.01	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S741	〃	２０Ｋ			Ⅴ		〃	3.20	2.00	1.00	4.72		
S742	〃	２１Ｆ	Ｒ１				〃	3.60	3.20	1.30	12.75	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S743	〃	１５Ｈ			Ⅴ		〃	3.20	1.10	0.50	1.43		
S744	〃	１７Ｋ			Ⅲ		〃	3.50	2.20	1.00	6.95		
S745	〃	１６Ｅ			Ⅴ	19027	〃	4.70	1.70	0.90	5.84		
S746	〃	１８Ｄ			Ⅵ		〃	4.10	1.80	1.00	3.92		
S747	〃	１５Ｇ			Ⅴ			3.60	2.80	0.80	6.38		
S748	〃	１５Ｇ			Ⅴ		黒曜石	3.50	1.80	0.90	3.22		
S749	〃	２２Ｍ	Ｒ２				〃	3.10	2.30	0.70	5.04		
S750	〃	１９Ｅ			Ⅵ		〃	2.90	2.40	0.80	4.61		
S751	〃	２１Ｆ	Ｒ１	33		36757	〃	3.30	3.20	0.80	8.89		
S752	〃	１６Ｆ			Ⅴ		〃	3.20	1.60	1.00	3.61		
S753	〃	１４Ｇ			表採		〃	4.90	2.70	1.40	11.54	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S754	〃	１７Ｄ			Ⅱ		〃	3.20	2.80	1.20	9.15		
S755	〃	２２Ｋ	Ｒ２				〃	4.40	2.70	1.00	7.98		
S756	〃	１５Ｇ			Ⅴ	14905	〃	2.30	2.00	0.40	2.28		
S757	〃	２３Ｍ			Ⅲ		めのう	4.20	2.10	1.10	8.57		
S758	〃	２３Ｋ					黒曜石	3.00	2.60	1.00	6.81	暗茶褐色土	
S759	〃	１３Ｆ			Ⅴ		〃	3.00	2.50	1.10	9.42	ｻﾑｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S760	〃	１５Ｇ	Ｒ１				〃	2.40	1.60	0.60	1.79	石鏃？	
S761	〃	１０Ｅ			Ⅴ下		〃	4.60	1.50	1.50	11.11	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S762	〃	１３Ｈ			Ⅵ	19245	フリント	4.50	2.30	0.70	6.21		
S763	〃	１５Ｈ	Ｒ１				めのう	4.90	3.00	0.90	6.67		41
S764	〃	２１Ｋ			Ⅵａ	38030	〃	3.10	2.80	0.90	4.30		
S765	〃	１９Ｋ			Ⅴ		〃	3.50	2.50	1.30	10.50		
S766	〃	２１Ｆ	Ｒ１				〃	4.00	3.50	1.10	19.16	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S767	〃	２２Ｎ	Ｒ２				〃	5.00	1.30	0.40	11.11		
S768	〃	１１Ｇ	Ｒ１				〃	3.60	2.70	1.00	10.73		
S769	〃	１９Ｋ			Ⅳ		黒曜石	3.00	2.70	0.80	6.88	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S770	〃						〃	3.00	2.50	0.50	4.11		
S771	〃	１２Ｈ			溝		〃	3.60	2.50	1.10	10.41	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S772	〃	２３Ｍ			Ⅲ		〃	2.30	1.70	0.80	2.46		
S773	〃	１２Ｇ			溝		〃	3.20	2.50	1.00	7.71	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S774	〃	１１Ｆ			Ⅴ		〃	3.70	3.30	1.20	16.15	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S775	〃	２０Ｅ			Ⅶ		めのう	4.30	2.60	1.00	9.07	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S776	〃	１４Ｇ			Ⅴ		黒曜石	3.70	3.30	0.70	7.56	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S777	〃						めのう	2.50	3.20	0.50	16.85		
S778	〃	１３Ｈ	Ｒ１				黒曜石	3.20	2.70	0.80	5.79		
S779	〃	１２Ｅ			Ⅴ	13916	〃	2.80	2.00	0.50	3.27	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S780	〃	１２Ｄ			Ⅵ		〃	4.40	2.60	1.40	14.43	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	

第21表　石器観察表13

番号	器種	出土区 区	R	小区	層位	取上番号	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	図No.
S781	ｽｸﾚｰﾊﾟｰ	11G	R1				黒曜石	5.00	3.10	1.60	22.71	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	41
S782	〃	20E			Ⅵ		〃	4.30	2.40	1.20	10.83		
S783	〃	21D			Ⅶ		〃	6.00	3.90	2.00	37.68		
S784	〃	21L			表採		〃	5.10	3.50	2.20	32.44		
S785	〃	23K			Ⅳ		〃	4.60	2.80	1.20	11.38		
S786	〃	14G	R1				〃	4.60	4.20	1.50	25.30		
S787	〃	15G	R1				〃	3.20	1.50	0.80	2.23		
S788	〃	16G	R1	17		26727	〃	6.80	4.50	1.20	29.98	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S789	〃						安山岩	5.60	3.60	1.00	13.23	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S790	〃	19D			Ⅴ		黒曜石	4.80	2.40	1.70	12.47	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S791	〃	13M			Ⅴa		〃	4.40	3.30	1.50	17.48	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S792	〃	23M				暗茶褐色土	〃	3.50	3.20	1.40	14.20	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	42
S793	〃	15G	R1				〃	4.70	4.70	1.50	31.77		
S794	〃	13E			Ⅲ		〃	4.60	3.70	1.20	18.90	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S795	〃	10F			Ⅲ		〃	4.60	1.80	1.00	6.71	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S796	〃	16F			Ⅴ	2975	〃	4.70	3.30	1.40	17.60		
S797	〃	16F			Ⅴ	3375	めのう	1.90	2.70	0.70	16.90		
S798	〃	14F			Ⅴ	12452	フリント	2.20	3.30	0.80	22.20		
S799	〃	22M				暗茶褐色土	めのう	4.40	2.90	0.90	15.36		
S800	〃	19F			Ⅴ	40318	〃	3.40	4.20	1.10	401.33		
S801	〃	15D			Ⅴ		フリント	5.00	3.00	0.70	11.45		
S802	〃	15D			Ⅱ		〃	1.70	3.40	0.70	18.02		
S803	〃	20C			Ⅴ		めのう	1.60	2.70	0.60	12.49		
S804	〃	16E			Ⅳ		フリント	6.60	4.10	1.30	43.29		
S805	〃	14D			Ⅴ		めのう	6.30	4.20	0.60	40.02	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S806	〃	15G			Ⅴ	14556	〃	2.60	2.30	0.40	27.08		
S807	〃	18D			Ⅵ		〃	3.60	5.40	1.20	21.61		
S808	〃	14G	R1				フリント	2.90	4.80	1.10	12.42		
S809	〃	12F			Ⅴ	6683	〃	2.40	2.10	0.40	36.61		
S810	〃	15H	R1				〃	2.90	1.90	0.60	13.07		
S811	〃	13?			Ⅴ		〃	4.00	1.80	0.50	11.98		
S812	〃	13C			溝		めのう	5.10	3.40	0.60	40.77		
S813	〃	15G	R1				〃	5.60	4.20	2.10	41.62		43
S814	〃	16F	R1	91		26713	〃	6.60	4.20	1.70	42.44		
S815	〃							5.60	4.20	0.80			
S816	〃	23K				暗茶褐色土	めのう	5.60	4.30	1.70	41.93	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S817	〃	19F			新溝		フリント	4.50	3.20	1.30	17.33		
S818	〃	21L			Ⅵb	38497	めのう	5.80	3.20	1.60	25.78	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S819	〃	13H	R1				〃	5.20	4.00	1.30	18.65		
S820	〃	16G			Ⅲ		フリント	5.60	4.70	1.30	36.91		
S821	〃	13H	R1				〃	5.60	3.30	2.20	31.80		
S822	〃	15D			Ⅴ		めのう	6.80	3.60	1.20	22.23		
S823	〃	18F	R1				〃	5.00	2.60	2.10	16.14		
S824	〃	13K			Ⅳ		〃	5.70	4.40	2.10	52.40	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S825	〃	12H	R1				黒曜石	5.90	2.90	1.20	16.64	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S826	〃	20F	R1	86		41021	フリント	5.70	3.20	2.40	29.85		
S827	〃	15G			Ⅴ	4663	めのう	4.50	4.30	1.10	21.42	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S828	〃	13H	R1				安山岩	5.40	3.90	1.50	33.01	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S829	〃	17J			Ⅴ	3857	黒曜石	5.80	4.50	1.10	39.80	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S830	〃	21F	R1				フリント	4.60	3.30	2.60	54.32		
S831	〃	21F	R1	45		37351	〃	5.30	5.20	2.00	48.67	ﾗｳﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	44
S832	〃	13H	R1				〃	5.10	4.90	2.60	45.42		
S833	〃	21F	R1	66		36915	〃	7.50	6.30	3.10	95.35		
S834	〃	13F			Ⅴ	8786	〃	3.00	1.70	0.40	66.79		
S835	〃	20N			Ⅴ		めのう	5.70	5.40	1.60	38.48		
S836	〃	16G	R1	74		24929	フリント	8.20	6.30	1.80	77.89		
S837	〃	14G			Ⅴ			8.70	8.40	3.80	232.33		
S838	〃	16G		76	溝	23000	フリント	9.30	7.60	5.90	297.64		
S839	〃	21L			Ⅵ		黒曜石	3.80	2.50	1.00	8.49		
S840	〃	20C			Ⅲ		フリント	8.00	4.20	2.50	71.39		

第22表　石器観察表14

番号	器　種	出土区			層位	取上番号	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	備　考	図No.
		区	R	小区									
S841	ｽｸﾚｰﾊﾟｰ	１２Ｈ	Ｒ１				黒曜石	6.20	5.60	1.80	44.18	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	45
S842	〃	１４Ｆ						6.00	4.10	1.80	29.21		
S843	〃	１３Ｉ			Ⅴ		めのう	5.10	4.80	1.10	30.16	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S844	〃	１６Ｇ	Ｒ１				安山岩	6.20	5.10	1.20	52.94	サヌカイト	
S845	〃	１５Ｈ			Ⅴ	23555	黒曜石	6.70	4.60	2.10	50.66	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S846	〃	２０Ｅ			Ⅶ	41506	めのう	7.20	3.80	2.70	70.78	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S847	〃	１５Ｅ			Ⅴ	13217	〃	6.80	4.50	1.00	33.41	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S848	〃	１６Ｆ			Ⅴ	17344	フリント	7.20	5.30	4.30	122.30		
S849	〃	１４Ｈ			Ⅴ		黒曜石	5.10	3.00	1.50	16.09		
S850	〃	２１Ｅ			Ⅵ		フリント	4.50	5.30	0.90	19.44		
S851	〃	１８Ｄ			Ⅳ		黒曜石	3.30	3.20	0.90	6.22		
S852	〃	１９Ｅ			Ⅴ		〃	1.70	1.10	0.30	0.63		
S853	〃	２３Ｃ			Ⅲ		めのう	3.60	2.20	2.00	18.83	ｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S854	〃	１８Ｋ			Ⅲ		黒曜石	5.70	3.90	0.90	19.21	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S855	〃	22.23Ｋ	Ｒ２				めのう	3.50	3.00	1.10	15.14		
S856	〃	１６Ｇ			Ⅴ	3643	〃	3.20	2.80	0.70	5.66		
S857	〃	１２Ｅ			Ⅴ	6858	〃	4.20	2.90	1.00	17.78	ｻｲﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S858	〃	２１Ｆ	Ｒ１				黒曜石	2.80	2.50	0.80	6.55		
S859	〃	２１Ｄ			Ⅴ		めのう	5.80	3.90	1.00	4.90		
S860	〃	２０Ｋ			Ⅴ		黒曜石	2.50	2.10	0.50	2.68		
S861	〃	１８Ｊ			Ⅵ		〃	3.00	2.80	1.20	7.24	ｻﾑｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S862	〃	２１Ｅ	Ｒ１				めのう	2.50	2.20	0.50	3.58		
S863	〃	２２Ｋ	Ｒ２				〃	1.90	1.80	0.90	3.26		
S864	〃	２３Ｋ				黒褐色落込	〃	2.80	2.70	0.90	6.38	ｻﾑｴﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ	
S865	石　錐	１６Ｅ			Ⅵ		安山岩	4.90	1.20	0.90	4.46	錐部厚０．５	46
S866	〃	１５Ｉ			Ⅵ		〃	4.90	1.10	0.70	3.16	錐部厚０．３	
S867	〃	２１Ｅ			Ⅵ		めのう	4.10	0.70	0.70	1.63	錐部厚０．４	
S868	〃	１３Ｃ			Ⅵ	29880	〃	(3.80)	0.80	0.50	(1.39)	錐部厚０．３	
S869	〃	２３Ｈ	Ｒ２				〃	3.70	1.30	0.80	3.29	錐部厚０．３	
S870	〃	２１Ｆ	Ｒ１				〃	3.50	1.40	0.60	1.86	錐部厚０．２	
S871	〃	１８Ｎ			Ⅳ		〃	(3.70)	1.50	1.20	(4.04)	錐部厚０．３	
S872	〃	１８Ｍ			Ⅳ	34113	〃	4.20	2.00	0.80	4.98	錐部厚０．２	
S873	〃	２２Ｎ			Ⅴ		〃	(2.70)	1.50	0.70	(1.94)	錐部厚０．３	
S874	〃	２１Ｆ	Ｒ１				黒曜石	3.00	1.20	0.90	2.32	錐部厚０．３	
S875	〃	１６Ｅ			Ⅴ		めのう	(3.20)	2.10	1.10	(6.56)	錐部厚０．３	
S876	〃	１３Ｂ			Ⅱ		チャート	(3.10)	1.70	0.80	(3.35)	錐部厚０．５	
S877	〃	１６Ｄ			Ⅱ		めのう	(3.30)	1.60	1.10	(4.86)	錐部厚０．４	
S878	〃	１９Ｆ	Ｒ１	40		38924	チャート	(3.00)	1.30	0.50	(1.25)	錐部厚０．３	
S879	〃	２３Ｋ	攪乱		Ⅱ		めのう	(2.10)	2.40	0.60	(2.27)	錐部欠損	
S880	〃	２１Ｆ	Ｒ１				黒曜石	(1.90)	2.20	1.00	(2.36)	錐部欠損	
S881	〃	１４Ｇ	Ｒ１				硬質安山岩	(2.70)	2.40	0.90	(4.37)	錐部欠損	
S882	〃				表採		めのう	2.10	1.40	0.40	1.02		47
S883	〃	１８Ｍ			Ⅲ・Ⅳ		〃	2.00	1.80	0.40	1.20		
S884	〃	１１Ｇ	Ｒ１				黒曜石	2.30	1.90	0.60	2.50		
S885	〃	２０Ｄ			Ⅴ		めのう	2.50	2.00	0.60	2.68		
S886	〃	１５Ｈ	Ｒ１				〃	2.80	1.90	0.80	3.18		
S887	〃	１４Ｇ	Ｒ１				〃	1.50	1.40	0.40	0.71		
S888	〃	２３Ｍ	Ｒ２				〃	2.40	1.20	0.60	1.42		
S889	〃	１９Ｄ			Ⅲ下	25659	〃	2.20	2.10	0.40	1.51		
S890	〃	２３Ｍ			Ⅲ		黒曜石	2.40	2.00	1.00	4.94		
S891	〃						めのう	2.70	2.00	0.50	2.06		
S892	〃	２０Ｆ	Ｒ１				〃	3.20	1.70	0.60	3.28		
S893	〃	１４Ｅ			Ⅴ	24257	硬質安山岩	3.30	2.80	1.00	10.20	錐部厚０．４	
S894	〃	２２Ｎ	Ｒ２	59		38668	めのう	4.00	3.10	1.00	7.80	錐部厚０．２	
S895	〃	１５Ｆ			Ⅲ		黒曜石	2.50	2.40	0.70	3.19	錐部厚０．３	
S896	〃	１７Ｍ			Ⅲ		めのう	3.70	2.00	1.30	6.89	錐部厚０．２	
S897	〃	１２Ｈ	Ｒ１				〃	3.60	1.80	1.10	4.84		
S898	〃	１６Ｉ			Ⅲ		フリント	3.50	2.10	0.90	4.76		
S899	〃	１４Ｇ	Ｒ１	36		28316	〃	3.80	2.90	0.90	6.73	錐部厚０．３	
S900	〃	１６Ｄ			Ⅱ		めのう	(3.10)	3.00	0.80	(4.21)	錐部厚０．３	

第23表　石器観察表15

番号	器種	出土区 区	R	小区	層位	取上番号	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	図No.
S901	石錐	２２Ｎ	Ｒ１			38647	黒曜石	3.50	2.30	1.10	6.75	錐部厚０．４	47
S902	〃	１４Ｆ					めのう	3.30	2.30	0.50	2.91		
S903	〃	１８Ｄ			Ⅵ	33576	〃	3.50	1.90	1.00	4.96	錐部厚０．４	
S904	〃	１５Ｇ			Ⅴ	21773	フリント	4.80	3.10	0.90	13.01	錐部厚０．５	
S905	楔形石器	１４Ｇ			Ⅴ		めのう	2.50	1.80	1.10	4.56		48
S906	〃	１３Ｆ			Ⅳ		〃	2.90	1.60	0.70	3.13		
S907	〃	２０Ｃ			Ⅲ		黒曜石	2.90	1.70	0.90	4.01		
S908	〃	１２Ｆ			Ⅴ		〃	3.00	2.70	1.30	10.32		
S909	〃	１１Ｆ			Ⅲ		〃	2.80	2.10	1.80	10.22		
S910	異形石器	１４Ｆ			Ⅴ		〃	3.00	1.40	1.30	6.87		
S911	〃	１４Ｇ	Ｒ１	87		26321	〃	2.20	0.80	0.30	0.46		
S912	打製石斧	１３Ｄ			Ⅴ		粘板岩	9.80	5.40	2.10	105.44		49
S913	〃	１３Ｈ	Ｒ１	95		27263		11.20	7.30	1.60	140.28		
S914	〃	１３Ｈ			Ⅴ	18396	安山岩	9.70	6.50	2.90	198.81		
S915	〃	２０Ｅ			Ⅵ	43092	〃	9.40	5.50	2.70	182.97		
S916	〃	２０Ｌ			Ⅴ		粘板岩	12.40	7.60	1.50	160.58		
S917	〃	１３Ｈ			Ⅴ	22890	安山岩	12.40	7.20	1.50	139.10		50
S918	〃	１１Ｄ			Ⅱ		〃	13.10	7.20	1.80	211.02		
S919	〃	２１Ｆ	Ｒ１				粘板岩	9.20	5.90	1.60	92.89		
S920	〃	１８Ｄ			Ⅴ	31210	安山岩	(13.50)	6.20	1.80	(199.88)		
S921	〃	１５Ｉ			Ⅴ		〃	(7.60)	(6.40)	1.30	(93.09)		
S922	〃	１６Ｉ			Ⅵ	25121	砂岩	(7.50)	(6.50)	1.30	(90.98)		
S923	〃	１４Ｈ			Ⅴ	22619	安山岩	(10.50)	(7.80)	2.60	(225.67)		51
S924	〃	２０Ｄ			Ⅵ	40219	〃	(8.10)	5.70	1.40	(77.28)		
S925	〃	１４Ｉ			Ⅴ	22759	〃	(7.20)	7.40	1.70	(136.27)		
S926	〃							13.10	8.50	1.80			
S927	〃	１８Ｄ			Ⅴ	31838	安山岩	12.60	8.00	1.80	206.70		52
S928	〃	１５Ｈ			Ⅴ	23550	〃	(15.20)	8.10	1.90	(220.63)		
S929	〃	２１Ｄ			横転		〃	(12.60)	7.80	2.50	(247.42)		
S930	〃	２３Ｍ					〃	(17.20)	12.00	2.50	(534.00)	暗褐色土	53
S931	〃							6.10	6.70	1.40			
S932	〃				表採		安山岩	(14.10)	7.60	2.10	(368.00)		
S933	〃	１８Ｊ			Ⅵ		〃	(14.60)	10.20	1.70	(343.00)		54
S934	〃	１３Ｆ			Ⅴ	8628	〃	(7.60)	6.20	1.40	(72.63)		
S935	〃	１７Ｍ			Ⅵ	34483	〃	(9.90)	6.30	2.60	(158.92)		
S936	〃	１５Ｈ			Ⅴ	5936	〃	14.80	8.90	1.50	218.28		
S937	〃	２１Ｄ	土集	79		37468	砂岩	(12.30)	9.70	1.80	(271.95)		55
S938	〃	１３Ｈ	Ｒ１	38		27922	安山岩	15.90	9.70	2.70	334.13		
S939	〃	１６Ｆ			Ⅳ	3353	フリント	11.00	6.40	2.40	132.05		
S940	〃							5.50	4.20	1.90			
S941	〃	２０Ｍ			Ⅴ		安山岩	16.60	10.90	3.40	700.00		56
S942	〃	１３Ｈ	Ｒ１	37		27192	〃	13.20	7.80	2.10	(217.13)		
S943	〃	１０Ｅ	Ｐ２			25194	〃	(10.20)	7.90	1.60	(174.50)		
S944	磨製石斧	１５Ｇ	Ｒ１				〃	7.40	1.30	1.00	16.28		57
S945	〃	１３Ｄ			Ⅴ	29191	粘板岩	6.70	1.50	0.90	14.60		
S946	〃	２２Ｋ	Ｒ１	55		38572	安山岩	(7.30)	1.60	1.40	(29.65)		
S947	〃	１４Ｈ	Ｒ１	40		27848	蛇紋岩	(6.30)	1.50	1.30	(19.94)		
S948	〃							7.90	2.00	0.80	18.18		
S949	〃	１５Ｇ	Ｒ１				蛇紋岩	(6.20)	2.80	0.60	(28.25)		
S950	〃	２０Ｄ			Ⅰ		粘板岩	7.00	2.80	0.90	28.22		
S951	〃	２０Ｌ			Ⅴ		頁岩	(8.70)	3.50	2.00	(101.30)		
S952	〃	２３Ｌ				黒褐色土	粘板岩	8.40	1.50	2.10	44.20		58
S953	〃							4.60	2.50	0.60			
S954	〃	１８Ｆ	Ｒ１			31316	安山岩	(5.10)	1.50	1.70	(23.68)		
S955	〃	１８Ｆ	Ｒ１	66		35148	頁岩	(6.20)	2.30	1.90	(34.01)		
S956	〃	１８Ｅ			Ⅵ	33289	粘板岩	6.00	2.50	0.80	21.77		
S957	〃	１２Ｆ			Ⅴ	15138	砂岩	8.30	1.70	1.30	29.65		
S958	〃	２２Ｎ	Ｒ２				頁岩	(5.30)	3.30	1.70	(33.86)		
S959	〃	２０Ｃ			Ⅲ下		砂岩	(6.20)	2.50	1.50	(42.89)		
S960	〃	１７Ｍ				34539	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	7.00	4.20	1.50	65.10	遺物溜まり	

第24表　石器観察表16

番号	器　種	出土区			層位	取上番号	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	備　考	図No.
		区	R	小区									
S961	磨製石斧	12H			溝		安山岩	8.80	2.10	1.50	38.98		58
S962	〃	13H	R1	23		26576	ホルンフェルス	(7.70)	4.60	1.60	(84.41)		
S963	〃	16F			V	21119	〃	(7.80)	4.20	1.40	78.17		
S964	〃	23L			Ⅳ		粘板岩	9.00	3.50	1.20	54.53		
S965	〃	14H	R1				安山岩	(6.80)	2.70	2.90	(81.65)		59
S966	〃	15G			V	20756	頁岩	9.20	5.80	2.40	169.48		
S967	〃	14G			V	19392	〃	10.10	5.10	2.30	154.11		
S968	〃	20D			V	30281	砂岩	8.60	6.00	2.80	250.00		
S969	〃	20F			Ⅵ		〃	10.40	5.00	3.30	251.03		
S970	〃	14G	R1	57		26686	頁岩	8.10	4.30	1.80	93.91		
S971	〃	20F	R1	74		38898	〃	9.10	4.20	2.60	157.66		
S972	〃	21D			V	37912	安山岩	(7.80)	4.50	2.10	(111.69)		
S973	〃	16G	R1	12		24861	砂岩	10.90	5.30	3.10	282.11		
S974	〃	17K			Ⅳ	34108	粘板岩	11.20	4.50	1.70	125.76		60
S975	〃	15G	R1	87		28249	頁岩	(6.80)	3.90	1.80	(62.60)		
S976	〃							4.10	4.50				
S977	〃	16F			V	3531	砂岩	12.10	4.90	2.90	236.75		
S978	〃							3.20	3.50				
S979	〃	16F			V	3464	砂岩	11.30	5.00	2.75	205.22		
S980	〃	23M			Ⅵ	26209	頁岩	12.40	5.20	3.30	330.78		
S981	〃	15G	R1	7		26852	〃	10.10	3.30	2.80	148.66		
S982	〃	13I	R1	2		13349	安山岩	13.60	6.30	3.40	420.00		
S983	〃	15E			V		砂岩	11.10	5.50	3.30	333.73		61
S984	〃	22F					安山岩	12.00	5.70	4.10	469.00		
S985	〃						〃	5.30	4.70				
S986	〃	16F			V	3244		8.30	5.10	3.00	199.89		
S987	〃						砂岩	4.30	4.50	2.90			
S988	〃	21E	R1			40039		16.00	5.90	4.10	598.00		
S989	〃				表採		安山岩	20.70	6.00	3.90	688.00		
S990	〃						ホルンフェルス	(15.50)	(6.40)	4.50	(661.00)		62
S991	〃							11.90	5.90	4.20			
S992	〃						安山岩	(16.90)	(6.60)	4.40	(688.00)		
S993	〃	11G	R1	70		28136		18.80	5.70	(3.45)	(562.00)		

第25表　石器観察表17

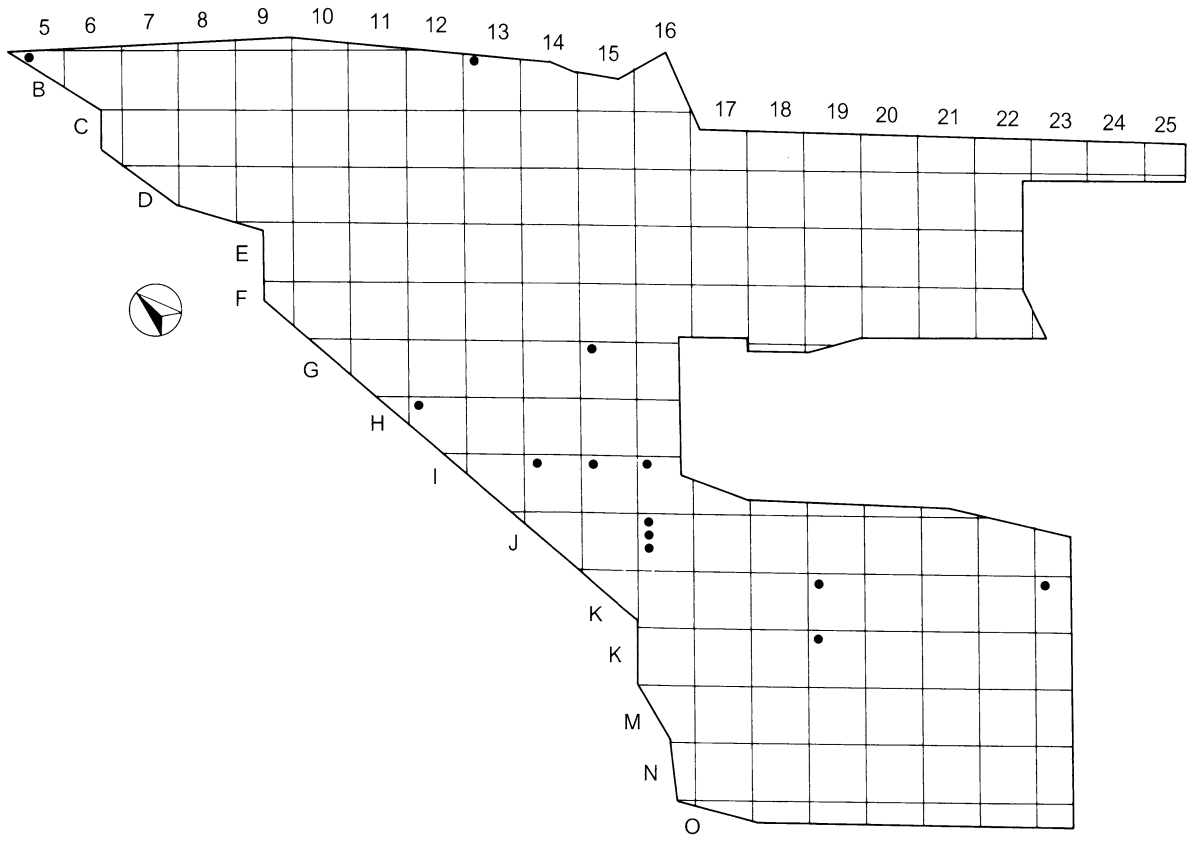
第３節　弥生時代（第85～87図）

弥生時代の遺構は見つからなかったが，12点の土器が出土した。散在した出土状況であるが，14～16－Ｉ・Ｊ区から半数が出土した。器種は甕形土器・壺形土器・高坏形土器がある。

Ｙ１は，口縁部が欠けただけのほぼ完全な小型壺形土器である。高さ約14.0cm，底部直径4.2cmで，最大直径はほぼ中央にあって14.0cmある。安定した平底で，丸みをおびた器形を呈し，肩部に断面が矩形に近い貼付突帯がみられる。突帯には１条の細いヘラ沈線がある。口縁は内面にはっきりした稜線を残し，外へ屈曲している。外側はヘラで丁寧にナデられているが，突帯の下は縦方向，上は横方向である。内面もヘラナデであるが，口縁近くは横方向，上半部は縦方向にかきあげている。茶褐色を呈し，焼成度は良好である。

Ｙ２～Ｙ５は底部で，ほとんどは壺形土器であろうと思われる。安定した平底であるが，Ｙ２はややあげ底となる。Ｙ３は強く外へ開いており，広口壺形土器の底部と思われる。Ｙ２は磨滅しているため，調整不明であるが，他は外面・内面ともヘラによる縦方向のナデで，Ｙ３は底も含めて丁寧にナデている。Ｙ３は茶褐色を呈し，焼成良好であるが，Ｙ２・Ｙ４・Ｙ５は焼成度があまり良くなく，淡茶褐色あるいは乳灰色を呈し，Ｙ５の内面は黒灰色を呈している。

Ｙ６～Ｙ９は甕形土器である。Ｙ６はまっすぐ口縁へ伸びており，端部は突帯が貼り付けられ三角形に肥厚している。Ｙ７は口縁直径が24.5cmの外反する細い口縁部である。外面と口縁部の内面は横方向，頸部から下の内面は縦方向のヘラナデで仕上げている。Ｙ８は胴下半部をいくらか欠いているが，口縁部直径32.0cm，高さ約40.0cm，底部直径7.0cmの完形品である。土が細かいこともあり，磨滅が激しく，接合が困難であった。口縁はくの字状に外反し，頸部より少し下に上向きの細

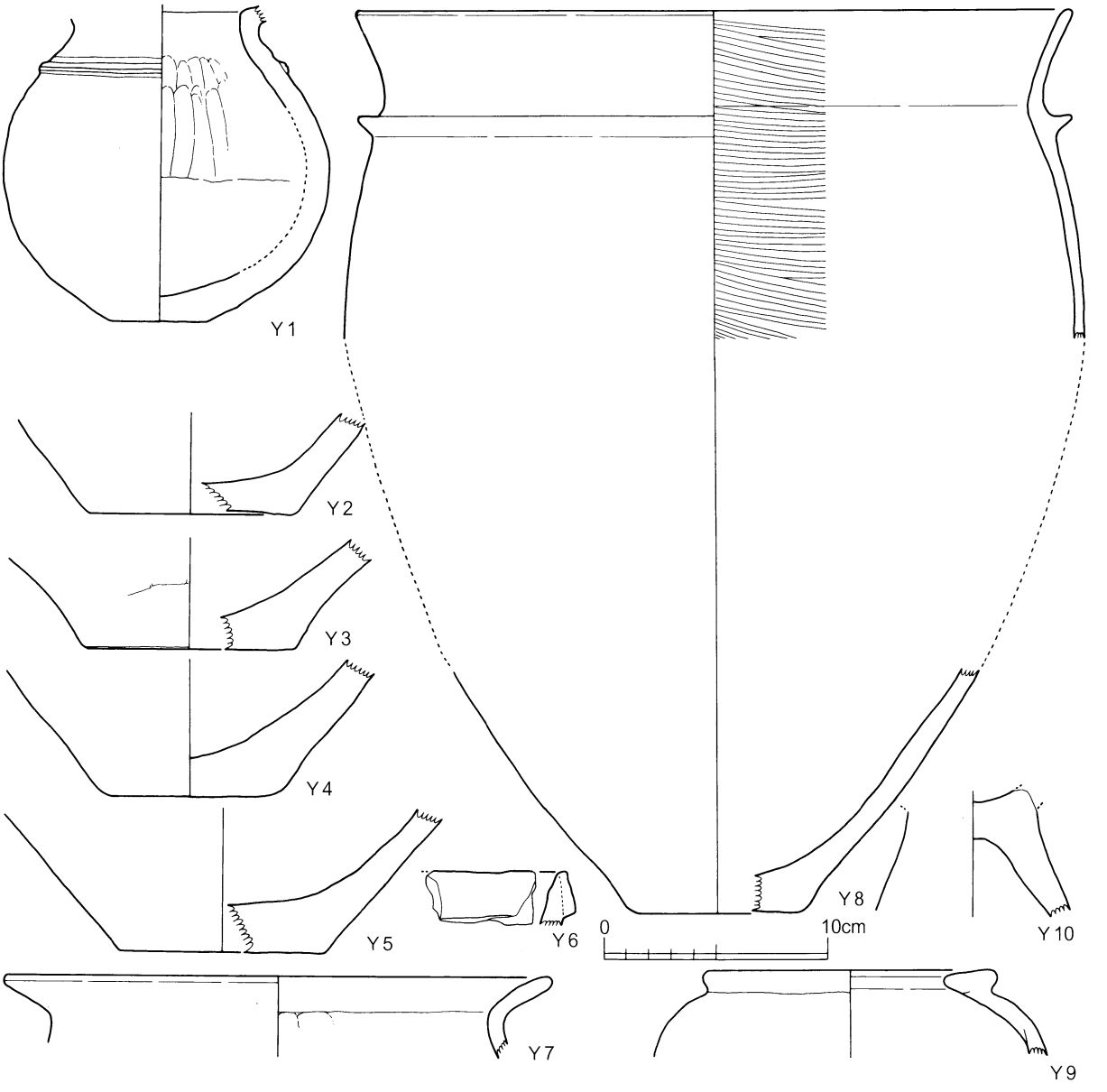


第85図　弥生土器の出土分布図

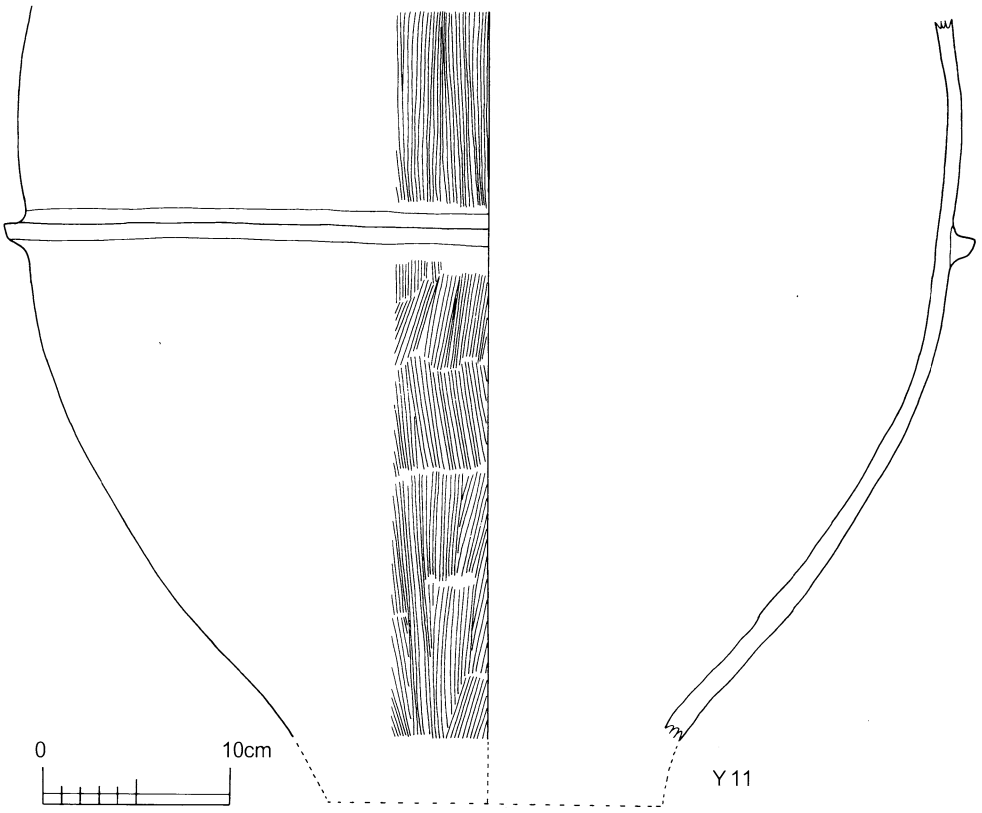
い突帯が貼り付けられている。全体的に細い作りで，不安定な平底である。外面調整は観察が不可能だが，内面の上半はあらいハケによる横ナデ，底部近くはヘラの縦ナデで仕上げている。Y９は口縁部直径が13.0cmある幅広口縁をもつ小型甕形土器である。肩部から外へ広がり，丸みをもった胴部へ移る。断面が剥がれており，板状積み上げの可能性がある。内・外面とも横方向のヘラナデで仕上げているが，作り・調整とも雑で，表面がでこぼこしている。Y６・Y８・Y９は淡茶褐色を呈し，Y７は暗茶褐色である。いずれも焼成度は良くなく軟質である。

Y10は高坏形土器の長い脚部である。磨滅が激しく表面調整は観察不明である。淡茶褐色を呈し焼成度は普通である。

Y11は胴上半部と底部を欠いているが，最大直径が52.0cm，高さが38.0cm以上の大型甕形土器である。口縁部はくの字状に外反し，底部は平底になると思われるが，欠けている。胴部半ばに断面が三角状の突帯が貼り付けられる。外面は縦方向のヘラナデ，内面は縦方向のヘラナデで仕上げら



第86図　弥生土器１



第87図　弥生土器２

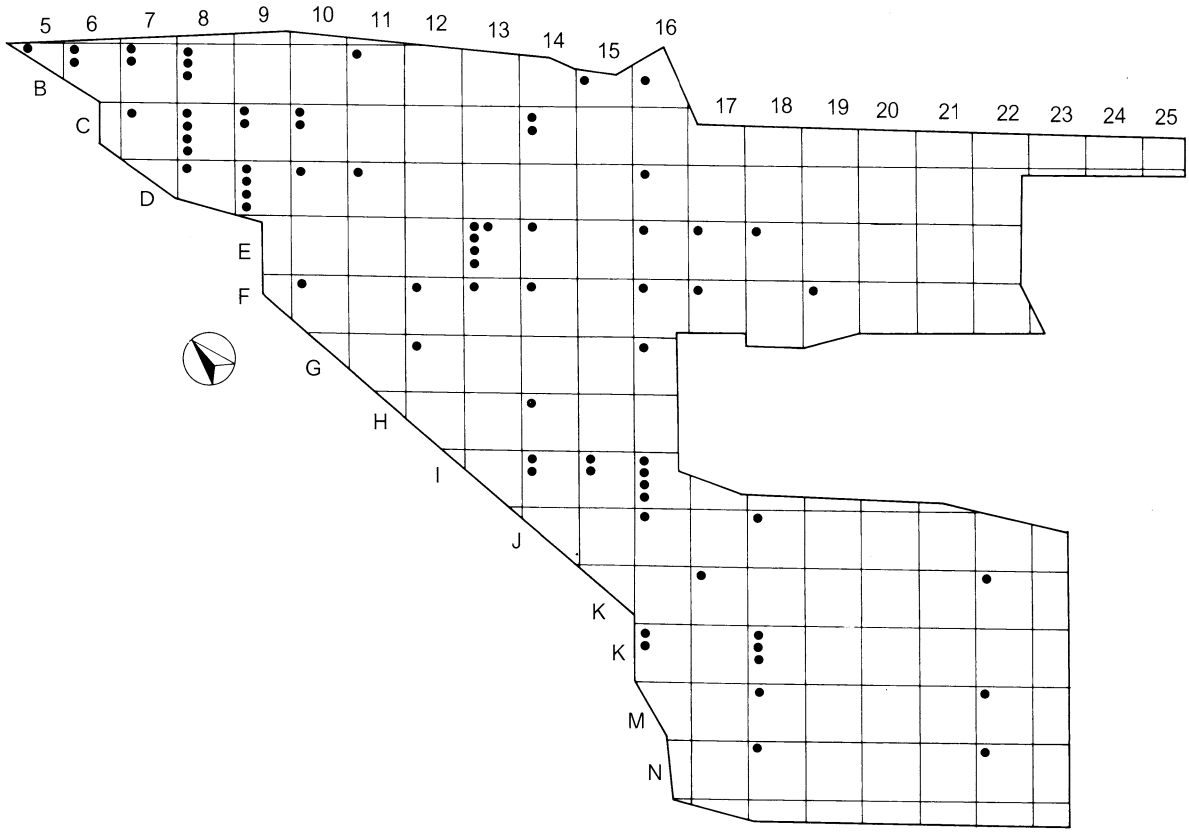
れている。茶褐色を呈し焼成良好である。胎土は石英・雲母・白色石などの小石粒を多く含む砂質土であるが，Ｙ２は赤色石，Ｙ５・Ｙ６・Y10・Y11は茶色石も含んでおり，Ｙ４やY11には大粒の石英粒もある。Ｙ２・Ｙ８は石粒が細かく，軟質となっている。

図化した11点以外の１点は外面がハケナデ調整，内面がヘラナデ調整の甕形土器の破片である。

第４節　古墳時代（第88，89図）

古墳時代の土器が70点出土している。調査区全体に散らばっているが，北側に多く出土している。遺構は検出されなかった。器種は甕形土器・壺形土器・高坏形土器・鉢形土器がある。

Ha１～Ha８は甕形土器である。口縁部は端部が丸みを帯びて，くの字状に外反するが，Ha１・Ha２は口縁部が長いのに対し，Ha３は短いという違いがある。Ha１は頸部からまっすぐ底部へ移り，胴が張らない器形である。器面調整はHa１がハケナデ（外面縦方向，内面横方向）なのに対し，Ha２はヘラナデ（外面横方向，内面縦方向）である。Ha３は内外とも摩耗がひどく，不明である。底部は脚台の付くもの（Ha４・Ha５）と平底のもの（Ha７）がある。Ha４の器面調整はヘラナデ（内面縦方向）で，脚台は貼り付けによって付けられている。脚台は直径約10.0cmで，外面が丁寧な縦方向ヘラナデ，内面が横方向ヘラナデで仕上げられる。Ha６は硬質に焼けた貼り付け突帯のある胴部であるが，突帯が内反しているため，器形がはっきりしない。外面はていねいな横方向のヘラナデで仕上げているが，内面には７mm四方の押圧痕が残っている。突帯は断面三角形に近いが，下

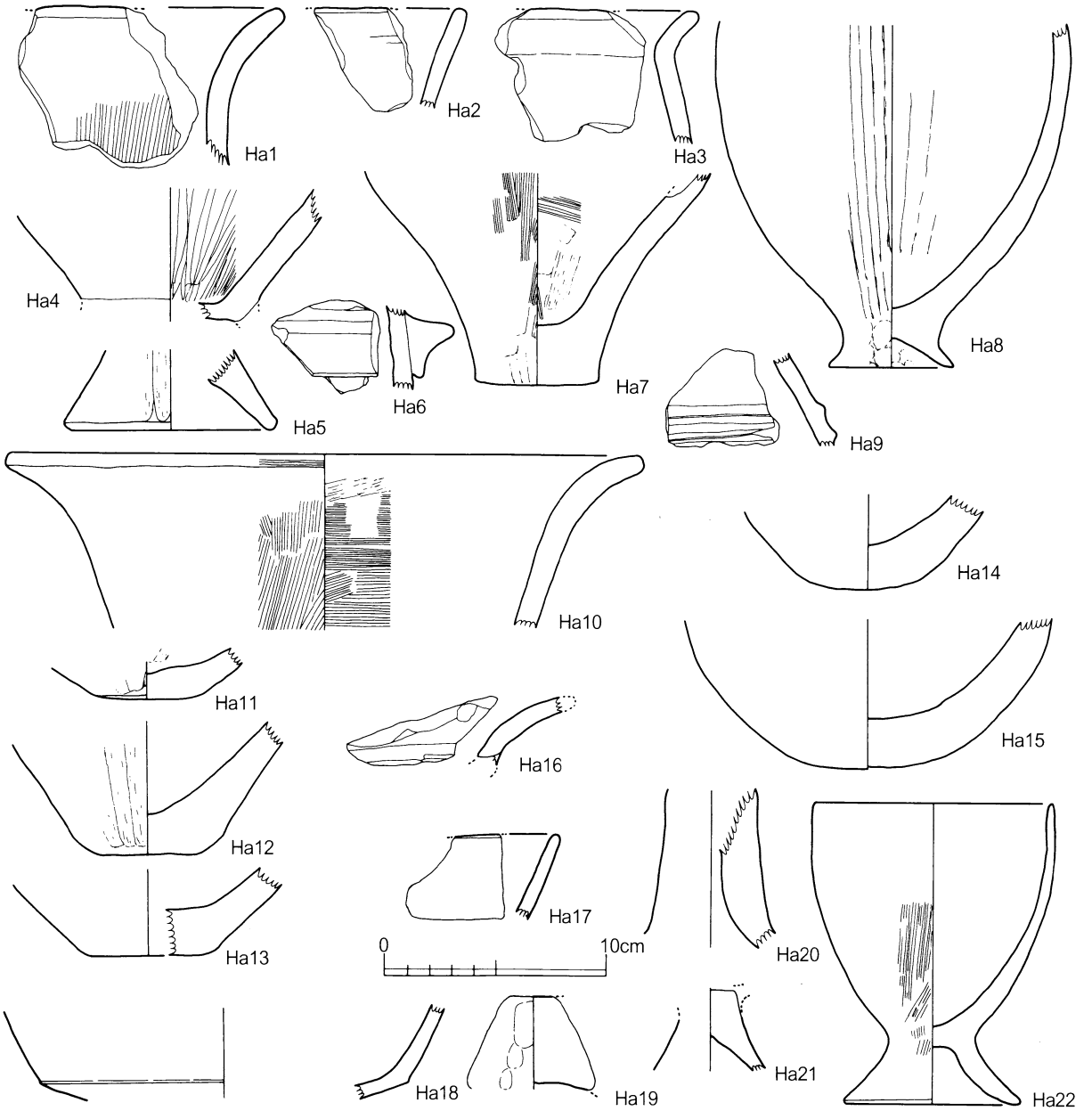


第88図　古墳時代土師器の出土分布図

の方からも押したような形をしており，上は丁寧に仕上げているが，下のほうはそのままの形を残している。Ha７の底面は直径5.8cm～6.2cmの楕円形をしており，やや外反しながら立ちあがる不安定な底である。外面調整は縦方向のこまかいハケナデ，内面調整は横方向のハケナデ（底近くは縦方向のヘラナデ）である。Ha８は高さが20.0cm位しかない小型のもので中ふくらみの器形を呈し，手づくね風の小さい脚台が付く。調整は外面が縦方向のケズリに近い粗いヘラナデ，内面が縦方向のヘラナデである。

Ha９～Ha15は壺形土器である。Ha10は口縁直径が29.0cmもある大型のもので，口縁部は強く外反している。器面調整は内面と外面の口縁端部近くの一部が横方向のヘラナデであるほかはハケナデである。外面は口唇部が横方向，その下が縦あるいは斜方向で，内面は横方向である。Ha９は肩部に２条以上の断面三角形の突帯が付くもので内外ともヘラナデで仕上げている。底は不安定な平底（Ha11），安定した平底（Ha12・Ha13），丸底（Ha14・Ha15）の３種がある。Ha11は小型で，Ha12は底に繊維状の圧痕がある。15の底はややくぼんでいる。 器面調整は磨滅して不明なものもあるが，縦方向のヘラナデのものが多い。Ha15は丁寧な調整である。

高坏形土器（Ha16～Ha21）は坏部が浅く，脚の長いもの（Ha16・Ha20）と深い椀形の坏部で短い脚になるものとがある。Ha16は口縁が強く外反し，口縁部と底部は別々に作られ接合される。内外とも横方向のヘラナデで仕上げられる。Ha20は内外ともヘラナデである。Ha17・Ha18は外面が丹塗りで，外へ開きながらまっすぐのびる口縁部から屈曲して底部に移る。Ha19は坏部と脚部の継ぎ目となる芯で，これに坏部と脚部が付けられ，その外に粘土を塗り付けるものと思われる。Ha21は脚部で，これに坏部が貼り付けられ，上から粘土が塗り付けられる。乳白色を呈するもの（Ha16・



第89図　古墳時代の土師器

Ha19～Ha21）と，淡茶褐色を呈するもの（Ha17・Ha18）とがあり，Ha18の内面は黒班がある。白色石・茶色石・石英・長石などのこまかい石を多く用いた砂質土のもの（Ha16・Ha19～Ha21）と，精製土を用いたもの（Ha17・Ha18）とがある。焼成度は良くない。

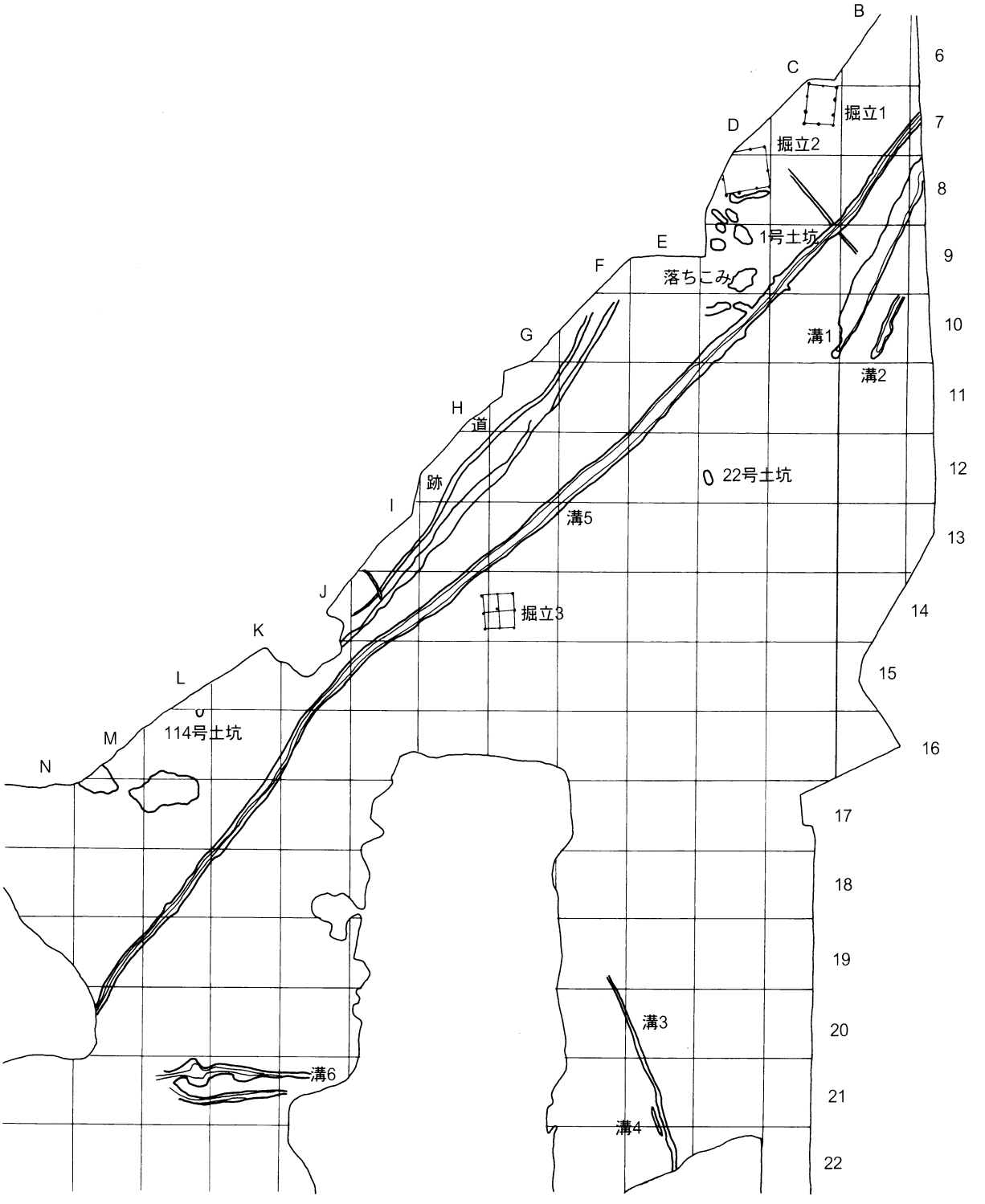
Ha22は一部欠けているがほぼ完全な台付鉢形土器である。口縁直径11.0cm，脚台直径8.0cm，高さ13.5cmである。鉢部は口縁がやや内反するコップ形を呈し，脚台は裾がゆるやかに広がる。外側は縦方向のヘラナデ，内面は丁寧なヘラナデで仕上げている。乳茶褐色を呈するが，一部に黒班がみられる。5mm大までの石英・白色石・黒雲母などの小石を多く含む砂質土を用いており，内面はいいが，外面の摩耗がひどい。

第５節　古　代

１．遺構

１）概要

調査区全体から土坑・柱穴などが多く発見されているが，これらのほとんどはいつの時代のものかはっきりしない。はっきりと古代のものと考えられる遺構は掘立柱建物跡３棟と，土坑２基，道路跡，落ち込み１，溝状遺構４条がある。

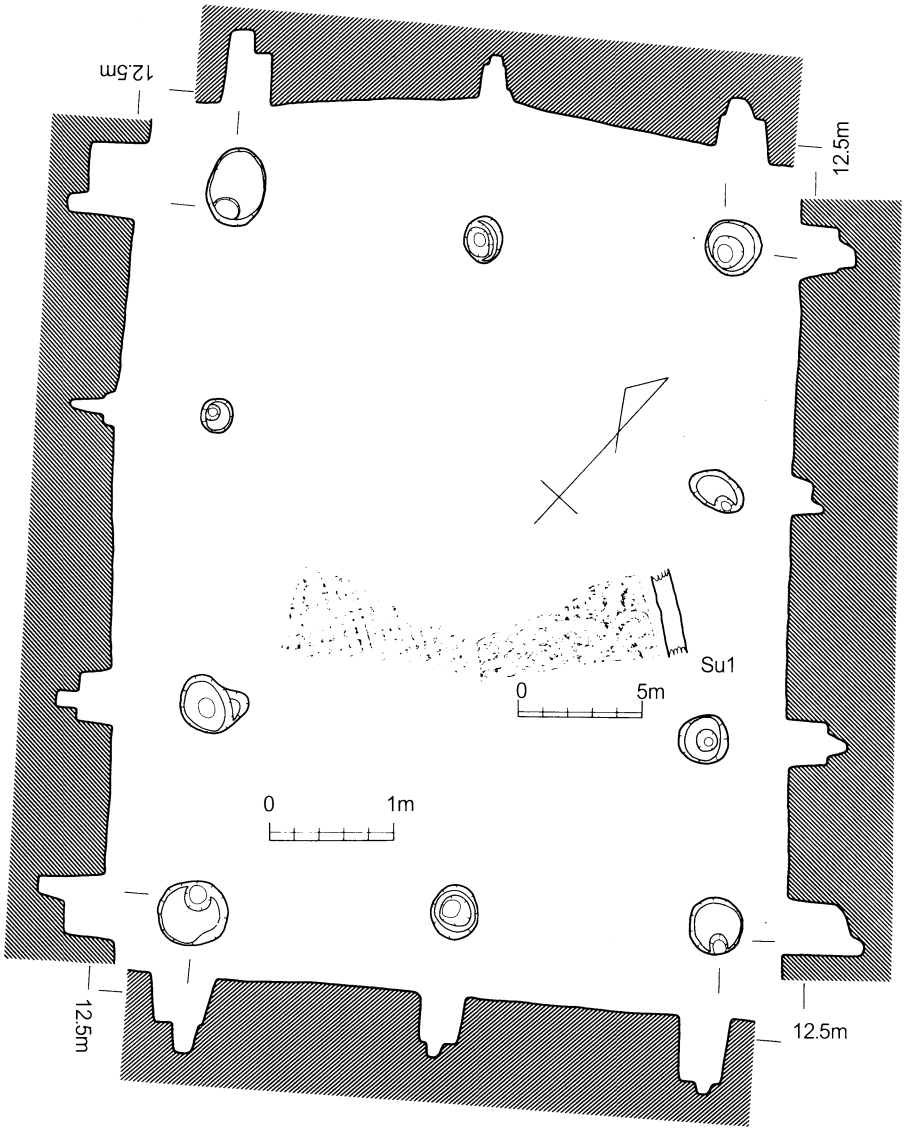


第90図　古代・中世の遺構配置図

２）掘立柱建物跡（第91～93図）

（1）掘立柱建物跡１（第91図）

７Ｃ区にある柱間が２間×３間の建物跡である。主軸方向がN40度Wの南北に長い建物で，それぞれの柱跡は立ち腐れの状況で残っている。北側の柱間は西から2.0m＋2.0mの4.0m，西側の柱間は北から1.6m＋2.4m＋1.6mの5.6m，東側の柱間は北から2.0m＋2.0m＋1.6mの5.6m，南側の柱間は西から2.0m＋2.2mの4.2mである。東側では北から1.6mの所に柱痕跡のない柱穴があることから，当初はこの柱穴がそれで，のちに建て替えられた可能性もある。それぞれの柱穴は直径が26cm～62cm，柱痕跡は12cm～22cmある。現在の深さは30cm～65cmある。埋土は黒褐色，柱痕跡の色は淡茶褐色である。それぞれの柱穴から出土している遺物は縄文土器がもっとも多く47点あり，他に土師器甕２・坏１，須恵器甕１，黒曜石剥片１がある。Su１は北側中央の柱穴から出土した須恵器甕の破片で，表が格子タタキ，裏が同心円タタキで仕上げられている。灰色を呈し，焼成度は良い。

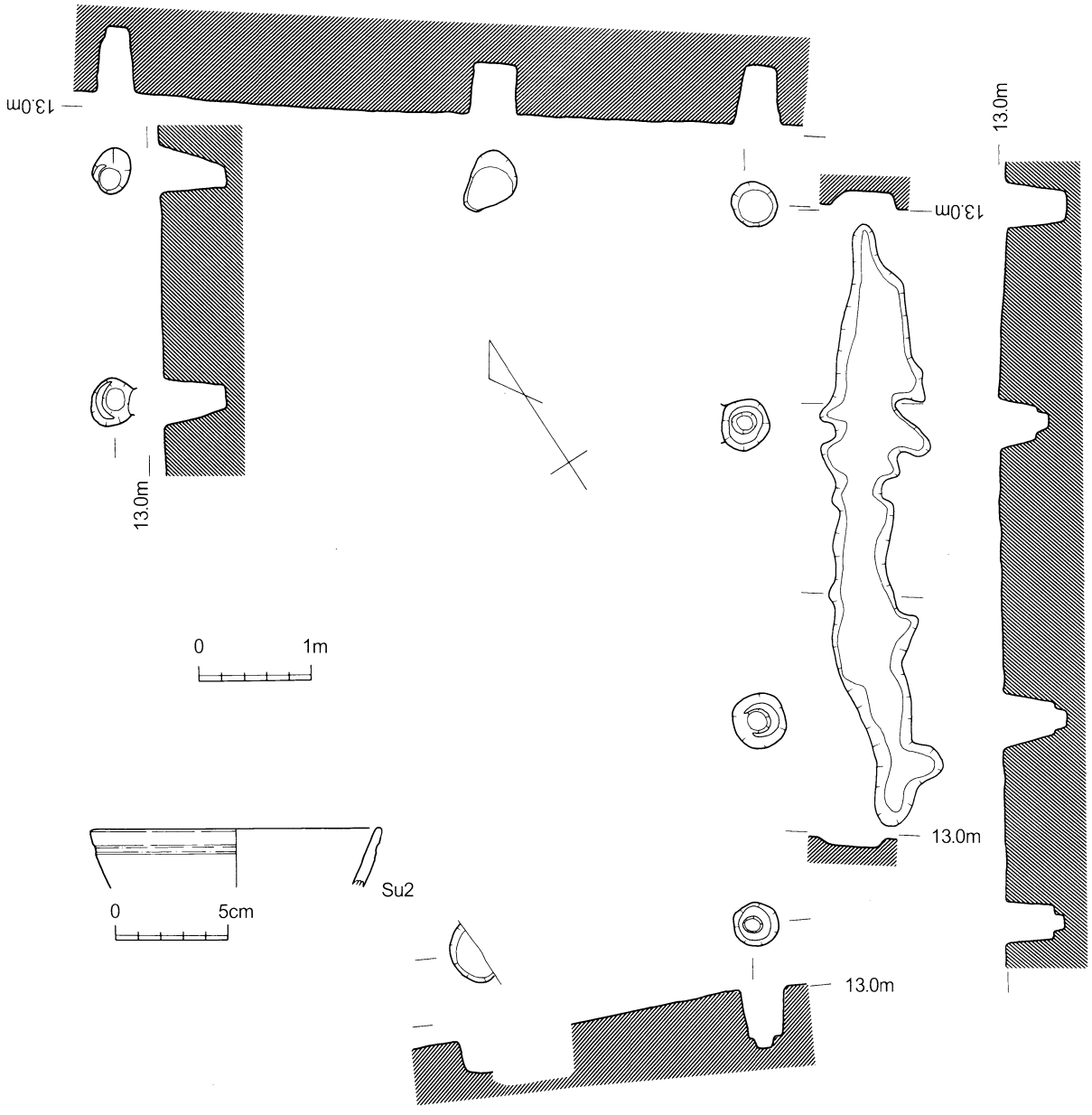


第91図　堀立柱建物跡１と出土土器

(2) 掘立柱建物跡２（第92図）

７・８Ｄ区にある柱間が２間×３間の建物であるが，西側が工事終了部分で調査できなかった。主軸方向がＮ33度Ｅの南北に長い建物で，いずれの柱跡も立ち腐れの状況で残っている。北側の柱間は西から3.4m＋2.4mの5.8m，西側の柱間は北から2.0m，東側の柱間は北から2.0m＋2.6m＋1.8mの6.4m，南側の柱間は西からｘｍ＋2.4mである。それぞれの柱穴は直径が35cm～60cm，柱痕跡の直径が15cm～25cmある。現在の深さは40cm～60cmある。埋土は灰褐色粘質土で，上部に黒褐色と黄褐色のまざり土がある。柱痕跡の色は黒あるいは黒褐色である。建物の東側に幅50cm,深さ10～15cmの溝状落ち込みが建物とほぼ平行してあり，これは雨落ち溝の可能性がある。

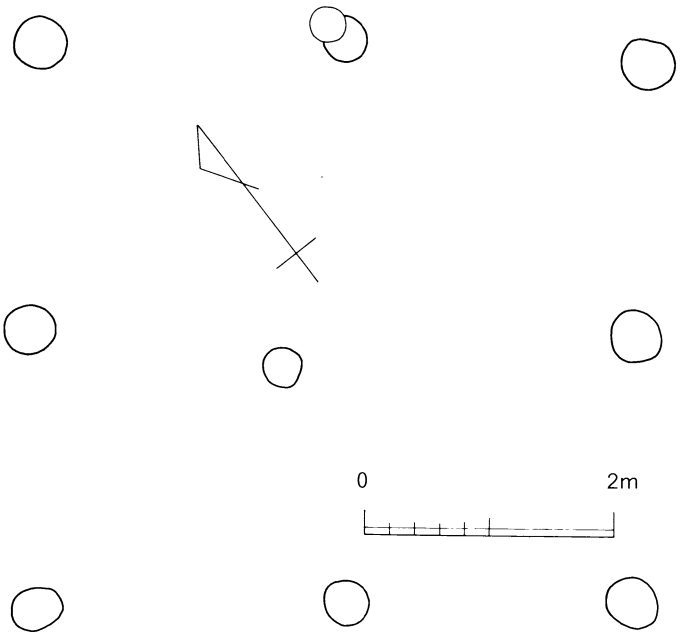
それぞれの柱穴から縄文土器１，黒曜石石核１，土師器甕破片５点が出土しているが，器形のはっきりしたものはない。溝状落ち込みから須恵器坏（Su２）が出土している。口縁直径が13cmあり，灰色を呈している。白色石などこまかい石を含んだ土を用い，焼成良好である。



第92図　堀立柱建物跡２

(3) 掘立柱建物跡３（第93図）

14G・H区にある柱間が２間×２間の総柱建物である。主軸方向がN38度Eで柱間はほとんどが2.4m等間隔であるが，中央の柱が西側に片寄っている。それぞれの柱穴は直径が30cm～40cmあり，暗黒褐色の埋土である。出土遺物はないが，埋土の色調・土質から平安時代のものと思われる。



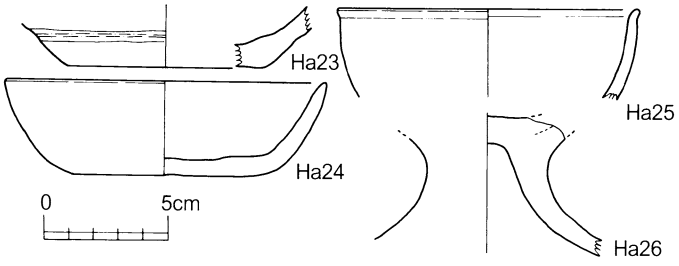
第93図　堀立柱建物跡３

３）土坑

(1) 114号土坑（「干迫Ⅰ」第55図）

16L区にある100cm×55＋αcmの平面形だ円形，底はボール状をした土坑で，最深部は22cmである。北東部が削平されているために全容は不明である。埋土は大きく２層に分かれ，上から灰褐色粘質土，黒褐色粘質土となるが，灰褐色粘質土の上半部には鉄分が多い。

中から底部直径８cmの土師器坏（Ha24）と白磁碗（J56）が出ている。土師器坏の底はヘラ切り離しで，外へ開きながら立ちあがっている。乳白色を呈し，石英・長石などの細石粒を含む精製土を用いている。白磁碗は直径16cmの玉縁口縁である。玉縁部は幅が広く，胴部との境は深くえぐれており，そこに厚く釉がかかっている。白色の磁胎で，青っぽい釉がかかっているが，外面・内面とも釉切れが目立つ。内面の口縁下部には釉垂れがあり，口唇部の釉は薄い。

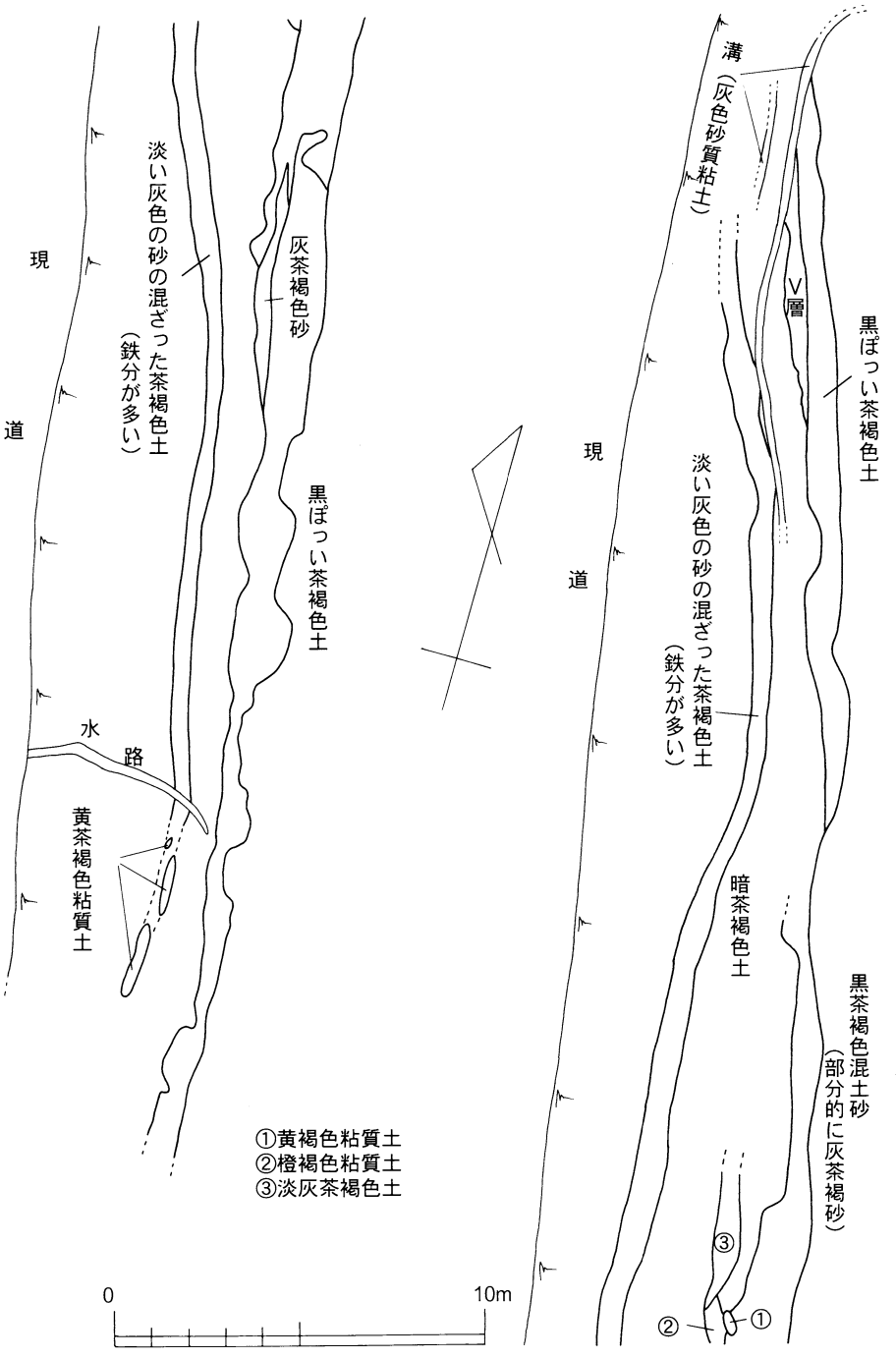


第94図　遺構内出土の土師器

4）道路跡（第95図）

10F区から11F・G区，12G・H区，13H・I区，14I区にかけて硬い面が筋となって続いている。この西端ははっきりしないため幅が不明である。北端は10F区付近で浅くなって，それ以北は削平されたものと思われる。南端は15I区北端付近まで追求できたが，それ以上は本線敷からはずれており，南西区の調査で検出が予定されたが，この調査では確認できず，大きく西へはずれていくものと思われる。

硬土面は鉄分の量や土の色などで4時期以上に分かれるが，出土する土器もほとんどないため時



第95図　道路跡

期の限定は難しい。方向はほぼ並行しており，長期にわたって使われたらしい。もっとも東側にある黒っぽい茶褐色の面は幅が1.5m以上，長さが65.0m以上あるが，切りあいなどからもっとも古いのではないかと思われる。その西側にある暗茶褐色の面は1.0mから2.0mの幅があり，長さは60m以上ある。その西側には幅50～80cmの淡い灰色砂を含む茶褐色の面があり，これには鉄分が多く含まれている。

このほかに灰茶褐色砂の面，部分的に灰褐色砂の混ざった黒っぽい茶褐色混土砂の面などがある。

これらは古く考えると平安時代までさかのぼる可能性がある。周囲に側溝のようなものは見当たらない。

5）落ち込み（第90図）

8Ｄ・9Ｄ区付近に楕円形あるいは不定形の落ち込みがいくつかあるが，これらは周辺の遺構分布や埋土から古代のものの可能性が強い。

(1) 落ち込み１

9Ｄ区にある不定形の落ち込みで，長いほうが約5.0m，短いほうが約2.5mある。深さは50cmほどである。中から須恵器壺の破片が出土している。

6）溝状遺構（第90図）

あちこちに性格不明であるが，溝状の遺構がある。この中には古代の可能性があるものがいくつかある。

(1) 溝状遺構１

8Ａ区から8Ｂ・9Ｂ・10Ｂ・10Ｃ区へ続く幅3.0m，深さ20～30cmの溝状遺構で，約32.0m検出された。北側は用地外へ延び，南側は途中で切れている。底の切り離しがヘラ切りの坏が３点，皿が１点出土しているが，いずれも磨耗している。

(2) 溝状遺構２

10Ｂ区にある幅1.5m，深さ20cmの溝状遺構で，約10.0m検出され，両端とも切れている。中から土師器坏２点が出土しているが，磨耗している。

(3) 溝状遺構３

19Ｆ区から20Ｅ・20Ｆ・21Ｅ・22Ｅ区へ続く幅1.0～1.4m，深さ50～60cmの溝状遺構で，約30m検出された。埋土は下が暗褐色土，上が黒褐色土である。西側は切れ，東側は用地外へ続いている。底がヘラ切り離しとなる土師器坏１点と，須恵器壺１点が出ている。

(4) 溝状遺構４

21Ｅ区から22Ｅ区へ続く幅100cm，深さ12cmの浅い溝状遺構で，約5.0m検出された。両側とも切れている。底部切り離しがヘラ切りの土師器坏が１点出土している。

2．遺物

古代の遺物は土師器・内黒土師器・須恵器・磁器・陶器がある。

1）土師器（第96図）

土師器には皿・坏などある。

(1) 皿（Ha27～Ha32）

皿には小皿・中皿・大皿がある。Ha27～Ha30は口縁直径が約6.5cm，高さ1.5cm～2.0cm，底部直径 5.0cm～6.0cmの小皿である。口縁部は丸くおさまっているが，外へやや広がるものと，まっすぐ立ち上がるものとがある。底はヘラ切りで仕上げているが，調整したものと，調整しないものとがある。Ha31は口縁直径が９cm，高さが 1.5cm，底部直径が７cmの中皿である。口縁端は断面が三角形を呈し，浅い。表面に明茶褐色の化粧土を塗布している。Ha32は口縁直径が10.5cm，高さが1.5cm，底部直径が10cmの大皿である。これも口縁端の断面形が三角形を呈する。

(2) 坏（Ha33～Ha38）

それぞれに器形・法量が異なり，これらは時期が異なるのではないかと思われる。法量は別表のとおりである。Ha33は外面がでこぼこし，底は丸みをもっている。Ha34は大型で，底部はていねいにヘラでナデている。Ha35は口縁が外反し，底は丸くしている。Ha36も大型のもので，外はろくろ痕がはっきりしている。Ha38は底へ立ちあがりながらうつる。Ha33・Ha34は茶褐色・淡茶褐色を，Ha35～Ha38は灰白色あるいは乳灰色を呈している。胎土は茶色石・石英・白色石などのこまかい石を多く含む精製土のものが多いが，Ha34・Ha35はやや大粒の砂質土を用いている。焼成度はHa34が良好の他は，やや軟質である。Ha34は北西端の溝状落ち込みから出土した。

遺物番号	口径cm	底径cm	高さcm
Ha33	9.5	6.5	3.0
Ha34	12.5	4.5	6.0
Ha35	12.0	2.5	2.5
Ha36	14.0	6.5	5.0
Ha37	15.5		
Ha38		6.0	

第26表　杯の法量

(3) 蓋（Ha39～Ha40）

Ha39は疑宝珠状のつまみを有する。Ha40は天井部が平らで，ゆるやかに屈曲しながら口縁部へ向かう。ヘラナデで仕上げるが，内側は特に丁寧である。色調はHa39が乳茶褐色，Ha40の外面が淡茶褐色，内面が黄色っぽい淡茶褐色を呈する。胎土はHa39がこまかい茶色石の多い砂質土，Ha40がこまかい茶色石・石英・白色石の多い精製土に近い砂質土だが４mm大の石もある。焼成度は普通である。

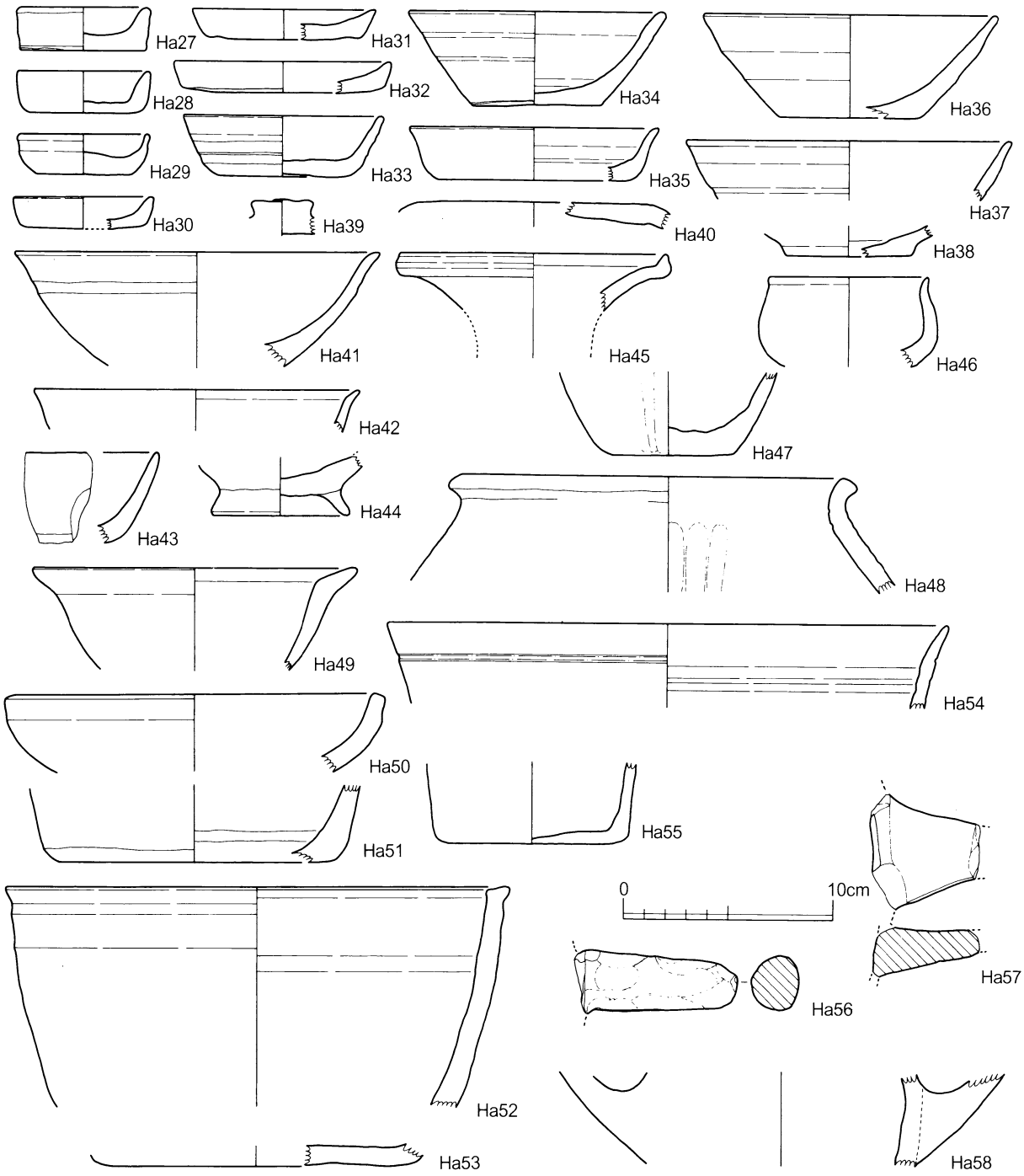
(4) 椀（Ha41～Ha44）

Ha41は口縁直径が17.5cmある大型の椀で，やや外反ぎみに口縁へ立ちあがる。外が横ナデ，内がミガキに近い丁寧なヘラナデで仕上げている。Ha43はやや内弯ぎみの口縁部で，端部は丸みをおびている。Ha44は高台直径が6.5cmある貼付高台の部分で作りは雑である。Ha41が茶褐色，Ha43・Ha44

が淡茶褐色である。焼成度はふつうで，やや磨滅したものもあり，胎土は白色石・茶色石・石英などのこまかい石を含んだ精製土である。

(5) 壺（Ha45～Ha47）

Ha45は口縁直径が13.0cmある長頸壺の口縁部で，頸部から外へ強く外反し，端部が屈曲して直に立ちあがる。磨滅しているが，外面は横方向のハケナデである。乳茶褐色をしており，茶色石などを含む精製土を含んでいる。Ha46は丸みを帯びた胴部から外反して細い口縁部に至る小型の直口壺



第96図　古代の土師器

で，口縁直径が7.5cm，高さ約4.5cmある。乳茶褐色を呈し，焼成度は普通である。石英・白色石など２～６mm大の小石を多く含む砂質土を用いている。Ha47は底径が６.0cmの安定した平底で，外面が縦方向のヘラナデ，底が丁寧なヘラナデで仕上げている。内面にはろくろびきの痕が残っている。灰白色をし，焼成良好である。石英・白色石の多いこまかい土を用いている。

（6）甕（Ha48）

疑似須恵器ともいわれる外面に条痕タタキのある甕である。頸部から口縁へ短く外反し，口縁直径は19.0cmある。内面はヘラナデで仕上げるが，口縁近くは横方向，胴部は縦方向である。外面が茶褐色，内面が乳茶褐色で，焼成度は普通である。白色石・長石・石英粒の多い砂質土を用いている。

（7）鉢（Ha49～Ha55）

いろいろな形態をした鉢がある。Ha49は丸みをおびた胴部から頸部で強く外反して口縁へ移る口縁直径15.5cmの小形浅鉢である。内面は稜がはっきりするほど屈曲している。Ha50は内反して口縁へ移る丸みをおびた口縁直径17cmの浅鉢で，口縁外面はややくぼんでいる。Ha51は底径13.0cmの安定した平底で丸みをもって胴部へ移り，やや外へ開いて立ちあがる。内外とも横ナデ仕上げである。Ha52・Ha53 は口縁直径24.0cm，底部直径約20.0cmの安定した平底の深鉢である。口縁は端部が外へ拡張しており，端部は上もややくぼんでいる。Ha54は外へやや開く口縁直径27.0cmの大型深鉢である。口縁端部は細くなっておわり，口縁下部に凹線がある。内面にも２条の浅いくぼみがみられる。Ha55は底径9.0cmの安定した平底で，まっすぐ立ち上がっている。色調はHa49の外面が赤っぽい茶褐色，Ha49の内面，Ha52・H53 が乳茶褐色，Ha50・Ha51・Ha54が茶褐色，Ha55が黒班のある乳灰色である。Ha54の外表面には赤みがかった茶色の化粧土が塗布してある。焼成度は良くないのが多く，特にHa52・Ha53・Ha55は悪い。Ha51を除きほとんどが磨耗しており，調整痕がはっきりしない。胎土は石英・白色石・茶色石・長石などのこまかい石を含んだ砂質土だが，Ha52・Ha53・Ha55は精製された緻密な土を用いている。

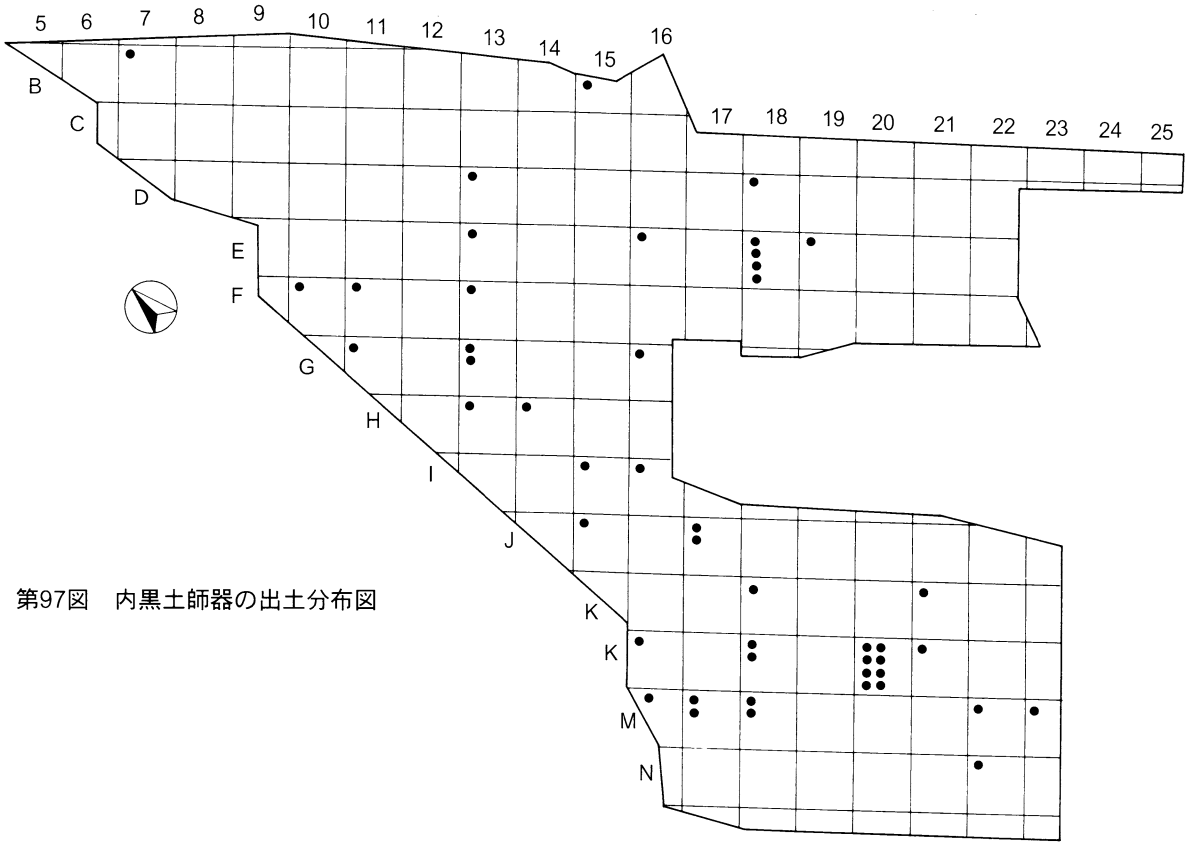
（8）把手（Ha56～Ha58）

土鍋の把手と思われるものが３点出ている。棒状のもの（Ha56），平板状のもの（Ha57），平板角状のもの（Ha58）がある。Ha56・Ha58は淡（乳）茶褐色，Ha57は上面が茶褐色，下面が黒褐色である。Ha57は焼成度が良い。いずれも白色石・石英・長石・茶色石などのこまかい石を多く含む砂質土を用いている。

２）内黒土師器（第98図）

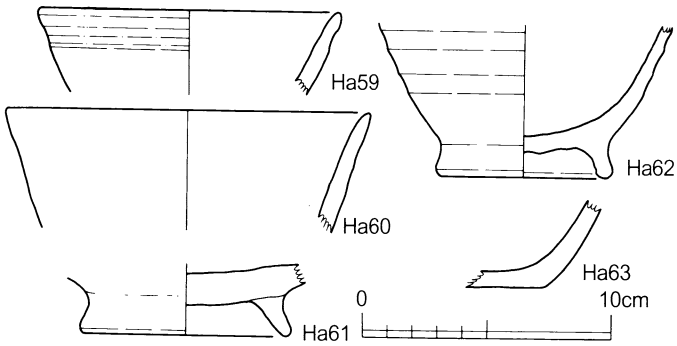
50点の破片が出ており椀（Ha59～Ha63）と坏（Ha63）がある。

椀は外へ開きながらまっすぐ口縁へ向かい高台が付く。口縁直径が12.0cmのものと，14.5cmのものとがある。高台直径は8.5cmと7.0cmのものがあり，Ha61は高台の継ぎ目が一部に残っている。Ha62はやや丸みをもっており，底部の外側は同心円状のでこぼこがある。内面はヘラミガキ，外面は



第97図　内黒土師器の出土分布図

ヘラの横ナデで仕上げており，外面は灰白色・淡茶褐色・乳灰白色を呈し，内面はにぶい黒色を呈する。焼成度は普通で，石英・白色石などのこまかい石を多く含む精製砂質土を用いている。坏の底は安定した平底で，内面は光沢ある黒色を呈している。



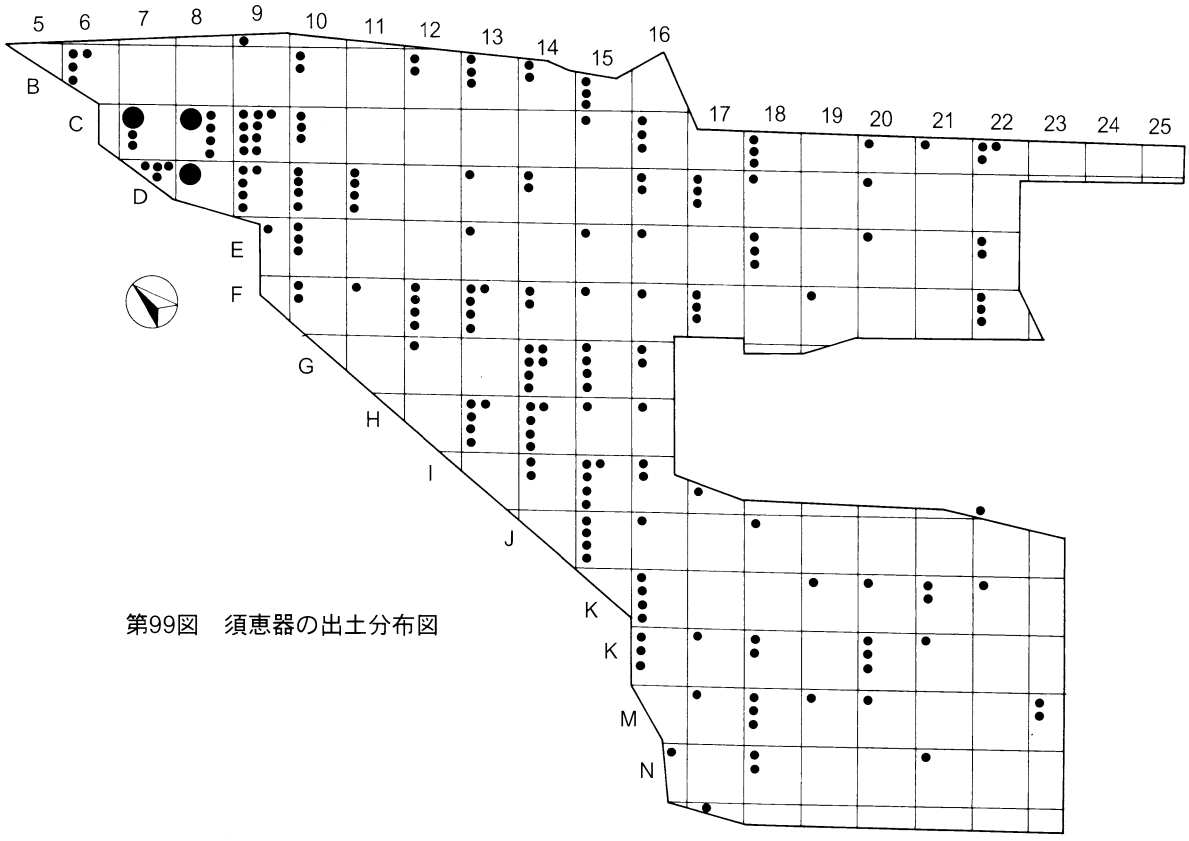
第98図　内黒土師器

3）須恵器（第100，101図）

須恵器破片が213点あり，その広がりは第99図のとおりであるが，６～10－Ｂ～Ｆ区と，13～16－Ｆ～Ｌ区の２か所に集中している感がある。この地域は掘立柱建物跡があり，古道が続いている場所であり，そうした遺構とのつながりが考えられる。器種には坏蓋・坏身・椀・壺・鉢・甕・甕がある。

（1）坏蓋（Su３～Su５）

坏蓋は17点出土している。Su１は口縁直径が15.0cm，高さが1.5cmあり，天井はやや中央が下がっている。つまみの装着部ではずれており，口縁端部はまっすぐ外へ開きながらのびている。Su４は口縁直径が13.7cm，高さが0.7cmと低いもので，口縁端部は内側が段となって外へ広がり，ややふくらんでいる。Su５は嘴状を呈する口縁端部をもち，７Ｃ区Ｖ層のものと同一と思われる。共



第99図　須恵器の出土分布図

に灰褐色あるいは灰色を呈しているが，Su３・Su４は天井部に自然灰釉がかかり，内面は紫がかった色を呈している。白色石の多い土を用い，Su５はやや軟質に焼けている。Su３の内面には繊維状ハケナデの痕跡があり，ツルツルしている。

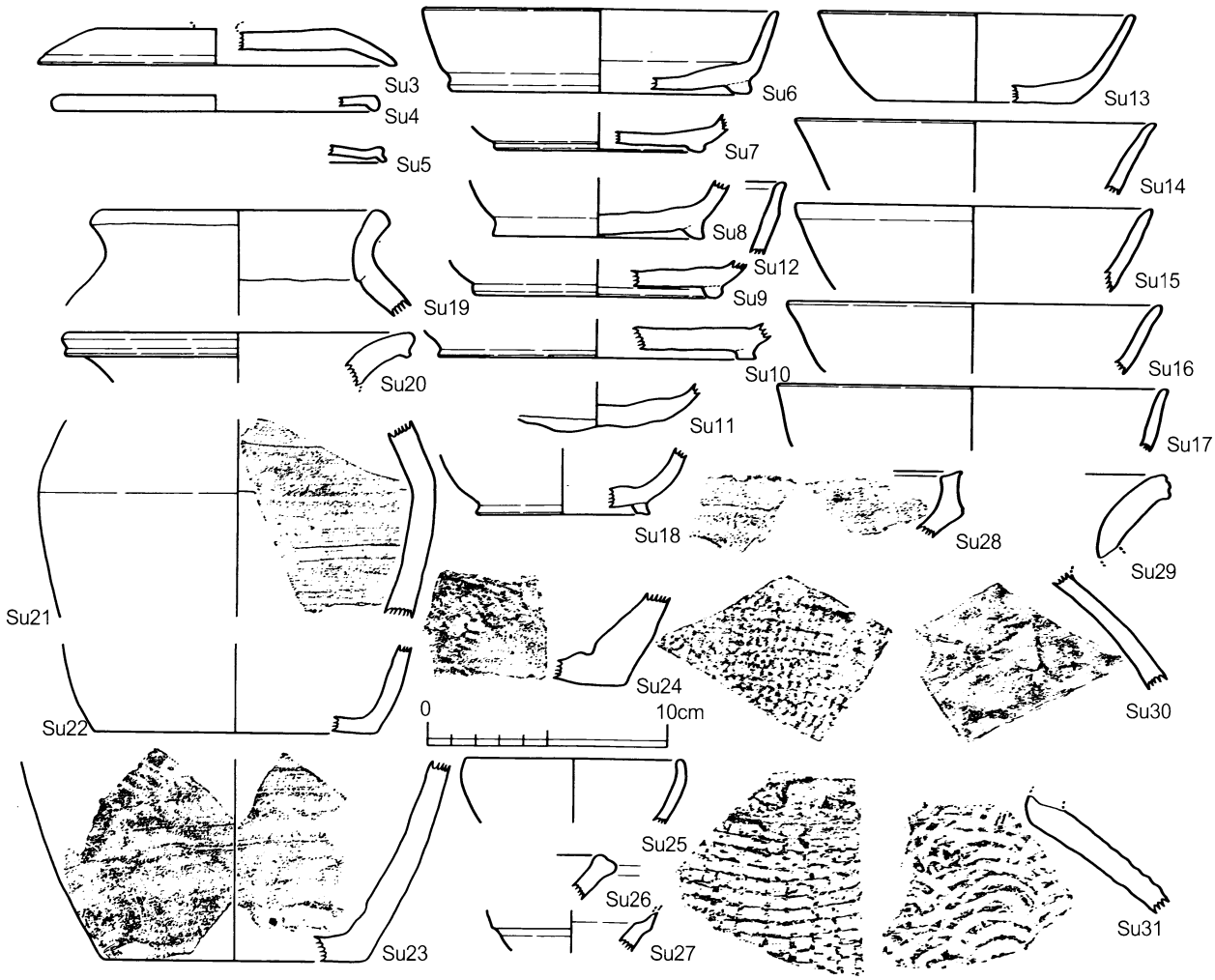
(2) 坏身（Su６～Su17)

坏身は41点出土しており，高台の付くものと平底のものとがある。Su６は口縁直径15.0cm，高さが3.5cm，高台直径が12.5cmあり，高台は丸みをおびている。底部は丸みをおびてくぼんでいる。

高台直径は8.8cm～13.2cmと大小あり，端部の形態も矩形を呈するもの，外へふんばる三角形を呈するもの，台形状を呈するものなど多種ある。いずれも取り付けられている。Su13は口縁直径が13.2cm，高さが3.7cm，底部直径が8.0cmあり，底部は平たいが端部がやや磨滅している。他の口縁部直径は15.0cm～16.0cmと似た大きさだが，外へ開きながらまっすぐのびるものと，端部近くが丸みをもってやや外反するものとがある。Su11はでこぼこの目立つ底部で内側の一部が磨滅している。灰色あるいは灰褐色・灰白色を呈しており，Su７・Su10・Su13・Su14・Su17の外面はやや暗い色を呈する。Su14の内側には火だすきの痕跡がみられる。Su13の中央部は紫がかっている。Su７・Su13～Su15は良く焼けているが他は軟質で，Su６のように磨滅の目立つものもある。

(3) 椀（Su18)

Su18は直径7.2cmの貼付高台のつく椀で，畳付部分がややくぼんで丸みをもって立ちあがる。灰褐色を呈し，焼成良好である。石英・白色石・黒色石などのこまかい土を用い，内面に自然釉がかかっている。



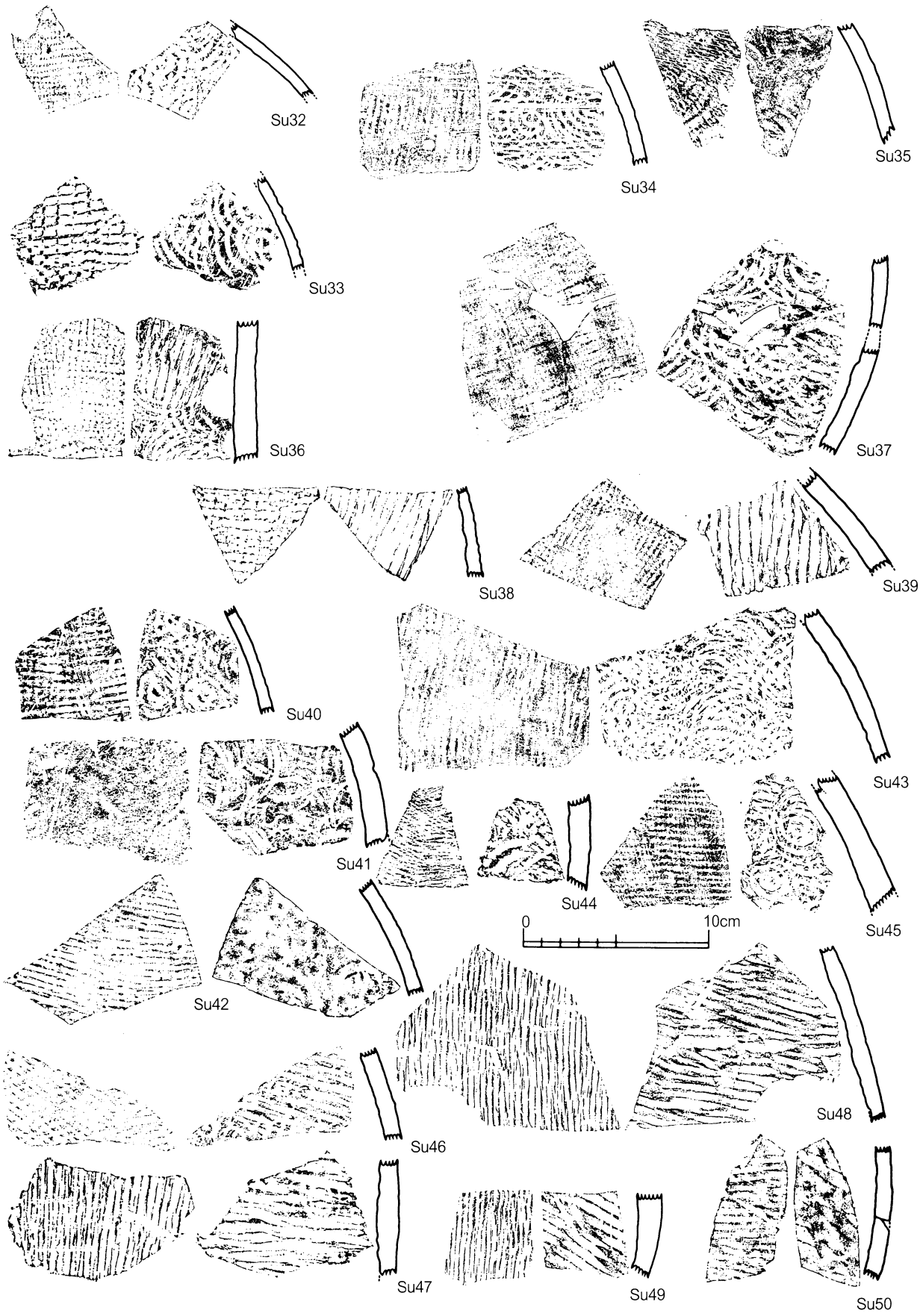
第100図　須恵器１

(4) 壺（Su19～Su24）

壺は口縁部はくの字状に曲がって端部が丸みをおびるものと，強く外へ曲がり端部近くで外へ小さい帯が付く二重口縁となるものがある。最大径（直径16.5cm）は上半部にあり底部へまっすぐおりる。Su21は灰褐色を呈し外にはきれいな自然灰釉がかかっている。白色石・黒色石などのこまかい石を多く含む土であり，内面の一部ににかわ状のものが付いている。底は安定した平底で，直径は11.0cm～12.0cmある。外面は条痕あるいは浅い格子タタキの痕がみられ，そのあとナデている。Su24の内面はでこぼこが目立つ。灰白色・灰褐色・茶がかった灰褐色あるいは紫がかった灰褐色を呈し，Su20には緑色の自然釉がかかっている。焼成度はSu23が悪くて土師質を呈しているが，他は良い。

(5) 鉢（Su25・Su26）

Su25は口縁直径が9.0cmと小型であるが，口縁が内弯し，鉄鉢形を呈している。Su26は外へ開きながらまっすぐのび，端部が内部へ拡張している。


Su32
Su33
Su34
Su35
Su36
Su37
Su38
Su39
Su40
Su41
Su42
Su43
Su44
Su45
Su46
Su47
Su48
Su49
Su50
0
10cm

第101図　須恵器２

(6) 甕（Su27）

Su27は甕の縁部である。外面は陵をもって外へまっすぐのび，内面も段をもって立ち上がる。焼成良好で，表面は灰色だが，内部は青紫灰色を呈する。

(7) 甕（Su28～Su48）

甕の口縁部は外へ広がり，そこで屈曲し立ち上がるものと，外へ強く外反し端部に２条の浅いくぼみのみられるものとがある。Su28の立ち上がりは外面がくぼみ屈曲部は凹線が巡る。端部はややくぼみ，やや内側が下がる。外面にヘラ描き鋸歯文がみられる。口縁部と肩部は貼り付けによって作られる。外面のタタキには正方形あるいは長方形の格子と条痕のものとがある。内面には同心円文タタキと条痕タタキとがある。Su42は車輪文タタキで，Su30もその可能性がある。

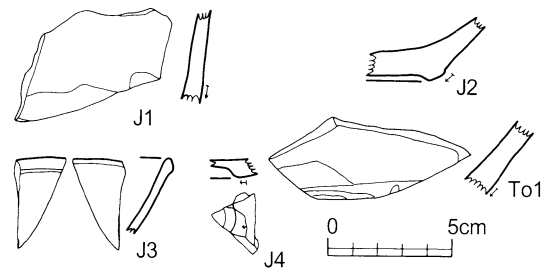
Su41は内面に同心円タタキが見られるが，外面はヘラナデとなる擬似須恵器である。茶褐色（内側はやや赤っぽい）を呈し，土師器風の軟質に焼けている。

４）磁器（第102図）

青磁２点，白磁１点が出土している。

(1) 青磁

Ｊ１・Ｊ２は越窯青磁碗である。Ｊ１は胴部下半部，Ｊ２は底部近くから低い高台部分にかけての破片である。高台は低く，畳付部がとがった台形状を呈している。底部と高台の境付近に浅い沈線がみられる。外面の胴部下半から底部にかけては露胎になっているが，そのほかには黄みがかった緑色釉がかかっている。内は灰色を呈しているが，Ｊ１の露胎部は赤みがかった茶褐色を呈している。Ｊ１が11Ｄ区，Ｊ２が21Ｌ区で出土した。



第102図　古代の陶磁器

(2) 白磁

Ｊ３は荊窯白磁碗である。やや内反ぎみにまっすぐ立ち上がり口縁端部は小さい玉縁状となる。クリーム色がかった白色の磁胎ににごった白色の釉がかかっている。16Ｌ区で出土した。

５）陶器（第102図）

To１は瀬戸焼大椀の体部下半である。こまかい土を使用しており，焼成は良く堅い。灰色土に内外ともに灰釉がかかっているが，外面の体部下半は露胎で茶褐色を呈している。内外ともきれいに釉がかかっているが，外には厚い所と薄い所があり，内面には一部釉切れがみられる。内外とも丁寧なヘラ横ナデで仕上げている。15Ｄ区Ⅵ層で出土した。

第６節　中　世

１．遺　構

１）概 要

中世のものも時期のはっきりしたものがほとんどないが，土坑１基，溝１条がある。

２）土坑

１号土坑（「干迫Ｉ」第39図）

９Ｄ区にある長径4.2m，短径2.7m，深さ0.52mの楕円形をした土坑である。埋土中から土師器甕３，土師器坏９（うち１点は糸切底），備前焼擂鉢１，成川式土器１，縄文土器などが出土している。擂鉢は口縁付近で，口縁下外側にやや上向きの突起が付いている。表面は青っぽい茶褐色を呈し，中央は赤っぽい茶褐色である。内面に下からかきあげたかき目がみられる。３mm大までの白色石・赤色石を多く含み，焼成は堅致である。16世紀頃のものかと考えられる。

３）溝状遺構（第90図）

７Ａ区から７Ｂ・８Ｂ・８Ｃ・９Ｂ・９Ｃ・９Ｄ・10Ｃ・10Ｄ・10Ｅ・11Ｄ・11Ｅ・12Ｅ・12Ｆ・12Ｇ・13Ｆ・13Ｇ・13Ｈ・14Ｈ・14Ｉ・15Ｉ・15Ｊ・16Ｊ・16Ｋ・17Ｋ・18Ｋ・18Ｌ・19Ｌ・19Ｍ・20Ｍ区へ続く上幅80.0cm～160.0cm，下幅20～30cm，深さ60～120cmほどのＶ字溝である。埋土は数層に分かれ，７Ｂ区では上からパミス・鉄分・黒色粘土まじりの砂質土，黒色粘土と灰白色砂のまざり土，鉄分・灰白色砂まじりの灰褐色粘質土，灰褐色粘土のまざった砂質土となっている。17Ｋ区では上から黒色粘質土まじりの暗灰褐色砂質土，茶褐色砂質土と灰褐色粘質土の互層，緑がかった暗灰褐色砂質土となる。底は水が湧くほどのレベルになっている。中には多くの縄文土器とともに土師器坏16・土師器甕２・土師器高坏１(Ha26)・須恵器坏蓋１・須恵器甕１・東播系須恵器こね鉢２・備前焼甕１・天目茶碗１があるが，溝の年代を示すのは東播系須恵器・備前焼・天目茶碗の４点のみと少ない。

こね鉢は口縁直径が24.5cmあり，内面は使用によって磨滅が目立つ。灰褐色をしているが，口縁の肥厚部外面は黒っぽくなっている。白っぽい細礫を多く含む砂質の胎土を用い，焼成は普通である。これは９Ｃ区の溝内の破片と８Ｃ区Ⅲ層のものとが接合している。Ha24は９Ｃ区で出土した坏で，口縁直径が13.0cm，高さが3.8cmある。内外とも丁寧なろくろびき調整で，底はヘラ切り離しのあと周辺を丁寧にナデており，ヘラ様の圧痕がみられる。白色石・長石など４mm大までの小石も含む砂質胎土で，焼成良好であるが磨滅が目立つ。淡茶褐色を呈している。Ha26は18Ｋ区で出土した土師器高坏で，脚部は外へ開いている。坏部と脚部とは接合している。乳白色を呈し，焼成度は良いが磨滅している。茶色粘土を含む精製土を用いている。

２．遺 物

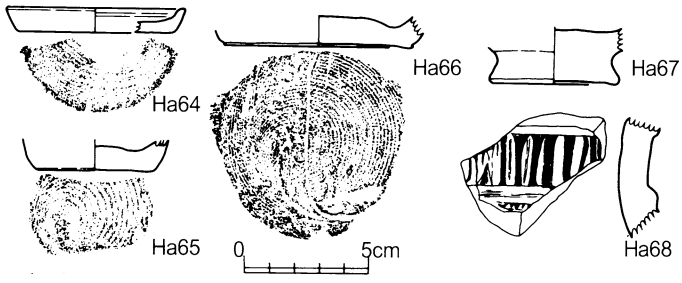
１）土師器（第103図）

土師器には皿・坏・椀・火舎がある。

皿は小形のもので，Ha64は口縁直径7.3cm，高さ1.0cm，底部直径6.2cm，Ha60は底部直径5.0cmで

ある。ともに糸切り離しで，器厚は厚いものと，薄いものとがある。淡茶褐色あるいは乳茶褐色を呈し，焼成度は普通である。白色石・石英・茶色石などの細石の多いこまかい土を用いている。

坏（Ha66)は底部直径が7.0cmでややあげ底となり，糸切り離しである。茶褐色を呈し，焼成度は良い。石英・白色石などを含む砂質土を用いている。



第103図　中世の土師器

椀（Ha67)は充実高台の底で直径が5.0cmある。糸切り離しで明茶褐色を呈する。4.0mm大の小石もあるが精製土を用い，焼成度は普通である。

火舎（Ha68）は２段の半円形突帯の間に格子状文のあるもので乳白色を呈する。こまかい石を含む精製土を用い，焼成度は普通である。

２）須恵器・陶器（第104図）

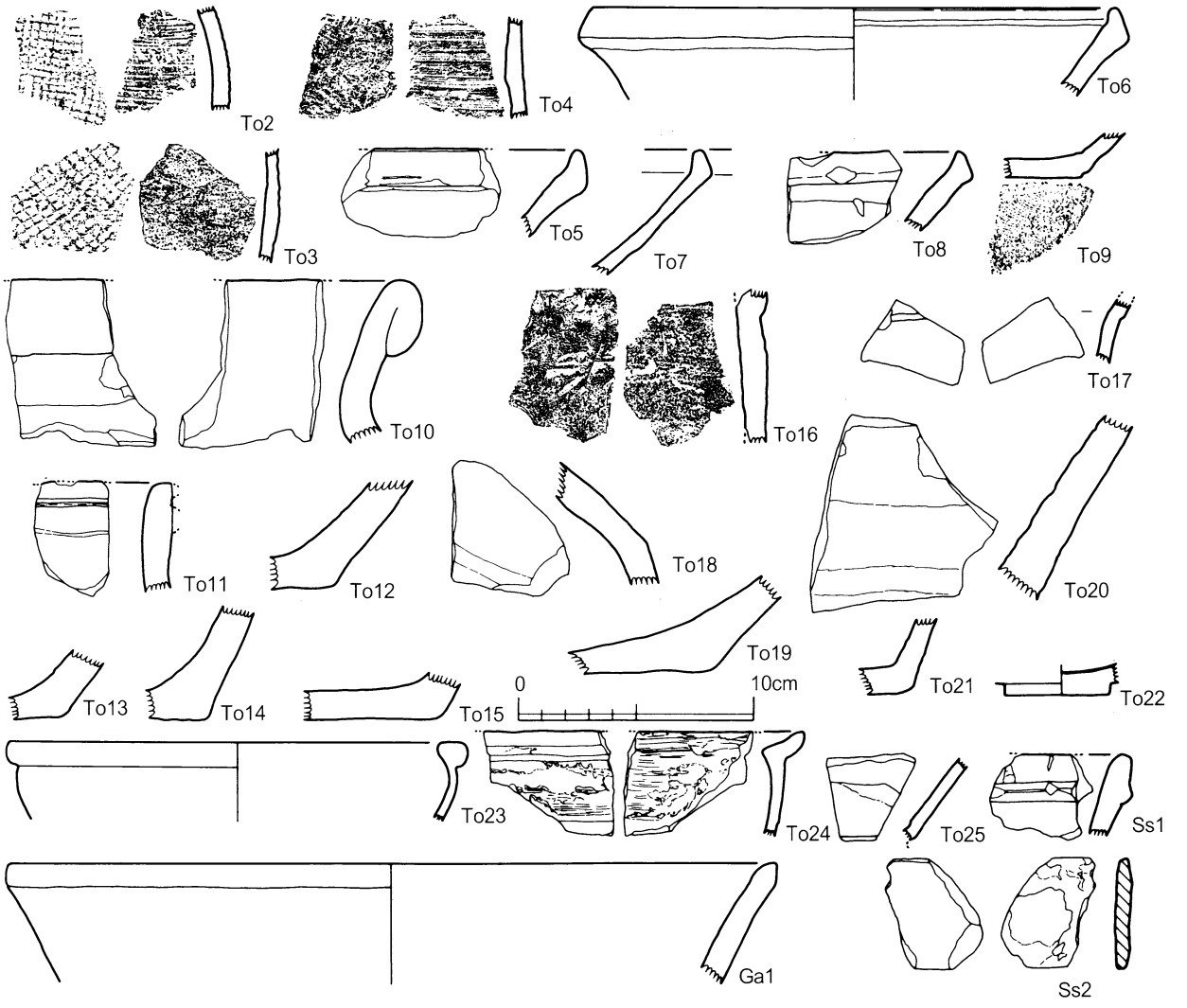
多種の須恵器・陶器があり，その中には生産地のはっきりしないものもある。なお樺万丈窯やカムィヤキ，東播系のものは須恵器と思われるが，ここでは遺物番号には陶器と同じToを付した。

To２・To３は外面が格子タタキ，内面がヘラ横方向ナデで仕上げられる須恵器甕の破片である。淡い灰褐色を呈し，To２は軟質であるが，To３は焼成良好である。白色石・石英・雲母などのこまかい石を含んでいる。熊本県荒尾市樺万丈窯産である。

To４は外面が条痕タタキの痕をヘラで丁寧に磨り消され，内面が深い正格子タタキのあとをヘラで横ナデした甕の破片である。表面は暗灰褐色を呈しているが，内面は茶褐色を呈し，焼成度は良い。白色の微石が多いこまかい胎土である。徳之島カムィヤキ産と思われる。

To５～To９は安定した平らな底から外へまっすぐ開きながら口縁端が内側へ直に立ち上がるこね鉢である。口唇部は使用によってすりへっており，To７は重ね焼きの痕跡が口縁部にみられる。To６の口縁部直径は21.0cmある。内外ともヘラによる横ナデで仕上げ，口縁内面はくぼみ，外面は段のあるものがある。底の切り離しは糸切りで，端部はナデ消している。淡い灰褐色を呈しているが，口縁部付近は黒灰色をしており，To７などは釉がかかったようになっている。To５・To６・To８・To９は焼きが甘く軟質であるが，To７は良好で堅い。To６は焼きひずみの痕がみられる。白色石・石英・黒色石・茶色石などのこまかい石粒が多い。兵庫県神戸市周辺の窯で焼かれたものである。

To10～To12・To14・To15は甕，To13は壺である。甕の口縁部は端部を折り曲げて二重にし厚くしている。頸部から外へ強く曲がっている。To11は口縁部が二段になっているようで，間に沈線がみられる。底部は甕・壺とも安定した平底である。内面・外面ともヘラによって横方向にナデている。To12の底には焼成時に窯道具の置かれた痕跡がある。口縁付近は灰釉がかかり黄緑っぽい茶褐色を呈する。底部付近は灰褐色あるいは赤みがかった灰褐色，紫がかった灰褐色を呈しているが，内面に胡麻釉のかかったものもある。焼成は良好で堅い。白色石・茶色石・黄色石などの小石を多



第104図　陶器ほか

く含んでいるが，その中には３mm大，あるいは５mm大のものもある。これらは備前焼である。

To16は外面に放射状タタキのある甕である。頸部は削って段を作っている。内面はヘラの横ナデで仕上げている。外面が光沢のある，内面が淡い灰褐色を呈し，内面の一部に自然灰釉がみられる。３mm大ほどの礫も含まれる白色石・石英などのこまかい土を用い，焼成は良く堅い。愛知県渥美焼かと思われる。

To17は口縁端が欠けているが，口縁下部を削って段を作った瓶子の口縁部である。内外面とも横びきのナデ整形で仕上げている。灰白色を呈し，一部に自然灰釉がかかっている。白色石・石英などのこまかい土を用いており，焼成良好である。愛知県瀬戸焼かと思われる。

To18は外面に緑色の自然灰釉がかった大甕の肩部である。内面は茶がかった灰褐色を呈している。内外ともヘラナデで仕上げている。白色石・石英などの小石粒の多い土であるが，３mm大ほどのものも含まれる。

To19は安定した平底の甕である。内面が斜め方向の丁寧なナデ，外面が横ナデで仕上げているが，底部付近の磨耗はひどい。内面が赤みがかった茶褐色，外面が淡い茶褐色を呈しており，焼成良好

である。茶色・白色・黒色など３mm大ほどの小石を多く含んだ粗い土を用いている。

To20はこね鉢の底部近くである。内面は横方向のナデだが凹凸が目立つ。外面は縦方向のナデ仕上げで，部分的に条痕タタキが残っている。内面がやや赤みがかった茶褐色，外面が明るい茶褐色を呈するが，外面の上部には黒っぽい釉がかかっている。焼成度は良好で，石英・白色石・茶色石などの小粒の石を多く含んでいる。

To21・To23・To24は中国製陶器と思われる。To21は壺の底部で外面はていねいな横ナデ，底は粗い横ナデで仕上げ，底部近くはすりへって稜をなしている。茶褐色を呈しているが，内面には部分的にあめ釉がかかっている。胎土はこまかく焼成良好である。To23は口縁直径19.5cmある鉢の口縁部である。端部は玉縁状となり，器厚は薄い。丸みをおびて底部へ移る。細かい砂粒が多く含まれ，その砂粒が表面に多く露出している。部分的には茶褐色の釉がかかっている。To24は口縁が内外に張り出す灰釉深鉢であるが，二次焼成を受けて多くの釉が溶けている。外面の下部は露胎となる。内外とも横ナデで仕上げている。灰色を呈し，やわらかい軟質の焼きである。

To22・To25は天目茶碗である。To22は直に切って高台とした底部で，底部切り離しはヘラ切りである。内面は黒色釉（中央は茶色釉）であるが，外面は露胎となっている。赤色石・石英などの小石も少量あるが，割とこまかい。To25は底部近くの破片で茶褐色の釉がかかっている。外面下部は露胎で，こまかい灰白色土である。

３）石製品（第104図）

滑石製品が２点ある。Ss１は灰色をした石鍋の口縁部で，口縁の少し下に断面三角形のつばが巡っている。外が縦方向，内が縦あるいは右下がりのケズリで仕上げている。Ss２は薄い石鍋の破片の上下を磨いて板状にしたもので，内外ともにススが付着している。外面は剥離が目立つ。

４）瓦器（第104図）

Ga１は口縁直径32.5cmのこね鉢である。淡い灰褐色を呈し，外にはススが付着している。軟質で磨耗がひどく，内外とも調整痕は不明である。１cm大の小石もあるがわりとこまかい石英の多い胎土である。

５）磁器（第105，106図）

（1）青磁

51点の青磁が出土しており，産地・器種・器形などから13類に分かれる。

①１類（J５～J９・J12）

同安窯系青磁である。J５は口縁直径15.0cmの口縁部が丸く収まる碗で，外面に縦方向の櫛描き文がみられる。胎色は灰色で，青っぽい緑色を呈している。貫入がみられる。J６～J９，J12は皿で，J12は稜花皿である。胎色はいずれも灰色である。

J６は外へまっすぐのびる口縁で内面は屈曲して底へ移る。J７・J８は体部で，内面に櫛描き文がみられる。J９は安定した平底で，内面にジグザグの櫛描き文があり，底部は露胎となる。J６は黄みがかった緑色，J７・J８は灰緑色，J９は澄んだ緑色を呈している。J12は内面にヘラ描きがみ

られ，外反した口縁部である。黄みがかった緑色を呈している。

②２類（J10・J11・J13・J14）

口縁が外へ開き，やや外反する無文の青磁碗で，口縁直径が14.0～18.0cmある。外面にやや浅い凹線のあるものがある。底は部厚く，外底部は露胎となっており，内底部にヘラ描きの蓮花文がある。胎色は灰色で，J10・J11・J13が緑灰色，J14が明るい緑色を呈し，J13には貫入がみられる。

③３類（J15～J22）

外面に蓮花文のある碗（J15～J17，J19～J22）と坏（J18）である。蓮花文は鎬蓮弁のもの（J15～J18・J22），線描きのもの（J19～J21）がある。鎬蓮弁のものにははっきりと蓮弁を表したものと，幅の狭いもの（J17・J18）とがある。J18の内面にはくぼみで蓮花文を表現している。碗の口縁直径は14.0～18.0cm，坏の口縁直径は9.5cmある。高台直径は5.5cmで断面が矩形を呈し，高台内は無釉である。

内底部には２本の圏線で囲まれた蓮花文がある。釉は厚くかかっている。線描きのものは太い線描きで先端部がはっきり結ばれたものと，やや離れたもの（J20）とがある。口縁直径は14.0cmのものと18.0cmのものとがある。胎色はJ16・J17が白灰色，J18が灰白色で，他は灰色である。J15はうすい釉で灰緑色，J16・J17は明緑色，J18・J20は青っぽい緑色，J19・J21・J22は暗緑色を呈している。

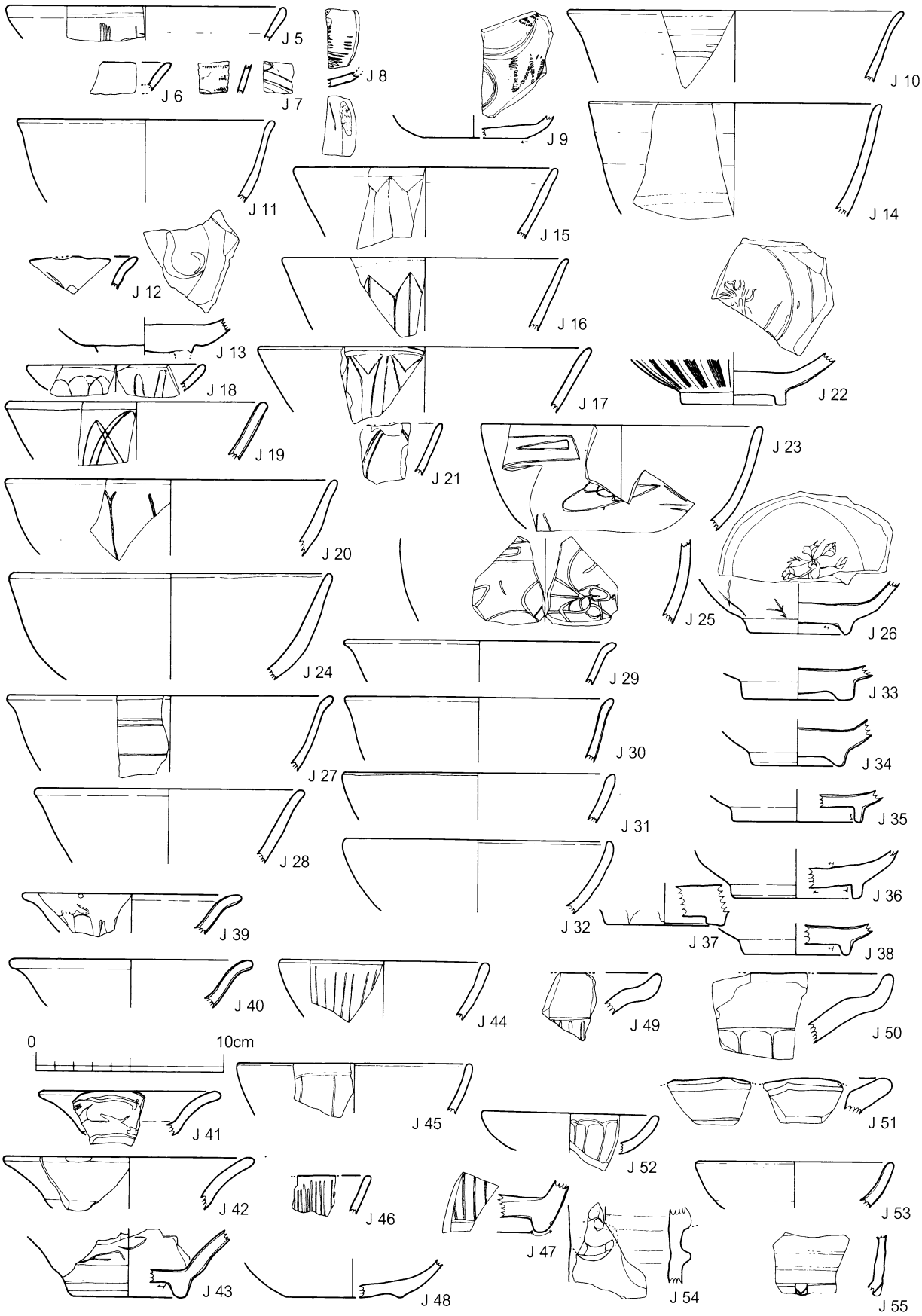
④４類（J23・J25・J26）

口縁下に雷文のある碗である。口縁直径は15.0cmで雷文の下には線描き蓮花文がみられる。内面にも蓮花文があり，内底には花文がみられる。外底部は露胎となっている。胎色は灰白色で貫入のある明緑色を呈している。

⑤５類（J24・J27～J38）

無文の碗で，丸みをもった器形（J24・J31・J32）と，口縁部が外反する器形（J27～J30）とがある。丸みをもったものは口縁直径が14.5cmのもの（J31・J32）と，17.0cmのもの（J24）とがあり，J24は口縁がやや外反している。胎色はJ24が灰白色，他が灰色で，J24は淡緑色，J31は緑色，J32は貫入のある青っぽい緑色を呈している。外反するものは口縁直径が14.5cm～17.5cmあり，胎色はJ27・J29が灰色，J28・J30が灰白色である。J27・J29は灰緑色，J28は貫入の多い黄緑色，J30は貫入のある青っぽい緑色を呈している。

高台は断面が台形のものと細い矩形のもの，幅の広い矩形のものとがある。底は薄いものと厚いものがある。釉は高台から内が露胎のもの（J34・J36），外底部が露胎のもの（J35・J38），畳付部の一部が露胎のもの（J33），重ね焼きをし，外底・内底がドーナツ状に露胎となるもの（J37）がある。胎色はJ33が灰白色・J38が白灰色で，他は灰色である。釉色はJ33が貫入の多い青っぽい緑色，J34・J36・J37が暗緑色，J35・J38が明緑色である。


J 5
J 6
J 7
J 8
J 9
J 10
J 11
J 12
J 13
J 14
J 15
J 16
J 17
J 18
J 19
J 20
J 21
J 22
J 23
J 24
J 25
J 26
J 27
J 28
J 29
J 30
J 31
J 32
J 33
J 34
J 35
J 36
J 37
J 38
J 39
J 40
J 41
J 42
J 43
J 44
J 45
J 46
J 47
J 48
J 49
J 50
J 51
J 52
J 53
J 54
J 55
0
10cm

第105図　青磁

⑥６類（J39・J40）

外反する坏で，J39はくぼみで表現した蓮弁がある。口縁直径は12.0cmのものと13.0cmのものがある。J39が灰白色，J40が白灰色の胎色で，釉色はJ39が澄んだ緑色，J40が明緑色である。

⑦７類（J41～J43）

口縁直径が10.0cmあるいは13.5cmの稜花皿で，J41は内面にヘラ描き花文，J43は内外にヘラ描き花文がみられる。J41は口唇部が摩滅して釉が剥離しており，J42は２次的に火を受けて釉が溶けている。J43の外底部は露胎である。胎色はJ41・J42が灰色，J43が灰白色である。釉色はJ41・J42が青っぽい緑色，J43が深い緑色である。

⑧８類（J44～J47）

縦線のみの線描き蓮花文碗である。口縁直径が11.5cmのものと12.5cmのものがある。畳付部は露胎で，底の釉は厚い。胎色はJ44・J47が灰白色，J45・J46が灰色，釉色はJ44が黄みがかった灰緑色，J45が灰緑色，J46が淡緑色，J47が明緑色である。

⑨９類（J48）

底径6.0cmのあげ底となる坏である。灰白色の胎色で，貫入の多い青っぽい緑色を呈する。

⑩10類（J49～J51）

盤で，J51は稜花となる。J49・J50は内面にくぼみで蓮弁を表現している。胎色は灰白色だが，J50は赤っぽい茶褐色に焼けている。J49は黄みをおびた淡緑色，J51は青っぽい緑色を呈し，J50は黄色っぽい暗緑色の釉がかかっている。J50はひびが目立つ。

⑪11類（J52・J53）

口縁直径が9.5cmと10.5cmのまりで，J52の内面はくぼみと線描きで蓮弁を表現している。J52が灰色，J53が灰白色の胎色で，ともに青っぽい緑色を呈する。

⑫12類（J54）

直径6.0cmほどの細頸壺である。環状となる把手が付いた澄んだ緑色を呈し胎色は灰色である。

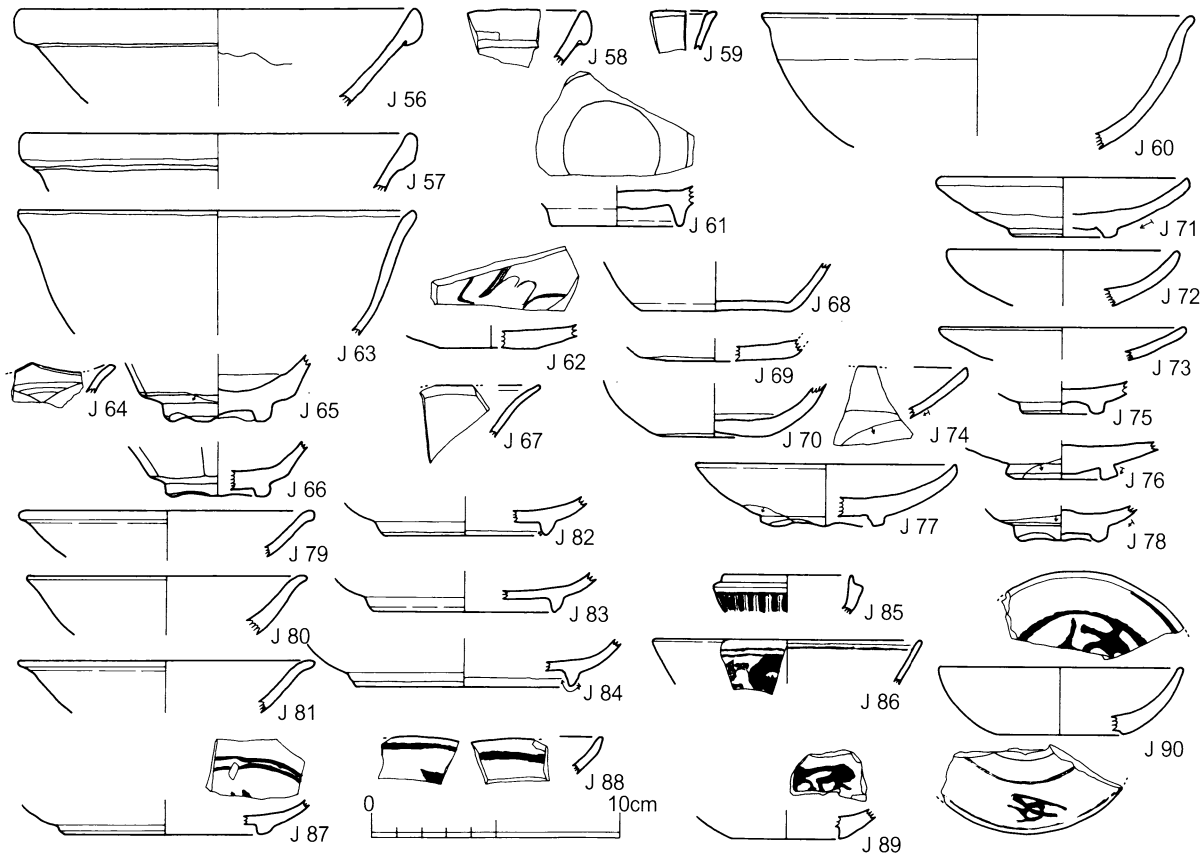
⑬13類（J55）

三角状の低い脚のついた香炉である。内面は横ナデで調整し，下は露胎だが上の一部に厚い釉がかかっている。外はでこぼこしており，青っぽい緑色の釉がかかっている。胎色は灰白色である。

（2）白磁（第106図）

白磁は口縁部の形態等から碗と坏に分けた。

①碗１類



第106図　白磁・青白磁・染付

小さな玉縁状口縁をもつもので，白色の地に透明な釉がかかっている。底部近くは露胎である。16L区Ⅲ層と14H区Ⅳ～Ⅴ層からそれぞれ１点出土している。

②碗２類

大きな玉縁状口縁をもつもので，玉縁部分の下方は下へやや張り出している。灰色に近い地に青っぽい釉がかかっている。J57は全面に貫入がみられる。12D区表層と16L区・17F区Ⅳ層からそれぞれ１点出土している。

③碗３類

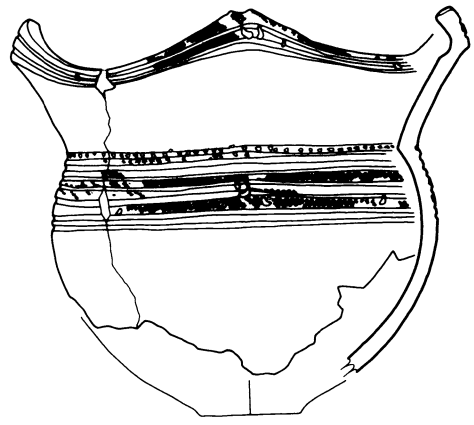
端反り口縁を呈するもので，薄い作りである。淡い灰色の地に緑っぽい釉がかかっている。11D区表層から１点出土しているが，同一固体と思われる胴部が21N区表層から出土している。

④碗４類

口縁部近くでやや薄くなって外反するもので，口縁直径が17.4cmある。灰色の地に透明な釉がかかっており，内外の一部に釉切れがみられる。16N区表層と18N区Ⅲ層から出土した破片が接合され１点となっている。

⑤碗２～４類の胴部・底部

碗２～４類の胴部あるいは底部と思われる破片が12点ある。ほとんどの外面は底部近くで露胎となっているが，畳付部と高台内面の一部を除いて釉がかかっているものもある。重ね焼きの痕跡が内面にあり，輪状に釉がかかっていないものもある。底の内面につる状の文様のあるものが２点ある。地色は灰色で，透明あるいは青っぽい釉がかかっている。



第５章　まとめにかえて

１　縄文時代の立地

九州島の南部は高地を除いてほぼ全域がシラス台地に覆われ，その間に開析された谷と，その末端に沖積化された狭い平野からなる。そのため縄文時代遺跡の多くはシラス台地上に立地するのが一般的である。ところが干迫遺跡は標高約11～13mと低地にある。早期の土器も若干あるが，住みつくのは前期からである。彼等は沖積化がまだ進んでいない21～23－Ｊ～Ｋ区付近の砂丘上に居住している。その範囲は狭いが，西北九州・中九州あたりではこの時期に低地への居住がみられることもあり，今後南九州でもこうした場所への立地を念頭に置いた調査が必要である。

後期中頃になるとこの地に多くの人々が暮らしたことを遺物量が教えてくれる。前期から後期にかけて沖積化が進み，微高地がかなりの広さになったらしい。遺跡の中央を流れる河川の両側にある微高地全体に集落は広がったようだが，集中豪雨や台風などの大雨のたびに家財道具を流される不幸に見舞われた様子が河川の中に堆積した遺物の状況から推定できる。この河川は一方では木の実のアク抜き用の場所として利用されたらしい。18～22－Ｆ区付近に多く並ぶ土坑がそうした用途のものと考えられる。南九州でも近年こうした低地の縄文遺跡の調査が進んでいる。近くでは隼人町春花田遺跡（後期）がそうであり，古くは出水市沖田岩戸遺跡（晩期）がある。市来式土器の時期における山間部から海岸部への移動は古くから知られていることであるが，鹿児島湾岸における低地への進出はさらにこうした現象を裏付けている。このような低地への進出状況は今後の調査の増加によってさらに増えるであろうが，その理由等についても考えていく必要がある。

２．縄文時代後期の生業

石器の種類を推定される機能で分けると，狩猟具としての石鏃，解体具や採集具としての石匙・スクレイパー，木の実の製粉具としての磨石・敲石・石皿，掘り棒や土掘り具としての打製石斧がある。この他に工具としての磨製石斧・ピエスエスキーユ・くさび・石匙・石錐などがある。

市来式土器の時期の遺跡では狩猟具の減少が目立つが，当遺跡では磨石・石皿類と同様に石鏃も大量に出土した。石鏃のなかには大形のもの，加工の粗いものも多くあり，これらは普通の石鏃と形態的にも異なる。その用途はイノシシ・シカなどの陸産獣用だけでなく，漁撈具としてのモリに使われた可能性もある。石錘の出土も多い。砂浜を利用した網漁も盛んに行われていたようである。十字形石器・円盤形石器はカキなどの貝採取具としての機能も考えられ，立地からしても海に依存した生業も軽くはなかったであろう。また，間接的ではあるが，舟形軽石製品の存在は舟を利用しての漁撈も予想でき，骨角器の出土がないため想定でしかないが，沖に出ての魚釣り漁も十分に考えられる。

それにしても石皿の数は多い。そして石皿のなかでは，すり面があまり窪まずに平坦なものがほとんどを占める。すり棒として石棒状のものの存在が予測できるが，そうしたものはない。木製品があったのか，磨石が使われたのか今後数量的分析も必要であろう。ドングリピットと思われる河川近くの土坑も木の実採取が主体的生業である可能性を裏付けている。

打製石斧の多さも注目できる。刃部は相当の使い込みがみられ，陸耕の存在をうかがわせる。また，スクレイパーのなかには刃部にカヤ類を摘んだ痕跡のみられるものもあり，これも今後使用痕の分析による栽培種の特定が必要となろう。

このように干迫遺跡の集落を支えた生業は山を対象とした狩猟・採取，海を対象とした漁撈・貝採取に加え，原始的農耕の崩芽もあったらしいことが想像できるのである。

3　豊富な土器が語るもの

本遺跡の最大の特色は，何と言っても遺物量の多さにある。特に縄文時代後期の遺物は土器・石器ともに膨大なものがある。工事で破壊された部分の存在や，遺跡自体が調査区外に伸びていくことを考慮すれば，今回の資料は干迫遺跡の一部の資料ということになり，まさに驚嘆に値する。

中でも，縄文時代後期中頃の南九州を代表する土器型式である市来式土器およびその後出のタイプと考えられる丸尾式土器が圧倒的な量を誇っている。そのことも本遺跡の特色であるが，さらに特筆されるのは，それらの土器型式と併存したであろう九州各地の型式の土器が数多く出土したことである。具体的には磨消縄文系土器の存在である。しかもそれらも数型式にわたり連綿と出土している。このような出土土器の在り方がどのような事実を語っているのか，これから解明していかなければならない大きな課題である。

4　古代の道路跡と建物群

調査区の南側および南西隅付近に古代のものと思われる道路と掘立柱建物がある。時期の決め手に欠けるが道路跡は長期に使われており，位置および規模から古代の官道にあたる可能性もある。

掘立柱建物跡２棟はほぼ主軸方向が同じであることから同一時期のもので，柱穴内や周辺から出土した土器などから平安時代のものと考えられる。柱の大きさや柱間などは県内における他の古代集落の建物に比べると規模が大きく，まわりに雨落ち溝を有するなど一般の集落とは性格を異にしている。この建物群はさらに南へ続くことが予想されるが，道路跡に隣接して存在することから官道関係の性格が考えられよう。

また数少ない古代の出土品のなかには，越窯青磁・荊窯白磁・墨書土器・土馬など一般集落にはみられないような特殊なものが含まれている。遺跡が役所的性格をもっていることを示している。そして道路との関係を考慮すればこの建物群が官道関係のものである可能性も示している。西海道は肥後を経由して市来・莫祢・網津・高来・櫟野・蒲生を通り国分にある大隅国府へ達するが，この地が蒲生駅と大隅国府を結ぶ線上にあたることからその途中の役所である可能性は大である。蒲生駅は地理学的に，地名学的にみて蒲生町禁中あるいは早馬付近に推定されているが，ここと大隅国府間は姶良町船津を経ていることがわかっている。ここから別府川を越えてどのように進むかははっきりしないが，距離的にみると干迫遺跡はその中間地点にある。蒲生から国分へのルートを考えるとき，別府川と日木山峠を越えるとほぼ平坦な地形の中で達せられることから，干迫遺跡の南側を道が通る可能性は強いと考えられる。

今後，周辺の地理的・考古学的な調査を行うことによって，より具体的な官道調査が進むことを期待したい。

付篇

同定・分析

同定・分析１

干迫遺跡の地形環境

森脇　広（鹿児島大学法文学部）

１．はじめに

南九州では低地遺跡の発掘は鹿児島大学構内の諸遺跡などいくつか行われているが，あまり多くない。しかし，臨海の沖積低地が更新世末・完新世の海面変化に支配されて，過去２万年の間に急速に変化し形成されたことから考えると，臨海低地の地形環境の変化と人類の活動との関係は他のどの地形変化よりも密接に関係しているといえる。こうした点から，人間活動が周囲の環境変化にどのように影響を受けてきたかをみる上で，低地遺跡とその地形環境の分析は極めて興味深い。

２．低地の地形

干迫遺跡の立地する加治木低地は錦江湾北岸の臨海沖積低地である。ここは，東方の隼人・国分低地，西方の姶良・蒲生低地とともに，姶良カルデラのカルデラ縁に形成されており，臨海低地の中では，特異な地形形成環境下にある。これらの低地の現在の三角州の前置斜面は水深100mに及ぶカルデラ底の近くまで前進し，現在以上の三角州の前進を望むことができないほど，海岸は急激に深くなる。

また，カルデラにかかわる地殻変動によるものと考えられる特徴的な痕跡がここには認められる。すなわち，ここは完新世において大きく隆起しており，このため，国分から姶良にかけての沖積低地は顕著に段丘化している。これら段丘化した沖積面は３段に区分され，上位から隼人面，姶良Ⅰ面，姶良Ⅱ面と呼ばれている（図１：森脇他，1986)。最高位の隼人面は，錦江湾北岸・北西岸の低地を広く占め，その高度は15－10mの高さである。干迫遺跡南東の里の小谷底には，約14mの高さに穿孔貝の生痕があり，縄文海進最盛期の縄文早期末の海面は，相対的にこの高さにあったことを示す。

隼人面は，天降川（隼人・国分低地)，網掛川・日木山川（加治木低地)，別府川・思川（姶良低地）によって作られた三角洲が隆起して形成された隆起三角洲である。別府川東側の石原や豊町のある隼人町の海岸側や，帖佐の国道10号線沿いには，現在の海岸に平行に微高地が分布するが，こうした微高地は当時の三角洲の海岸に形成された砂洲地形である。干迫遺跡は日木山川の東側に島状に残った隼人面に立地している。周囲の日木山川に沿った比較的広い低地の面は姶良Ⅱ面である。

加治木の隼人面の分布が示すとおり，この背後は更新世の溶結凝灰岩などからなる基盤岩石の急崖によって境されている。竜門滝などのある内陸の急崖は海進最盛期ごろに海岸侵食によって形成された海食崖である。姶良町帖佐の帖佐中学付近の丘陵下では，当時の海岸に堆積した鬼界アカホヤ火山灰層が直接沖積面上に露出しているのが観察されることから，アカホヤ火山灰降下時の海岸は，現在の沖積低地と基盤山地の境界を縁取るように存在していたと考えられる（図２)。

このように，この時には国分・加治木・姶良・蒲生の現在の低地はまだ離水しておらず，広く海が奥深く入り込んでいた。これ以後，全国の多くの臨海低地の場合と同様に離水が進行していく。

隼人面が段丘化するのは，干迫遺跡や姶良町の中原遺跡の土器の出土状況からみて縄文後期と考えられる。

姶良Ⅱ面は隼人面の海岸側を縁取るように分布する。標高は５－８ｍほどである。さらに，この面の海岸側を，2.5－５ｍの高さで姶良Ⅲ面が縁どる。

引用文献

森脇　広・町田　洋・初見祐一・松島義章（1986）　鹿児島湾北岸におけるマグマ水蒸気噴火とこれに影響を与えた縄文海進．　地学雑誌，95，94-113.

森脇　広（1992）　鹿児島湾沿岸低地の形成とテフラの関係．　平成３年度教育研究学内特別経費研究成果報告書「南九州地域における原始・古代文化の諸様相に関する総合的研究」（代表上村俊雄）：47－49.

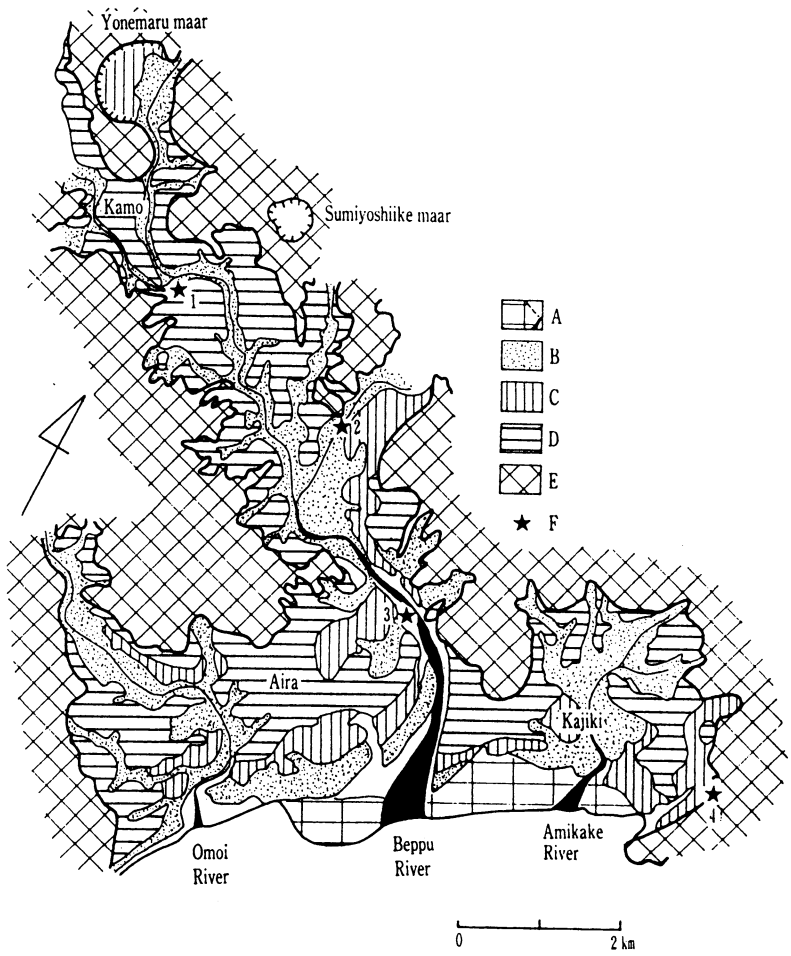


図１　加治木・姶良・蒲生の沖積低地・沖積段丘地形
Ａ：人工埋立地，Ｂ：姶良Ⅱ面，Ｃ：姶良Ⅰ面，
Ｄ：隼人面，Ｅ：丘陵・台地，（森脇ほか，1986）

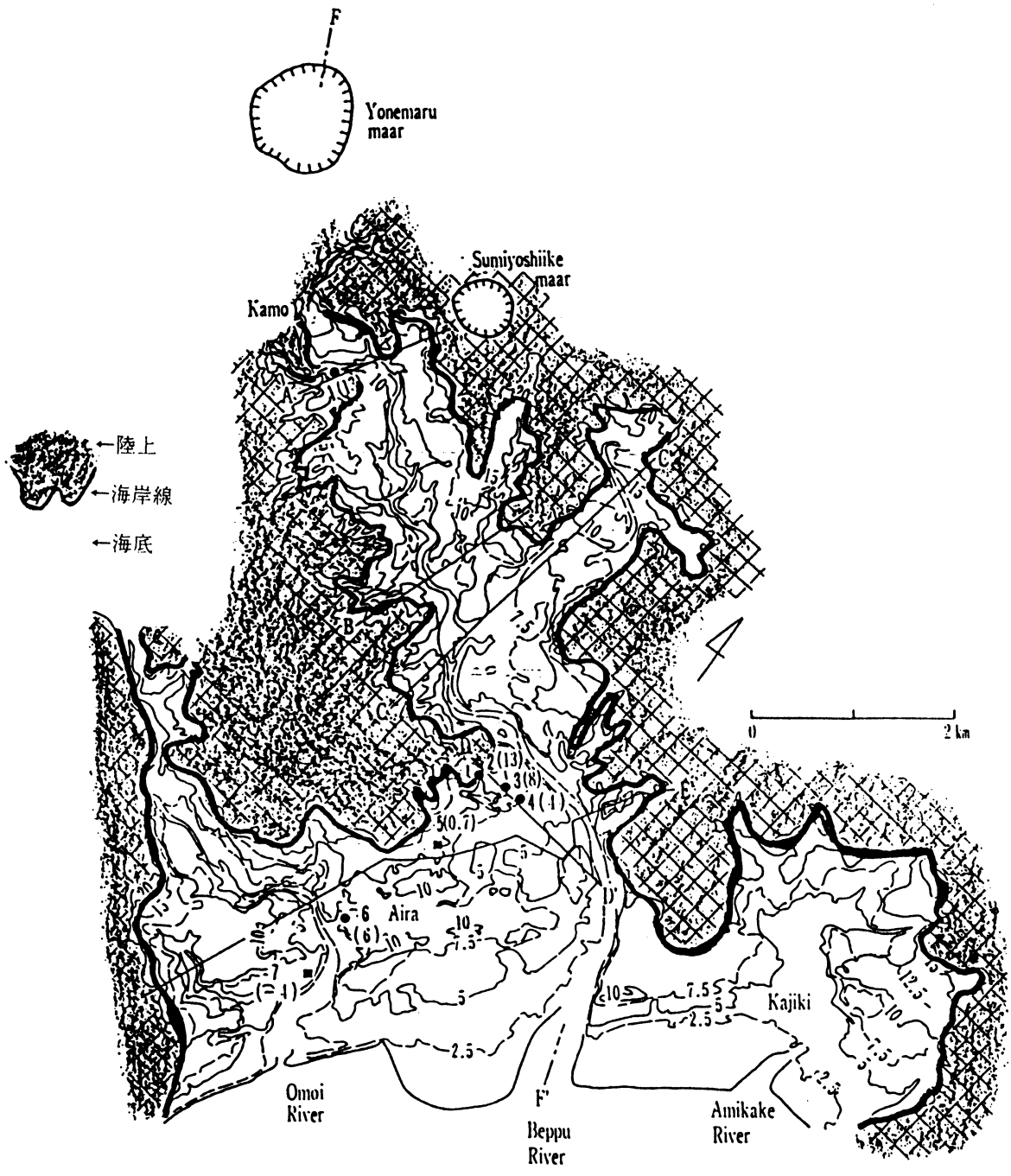


図２　加治木・姶良・蒲生地区における鬼界アカホヤ火山灰
降下時ー縄文早期末ーの古環境（森脇，1992）

同定・分析２

鹿児島県干迫遺跡出土の動物遺体

西中川　駿（鹿児島大学農学部）

干迫遺跡は，鹿児島県加治木町日木山字干迫にあり，平成２年９月から平成４年２月末日まで，隼人道路建設に伴って，確認調査，全面調査が，県教育委員会文化課の池畑，前迫，上地の三氏の指導の下に行われ，縄文時代前期後半から後期の土器ならびに中世頃の水路などが出土している。

遺物は約3000箱分が出土しているが，動物遺体は量的には少なく，また，細骨片のために動物種や骨の種類を同定可能なものも少なかった。ここでは哺乳類遺体について，その概要を報告する。

１　出土状況と出土量

出土地点は大きく４つに分けられる。即ち，11～16－Ｆ・Ｇ・Ｈ・Ｉ区の川跡を中心とした地点（ａ），18～21区の川跡および８号，９号住居跡付近のＤ・Ｅ・Ｆ区の地点（ｂ），17・18－Ｎ・Ｏ区の住居跡群地点（ｃ）および20～23－Ｋ・Ｍ・Ｏ区の地点（ｄ）であり，各地点からはイノシシ，シカを中心とした細骨片が検出されている。出土重量を４地点について示すと，ａ地点で439.7ｇ，ｂ地点で368.7ｇ，ｃ地点で9.8ｇおよびｄ地点で116.6ｇ，不明地点118.9ｇであり，総計1053.7ｇである。

２　出土動物種と出土骨の形状

イノシシ（図版の１～３参照）

イノシシは，各地点から出土しており，下顎骨が多くみられるが，肩甲骨，上腕骨，大腿骨などもあり，完形骨は１個もなく，また，焼かれているため骨が歪になり，同定を困難にしている。出土骨から推測されるイノシシは，若い個体であり，中型である。

シカ（図版の４～８参照）

シカはイノシシ同様に各地点から出土しているが，焼かれており骨の形状の不明なものが多い。中に，角や上腕骨，中手骨，指骨および中足骨などが検出されている。シカの大きさは，特に大きいものではない。

ウマ（図版の９参照）

１３－Ｄ区で，ただ１点のウマの歯が出土しており，これは左側下顎の第二後臼歯で，重量が9.7ｇであり，年齢は13才位で，中型馬のものと推定される。

なお，カードなしの箱からサメの歯１点が出土している。

３　考察

干迫遺跡は縄文時代後期，弥生時代中期および古墳時代前期などの土器の出土した遺跡で，また，中世のかんがい用水と考えられる溝状遺構が出土している。しかし，自然遺物の出土した地点は，殆どが縄文時代後期の自然河川跡や，住居跡の近くである。

鹿児島県下では，麦之浦・市来・草野貝塚などで，イノシシ，シカが多く出土しているが，本遺

跡でも同様にイノシシ，シカの遺体が多い。しかし，灰白色，灰褐色を呈する土質によるのか，また，一部焼かれているためか，骨が細片化しており，同定するのに困難を要した。

13－D区で１点の馬の歯の出土がみられたが，この区ではイノシシ，シカなどの出土例はなく，馬歯のみの出土であることから，時期的には古墳時代以降，中世のものと思われる。歯の大きさから中型馬のもので，年齢13才位と推定される。

動物遺体の出土した鹿児島県本土の遺跡は，薩摩半島に多く，大隅半島は数少なく，特に姶良地区は日木山洞穴や平栫貝塚など数か所のみで，その出土状況なども明らかにされていない。今回調査を依頼された干迫遺跡は，姶良地区に位置し，この地域の縄文時代後期の人々の生産活動を知る上に，貴重な資料を提供するものと考えられる。

4　まとめ

干迫遺跡出土の動物遺体について調査した。

(1) 自然遺物の総重量は，1053.7ｇで，細骨片のために一部の骨のみについて，動物種を明らかにできた。

(2) 出土動物種は，イノシシ，シカおよびウマで，ウマは第二後臼歯１点のみである。

参考文献

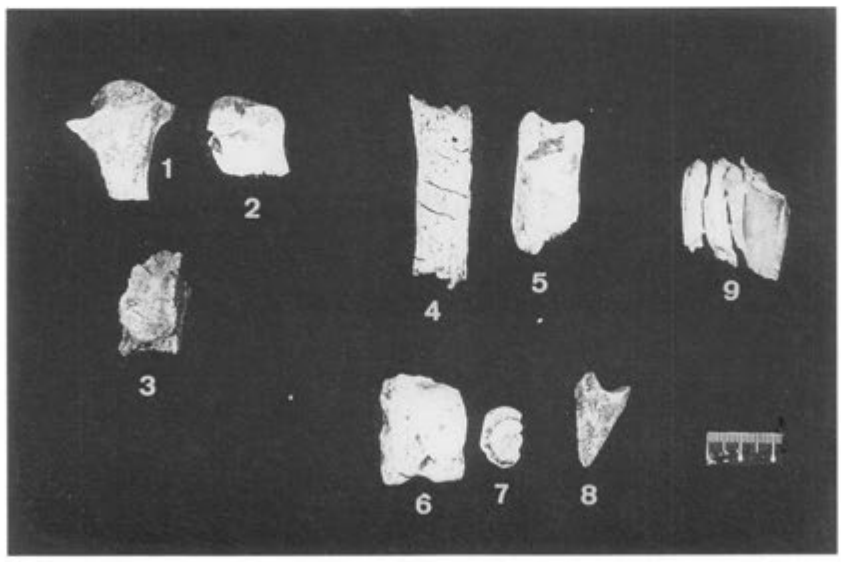
1．鹿児島県教育委員会：鹿児島市町村別遺跡地名表，Ｐ１～175（1977）

2．金子浩昌：縄文時代の狩猟，漁撈，歴史公論，２，67～71（1979）

3．西中川駿ら：縄文後期の草野貝塚出土の哺乳類遺体，鹿大農学術報告42，19～21（1992）

4．西中川駿ら：鹿児島の縄文，弥生遺跡出土の動物遺体，鹿大農学術報告43，19～24（1993）

図版



１～３：イノシシ　　４～８：シカ　　９：ウマ

１．下顎骨（左）　２．下顎骨（右）　３．下顎骨（左・右）　４．５．角　６．距骨（右）

７．中足骨（左）　８．末節骨（右，第三趾列）　９．第二後臼歯（左ノ下顎）

同定・分析３

鹿児島県加治木町干迫遺跡出土石器の使用痕分析

御堂島　正（(財)かながわ考古学財団）

１　はじめに

鹿児島県加治木町干迫遺跡から出土した縄文時代後期中葉市来式～西平式に属する石器９点の使用痕分析を行ったところ，次のような結果を得たので報告する。

２　分析方法

使用痕分析の方法は，基本的にキーリーが開発した高倍率法（Keeley,1980）によるもので，筆者が行った約600の使用実験に基礎をおいている（御堂島，1982・1986・1988a・1991a)。微小剥離痕・線状痕・使用痕光沢面（ポリッシュ）のあり方を中心に，落射照明付金属顕微鏡を用いて100～400倍で観察し，その結果をもとに使用に関する推定を行った。ただし，今回分析した石器は，粗粒な石材が用いられていることと刃部が研磨されていたり，二次加工が施されていたりするため，微小剥離痕の識別は困難であった。そのため，観察は主に線状痕と使用痕光沢面について行うことにした。使用痕光沢面の分類と作業対象物・使用法との関係については，別稿を参照していただきたい（御堂島　1986・1988a)。

観察にあたって，使用痕光沢面の発達程度による分布図を作成した。これは石器の広範囲に使用痕光沢が分布する場合に可能であるが，使用法を推定する上で有効である。発達程度は，石包丁での実践例（御堂島　1988b）を参考に，強・中・弱に区分してその範囲を実測図に記録した。「強」はＡタイプの光沢面が肉眼で確認できる範囲，「中」は100倍程度で識別できるＡまたはＢタイプの光沢面が相対的に密集している範囲，「弱」は200倍以上で確認できる光沢面が所々に分布する範囲で，Ｂ・Ｈタイプの光沢面が主体をしめるものである。ただし，それぞれの範囲の境界付近では漸位的に変化し，明確な境界があるわけではない。

石器は，すでにブラシで水洗されていたものである。使用痕分析に際して観察に支障となる付着物は見られなかったので，エタノールを浸した脱脂綿で手の脂等を除去した以外に試薬を用いた洗浄は行わなかった。

３　観察結果と機能の推定

次に観察結果とそれから推定される機能について石器ごとに述べる。なお，石器の部位は，第１図のように置いたときの位置で記述している。

No.１（第１図１，写真１－１～３）

砂岩製の磨製石器である。背面側は体部中央付近から下辺にかけて研磨されており，一部風化によるものと思われる表面の剥離が見られる。腹面側は下辺を除いた大部分に鉄分が付着し，使用痕観察を不可能にしている。背面のほぼ全面と腹面側の下辺部に使用痕が認められた。

背面側では，下辺部には光沢面はあまり発達していなかったが，体部のほぼ全体に「弱」の光沢面が広がっていた。下辺右端の，縁辺から離れた箇所に大きさ・密度ともやや発達した「中」の光

沢面がみられた。光沢面タイプは，表面の滑らかさを欠いているが，Ｂタイプと考えられるものが主となり，部分的にＡタイプの光沢面が認められた。線状痕は主に光沢面上に存在し，下辺に平行するものが主体を占めていた。

腹面側では，縁辺からやや離れた部分に「弱」の光沢面が分布し，その中央付近に「中」の光沢面が認められた。光沢面は表面の滑らかさを欠いたＢタイプで，一部Ａタイプも認められた。体部は，鉄分の付着のため観察できなかった。線状痕は縁辺に対して平行するものであった。

以上のように，背面・腹面とも下辺際には光沢面が未発達であったが，これは刃部再生（研ぎ直し）によって発達した光沢面が除去された結果と考えられる。磨製石包丁にはしばしばみられる現象である（御堂島　1991b）。このことと線状痕の方向を勘案すると，この石器は下辺を使用部位として対象物を切るという作業に用いられたと考えるのが妥当である。対象物は，Ｂタイプの光沢面が広範囲に形成されていたことから，草本植物と推定される。また，わずかではあるがＡタイプの存在とＢタイプがＡタイプの形成される前段階に生じることを考慮すると，対象物にはイネ科などの珪酸含有量が多い草本植物が含まれていた可能性が高い。

No.２（第１図２，写真１－４～８）

砂岩製の磨製石器で，縁辺部を中心に広範囲に研磨されている。図のａとｂの縁辺付近に使用痕が観察された。

ａの部分

背面では，ａの縁辺の中央部付近に「中」の光沢面が分布し，その外側に山形に「弱」の光沢面の分布が認められた。縁辺右半部では刃縁側には未発達で，むしろ体部側に発達した光沢面が見られた。この未発達な範囲は刃部の研磨面と一致していた。光沢面はＡ・Ｂタイプで，線状痕は主に光沢面上に形成されており，縁辺に対して平行方向のものが主体となっていた。

腹面側も同様に「中」の光沢面が縁辺の中央部に分布し，その外側に「弱」の光沢面が体部中央付近まで山形に広がっていた。縁辺中央部は「中」とした範囲の中でも特に発達していて，光沢面の密集度が高い。光沢面はＡ・Ｂタイプである。線状痕は光沢面上に認められ，縁辺に対して平行方向のものが主体を占めていた。

以上のように使用痕光沢面の分布が背・腹面ともほぼ同程度であることや，線状痕の方向が縁辺に平行であったことから，ａの縁辺を刃部として対象物を切るという作業に使用された石器と考えられる。対象物は，ＡまたはＢタイプの光沢面が広範囲に観察されたことから，イネ科など珪酸含有量が多い草本植物であったと推定される。縁辺に発達した光沢面が見られなかったのは，石器の刃部再生（研ぎ直し）によって光沢面が除去されてしまった結果と考えられる。

ｂの部分

背面の縁辺左側にやや発達したＡ・Ｂタイプの光沢面があり，その外側と縁辺に沿って右方向に「弱」の光沢面分布が広がっていた。線状痕は，光沢面上に縁辺と平行するものが観察された。

腹面側でも縁辺右半部を中心に「中」の光沢面があり，その外側に「弱」の光沢面があった。しかし，背面に比べて光沢面の発達は悪く，「中」とした範囲も狭い。線状痕は，縁辺に平行するものが主体となっていた。

光沢面の分布が背腹面でほぼ同程度であることと線状痕の方向から，ｂの縁辺を刃部として対象物を切るという作業に用いられたと考えられる。また，Ａ・Ｂタイプの光沢面がみられたことから，対象物はイネ科などの珪酸を多く含んだ草本植物であったと推定される。光沢面分布をみると両面とも縁辺の端に偏っているので，ｂの使用部位は背面左側の欠損部にさらに伸びていた可能性が高い。

以上のように，この石器にはａ・ｂ２箇所の使用部位があり，いずれもイネ科植物などの切断に使用されたと考えられた。ｂの部分では前述のように欠損部側にも使用部位が連続していた可能性が高い。一方，ａは縁辺の中央付近に光沢面が分布しているので，欠損後この状態で使用されたと考えられる。このことからｂの使用の後欠損し，ａの部位を使用するようになったと推定される。

No.３（第１図３，写真２－９～11）

流紋岩製。背縁から背面側右側縁にかけて自然面を残している。下辺は二次加工を施して，やや鋭利な縁辺を作っている。下辺から側縁にかけての部分を中心に使用痕が観察された。

背面側では，ほぼ全面に「弱」の光沢面が広がっていたが，No.１・２と比較して未発達の光沢面である。下辺の左半部から左側縁にかけてと下辺右端寄りに「中」の光沢面が認められた。光沢面タイプはＢ・Ｈタイプが多いが，一部Ａタイプも存在した。線状痕の方向は縁辺に対して平行が主体を占めていたが，右端寄りの「中」の光沢面部分では直交する線状痕も比較的多数みられた(写真２－10)。

腹面側は，背面側に比べて光沢面の発達が悪く，下辺から右側縁にかけて「弱」の光沢面が縁辺に沿って形成されていたのみであった。光沢面は小さいが，Ｂ・Ｈタイプとみられる。線状痕の方向は，縁辺に平行のものが比較的多く観察された。

以上のように，背・腹面では光沢面の発達が異なるが，線状痕の方向と光沢面の分布状態からみて，背面側でいえば下辺の左半部から左側縁の下半部を用いて，対象物を切るという作業に使用されたと推定される。背面側右端寄りにのみやや発達した「中」の光沢面が分布する原因については不明である。

対象物は，光沢面が石器の広範囲に分布し，一部ではあるがＡタイプと認められたこととＢタイプがＡタイプの発達する前段階に形成されることを考慮すると，イネ科など珪酸含有量が多い草本植物と推定される。

No.４（第１図４，写真２－12～14）

流紋岩製。背面には自然面が残り，下辺は背・腹面とも研磨されている。下辺の中央部付近と体部に使用痕が確認された。

背面では，縁辺の狭い範囲と若干の光沢面が存在しない部分を挟んで体部のほぼ全体に「弱」の光沢面が広がっていた。縁辺よりも体部側により発達した光沢面が残っていた。光沢面はＢ・Ｈタイプである。線状痕は縁辺に対して斜め方向もあるが，平行するものが主体を占めていた。

腹面側では，縁辺の狭い範囲と体部左端部にややまとまって「弱」の光沢面がみられた。それ以外の場所にも点々と弱い光沢面が散在している。Ｈタイプと若干のＢタイプの光沢面からなり，平

行方向の線状痕がみられた。

背面では縁辺に光沢面が未発達で，体部により発達していたが，これも縁辺の研磨と関係すると思われる。おそらく，刃部の研磨によって発達した光沢面が除去されてしまい，研磨後の使用によって縁辺にわずかに光沢面が形成されたと考えられる。また，No.3同様，腹面側には光沢面が未発達であったが，原因は不明である。操作法に関係するかも知れない。

線状痕の方向と縁辺の光沢面が研磨で除去された可能性を考えると，この石器は下辺の中央部付近で対象物を切るという作業に用いられたと推定される。対象物はBタイプの光沢面が広範囲にみられることから，草本植物と推定される。

No.5～9（第1図5～9，写真2－15・16）

いずれも流紋岩製の剥片からなる石器である。石器体部の広い範囲に，使用痕の可能性がある微細な光沢面が点在していたが，石材本来の光沢部との区別がはっきりせず，使用痕光沢と断定するには至らなかった。

4　まとめ

干迫遺跡から出土した縄文時代後期の石器9点の使用痕分析を行ったところ，そのうち4点には使用痕が確認された。分析の結果，それらはいずれも草本植物を切るという作業に用いられたと推定された。No.1・2・3はイネ科など珪酸分の多い植物が対象物であったと考えられ，No.4もAタイプの光沢面が形成される前段階の状態という可能性がある。また，No.2については，2箇所の使用部位があり，石器の破損の前後に部位を違えて使用されたと考えられた。

なお，石器の実測は浅野由美子さん，写真の現像・焼付けは吉野まゆみさんによるものである。記して謝意を表す次第である。

（1996年3月27日）

引用文献

御堂島　正　1982　「エッジ・ダメージの形成に関する実験的研究－変数としての刃角－」中部高地の考古学2.，66-98頁

1986　「黒曜石製石器の使用痕－ポリッシュに関する実験的研究－」神奈川考古22，51-77頁

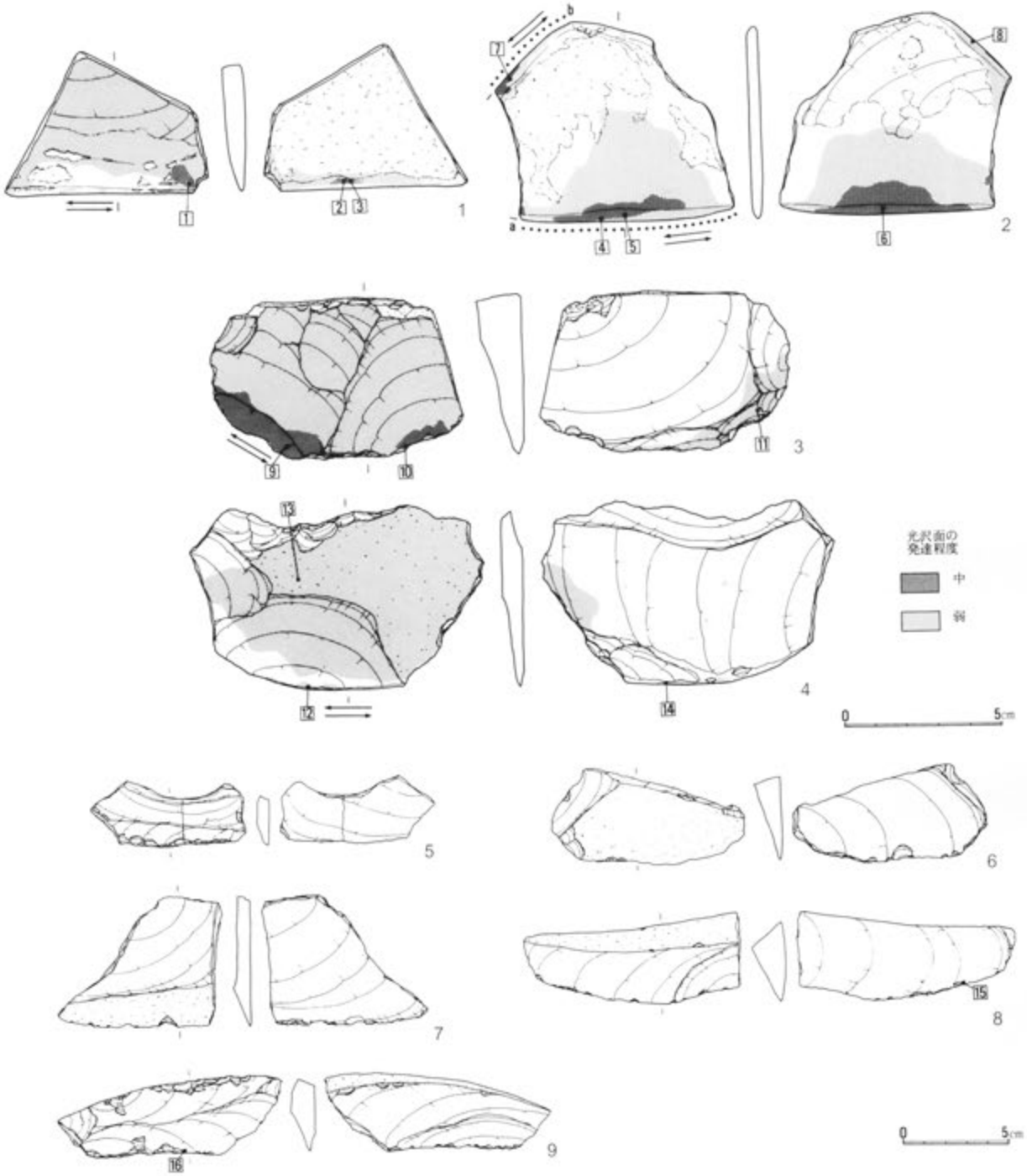
1988a「使用痕と石材－チャート・サヌカイト・凝灰岩に形成されるポリッシュー」考古学雑誌74(2), 1-28頁

1988b「抉入打製石包丁の使用痕分析」古代文化41-6，19-27頁

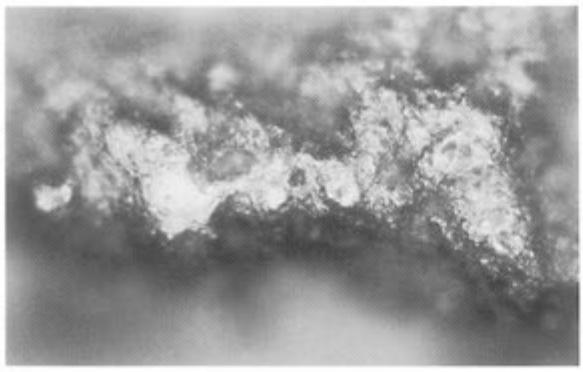
1991a「石鏃と有舌尖頭器の衝撃剥離」古代92, 26-35頁

1991b「磨製石包丁の使用痕分析」古代文化43-11，26-35頁

Keeley,L.H　1980　*Experimental Determination of Stone Tool Uses: A Micro Wear Analysis.* The University of Chicago Press.

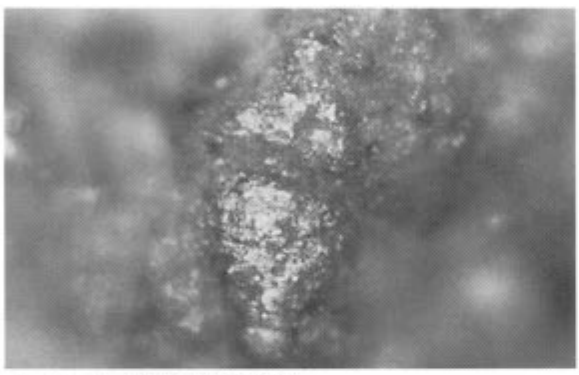


第１図　分析した石器と光沢面の分布
（矢印は使用方向、囲み数字は掲載写真撮影箇所）

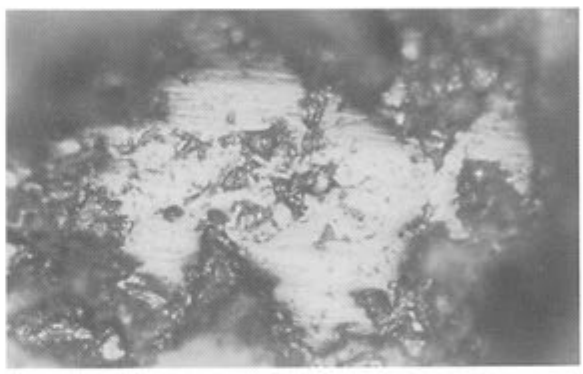


1　No. 1　光沢面

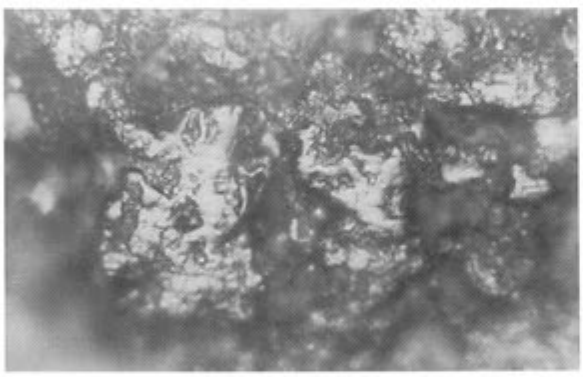
2　No. 1　線状痕と光沢面



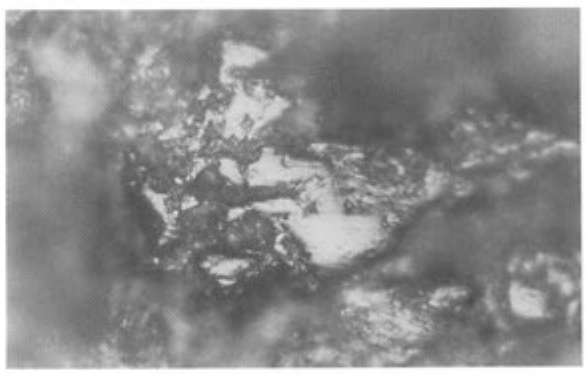
3　No. 1　線状痕と光沢面



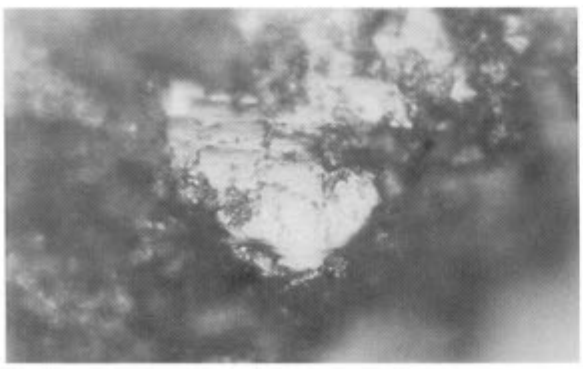
4　No. 2　線状痕と光沢面



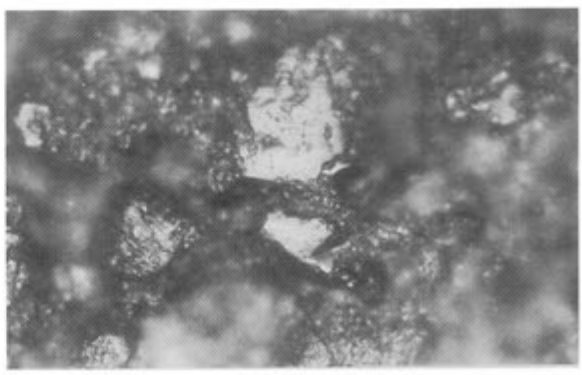
5　No. 2　線状痕と光沢面



6　No. 2　線状痕と光沢面



7　No. 2　線状痕と光沢面



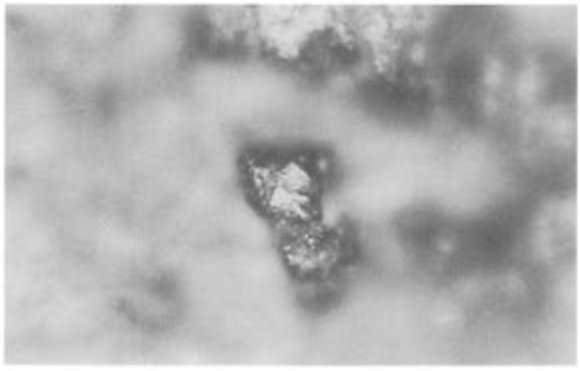
8　No. 2　線状痕と光沢面

写真１　石器の顕微鏡写真（天方向が縁辺）

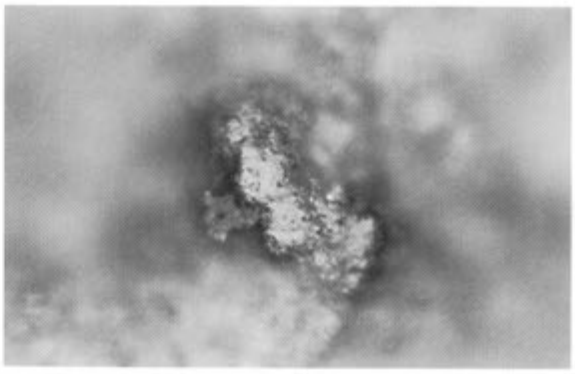
50μm

9　No. 3　光沢面

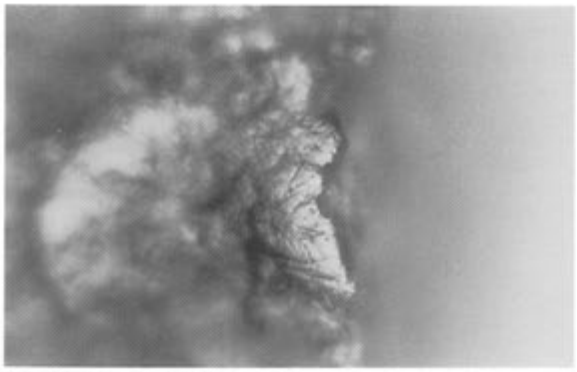
10　No. 3　線状痕と光沢面



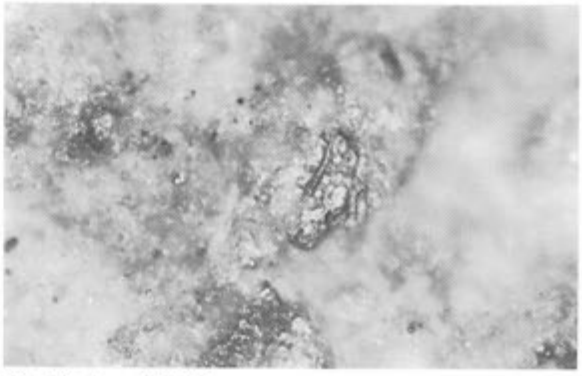
11　No. 3　光沢面



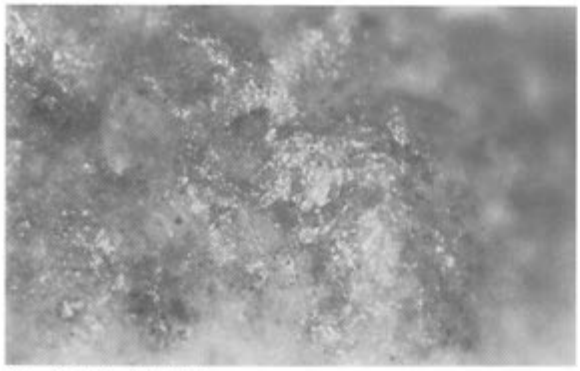
12　No. 4　光沢面



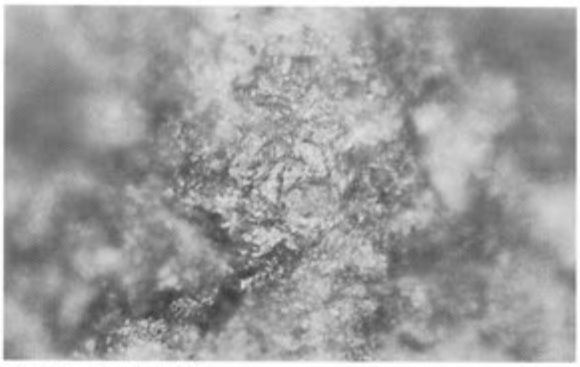
13　No. 4　線状痕と光沢面



14　No. 4　光沢面



15　No. 8　光沢面　100μm



16　No. 9　光沢面　50μm

写真２　石器の顕微鏡写真（天方向が縁辺、15のみ倍率が異なる）

同定・分析４

干迫遺跡出土の植物遺体

渡辺　誠（名古屋大学文学部）

１　植物遺体のリストと出土状態

1991～1992年に鹿児島県教育委員会によって発掘された，鹿児島県姶良郡加治木町干迫遺跡出土の植物遺体（種子類）は，次の４種である。

(1) ブナ科クリ　Castanea crenata Sieb.kt Zucc.
(2) ブナ科コナラ属イチイガシ　Quercus gilva Blume
(3) ブナ科コナラ属　Quercus sp.
(4) ブナ科シイノキ属スダジイ　Shiia Sieboldii Makino

クリ以外はいわゆるドングリ類である。このほかに不明種子類が１点みられる。

所属時期は縄文時代後期中葉・市来式を主体とする時期である。

これらは２度に分けて送付されてきたので，分類段階においては混乱を避けるため，それらの件別出土数量は，第１，２表に別個に示した。表中に双・半とあるのは，双子葉植物であるコナラ属の子葉の双方があるものを双，片側のみのものを半として記したものである。

これらの出土区は第１図に示すとおりであり，出土状態は１：土坑中，２：包含層，３：旧河道の３群に分類される。１・２は人為堆積，３は自然堆積として区分される。

この出土状態区分と出土数量の関係は第３表に示すとおりであり，イチイガシとコナラ属，およびそれらの種皮は両者に共通して検出されているが，クリは人為堆積の土坑中，スダジイは自然堆積の旧河道からのみ検出されている。ドングリ類が両者に共通することは，本遺跡の主要な立地条件の一つとして理解することができる。

２　クリについて

これは東北日本の落葉広葉樹林帯の代表的な樹木であり，９～10月に熟す種子は甘くて美味しい。材もまた建築材などとして有用である。

鹿児島県下の縄文時代遺跡より，クリの種子が出土したのは初めてである。20Ｆ区の土坑１中にドングリ類に混じって検出されたわずか0.31gの２片の破片にすぎないが，鹿児島県下縄文時代の食文化を知るうえで貴重な資料である（写真１－１）。

この土坑は，下記の目的によって，使用時期を異にして２つ以上の時期に分けて使用されたと考えられる。

ａ：ドングリ類の冬季の短期貯蔵（渡辺　1987a）。

ｂ：クリの甘みを増やすための，冬季の短期貯蔵（渡辺　1996）。

ａについては従来より知られていたことであるが，ｂについては鹿児島県下において初めて確認されたことになり，重視される。

3　ドングリ類について

ドングリ類には種類が多く，森林帯によってもその種類を異にしている。そしてその食用化に際しては，まったくアク抜きのいらないシイ類（D類），水さらしを必要とするカシ類（C類），および水さらしに加えて加熱処理の必要なナラ類（B類）とクヌギ類（A類）などがある。ただし製粉しさえすれば，A・B類も水さらしのみでアク抜きができる。

また形態においても変化に富む。そしてドングリまなこという言葉があるように，狭義のドングリとはまんまるいクヌギなどのA類のドングリを指している。これに対し，B・C類とイチイガシは楕円形を呈し，D類は小型の円形（ツブラジイ），先の尖った水滴状（スダジイ），および太くて長いマテガイ状（マテバシイ）などを呈す。しかしこれらはごくおおまかな見方であり，特に種皮がとれて中の実（子葉）だけになると分類は困難である。しかし種の同定までは困難であっても，食用化という観点からみて，A～D類の大別ぐらいは可能になって欲しいものである。

ドングリ類はこれらの形態と，アク抜きの必要の有無とその手間の度合いとによって，A～D類に大別することができる（第4表）。なおカシ類のうちイチイガシのみはアク抜きを必要とせず，D類に含まれることに注目される（渡辺　1987a）。

4　本遺跡出土のドングリ類

本遺跡出土資料にはA類はみられず，ほとんどが楕円形を呈すB・C類とイチイガシである。D類はスダジイが1点（写真1－2）みられるのみである。

それらの計測値を第5表に一括して表示して検討することとする。そしてこれらの長幅示数を図化したのが第2図である。これには明らかにイチイガシ（同3）とわかるものと，それ以外のコナラ属（同4）とを区別して示したが，その分布にはほとんど差が認められない。すなわち数量のやや少ないイチイガシの場合は，分散の範囲が1.01～2.00であり，他のコナラ属では0.91～1.80であるが，両者の主要範囲はほぼ一致し，平均値では双では1.50と1.45と近似し，半ではともに1.41であり，その分散の傾向も1.21～1.60の範囲に集中して類似している。

楕円形を呈するB・C類についての検討は難しいが，形態上類似しているがアク抜きがいらないためD類に分類されているところの，イチイガシが含まれていることは注目されてよい。大阪市立大学理学部の粉川昭平教授によれば，子葉のみでは分類の困難なドングリ類のなかで，イチイガシのみは唯一例外的に識別が可能であるという。その外面に縦に溝状の幼根の跡がみられるからである。この基準に基づいて，本遺跡例についても分類を試みたのである。

しかしこの溝は2つに分かれる子葉の片側にしかつかないのであるから，同数のものはイチイガシ以外のコナラ属に含まれてしまうことになる。しかしそれでもイチイガイ以外のコナラ属が含まれていることは，完形品（双）のみで比較しても，イチイガシを大きく上回って検出されていることから明らかである。すなわちイチイガシ以外に，アク抜きを必要とするB・C類のナラ・カシ類のドングリ類も含まれていることは確実なのである。

5　ドングリ類の出土状態

本遺跡のドングリ類には，はじめに記したように自然堆積と人為堆積の両者が含まれている。第１・２表には件別に報告した資料を，この出土状態によって整理したのが第３表である。土坑中・包含層は人為堆積，旧河道は自然堆積であり，カードなしはいずれか不明ということになる。

そしてイチイガシ・コナラ属の検出量を，出土状態別に破片のグラム数で比較するとそれぞれ5.2，4.6で，ともに自然堆積が人為堆積の約５倍となっている。

また出土状態の違いがあっても，イチイガシ・コナラ属の検出量を出土状態ごとに比較すると，自然堆積・人為堆積のそれぞれで22，19となり，ともに約20倍となっている。

これらのことから，アク抜きの必要性の有無にかかわらず，イチイガシと他のコナラ属とは一定の比率で，両者とも採集されていたことが判明する。

これが本遺跡の主要な立地条件であり，人為堆積中にはみられなかったスダジイも食用とされていたと考えることができる。

なお自然堆積の場合ばかりではなく，土坑中などの人為堆積の場合にも種皮（写真１－５）が検出されているということは，残りが少なくても本来種皮のついたまま貯蔵されていたことを示していると考えられる。

6　鹿児島県下縄文遺跡出土のドングリ類について

それらのドングリ類をどのように食用化していたかということは，アク抜きとの関係においてまず製粉具，および煮沸具の有無が問題になる。そこでその前提として鹿児島県下の縄文時代遺跡より出土した植物遺体を概観してみると，次のとおりである。

(1)　曽於郡志布志町東黒土田遺跡	（草創期）	コナラ属
(2)　〃　〃　八郎ヶ野Ａ遺跡	（晩　期）	イチイガシ・コナラ属
(3)　〃　〃　柳井谷遺跡	（後　期）	イチイガシ・コナラ属
(4)　〃　松山町前谷遺跡	（中　期）	イチイガシ・コナラ属・ツブラジイ スダジイ
(5)　〃　末吉町柿ノ木野久保Ａ遺跡	（早　期）	ドングリ類
(6)　〃　〃　宮之迫遺跡	（後　期）	ドングリ類
(7)　〃　〃　丸尾遺跡	（後　期）	ドングリ類
(8) 肝属郡田代町荒田原遺跡	（早　期）	ドングリ類
(9) 姶良郡栗野町花ノ木遺跡	（前　期）	コナラ属
(10)　〃　加治木町干迫遺跡	（後　期）	イチイガシ・コナラ属・スダジイ・クリ
(11) 鹿児島市若宮神社遺跡	（後　期）	シイ類
(12)　〃　草野貝塚	（後　期）	イチイガシ・コナラ属
(13) 川内市麦之浦貝塚	（後　期）	コナラ属
(14) 日置郡吹上町黒川洞穴	（晩　期）	イチイガシ・コナラ属

(15) 加世田市上加世田遺跡　　(晩　期) イチイガシ・コナラ属
(16) 指宿市橋牟礼川遺跡　　(後　期) イチイガシ・コナラ属
(17) 種子島・西之表市本城遺跡　　(前　期) シイ類・シャリンバイ
(18)　〃　・熊毛郡中種子町大園遺跡　　(後　期) コナラ属
(19) 屋久島・上屋久町一湊遺跡　　(前　期) シイ類・シャリンバイ・コナラ属
(20) 奄美大島・大島郡笠利町宇宿貝塚　　(後　期) イチイガシ・コナラ属
(21) 沖永良部島・〃　知名町神野貝塚　　(後　期) タブノキ

出土している種子類は，大部分がドングリ類である。すなわちイチイガシ・コナラ属およびツブラジイ・スダジイを含むシイ類などであり，21遺跡中20遺跡より出土している。それらの他は，2遺跡よりシャリンバイ，1遺跡よりタブノキが出土している。

時期的にみると，草創期1，早期2，前期3，中期1，後期11，晩期3であり，後期遺跡からの出土率が高い。そしてドングリ類以外の，シャリンバイは前期，クリ・タブノキは後期においてのみ出土している。

そして特に注目されることは，ドングリ類でもアク抜きを必要としないイチイガシやシイ類などが確認されるのは縄文前期からであるのに対し，アク抜きを必要とするコナラ属が縄文草創期の志布志町東黒土田遺跡の貯蔵穴より出土していることである（瀬戸口　1981)。しかも現代より寒冷な時期であるから，ドングリ類でもC類よりB類である可能性が高い。そして製粉具も未発達な段階としては，アク抜きのために煮沸を何度も繰り返さなければならないのであり，そのために不可欠な煮沸具として土器が重要になってくる。したがって縄文土器の出現と発達に，ドングリ類はきわめて密接な関係にあるといえるのである（渡辺　1987b)。

今後はさらに草創期・早期のドングリ類の種類を明確にするとともに，製粉具の発達過程を明らかにすることが重要な作業として指摘されるであろう。

そして本遺跡は縄文後期に属し，すでに石皿・磨石などの製粉具は十分に発達している段階であるから，ドングリ類を製粉して水さらしのみでアク抜きすることも可能であったし，さらにはクズやワラビなどの根を製粉して，デンプンをさらしてとることも行われていたことが容易に推定されるのである。

謝　辞

終りに，本資料調査の機会を与えて下さった鹿児島県教育委員会の池畑耕一氏，資料整理にご協力下さった丹下昌之（名古屋大学大学院博士後期課程学生）・渡辺直哉（同研究生）の両氏に対し，深謝の意を表する次第である。

引　用　文　献

瀬戸口望　1981　東黒土田遺跡発掘調査報告．鹿児島考古15，22～54頁．鹿児島．
渡辺　誠　1987a　縄文時代の植物質食料・ドングリ類．考古学ジャーナル279，24～27頁．東京．
1987b　日韓におけるドングリ食と縄文土器の起源．韓国における考古民族学的研究Ⅱ．名古屋大学文学部研究論集，史学33，1～15頁．名古屋．
1996　クリの穴貯蔵．名古屋大学文学部研究論集，史学42，1～7頁．名古屋．

第１図　植物遺体出土区分布図

番号	取り上げ番号	出土区	層位	イチイガシ			コナラ属			備考
				双	半	破片	双	半	破片	
1	２００１２	１４Ｅ	Ｖ				３			
2		１４Ｈ　Ｒ１　７２							0.50	
3		１５Ｇ　Ｒ１							0.25	
4	２７７６５	１５Ｇ　Ｒ１　４３				0.64			2.75	種皮0.04
5	２１６４２	１６Ｅ	Ｖ						1.99	
6		１６Ｆ	Ｖ						4.20	種皮0.28
7		１６Ｇ　Ｒ１				0.34	１	２	4.35	種皮1.18
8		１６Ｇ　Ｒ１		３		0.47	３	３	5.31	不明種子1
9		１６Ｇ　Ｒ１							0.30	
10	３３４８９	１８Ｆ　Ｒ１							1.72	種皮0.13
11		２０Ｆ　Ｒ１			１	1.80	１	５	7.84	種皮0.01
12	３８９４８	２０Ｆ　Ｒ１		６	３	0.93	４	１	13.97	種皮0.02
13		２０Ｆ　Ｒ１				1.05	４	７	19.80	種皮0.12
14		２１Ｆ　Ｒ１				0.72	１	３	16.13	
15		２１Ｆ　Ｒ１		１		1.25	１	２	6.20	
16		２１Ｆ　Ｒ１		１	２	0.30			8.38	
17		２１Ｏ　Ｒ２							0.24	
18		２２Ｍ　暗茶褐色土				0.64			2.61	種皮0.11
19	４０９０９	２２Ｎ　Ｒ２		３		0.20		３	0.88	種皮0.32
計				１４	６	8.34	１８	２６	97.42	種皮2.21，不明種子1

第１表　ドングリ類件別一覧表　（単位：cm，g）

番号	取り上げ番号	出土区	層位	イチイガシ 双	イチイガシ 半	イチイガシ 破片	コナラ属 双	コナラ属 半	コナラ属 破片	備考
1		13H R1							0.16	
2	19976	14E	V						0.29	
3		14G							2.02	
4	23841	14G	V						0.13	
5		15G							0.44	
6	21027	15G	V						0.52	
7		16F	V						0.18	
8		16G							1.02	
9	37173	17F P13							1.47	
10		18D 土坑2						1	1.15	
11		18D	VI					1		
12		18E	VI						0.26	
13		18F 土坑7						1		
14		18F R1							3.07	
15		18N	V						0.22	
16		19E	VII					1	0.96	
17		20F 土坑1			1	0.32		2	2.90	
18		20F R1・土坑1		3		0.34	1	3	8.90	種皮0.02, クリ破片0.31
19	40909	20F R1 50				0.13			11.21	
20		20F R1			1	0.17	2	1	5.18	
21		20F R1		1			1	1	11.39	
22		20F R1					1	11	7.41	
23		20F R1		1			1	3	8.56	スタジイ双1
24		20F R1					2	1	13.24	
25		21F R1							2.12	
26		21O R2		1			1	1	2.12	種皮0.14
27		22M 暗茶褐色土					1		0.52	
28		22N R2							0.11	
29		23M 暗茶褐色土							0.79	
30		不明（カードなし）		1	1		2	1	12.72	
計				7	3	0.96	12	28	99.06	種皮0.16, スタジイ双1, クリ破片0.31

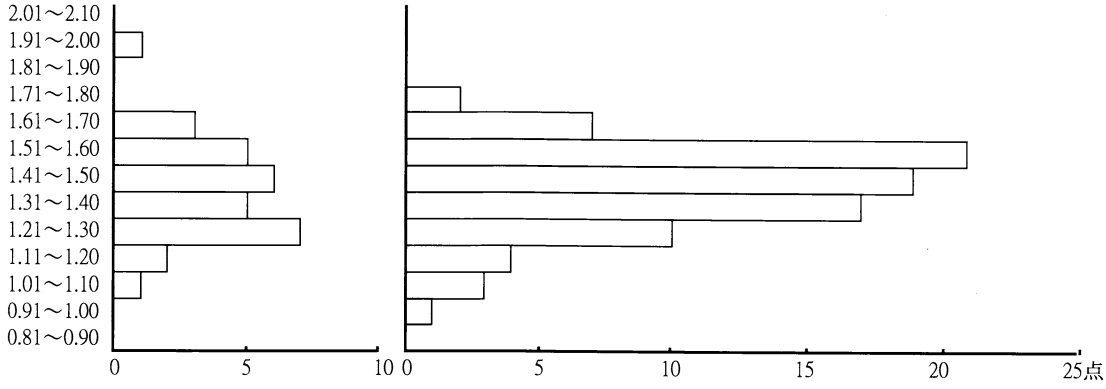
第2表　ドングリ類件別一覧表　（単位：cm, g）

番号	出土状態	件(表)別番号	イチイガシ			コナラ属			他
			双	半	破 片	双	半	破 片	
1	土坑内	2・10・11・13・14・17・18	3	1	0.66	1	8	16.02	種皮0.02クリ破片0.31
2	包含層	1-1・6・17～19 2-2・7・9・12・15・16・26～28	4	0	0.84	5	5	16.84	種皮0.85
3	旧河道	1-2～4・7～16 2-1・3～6・8・19～25	13	7	7.80	22	40	150.90	種皮1.50, スタジイ双1 不明種子1
4	カードなし	2-30	1	1		2	1	12.72	
計			21	9	9.30	30	54	196.48	種皮2, 37, スタジイ双1 クリ破片0.31, 不明種子1

第３表　ドングリ類出土状態別一覧表（単位：cm, g）

民 俗 分 類	属		種（出土例のみ）	森林帯
A　クヌギ類 製粉または加熱処理＋水さらし	コナラ属	コナラ亜属	クヌギ カシワ	落葉広葉樹林帯 （東北日本） （韓　　国）
B　ナラ類 製粉または加熱処理＋水さらし			ミズナラ コナラ	
C　カシ類 水さらしのみ		アカガシ亜　属	アカガシ アラガシ	照葉樹林帯 （西南日本） （韓国南海岸）
D　シイ類など			イチイガシ ツブラジイ・スタジイ マテバシイ	
	シイノキ属			
	マテバシイ属			

第４表　ドングリ類の分類



第２図　ドングリ類の長幅示数分布図（左：イチイガシ，右：コナラ属）

種	双・半	表別番号	長さ	幅	厚さ	長幅示数	重量
イチイガシ	双	1-8	1.33	0.89	1.33	1.49	0.41
	双	1-8	1.21	0.83	0.83	1.46	0.39
	双	1-8	1.28	0.80	0.71	1.60	0.35
	双	1-12	1.06	0.86	0.82	1.23	0.26
	双	1-12	1.08	0.80	0.76	1.35	0.21
	双	1-12	1.13	0.74	0.68	1.53	0.19
	双	1-12	1.18	0.78	0.72	1.51	0.30
	双	1-12	0.96	0.64	0.67	1.50	0.20
	双	1-12	1.00	0.63	0.71	1.59	0.24
	双	1-14	1.03	0.70	0.72	1.47	0.27
	双	1-15	1.29	0.76	0.79	1.70	0.33
	双	1-19	1.35	0.98	1.09	1.38	0.49
	双	1-19	1.18	0.86	0.93	1.37	0.36
	双	1-19	0.92	0.54	0.57	1.70	0.11
	双	2-18	1.15	0.90	0.91	1.28	0.35
	双	2-18	1.29	0.79	0.84	1.63	0.26
	双	2-18	1.15	0.72	0.75	1.60	0.25
	双	2-21	1.13	0.83	0.80	1.36	0.26
	双	2-23	1.07	0.77	0.80	1.39	0.32
	双	2-26	1.45	1.00	1.01	1.45	0.70
	双	2-30	1.36	0.70	0.74	1.94	0.22
平均値			1.17	0.79	0.31	1.50	0.31
イチイガシ	半	1-11	1.41	0.88	0.47	1.60	0.25
	半	1-12	1.27	0.83	0.46	1.53	0.16
	半	1-12	1.24	0.87	0.43	1.43	0.18
	半	1-12	1.10	0.75	0.38	1.47	0.13
	半	1-15	1.30	0.95	0.51	1.37	0.19
	半	1-15	1.18	1.00	0.47	1.18	0.18
	半	2-20	1.15	0.81	0.20	1.42	0.14
	半	2-23	1.25	0.94	0.44	1.33	0.17
	半	2-30	1.28	0.97	0.51	1.32	0.20
平均値			1.24	0.88	0.43	1.41	0.18
コナラ属	双	1-1	1.47	0.97	1.18	1.51	0.79
	双	1-1	1.42	0.88	0.93	1.61	0.52
	双	1-1	1.41	0.89	0.89	1.58	0.49
	双	1-7	1.05	0.78	0.76	1.37	0.30
	双	1-8	1.60	1.11	1.13	1.44	0.67
	双	1-8	1.17	0.94	0.89	1.24	0.36
	双	1-8	1.07	0.71	0.72	1.51	0.34
	双	1-11	1.11	0.69	0.75	1.61	0.26
	双	1-12	1.17	0.85	0.77	1.37	0.21
	双	1-12	1.12	0.82	0.87	1.37	0.35
	双	1-12	1.04	0.77	0.75	1.35	0.30
	双	1-12	1.03	0.70	1.70	1.47	0.24
	双	1-13	1.27	0.97	0.88	1.31	0.43
	双	1-13	1.23	0.86	0.80	1.43	0.41
	双	2-13	1.08	0.83	0.89	1.30	0.40
	双	2-13	1.18	0.92	0.88	1.28	0.47
	双	2-15	1.15	0.84	0.85	1.37	0.37
	双	2-15	1.19	0.82	0.78	1.45	0.28
	双	2-18	1.15	0.77	0.81	1.49	0.23
	双	2-20	1.11	0.70	0.75	1.59	0.18
	双	2-20	1.16	1.09	1.01	1.06	0.43
	双	2-21	1.15	0.75	0.73	1.53	0.31
	双	2-22	1.11	0.77	0.83	1.44	0.22
	双	2-23	1.36	0.81	0.78	1.68	0.40
	双	2-24	1.48	0.85	0.87	1.74	0.36
	双	2-24	1.14	0.81	0.83	1.41	0.28
	双	2-26	1.17	0.77	0.81	1.52	0.33
	双	2-27	1.15	0.85	0.91	1.35	0.28
	双	2-30	1.42	1.05	1.11	1.35	0.43
	双	2-30	1.47	0.82	0.77	1.79	0.35
平均値			1.22	0.85	0.85	1.45	0.37

種	双・半	表別番号	長さ	幅	厚さ	長幅示数	重量
コナラ属	半	1-7	.28	0.96	0.50	1.33	0.21
	半	1-7	1.46	0.91	0.48	1.60	0.18
	半	1-8	1.44	1.01	0.52	1.43	0.30
	半	1-8	1.36	1.00	0.50	1.36	0.25
	半	1-8	1.20	0.75	0.39	1.60	0.18
	半	1-11	1.39	1.08	0.60	1.29	0.30
	半	1-11	1.52	0.97	0.51	1.57	0.23
	半	1-11	1.47	0.93	0.49	1.59	0.22
	半	1-11	1.33	0.84	0.45	1.58	0.24
	半	1-11	1.19	0.85	0.43	1.40	0.19
	半	1-12	1.32	0.83	0.50	1.59	0.16
	半	1-13	1.22	0.99	0.58	1.23	0.24
	半	1-13	1.41	0.99	0.47	1.42	0.26
	半	1-13	1.27	0.93	0.53	1.37	0.26
	半	2-13	1.26	0.91	0.46	1.38	0.19
	半	2-13	1.13	1.03	0.58	1.10	0.20
	半	2-13	1.07	1.03	0.50	1.04	0.18
	半	2-13	0.98	0.87	0.49	1.12	0.17
	半	2-14	1.40	1.01	0.51	1.39	0.24
	半	2-14	1.33	0.85	0.46	1.56	0.19
	半	2-14	1.15	0.78	0.40	1.47	0.14
	半	1-15	1.31	0.90	0.44	1.46	0.17
	半	1-15	1.28	0.82	0.43	1.56	0.21
	半	1-19	1.25	0.82	0.38	1.52	0.18
	半	1-19	1.30	0.83	0.43	1.57	0.18
	半	1-19	0.93	0.77	0.36	0.96	0.13
	半	2-10	1.33	0.86	0.46	1.55	0.20
	半	2-11	1.24	0.90	0.47	1.38	0.28
	半	2-13	1.11	0.91	0.63	1.22	0.21
	半	2-16	1.16	0.92	0.49	1.26	0.21
	半	2-17	1.27	0.92	0.40	1.38	0.18
	半	2-17	1.59	1.19	0.62	1.37	0.33
	半	2-18	1.30	0.82	0.41	1.59	0.14
	半	2-18	1.09	0.85	0.43	1.28	0.14
	半	2-18	1.13	0.68	0.39	1.66	0.04
	半	2-20	1.38	0.97	0.51	1.42	0.32
	半	2-21	1.45	0.92	0.51	1.58	0.23
	半	2-22	1.16	0.78	0.40	1.49	0.15
	半	2-22	1.08	0.92	0.46	1.17	0.16
	半	2-22	1.14	0.82	0.44	1.39	0.12
	半	2-22	0.97	0.85	0.44	1.14	0.11
	半	2-22	1.23	0.87	0.39	1.41	0.12
	半	2-22	1.36	0.80	0.43	1.70	0.16
	半	2-22	0.98	0.80	0.54	1.23	0.11
	半	2-22	1.07	0.89	0.26	1.20	0.22
	半	2-22	1.13	0.80	0.47	1.41	0.18
	半	2-22	1.28	0.78	0.45	1.64	0.17
	半	2-22	1.09	0.68	0.33	1.60	0.11
	半	2-23	1.20	0.95	0.50	1.26	0.17
	半	2-23	1.24	0.85	0.38	1.46	0.15
	半	2-23	1.29	0.82	0.44	1.57	0.16
	半	2-24	1.09	076	0.39	1.43	0.16
	半	2-26	1.03	0.72	0.37	1.43	0.11
	半	2-30	1.22	0.75	0.39	1.62	0.11
平均値			1.24	0.88	0.46	1.41	0.19
スダジイ	双	2-23	0.94	0.49	0.56	1.92	0.11

第５表　ドングリ類計測値一覧表　（単位：cm，g）

写真１　植物遺体（縮尺：実大）

１：クリ，２：スダジイ，３：イチイガシ，４：コナラ類，５：ドングリ類種皮，

同定・分析５

干迫遺跡出土縄文土器の胎土分析

白石　純（岡山理科大学自然科学研究所）

１　はじめに

この分析では干迫遺跡出土の縄文時代後期中頃の土器を蛍光Ｘ線分析により分析し，以下の事柄について検討した。

干迫遺跡出土の縄文後期中頃の貝殻文系土器（在地系）と磨消縄文系土器（他地域からの搬入）の間で胎土的に違いがあるかどうか。

また，貝殻文系土器の市来・草野・丸尾の各型式と磨消縄文系土器の鐘崎・北久根山・辛川・西平の各型式の間で胎土に差があるかどうか。

２　分析方法および結果

分析方法は，波長分散型蛍光Ｘ線分析装置（リガク電機製KG-4型）により分析し，分析方法・条件・試料の調整などは現在までに行っている方法である。

分析した元素は，第１表に示したK_2O（酸化カリウム）・Fe_2O_3（酸化鉄）・SiO_2（二酸化珪素）・TiO_2（酸化チタン）・Al_2O_3（酸化アルミニウム）・CaO（酸化カリウム）・Sr（ストロンチウム）・Rb（ルビジウム）の８元素である。このうち，顕著に差が見られるのはK_2O・CaO・Sr・Rbの４元素である。そこでこれらの元素からCaO／K_2O，Sr／Rbの比をとり，XY散布図により検討した。

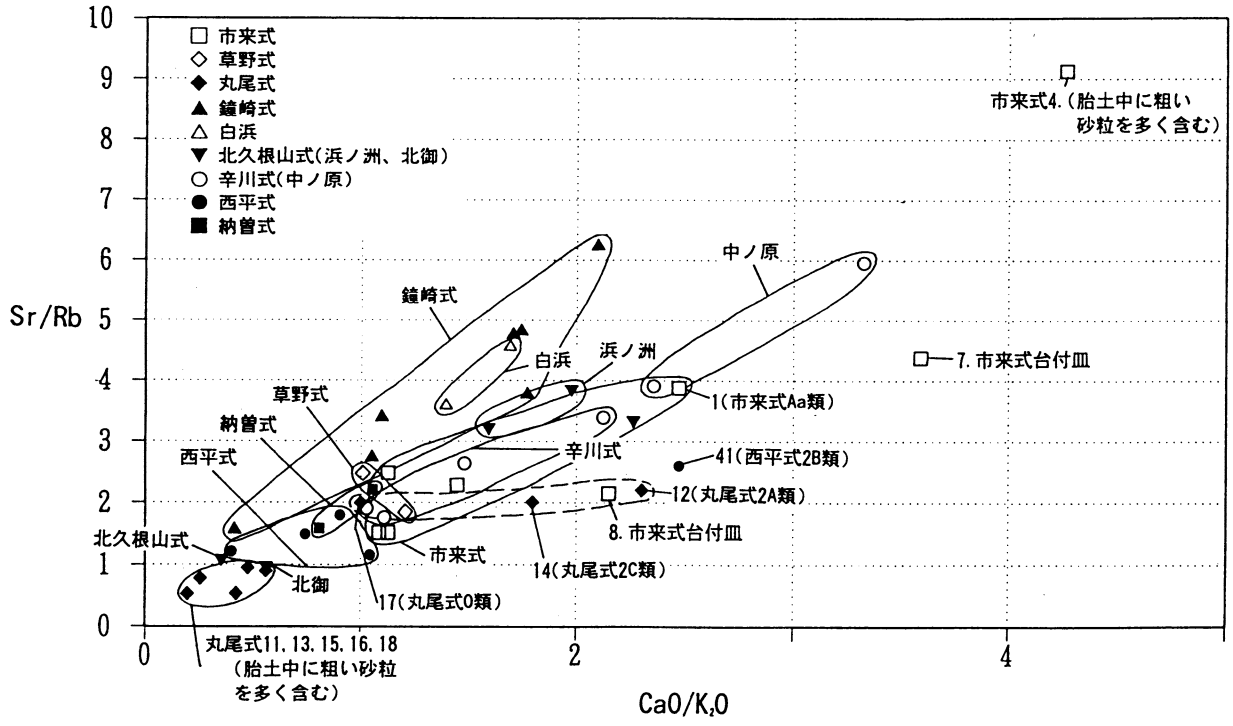
分析の結果，第１図CaO／K_2O－Sr／Rb散布図より貝殻文系，磨消縄文系の各型式の胎土の比較では，ほとんどの型式で散漫な分布を成し，まとまる傾向は見られなかった。ただ，貝殻文系の丸尾式で二つに分れた。一つは試料番号11・13・15・16・18のグループ，もう一つは12・14・17である。胎土の肉眼観察でも差がみられる。前者は，石英・長石などの粗い砂粒が，後者のグループには細粒砂が使用され火山ガラス（？）などもみられる。また，市来式でも試料番号４とそれ以外の１・２・３・５・６のグループと大きく離れている。この市来式も４がほかの土器に比べて胎土に粗い砂粒を多く含んでいる。

第２図CaO／K_2O－Sr／Rb散布図より貝殻文系，磨消縄文系の土器の比較では，どちらの文様系も胎土に差が見られず明確に識別されなかった。ただ，貝殻文系，磨消縄文系に関係なく波線で囲んだ範囲で大きく二つのグループに分れる可能性が考えられる。一つは，試料番号４（市来式Ｎ類），７（市来式台付皿），38（中ノ原3B類）の３点の土器。もう一つは，これ以外の土器類である。

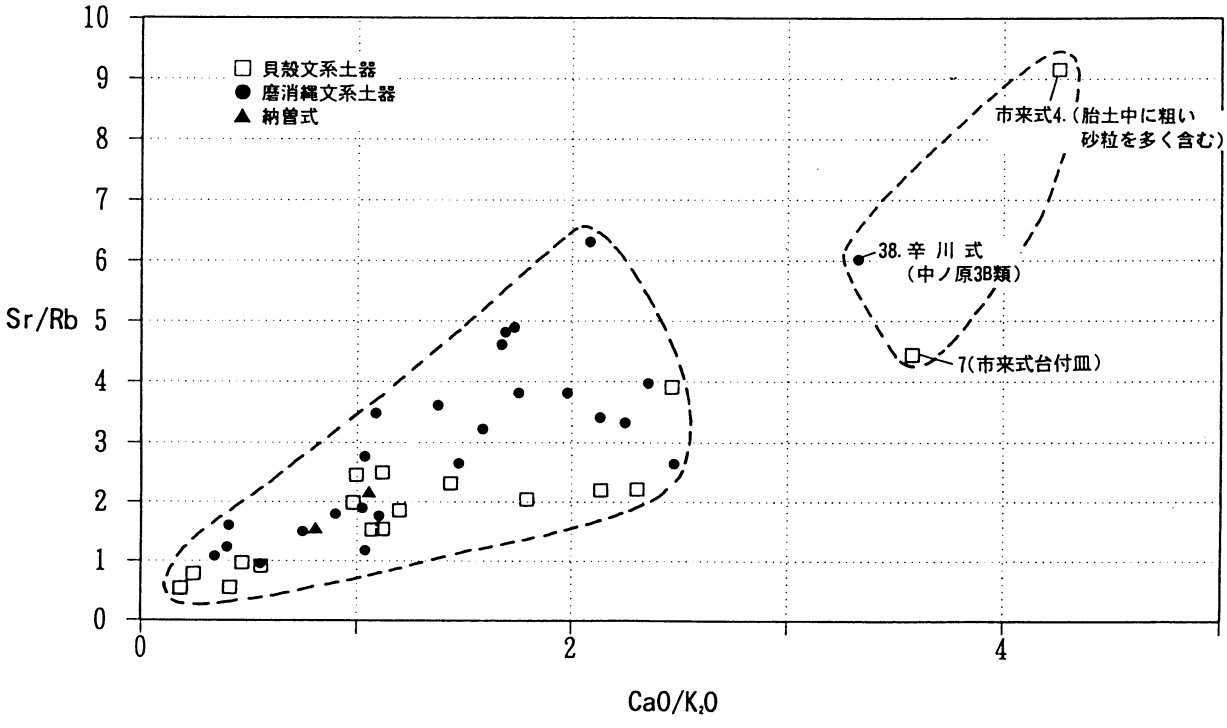
以上のように，型式・文様系の違いで胎土が異なるかどうか検討したが，胎土的には明確には識別できなかった。

試料番号	土器型式	K	Fe	Si	Ti	Al	Ca	Sr	Rb
1	市来Aa類	0.71	13.28	37.62	1.41	22.04	1.76	136	35
2	市来Aa類	1.40	8.28	44.89	0.88	23.35	1.50	162	105
3	市来N類	1.30	8.08	48.10	1.09	19.66	1.45	168	67
4	市来N類	0.59	10.21	36.44	1.03	24.51	2.49	234	25
5	市来S類	1.18	8.08	48.76	0.89	21.44	1.70	205	89
6	市来S類	1.62	9.10	51.25	1.07	19.23	1.81	179	117
7	市来台付皿	0.75	11.12	43.55	1.16	20.27	2.67	179	41
8	市来台付皿	1.02	10.75	46.70	1.02	20.79	2.18	166	75
9	草野3類	1.05	8.13	51.58	1.31	19.62	1.50	163	66
10	草野3類	1.11	10.06	42.13	1.40	24.67	1.34	101	55
11	丸尾2A類	2.67	9.28	44.72	1.21	21.68	0.65	110	141
12	丸尾2A類	0.87	8.90	51.00	1.10	19.99	2.01	160	72
13	丸尾2C類	2.19	14.57	43.39	1.19	18.91	0.91	46	82
14	丸尾2C類	1.04	9.56	48.74	1.12	21.04	1.87	181	88
15	丸尾2C類	3.02	7.67	50.94	1.01	18.55	1.43	135	139
16	丸尾2C類	2.74	11.13	41.84	1.14	22.10	0.52	63	116
17	丸尾0類	1.51	8.73	44.81	0.89	21.12	1.49	196	99
18	丸尾0類	2.08	12.83	48.90	1.12	17.83	1.16	90	99
19	鐘崎浅鉢2類	1.34	9.21	46.25	1.70	21.42	2.80	320	51
20	鐘崎浅鉢2類	1.29	6.37	48.52	1.14	20.69	1.40	242	70
21	鐘崎4類	1.35	5.72	49.23	1.47	21.28	2.33	320	66
22	鐘崎4類	2.98	5.11	58.89	0.73	17.36	1.22	184	115
23	鐘崎4類	1.33	6.26	51.68	1.67	20.40	2.33	273	71
24	鐘崎5類	1.39	5.73	47.94	1.45	21.80	2.35	316	66
25	鐘崎5類	1.90	6.20	51.70	1.23	20.31	1.98	250	90
26	白浜3類	1.36	9.21	44.09	1.44	21.19	2.28	243	53
27	白浜3類	1.23	12.82	43.61	1.01	19.29	1.70	198	55
28	北久根山4類	2.28	4.66	57.52	1.00	19.17	0.79	135	127
29	北久根山4類	1.14	6.81	49.40	1.35	21.40	2.57	254	76
30	浜ノ洲3類	1.11	9.27	42.87	1.64	21.20	1.76	188	59
31	浜ノ洲3類	1.10	6.52	46.15	1.62	22.35	2.18	255	67
32	北御4類	1.88	6.86	58.30	1.21	18.12	1.05	128	135
33	辛川A類	1.29	9.67	45.78	1.12	21.86	1.33	124	66
34	辛川A類	0.87	9.68	34.17	1.46	26.46	1.85	150	44
35	辛川B類	1.34	7.52	48.11	1.44	21.46	1.98	159	60
36	辛川B類	1.21	12.58	49.77	1.00	18.08	1.34	132	76
37	中ノ原3B類	0.97	11.10	48.73	1.05	18.24	2.28	197	50
38	中ノ原3B類	0.66	11.96	42.25	1.77	21.97	2.20	216	36
39	西平1類	1.22	18.86	44.98	1.28	16.49	0.92	78	53
40	西平1類	1.84	14.27	52.46	0.86	15.39	0.75	89	73
41	西平2B類	0.76	10.74	38.96	1.44	24.18	1.89	138	52
42	西平2B類	0.84	12.51	37.91	1.81	24.10	0.88	83	72
43	西平2B類	1.43	7.60	51.18	1.35	20.56	1.29	157	89
44	納曽2類	1.78	8.38	48.91	1.06	20.72	1.44	175	113
45	納曽2類	1.50	9.92	47.80	1.31	20.47	1.59	159	74

第1表　干迫遺跡出土縄文土器の胎土分析（%）　ただしSr，Rbはppm



第1図 CaO/K₂O-Sr/Rb散布図 干迫遺跡縄文土器の各型式ごとの比較



第2図 CaO/K₂O-Sr/Rb散布図 干迫遺跡縄文土器貝殻文系と磨消縄文系土器との比較

同定・分析６

干迫遺跡出土の縄文土器に塗彩された顔料について

大久保　浩二（鹿児島県立埋蔵文化財センター）

干迫遺跡出土の縄文土器に，白色の顔料と赤色の顔料が塗彩されたものがある。その顔料について粒子の形状の観察と成分の分析を行い，顔料の種類の同定を試みたのでここに報告する。

分析に使用した機器は，鹿児島県立埋蔵文化財センター所蔵の日本電子製走査型電子顕微鏡（低真空タイプ・ＬＶ－ＳＥＭ）とエネルギー分散型Ｘ線分析装置（ＥＤＳ）である。Ｘ線分析は，加速電圧20ｋＶ，有効時間100秒，取り出し角度20.2°，作動距離20.0mmの測定条件で行った。

観察と分析の結果を第１表に示す。

試料	注記番号		時期	型式	器種	X線分析	顔料	粒子	備考
1	179		縄文前期	深浦式	深鉢	Fe	ベンガラ	パイプ	
2	171	26696	縄文後期	市来式	深鉢	Fe	ベンガラ	微粒子	市来深鉢は初めて
3	172	28700	縄文後期	市来式	台付皿	Fe	ベンガラ	微粒子	白地に赤
4	173	同上	同上	同上		Al　Si	白土		
5	174		縄文後期	市来式	台付皿	Fe	ベンガラ	ﾊﾟｲﾌﾟ・微粒子	
6	175	30354	縄文後期	北久根山	台付皿	Fe	ベンガラ	微粒子	
7	176	26889	縄文後期	鐘崎式	鉢	Fe	ベンガラ	微粒子	古段階
8	177		縄文後期	鐘崎式	鉢	Fe	ベンガラ	微粒子	
9	178		縄文後期	加曽利Ｂ式系	注口	Hg　S	水銀朱	粒度は0.5~2μm	

第１表　干迫遺跡の顔料分析

１　白色顔料

今回の報告で特筆すべきは，縄文後期の台付皿形土器に塗彩されている白色顔料である。台付皿形土器の多くに塗彩されており，注記No.28700のように白色顔料と赤色顔料を同時に塗彩しているものもある。詳しい分析はできていないが，白色顔料を下地としその上に赤色顔料を塗り重ねているように見える部分もある。

古代における白色顔料の種類については，白色粘土（白土）・鉛系白色顔料（鉛白）・炭酸カルシウム・リン灰石などが知られている。干迫遺跡の白色顔料である試料４からは，図１のＸ線スペクトル図に示すとおり，AlとSiの顕著なピークが検出された。よってこの白色顔料は「白土」であると考えられる。注記No.28700以外にも白色顔料が塗彩されたもの数点の分析を行ったが，結果はすべて同様であった。

宮内庁正倉院調査事務所の成瀬正和氏のご教示によると，古代の顔料としての白土の使用は，装飾古墳の顔料としての使用例がもっとも古いものとして知られていたが，今回の干迫遺跡の例はそれを大きくさかのぼり，今のところ全国でも最古の使用例になるとのことである[1)]。

干迫遺跡の台付皿形土器における白色顔料の使用を確認したあと，宮崎県高原町の大田に遺跡で表採された台付皿形土器[2)]にも白色顔料が塗彩されているのを確認した。顔料の種類はやはり白土であった。このことは白土の使用が干迫遺跡に限ったことではなく，台付皿形土器の製作にあたって南九州において広く行われていた可能性を示唆するものであり，これまでの出土資料を再検討する必要があると考えられる。

2　赤色顔料

一般に赤色顔料の種類には，ベンガラと水銀朱が考えられる。それぞれは顔料の粒子の形状に特徴があり，主成分もベンガラは酸化第二鉄（Fe_2O_3），水銀朱は硫化水銀（HgS）と大きく異なっている。今回は主にＥＤＳによるＸ線分析（成分分析）で検出される元素をもとに，赤色顔料の種類の同定を試みた。

試料１は縄文時代前期の深浦式土器の外面に塗彩されているものである。走査型電子顕微鏡による観察では，パイプ状のベンガラであることがわかった（写真１）。同時期の類例は星塚遺跡[3)]の深浦式土器に観察される。

縄文時代後期の土器では，試料２～８についてはいずれもベンガラであった。粒子の形状は微粒子のものが多く，特徴的なパイプ状をしたベンガラははっきりしなかった。市来式土器においては台付皿形土器の器形の土器には，他遺跡でも赤色塗彩されているものが数多く見られるが，注記No.26696のように深鉢形土器に赤色塗彩されているものは今回の試料が初出であった。試料３は白色顔料と同時に塗彩されている赤色顔料であるが，顔料の種類はベンガラであった。

試料９は縄文時代後期の加曽利Ｂ式系の注口土器に塗彩されている赤色顔料である。全面が鮮やかな朱色で塗彩されている。Ｘ線分析の結果，HgとＳの顕著なピークが検出されたので，顔料の種類は水銀朱であると考えられる（図１）。粒子の大きさは0.5～２μm程である。全国的に水銀朱の使用が確認されているのは縄文時代後期からで，今回の出土例もそれに並ぶものと思われる。また鹿児島県における水銀朱の使用例は珍しく，これまでは鹿屋市の榎崎Ｂ遺跡の縄文時代晩期黒川式土器の浅鉢内面に付着していた例[4)]があるのみである。今回の土器は他の地域からの搬入品と考えられるが，鹿児島県における水銀朱の使用を考える上で貴重な資料となった。

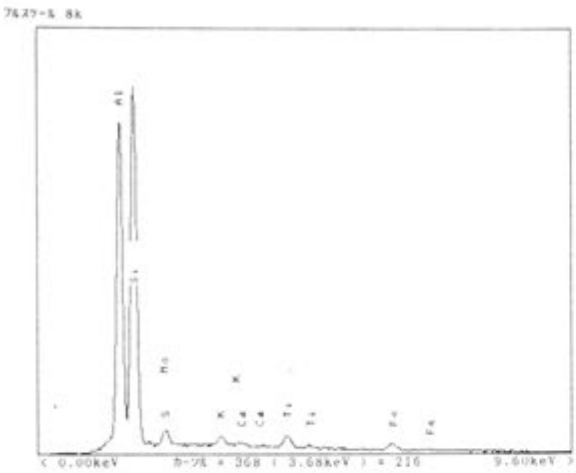
註

1）成瀬正和　「正倉院宝物にみられる顔料　表２　わが国の無機顔料の変線図」『保存科学研究集会　1997研究発表要旨』奈良国立文化財研究所　1997

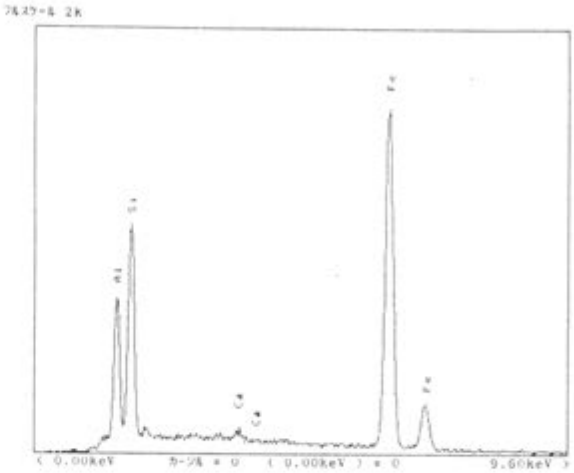
2）横手浩二郎「宮崎県西諸県郡高原町大谷遺跡表採の縄文土器」『南九州縄文通信』８　1993

3）「星塚遺跡」『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(7)』　1993

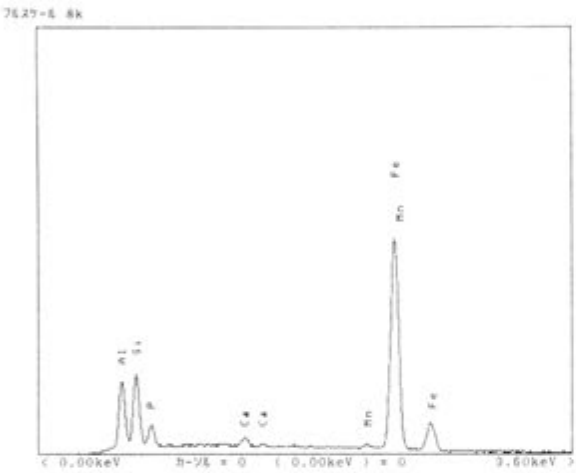
4）「榎崎Ｂ遺跡」『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(4)』　1993



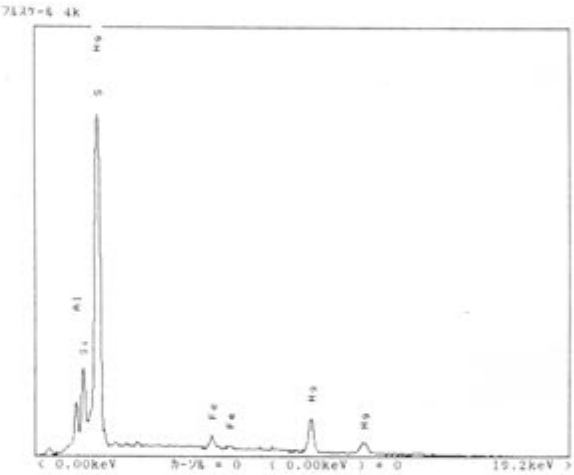
試料４　白色顔料（白土）



試料２　赤色顔料（ベンガラ）

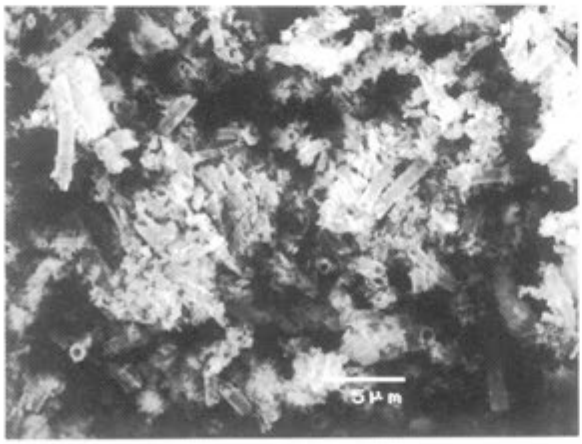


試料７　赤色顔料（ベンガラ）

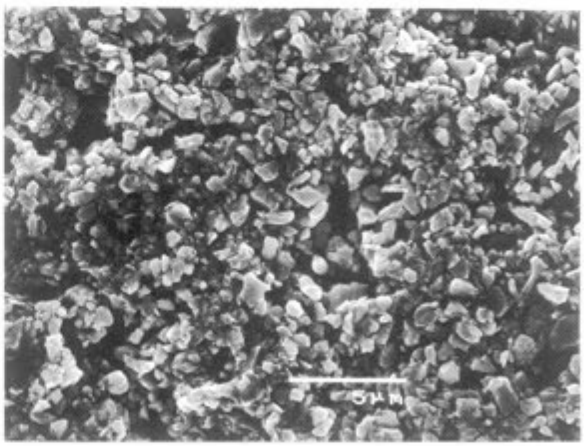


試料９　赤色顔料（水銀朱）

図１　Ｘ線分析　スペクトル図



試料１　パイプ状ベンガラ



試料９　水銀朱

写真１　SEMによる観察像

あとがき

土器のぎっしり詰まった縄文時代の自然流路跡の向こうに湯湾岳をはじめとする五老峰が見え，さらにその向こうには吉野の山々がある。その山にやがて陽が沈もうとする夕暮れ時，上半身裸になった調査員の上地さんが自然流路跡に立ってポーズをとった。周辺に盛土のある遺跡からは家並みが見えない。そこに干迫人の住む縄文風景があった。

干迫の調査は，毎日毎日が時間との戦いであった。作業員の方々がいなくなった５時すぎ，ひとときの休みをとってまた現場へ。太陽の明かりを惜しむようにぎりぎりまで遺物の取り上げ，実測等々。調査計画どころではなく，ただ必死で２月末のゴールに向かって精一杯の調査をと。

10か月の調査期間中にはいろいろなこともあったが，忘れられないのは平成３年９月末の台風襲来である。一時の強い風がおさまり，もう通り過ぎたなと思えた午後２時すぎ，再び吹き始めた強い風。もう外へ出ることもできなくなっていた。やがてプレハブの壁がしなり始め，調査担当者の３人は必死ですでに出来あがっていた橋脚の陰へ逃げ込んだ。飛び出した直後，プレハブもまた吹き飛んでしまった。後ろから音をたてて迫ってくるトタンの音，ずぶぬれになった３人は抱き合って通り過ぎるのを待つしかなかった。蔵王岳の上からボキボキ音を立てて太い樹木が落ち，竹林は右へ左へ林ごと移動する。死と直面した恐怖の２時間余りであった。

風雨がおさまり，消防隊が捜索に来た。プレハブの鉄骨はひとつの塊となって百メートル以上も離れた所へ落ちていた。翌日は休みの日だったが，近くの作業員の人や同僚たちが片づけに来てくれた。この台風によって数日分の日誌や，十字形石器や墨書土器など，一部の資料がなくなってしまった。残念である。

この報告書ができるまで多くの人々にお世話になった。調査の難渋を理解され，明け渡しの期限が大きくずれ込んだにもかかわらず待っていただいた建設省や土木業者の方々。調査の応援にかけつけていただいた職場の同僚や考古学の研究仲間。そして休憩時間の短さもかまわず，時には５時過ぎまで作業が延びたこともあったのに快く協力して下さった現場の作業員の方々。整理作業を担当して下さった方々。この他にも多くの人々の指導・協力があった。心から感謝の意を表したい。

時間に追われた発掘調査，それと同じような状況となってしまった整理作業，干迫の人々が残した多くの資料を彼らが満足するまでに整理するのはこれからである。

報告書は本格的な干迫遺跡解明の第一歩である。干迫の地に生きた人々に対し，まことに申し訳のない第一歩となってしまったことを深く反省している。しかし，いつまでもうつむいているわけにはいかない。一生懸命生きてきたであろう彼等のエネルギーのエキスを生かすも殺すもこれからなのである。上を，そして前を向いて進もう。それが遺跡を破壊した者の努めでもある。

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(22)

干迫遺跡-「Ⅲ」

発　行　1997年3月

編　集　鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-56 姶良郡姶良町平松6252番地
TEL 0995 (65) 8787

印　刷　株式会社トライ社
〒892-08 鹿児島市南林寺12-6
TEL 0992 (26) 0815

干迫

ほし　ざこ

The Hoshizako Site

「Ⅲ」

縄文時代石器ほか・付篇